

令和元年度第1回尾張旭市子ども・子育て会議録

- 1 開催日時
令和元年5月20日（月）
開会 午後2時00分
閉会 午後3時30分
- 2 開催場所
尾張旭市役所 3階 講堂1
- 3 出席委員
矢藤誠慈郎、金森俊輔、石田洋子、速水一美、加藤多美、水野寿美代、神野みつ美、堤幸、梶川喜和子、富田紀子、藤田政克、泉原沙弓、清水真奈
13名
- 4 欠席委員
近藤信綱 1名
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した事務局職員
こども子育て部長 阿部智晶、こども未来課長 松野宏美、
保育課長 加藤剛、保育課指導保育士 松本真理子、
こども課長 後藤收、こども課子育て支援室長 三浦明美、
保育課保育係長 久野善之、こども課こども係長 小椋基美、
こども未来課長補佐 齊場哲也、
こども未来課こども政策係 竹内雄紀
- 7 議題
 - (1) 保育園及び放課後児童クラブにおける入園等状況について
 - (2) 第2期子ども・子育て支援事業計画の策定等について
- 8 その他
放課後児童の居場所づくりについて
- 9 配布資料
 - ・保育園及び放課後児童クラブの入園等状況について・・・資料1
 - ・第2期子ども・子育て支援事業計画の策定等について・・・資料2
- 10 会議の要旨

(発言者名)	(発言内容)
事務局（部長）	皆様、こんにちは。 本日は、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。 定刻となりましたので、ただ今から、令和元年度第1回尾張旭市子ども・子育て会議を開会させていただきます。 私はこども子育て部長の阿部智晶です。よろしくお願いいたします。 本日は、令和元年度の第1回目の会議でございます。委員の所属団体等における役員改選等に伴いまして、当会議委員も新旧交代された方がみえますので、事務局からお伝えいたします。
事務局 （こども未来課長 補佐）	前回会議を持ちまして、退任された委員の方々です。 尾張旭市小中学校PTA連絡協議会から加藤昌恵委員。 日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社の小板信行委員。 以上、2名の方が退任されました。 次に、新たに委員となられる方を御紹介いたします。 尾張旭市小中学校PTA連絡協議会から堤幸委員。 日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社から藤田政克委員。 なお、任期途中に交代した委員の任期は、本会議条例第4条第2項に基づき前任者の残りの任期となり、令和元年10月末までとなります。 新たに委員になられた皆様には、在任委員の紹介を机上の名簿配布で代えさせていただきますのでよろしくお願いいたします。 続きまして、本年度の子ども・子育て会議事務局を紹介いたします。本年度の人事異動に伴い、新たに事務局職員となった職員及び所属の異動のあった職員を3名ご紹介いたします。 新たに事務局職員となりました保育課指導保育士の松本真理子。 保育課長補佐からこども未来課長補佐へ異動となりました齊場哲也。 こども未来課こども政策係長から保育課保育係長へ異動となりました久野善之。 以上の3名でございますのでよろしくお願いいたします。

	その他の事務局職員につきましては、机上の名簿配布により紹介させていただきます。
事務局（部長）	次に欠席委員について報告をいたします。 近藤信綱委員から本日の会議を欠席される旨の連絡がございました。 本日の出席委員は13名で、過半数以上の出席をいただいております。従いまして、本会議条例第6条第2項の規定による定足数に達しております。 なお、この会議は公開しておりますので、傍聴席を設けるほか、会議録を作成し、市ホームページ等で公表してまいりますので、委員の皆様には御了承いただきますようお願い申し上げます。 それでは、以降の会議の進行につきまして、議長である矢藤会長にお願いいたします。
会長	それでは、これより、私が会議を進めてまいりますので、委員の皆様よろしく申し上げます。 子ども・子育て支援施策を進める上で市民や関係者、専門家で意見を話し合い、市政に反映していこうというのがこの会議の重要な目的です。 2015年度に始まった子ども・子育て支援制度の5年間の事業計画が今年度で終了となりますので、今年度は昨年度実施したニーズ調査等を踏まえて来年度以降5年間の計画を協議していきます。 皆様の生活や仕事の中からの実感を含めて、この計画がそれぞれ個別の事情を踏まえながらも市民全体に計画が行き届き、子ども・子育て支援施策が効果的なものとして進められるように、忌憚のないご意見をいただきながら進めていければと思いますので、皆様よろしくをお願いいたします。 それでは以後、事前に配布しております次第に従い進めてまいります。 議題（1）「保育園及び放課後児童クラブの入園等状況について」事務局から説明をお願いいたします。
事務局 （こども未来課長 補佐）	議題の(1)「保育園及び放課後児童クラブの入園等状況について」資料1を用い、平成31年4月時点の保育園、放課後児童クラブの状況についてお伝えいたします。 上段が保育園の状況で、表は平成26年度から平成31年度までの6年間の状況を記載しており、1段目が年度、2段目は新規

	の申込者数、3 段目は待機児童数、4 段目は待機児童が発生している 3 歳未満児の受入定員の拡充数を記載しています。 表の下の方の黒丸の 1 点目、新規申込者数は、概ね横ばいで推移しています。黒丸の 2 点目、待機児童数については、平成 27 年度の 34 人が最も多く、徐々に減少し、平成 30 年度は 14 人でした。平成 31 年度については取りまとめ中ですので横バー表示にしていますが、今年度も待機児童が発生する見込みです。 黒丸の 3 点目は今年度については、新たな小規模保育事業所の開設はありませんので未満児定員の拡充はありません。 次に項目 2 が小学校の放課後児童クラブの状況で、表の構成は保育園と同じです。 本市における放課後の居場所としましては、公立の児童クラブと民間運営の学童クラブの 2 種類がありますが、この表の数字は公立児童クラブのみの状況となっておりますので、御承知置きください。 表の下の方の黒丸の 1 点目、申込者数は毎年増加しており、前年度から 29 名増加しています。平成 26 年度は 448 人ですから、それと比較しますと 6 年間で 310 人増えていることになります。 表の三段目、待機児童数は平成 30 年度の 37 人から 16 人増加し、53 人となっています。表下、黒丸の 2 点目で内訳を記載しております。本地原、渋川、白鳳、三郷の 4 小学校区で待機児童が発生しており、学年別に見ますと、4 年生の 37 人が最も多く、率にして全体の約 70% を占めています。 3 点目の本地ヶ原児童クラブについては、恒常的な定員増ではありませんが、昨年度に引き続き、夏休み枠を 40 人分設けることとしております。 最後に、追加資料の市内、市外の幼稚園の入園状況の取りまとめ結果について、参考までにご説明させていただきます。 項目 1 の尾張旭市内幼稚園では、市内 4 つの幼稚園の認可定員数、園児数と、その内の尾張旭市民の園児の数を載せております。表の一番下の合計の認可定員数は昨年度から変更無しで今年度も 1,434 人ですが、園児数は、昨年度の 755 人から今年度は 717 人で 38 人減少、市民の園児数も昨年度の 573 人から今年度 551 人で 22 人減少しております。 項目 2 の市外で尾張旭市民の利用が多い幼稚園では、昨年度と
--	--

	同じ市外幼稚園を載せています。 表の一番下の合計の認可定員は、昨年度と同様の3,441人、園児数は、昨年度の3,083人から今年度は2,981人で102人減少しておりますが、尾張旭市民の園児数は、昨年度の569人から今年度は574人と逆に5名増加しております。 この状況については、今年だけの一過性のものなのか、今後も続いていくものなのか少し注視していきたいと考えております。
会長	それでは、ただ今の事務局の説明について、何かご質問・ご意見等があればお願いしたいと思います。
金森委員	児童クラブの待機児童数は4年生がかなり高い数字となっておりますが、これは従来からのものですか、それとも最近の傾向ですか。もしそうなら、どのように考えればよろしいでしょうか。
事務局(こども課長)	児童クラブは、以前は低学年の児童に特に必要とされているということで、小学3年生までを受け入れていましたが、平成27年度から全学年受入れとなりました。 そのため、今まで入所していた3年生のお子さん方が4年生になる時に引き続き申込をされることが多いのですが、児童クラブは入所に当たっては1～3年生の点数が高くなるように点数配分をしている為、このような状況になっています。 この待機の状況がよいとは思っておりませんが、4年生のお子さんでは、申込をしたがその後辞退するという方もいらっしゃるもので、少なくとも、最も必要とされる1～3年生をなるべく多く受け入れるという意味では、こういった形もやむを得ないかと思っております。
会長	ありがとうございます。 児童クラブと関連して、学童クラブの水野委員、民間の立場から何かありませんか。
水野委員	学校にもよりますが、4年生になるとクラブ活動に参加できるようになります。そうすると4年生が学校で過ごす時間が長くなる学校と短い学校とがあると思います。学校で過ごす時間が長い子ども達は、ある程度下校時間が遅くなるので、預ける必要性が少ないのではないかと思います。 渋川小学校や三郷小学校は、もしかしたらそのような事情があるのではないのでしょうか。
速水委員	渋川小学校は4年生からクラブ活動に参加できます。白鳳小学校は5年生からの参加なので、そうとは言い切れないかと。

会長	水野委員の経験では今までにそういうケースもおありで、また、そうではない別の要因もあるのかもしれませんが。 より必要性が高いところをカバーされているのは十分承知していますが、それでも4年生以降にこれだけの待機児童が出ています。その対応について、尾張旭市としてどのようにお考えか、教えてください。
事務局(こども課長)	本市としまして、今まで公立児童クラブの拡充を図ってまいりました。本地原小学校につきましては夏休みのために一部屋使わせていただくなど、努力はさせていただいておりますが、実際のところ教室には余裕がなく、学校の中に増やすのは難しい状況にあります。この後議題に上がるかと思いますが、以前の会議でもお話をさせていただいた児童館のランドセル来館を実施できないかと検討しております。
会長	ありがとうございます。 待機児童は保護者の方にも直接かかわりのあるところだと思いますが、保護者の委員の方、自分の実感と違っているとか、周りから聞いている話と違うなど、何かありましたら、どうぞ。
堤委員	子どもは小学生3人と保育園児が1人いますが、一年生から児童クラブに入っているので待機児童について余り聞いたことがありません。ですが、家庭によっては4年生も5年生も児童クラブに入りたいという人もいますので、今言われたようにランドセルで直接児童館に行けるようにしていただくのが、保護者として一番安心かなと思います。
泉原委員	小学生と幼稚園児の子がいますが、昨年幼稚園見学をしたときに、空き教室がたくさんあるのを見て定員割れを実感しました。一方で保育園は待機児童がたくさんいます。待機児童数は3歳未満児と幼児クラスとで意味合いが違いますが、幼児クラスは幼稚園とうまく連携をとって解消していくとよいのではと思います。 また、小学生の児童クラブですが、申込時の利用時間や曜日の申告が大まかなので、利用するかしないか分からない、短時間だけ利用したいという人も申し込めますし、月曜日は習い事があるので利用しないとか、週の内2日は来ない日があるけど申込は全ての曜日にしているというお子さんもいらっしゃるの、申込のときに曜日や時間数などの区分を細分化してうまく調整すれば待機児童の解消になるのではないのでしょうか。

	前回から議題に上がっているランドセル来館ですが、学校によって児童館が学校のすぐ隣にあるところと少し離れているところがあります。離れている場合は少し不安な面もあるので、学校によって利用希望に差が出るのではと思います。
会長	ありがとうございます。 今のお話を聞いて、事務局から何かありますか。
事務局 (こども未来課長)	本市には私立幼稚園が4園あり、年2回ほど意見交換会を行っております。幼稚園、保育園のお互いの良い面を話し合い、利用者の皆さんのニーズを模索する中で、幼稚園が利用者さんに選んでいただけるような情報発信を考えていらっしゃるなど感じています。 児童クラブの利用申込について、時間や曜日で振り分ける方法も良案かと思いますが、学校の事情等によって差が生じてきますので、細やかな分析をしながら精一杯お子さんを預かることができたらと考えております。 ランドセル来館も、学校によって児童館が離れた場所にあると行き帰りが不安だというご意見もあります。大切なことはやはりお子さんの安全管理ですから、お子さんの所在を保護者の方と学校、児童館の3者がしっかりと把握し、共有できる仕組みづくりについて関係各位と協議して進めていきたいと思っております。
会長	市内の幼稚園で、認定こども園に移行しようという動きはありますか。
事務局 (こども未来課長)	市内にある幼稚園4園それぞれに状況が違いますので、移行しないとはっきりおっしゃる園もあれば、考えてみようという園もあります。 今のところは国の動向や考えなどの情報を我々自治体から提供していくに留まっていますが、どれくらいの温度感でこちらからも話をすべきか、図りかねているところです。
会長	子ども・子育て支援新制度という新しい制度の中では、保育所も幼稚園もこども園も、全て補助金は内閣から一本化して出していこうという仕組みになりました。 私立幼稚園としては、今の幼稚園のまま私学助成金という助成金を受けていくか、公立保育園のように内閣府の補助金を受けるか、さらに認定こども園に移行して就学前の3歳未満児の預かりや長時間子どもを預かるという選択肢がありますが、認定こども園で保育教諭として働くには、幼稚園教員免許と保育士資格を持

	っていないかもしれません。それを暫定的にどちらかの免許資格があれば認定こども園の保育教諭として働けることとし、これまでの5年間の移行期間中にもう1つの免許資格を取得してくださいという移行措置がありましたが、それがさらに5年間延長されることが閣議決定しました。 新制度の補助金を利用すると、例えば定員500人を超えるような幼稚園では若干収入が下がるといわれているので、新制度の仕組みに入らないで今までどおり私学助成金を受けて運営していきますというところもあります。しかし定員500人以下の幼稚園だと新しい補助金を利用したほうが収入が上がり、先生の給料や教材費など様々なことに費用をかけられることになるのですが、お話を聞いていると、認定こども園移行に対する幼稚園側の警戒感が強いようですね。 少子化や女性が社会で活躍するという流れの中で私立幼稚園の存亡が危ぶまれていることもあって、認定こども園のようなあり方も認めていこうという流れができました。幼稚園さんには長年尾張旭市の中で幼児教育を続けてこられたことで蓄積されたそのノウハウなどを活かしていける形を積極的に進めていくためにも、制度のご理解や活用をしっかりと協議していただきたいと思います。 また、幼稚園、保育園といった区切りに関わらず、尾張旭市全体の全ての子どもが権利を保障される形を整えていく必要があると思いますので、そういった観点からも協議を進めていただければと思います。 以上、現状についてご報告でした。 続きまして、議題の(2)「第2期子ども・子育て支援事業計画の策定等について」について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (こども政策係)	議題(2)「第2期尾張旭市子ども・子育て支援事業計画の策定等について」です。 これまで本市では、平成27年度に策定した「尾張旭市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子育てに関する施策の計画的な実施・推進を図ってまいりました。本計画は今年度を持って計画期間である5年間で満了するため、近年の社会情勢の変化等を捉えつつ、引き続き子育てに関する施策の計画的かつ着実な実施・推進を図るため、令和2年度からの5か年を計画期間とした第2期子ども・子育て支援事業計画の策定を進めております。

この子ども・子育て会議の中では、昨年度から本計画策定に関連した議題を設け、適宜ご意見をいただいております。今年度も計画策定完了に向け、皆様から様々な御意見をいただければと考えておりますので何卒よろしくお願いいたします。

本日の議題では、新たに委員に就任された方もいらっしゃいますので、改めて本計画の趣旨や概要をお伝えするとともに、計画策定に係る今後のスケジュールを共有させていただければと考えております。

資料2「1 子ども・子育て支援事業計画とは」です。

はじめに、子ども・子育て支援事業計画を市町村が策定することとなりました社会的な背景から説明いたします。

急速な少子化の進行ならびに家庭や地域の子育てをめぐる環境の変化に対応するため、子育てしやすい環境の整備を行い、地域の子育て支援の充実を図るとともに、未来の社会を創り、将来を担う子どもたちが健やかに成長できるような社会をめざすため、平成24年8月から子ども・子育て支援新制度が全国一斉に開始されました。

この新制度の開始に伴い、「子ども・子育て支援のための施策を総合的に推進するための基本的指針」、いわゆる「基本方針」を内閣府が作成し、市町村が実施する子ども・子育て支援の基本的事項が明記されました。その概要がその下の四角で囲んだ部分で、「市町村は、子ども・子育て支援新制度の実施主体であり、質の高い幼児期の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業を提供する。」「上記の提供に当たっては、庁内、都道府県、子ども・子育て支援関係機関、市内事業者等との連携・協働の体制を整備する。」とされました。

さらに、基本方針の中ではこの2つの基本事項の達成のため、全ての市町村は、幼児期の教育・保育・地域の子育て支援についての5か年の需給計画として、各サービスのニーズを想定し、それに見合った事業量を確保するための計画、すなわち子ども・子育て支援事業計画を策定することが明記されました。これに基づき、平成27年度には全ての市町村が子ども・子育て支援事業計画を策定し、子育てに関する施策を推進しています。

2「本市における子ども・子育て支援事業の位置づけ」です。

第1期の子ども・子育て支援事業計画は、以下の3つの計画として位置づけ策定し、第2期計画においても本位置付けを踏まえ

	て策定を進めています。 1つ目が「市町村子ども・子育て支援事業計画」で、先ほどご説明した新制度の開始に伴い全ての市町村が策定することとなった計画です。 2つ目が「次世代育成支援対策地域行動計画」で、次世代育成支援対策推進法に基づき、市町村が任意で策定することができるとなっている計画です。家庭や地域の子育て力の低下に対応して、次世代を担う子どもを育成する家庭を社会全体で支援する観点を持つ計画となっており、子ども・子育て支援事業計画と併せて市町村の子育て支援施策を方向付けるものとなっています。 3つ目が「尾張旭市第五次総合計画の部門別計画」です。本総合計画では、「みんなで支えあう健康のまちづくり」を達成するための施策として「子育て支援の推進」を掲げており、また、計画人口実現のためのチャレンジとして「働きながら子育てしやすいまちをめざします」「次代を担うこどもたちが育まれるまちをめざします」という目標を掲げており、この達成に向けたさらに具体的な計画として位置づけています。 そのため、本市が策定する子ども・子育て支援事業計画は、国が示す基本方針の内容に留まらず、本市の子育て施策のマスタープランとして策定しています。 3「第2期尾張旭市子ども・子育て支援事業計画の記載事項(予定)」です。こちらは第1期子ども・子育て支援事業計画に掲載している内容及び基礎情報を、項目別に表として記載しています。 本計画は9つの大項目に分かれており、 1、計画策定の概要 2、尾張旭市の子ども・子育てを取り巻く現状として本市の人口など数値的な情報 3、尾張旭市の子育て支援施策の実施状況としてこれまでの本市の子育て関連施策の振り返り、評価 4、市民の子育て支援ニーズとして昨年度実施した市民アンケートの結果 5、計画主要課題として近年の本市を取り巻く子ども・子育て支援に関する課題 6、計画の基本的な考え方 7、具体的な施策の展開
--	--

	8、子ども・子育て支援事業計画として策定が義務化された需給計画としての内容 9、計画の推進に関する内容となっております。 こちらをご覧になって本計画の大枠のイメージを掴んでいただければと思います。 4「計画策定のスケジュール」はこれまでの経緯として、昨年度の12月に市民2,500名を対象とした子ども・子育て支援に関するニーズ調査を実施し、子ども・子育て会議の中でも御意見をいただけてきましたが、今年度の子ども・子育て会議に関連する部分について抜粋し、お伝えします。 今回、5月の第1回会議では、計画の概要等について共有をさせていただきます。6月に、国が示している基本方針の改訂版が発出される予定です。そちらの内容を踏まえて骨子案の作成を進めていき、その内容を踏まえ7月頃の第2回会議にて諮問、11月頃の第3回会議で意見交換、2月頃の第4回会議で答申として、残り3回の会議で委員の皆様から御意見をいただくスケジュールで進めていければと考えております。 最後に 5「計画策定に当たっての子ども・子育て会議の関わり」です。 子ども・子育て支援事業計画を定めようとするときは、子ども・子育て支援法第六十一条第七項に基づき、審議会等（本市においては子ども・子育て会議）から適宜意見を聴取することとなっています。つきましては、骨子案の策定完了の後、当該案の内容に関する意見交換を随時議題とさせていただきますので、よろしくお願いします。 また、計画策定に当たっての基礎資料の一部として、「参考資料：本市の子ども子育てを取り巻く状況」及び「昨年度実施した市民ニーズ調査の結果報告書」を配布させていただいております。こちらの情報の分析を進め、また改訂された国の基本方針の内容を踏まえ、骨子案の策定を進めてまいります。 本計画は今後5年間の本市の子育て施策の方針となる大切な計画です。今年度一年をかけて、社会の取り巻く環境等を捉えながら策定を進めていければと考えておりますので、何卒皆様のご協力のほどよろしくお願いします。
会長	それでは、ただ今の事務局の説明について、何かご質問・ご意見等があればお願いしたいと思います。

	今後計画の策定に当たっての意見交換の機会もあると思いますが、その前に市のほうでアンケート調査のまとめをごらんになって過去の5年間の状況と、今回のニーズ調査の結果から特徴的なところですか、課題としてお考えのことなどをお伝え頂きますと、委員の皆様もご意見を出しやすいと思いますが、いかがでしょうか。
事務局 (こども未来課長)	保育のニーズ調査ということもありますが、若干保育のニーズが増えているかなということと、5年前に比べて児童クラブの人数が増えているなと感じました。
会長	このあたりのことを、原因として市のほうでお考えのことなどありますか。
事務局 (こども未来課長)	一期目の事業計画につきましては、人口が少しずつ減少していく傾向を踏まえて、それでも保育のニーズはまだ右肩上がりが高まっていこうという見込みで計画を策定しています。 二期目につきましても、人口推計、一期目の進捗の中で感じていますが、やはり人口はいよいよ減り方が目に見えて顕著になっています。その中で保育園の入園申込が横ばいだということは、人口に占める保育のニーズは高まっている、その中でも子どもが小さなうちから預けたいというニーズが増えていくと感じています。 その中で先程も話に出ました認定こども園という選択肢を幼稚園さんが選ばれるには預かりの時間の問題など保育の内容も関係してくるかもしれない、そういったことも考えて、保育園と幼稚園がどちらも子どもの育ちにとって良い場所であればと考えています。 児童クラブについても先程こども課長からも申し上げましたように、ニーズが高まってきているということを受けて公立で運営していくことには限界を感じているところなので、後は民間の学童クラブと協力して、そのほかの放課後の居場所づくりを充実させていければと考えております。
会長	民間の学童クラブには、市のほうから補助金などは出ているのですか。
事務局(こども課長)	現在は委託という形でお任せしております。
会長	委託なのですね。 ニーズを満たすように拡充していくと、人員の問題が出てきます。国も苦慮していますが、尾張旭市はどのような状況ですか。

事務局 (こども未来課長)	平成２７年度に、民間コンサルタントを交えて保育士確保についての検討を行いました。 斬新な提案とまではいきませんでした。新卒学生の確保の模索と、今働いている保育士の就業継続について提案していただいたことを、順次、丁寧に実行しているところです。 また、５月１３日から来年度の職員募集が開始されました。それに合わせて保育士専用の募集パンフレットを作成し、保育専攻科のある大学や専門学校などを訪問している最中です。
会長	それは、なんとか手当てができていているという状況なのか、厳しい状況なのか、どちらですか。
事務局(保育課長)	正規職員については、大学を訪問させていただいたり、その効果もあって応募していただくこともあり、ある程度倍率をもって採用に至っております。 早番勤務や遅番勤務などの、就業時間を絞っての臨時職員はなかなか集まらず、過去に本市で働いていて子育てが落ち着いた方に声をかけるなど、かなり苦労している状況です。
会長	正規職員による基本の時間は充足しているが、延長保育の時間帯について少し偏りがあるということですか。 短時間勤務の応募はあるが正規職員が足りない市町などもあるので、ところによって変わるものなのですね。
事務局(保育課長)	他に、正規職員とは別にクラスサポートとして少し長時間で働いて欲しいところも、なかなか応募がない部分です。 １０時～１４時に働きたいという方は多いのですが、それ以外は集まりにくいというのが現状です。
会長	ありがとうございます。 ほかに何かいかがでしょうか。
加藤委員	事務局の方が大変な苦労をして保育所の入所調整をしてくださっているのは分かっています。けれど、現状がどのくらいの割合かは分かりませんが、実際にきょうだいがある園に通っているご家庭があります。 子育てしながら働くことを考えるとき、きょうだいを別々に預けることは現実的ではありません。きょうだい同園預かりを優先的に行っている市町もあるので、尾張旭市でもそうできればよいと強く感じます。 また、入所の点数調整で、求職中の方はすでに働いている方に比べて点数が低かったと記憶していますが、働きたいと望んで

	も、預け先がなければ仕事を探せないのでは、そのあたりの矛盾を解消しなくてはならないのではと、現場側としてはいつも感じています。
会長	そういう情報は、市の考えも含めて、ぜひ共有していきたいですね。
事務局(保育課長)	加藤委員が言われたとおり、きょうだいで別々の園に入所するケースは実際にあります。入所調整が点数化している中で、きょうだい加点は設けておりますが、きょうだいを完全に優先してしまうと新規で入所を希望される方が入りにくくなる場合があります、やむを得ず入所当初にきょうだいが別々の園に入らざるを得なかった方には、欠員が出れば転園願いのご案内をするなどの対応をしております。 ひとり親家庭につきましては当然他の加点がございますので、そういった方の事情についてはプラスで配慮させていただいていますが、求職中の方の点数は、実際に働いている方に比べると確かに低くなっています。 一言で求職中と言ってもいろいろな方々がいます。早く仕事を探さなければならぬが、お子さんを預けられないために働くことができない方や、インターネットで求人サイトを閲覧しただけなのに、仕事を探しています、だから保育園に入れてくださいという方も、はっきりいうと中にはいらっしゃいます。 窓口ではそれぞれの方の状況をお聞きしながら、何とか寄り添った対応を、と心がけているところです。
会長	例えば、他の自治体の点数化の方式を研究して、修正をかけるようなことはしていますか。
事務局(保育課長)	窓口でお聞きした事例や他の自治体の例などから、状況によって項目を新しく設けたり、ひとつの項目を別々に振り分けたりなど、毎年見直しを行っています。
会長	前回の事業計画の中で、ニーズが見込まれたからこれだけ用意をしたが実際の利用は少なかったとか、今回もニーズは出ているが実際のサービス提供は絞ったほうがよさそうだというものがありますか。
事務局(保育課長)	保育園に関して申し上げますと、平成28年度～30年度の過去3年間で、民間のご協力をいただいて小規模保育事業所を計5ヶ所開設いたしました。それでも待機が解消されておらず、しかしながら実際にはその小規模保育事業所は定員割れを起こし

	ています。 そのため、運営に危惧している小規模保育事業所もある中で新規開設を認めると、現在運営している園にかなり大きな影響が出る可能性もあることから、待機児童が出ることを理解しながらも、昨年度はあえて拡充はしませんでした。 本年度の待機児童数は現在精査中ですが、2歳児クラスについてはおそらく待機は出ないであろうと思われます。しかし、今まで小規模保育事業所で3歳未満児の定員を何とか増やしてきましたが、今年度は3歳児の待機が出る可能性があります。 年齢によって利用希望に隔たりがあり、頭を悩ませているところです。
会長	小規模保育事業所の利用が少ないということで、何かお考えのことはありますか。
事務局(保育課長)	例えば2歳児のクラスに空きがあり1歳児にニーズがあるという状況で、その間の枠を無理のない程度にずらして、2歳児の枠を1歳児のお子さんに振り分けたとします。しかし預かるお子さんの人数に対して必要な保育士の人数は変えられませんので、その枠の中で運営できるのかが問題になります。 またそのお子さんたちが1歳児から2歳児のクラスに上がったときのことを考えると、事業所のご協力をいただいても受入れられるのはせいぜい1人、多くても2人程度でしかありません。 年齢による隔たりがどのような加減でこのように現れてくるのか、理由のわからないところが多く、非常に悩ましいところです。
会長	例えば、保護者の方が「やっぱり集団保育のほうがいいので、そちらに入れないのなら小規模保育事業所に預けるより、待機して我慢しよう」と考えるのではと、少し気になりますね。積極的に小規模保育事業所を勧めようとは、私も個人的に考えてはおりませんが、小規模保育事業所を活用するなら、認可施設等と連携をするのが大切だと思います。子ども子育て支援新制度でも、連携施設をおきましようということになっているからです。 連携施設の設置を積極的に進めて、小規模保育事業所で保育を受けていても連携施設の子ども達と一緒に行事に参加して交流をすれば、小規模保育事業所の子ども達が3歳児になって園を移るときに、その輪の中に入っていきやすくなるでしょう。 そうなれば、小規模保育事業所でも子ども達はたくさん活動が

	できますし、保護者の方は安心して先々の見通しを立てられます。 もちろん認可保育所のほうもたぶん手一杯でしょうから、連携施設を設けてもそこに何人受け入れられるかというところと厳しいところはあります。 この小規模保育事業所からはこの保育園に行くだけと決めるだけではなく、先程のお話にもありましたように幼稚園を活用しつつ、子どもの利益が保証され、利用者の方の不安を取り除くことができるよう、尾張旭市全体でしっかりカバーできるような形を、もう少し工夫できないものでしょうか。
水野委員	学童クラブも、これ以上受け入れられないという施設もあるので、来年度は待機が出るだろうと思われます。 民間の学童クラブも、幼稚園や保育園、公立の児童クラブと同様に、預かる子ども1人に対して1.65平方メートルの面積を必要とすると決められています。 その関係上、来年度はどこの学童クラブも多くの待機児童が発生するのではと、学童クラブ連絡会は推測しています。 それについては市こども課と話し合いながらいきたいと思いますが、今の時点で市こども課に良い策のようなものはありませんか。
事務局(こども課長)	学童クラブも、今はどこもほとんど定員が限度一杯の状況であるといわざるを得ません。 だからといって児童1人に対する専用区画面積1.65平方メートルはそもそもの要件にあり、なくすことはできませんので、難しいところだと理解はしていますが、すぐに何かができるかというと、これもまた難しいところです。 学童クラブにはなかなか当てはまらないとは思いますが、児童クラブの利用者の中には、早い時間に降所して、6時までの預かりを必要としない方もいらっしゃいます。先程もお話しにあったように、毎日の預かりを必要としない方もいらっしゃいます。 利用者の中で短時間のみ、週に決まった数日のみの利用希望者の預かりを少し違うところで行い、その空いた枠に待機者を受け入れるという考えもあってもよいのではと考えています。
会長	引き続き協議してもらえますよう、よろしくお願いします。 保育のニーズがあるときに、保育を拡充するという考え方と、

	働き方を変えていくという考え方がありますが、とりわけ日本の場合には働く時間が長いことが保育の不足を生んでいると思います。 尾張旭市で、企業や事業所が男性の育休取得を積極的に進めるといった動きはありますか。 藤田委員、いかがでしょうか。
藤田委員	弊社は日立グループですので、育休は男性女性を問わず、積極的に取得しましょうという考えの基、育児休暇、介護休暇の制度整備はかなり進んでおります。 ただ、実際に取得している社員はいるかというと、利用率はなかなか思ったほど伸びてはおりません。しかし一昔前に比べると育児、介護での休暇を取得するケースは確実に増えてきています。
会長	なるほど。 そういうことにきちんとした報奨があるような形を取れないかなと思います。 例えば、広島県では中小企業で男性が育児休暇を取得すると奨励金を支給しています。 大きな企業だと人材を集めるのに有利なように、子育てにやさしい企業という印象を与えるという形で取り組んでいる自治体もあります。 男性の家事・育児の参加時間が長いほうが子どもの数が増えるということは、はっきりとデータに出ています。広島県の事例は7～8年前のことですが、これにより出生率が上昇しました。 それぞれの家庭の事情は別として、女性が自己実現をすることと、一方で男性の家事育児の参加について市としてどういうあり方を考えながらそれをサポートしていくか。 働き方改革にも関わることです。せっかく委員の中に事業者さんがおられますので、情報をいただきながら市のほうでもそういった側面からのご検討いただく必要があるのではないかと。 保育のニーズが増えているから保育をどんどん増やしていくという形式は限界にきていて、これからはむしろ働き方改革と組み合わせ考えていくことが非常に重要になってきます。 そういったことに取り組んでいるという事例などはありませんか。
事務局	愛知県の取り組みでファミリーフレンドリー企業登録制度と

(こども未来課長)	いう制度があります。 従業員が仕事と育児・介護・地域活動等を両立できるよう企業が積極的に取り組み、例えば決められた人数が育児休暇を取得すると登録できます。登録すると会社がそのシンボルマークを広告や求人票に表示できるようになるというものです。 残念ながら本市としてはそこまでの取り組みはできておらず、今後の課題としたいと思います。
会長	あるいはこの子ども・子育て会議からの意見として出していくことで他の施策につなげていきたいということもあると思います。皆さんのご意見を聞きながら、計画策定へ向けてここである程度答えを出していくことになると思いますので、その中でそういったことを盛り込めればと思います。 委員の皆さんが急に今意見を出し合うのは難しいと思いますが、今後計画策定に向けて協議する機会もございます。なかなか量のある資料ですが、関心のあるあたりを中心に目を通していただいて、ご意見などがあればそれを出し合いながら進めていければと思います。 子育て支援の取り組みで課題となっていることや、この5年間で課題として残っていることで、次期にもっと取り組んでいこうということは、何かありますか。
事務局 (こども未来課長)	子ども・子育て支援事業計画の進捗は、毎年確認しています。現在は平成30年度の確認を行っているところですので、手元にあるのは平成29年度までの進捗状況です。 その中で、概ね◎、○などで計画通り、もしくは計画を上回って進捗していることが確認されています。 最近は障がい等をお持ちのお子さんへの配慮については少し考えていく必要があるのかなと考えています。
会長	ありがとうございます。 新しい資料が出ての最初の議論ですが、ここから今後の計画の案やこれまでの振り返りを含めて議論をすることになると思いますので、その折にお答えすることができていければと思います。 今後5年間の市の方向性を決めていくことに関わる重要な協議になっていきますので、引き続き皆さんからの忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。 本日の議題はこの2つで終了しましたが、次第のその3「その

	他」について、「放課後児童の居場所づくりについて（報告）」の説明を事務局からお願いします。
事務局 (こども未来課長 補佐)	放課後児童の居場所づくりについて報告いたします。 本件につきまして、本市の児童クラブの待機児童の増加傾向、並びに児童の放課後の居場所づくりが全国的な課題となっている状況などを受け、昨年度から本会議の議題として取り上げ、様々なご意見をいただけてきました。 今年度も継続の議題として取り上げさせていただく想定ですので、事業検討の進捗状況をお伝えするべく、報告事項として挙げさせていただきました。 本市では、今年度も引き続き待機児童の解消など喫緊の課題へ対応するため、これまで委員の皆様からいただいてまいりました「児童館でのランドセル来館実施等」の御意見を踏まえて、新たな事業実施を模索しているところです。 いずれの新たな事業を実施するに当たりましても、教育委員会及び各学校の協力は実施可否そのものに関わる場所であることから、現在、現実的に実施可能な事業内容について協議を進めています。 また、6月に開催予定の尾張旭市学童クラブ連絡会様との意見交換会の際に検討内容に対してご意見をいただく予定にしております、日頃から各放課後の居場所づくりに携わっていただいております団体の皆様からも意見をいただきながら事業設計を進めていきたいと考えております。 そちらの内容がある程度形となってまいりましたら、改めて本会議の議題として皆様からご意見をいただければと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。
会長	ありがとうございます。 昨年度から当会議の議題の中でも議論を重ねてきております放課後の居場所づくりに関して、事業検討を進めているとの報告でした。この件に関しては今後も引き続き、委員の皆様との意見交換ができればと思いますので、よろしくお願いします。 また、昨年度のお話の中で地域によっていろいろと事情が違うということもわかってきました。それも踏まえて施策を効果的に進めていけるように、話し合いを進めていければよいと思っております。 本日は特に意見交換等はなく、今後そういった方向で進めてい

	ければという報告ということで終了したいと思います。 それでは次第の3「その他」について、事務局から他に何かありますか。
事務局 (こども未来課長 補佐)	連絡事項が3点ございます。 1点目、会議委員の任期についてです。現在就任いただいております委員の皆様は本年10月31日までとなっておりますが、第2期計画策定の年度ということもありますので、委員の皆様や所属団体様のご都合等を考慮した上で、可能でしたら現在の委員の皆様を再任させていただけないかと考えております。再任に当たって不都合等ございましたら、お手数をおかけしますが事務局までお知らせをいただけますと幸いです。なお、具体的な手続き等につきましては、別途通知等でお知らせをさせていただくことになると思いますので御承知置きください。 2点目に今年度の会議の予定についてです。令和元年度は、今回を含め、全4回の会議開催を考えております。 昨年度に引き続き、各回の開催日を早めに決定させていただければと考えております。 つきましては、各開催時期のご予定につきまして、現時点でご都合の悪い日程を本日机上にお配りしております予定確認表にてお教えいただきたいと思います。 本日御回答いただける方はご都合の悪い日程に×印を記入し事務局へご提出ください。後日のご回答を希望される方につきましては、返信用の封筒をお渡しいたしますので、会議終了後事務局までお申し出ください。
事務局(保育課長)	3点目ですが、本年5月8日に滋賀県大津市の交差点で、園外活動中の保育園児のお子さんが亡くなるという大変痛ましい交通事故が起こりました。 委員の皆さんも新聞報道等でご存知と思いますので、本市の対応や状況をお伝えしたいと思います。 5月8日に大きな事故があったことを知り、詳細は明らかではありませんでしたが、市内の保育所、小規模保育事業所も含めて、まず事故があったことを伝え、状況の確認をお願いしました。 保護者の方がこういった事故が起こったことを知れば、「この園は大丈夫ですか」という問合せがあることが予想できます。それに答えられるようにまず事故があったことを把握してくださいということと、それぞれの園の園外活動についてきちんと整理

	してくださいということでの案内でした。 その後改めて、市として状況をきちんと把握しなくてはと、市内の公立、私立、小規模の各保育所の事業者さんに、現在の園外活動についてどういったことに気をつけているか、どの程度の頻度で園外活動を行っているかを照会いたしました。 ある程度その回答が届いておりますので、指導保育士から内容だけ説明させていただきます。
事務局(指導保育士)	市内のほぼ全ての園から回答があり、現在まとめております。 小規模保育事業所は園庭がないということもあり、園外活動を行っています。各保育所によって頻度は違いますが、子どもの成長にとって重要であるということで、どの園も園外活動を行っています。 各園がそれぞれ安全に配慮しながら園外活動を行っていることは把握できましたので、まとめた資料は各園に早急に送らせていただきます。 今回は自分だけが気をつけていれば良かったという問題ではなかったかもしれません。先程、連携の話もありましたが、他の園の活動を参考にしながら、交通量やガードレール等自分たち以外の周りのものにもより細心の注意を払って園外活動を行っていけばいいのではということで、そのあたりを共有していきたいと思っています。
事務局(保育課長)	基本的に散歩などの活動で外へ出るときには、先生方が事前の下見をして、お子さんと一緒に歩く中で危ないところはないか、確認はしています。 ただ、今回のような事故があることは、おそらくその時点ではあまり想定していなかったと思いますので、今後はこういったことも起こりうるということも視野に入れて取り組んでいくことになるだろうと思っています。 その後、国や県からも安全管理の徹底を呼びかける通知がありましたが、先程、指導保育士から報告がありましたように、こういった活動は保育上、お子さんにとって必要なものです。 外は危険だからと園外活動を取りやめるのではなく、大切なところと位置づけながら、その移動途中などの安全管理を今一度徹底しましょうという内容でした。 そういったところも合わせて、各保育所さんに情報提供をさせていただきます。

水野委員	その情報は、学童クラブにはいただけないのでしょうか。 夏休みなどは学童クラブも外出を予定していますので、同じような視点で出かけたいと思います。
事務局(保育課長)	今回は被害者が保育園児のお子さんであったことから、保育園関係に取り急ぎ通知が来たと思われます。こども課経由で市内関係各所に情報提供いたします。
会長	市内の公立保育園で、園外活動やその下見のためのマニュアル等がありますか。
事務局(指導保育士)	はい、あります。 本市には公立保育園の他、私立保育園や認可外保育所などがあります。気をつけるとか配慮するということは皆さん理解しているのですが、実際に調査をしてみると、マニュアルやチェックリスト等がない保育所もありました。 そういったものがない保育所には公立で使用しているものを共有するなど、今後安全対策を進めていきたいと思います。
会長	先程も、今回の事故は防ぎようのないものだったというお話がありました。園外活動そのものはできる限り安全に配慮されていたと思います。 これを機会に、もう一度安全に対する意識を見直し、防げる危険は少しでも防げるように徹底していただきたいと思います。 私は保育の専門家として、保育園の皆さんがお散歩をしているのを見かけると、大丈夫かなと思うときがあります。園外保育時の危機管理の調査をしたこともあるので、とりわけ今回のことは気になっていました。 安全管理が実際に機能しているかも含めて、こういう機会に見直し、人為的瑕疵によって子どもの命が奪われることのないよう、最善を尽くせるような形を作り上げていただければと思います。 水野委員のお話にもありましたが、小学校であれ、学童保育であれ、尾張旭市の子ども達が安全に学んだり遊んだりできる状況を作るために、市民への交通マナーの呼びかけなども含めて、関係各所で情報共有しながら、連携して進めていただけたらと思います。
清水委員	保護者としての意見ですが、今回の事故について、保育園側に過失があったとは思ってはいません。 ただ、その事故があった翌日、娘の通う柏井保育園では年中組

	が森林公園までお散歩の予定で、ニュースを聞いた時に一番最初に思ったのは明日のお散歩はあるのかな、ということでした。 昨日の今日なので中止だろうかと思いましたが、降園した娘に聞くとお散歩に行ったと言いますし、保育士さんの人員配置もいつもと同じでした。 保育園側から「今日こういう悲しい事故がありましたので、気をつけてお散歩にいきます」という連絡は朝も夕方も一切なく、それ以降も事故については一言もありませんでした。 各園が安全に配慮しながら園外活動を行っていることは、この会議に出ているからこそ知り得た情報です。 子どもを保育園に通わせている保護者としては、事故を受けてお散歩を中止して欲しいとか、危険だから行って欲しくないといった思いはありませんでしたが、尾張旭市が危険性について調査を下さったり、これだから安心という材料をもっているのであれば、それを保護者に示していただいたほうが、今後お散歩に行くときも安心して送り出せると思います。 今回の事故は本当に想定外の、致し方ないことだったと思います。私個人としてはお散歩は良い取り組みだと思うので、やめて欲しくはありません。ただ、今後安心して子どもを送り出すためには、メールを一通配信していただくだけでも、安心材料としてありがたいなと思います。
事務局(指導保育士)	保護者の方にご理解いただくという点で少し足りない部分があったのだと、反省しています。 今回の調査を受けて、マニュアルや下見のチェックリストの見直しを行っています。その結果を保護者の方にはお便りを通じてお知らせしていくことは決まっております。近日中に配布されると思いますので、ご確認ください。
事務局(保育課長)	送迎などではお子さんがたくさんいるところに車が近づいてくる可能性もありますし、近隣に小学校がある保育園もあります。 そういったことに対して「保育園は安全確保に努めます」というだけではなく、今一度私たちも気をつけましょと、保護者の方に向けて啓発にもなるような内容を盛り込めれば良いと考えております。
会長	ありがとうございます。 今、清水委員がおっしゃったようなことについて、いろいろな

	ことが固まってからご報告する予定であったということですので、私も安心しました。 ゆっくり時間をかけて問題に取り組むのもよいですが、情報不足で不安に駆られる保護者の方もいると思います。 現時点で市がどのようなことに取り組んでいるのかを、例えば園長先生からお知らせという形で周知をするのはどうでしょうか。保護者の方に市のほうでも問題を把握して解決に向けて動いているのだと知っていただくだけでも、安心の度合いが違うと思います。 本日は、長時間に渡ってご議論いただきありがとうございました。 これをもちまして、令和元年度第1回尾張旭市子ども・子育て会議を閉会いたします。 皆さま議事進行にご協力いただき、大変ありがとうございました。
全員	ありがとうございました。

令和元年度 第1回尾張旭市子ども・子育て会議次第

日時 令和元年5月20日（月）

午後2時から

場所 尾張旭市役所 3階 講堂1

1 開 会

2 議 題

(1) 保育園及び放課後児童クラブにおける入園等状況について 資料1

(2) 第2期子ども・子育て支援事業計画の策定等について 資料2

3 その他

放課後児童の居場所づくりについて（報告）

4 閉 会

尾張旭市子ども・子育て会議委員名簿

氏 名	所属等	備考
矢藤 誠慈郎	岡崎女子大学	
金森 俊輔	瀬戸旭医師会	
石田 洋子	愛知県瀬戸保健所	
速水 一美	尾張旭市小中学校校長会	
近藤 信綱	愛知県私立幼稚園連盟旭瀬戸支部	
加藤 多美	社会福祉法人いしずえ会	
水野 寿美代	尾張旭市学童クラブ連絡会	
神野 みつ美	尾張旭市民生委員児童委員協議会	
堤 幸	尾張旭市小中学校PTA連絡協議会	役員交代に伴い 新規選任
梶川 喜和子	尾張旭市地域活動連絡協議会	
富田 紀子	尾張旭市子ども会連絡協議会	
藤田 政克	日立ホームターミナルソリューションズ株式会社	人事異動に伴い 新規選任
泉原 沙弓	市民公募	
清水 真奈	市民公募	

(順不同・敬称略)

事 務 局

氏名	所属・職名	備考
阿部 智晶	こども子育て部長	
松野 宏美	こども未来課長	
加藤 剛	保育課長	
松本 真理子	保育課指導保育士	
後藤 収	こども課長	
三浦 明美	こども課子育て支援室長	
齊場 哲也	こども未来課長補佐	
久野 善之	保育課保育係長	
小椋 基美	こども課こども係長	
竹内 雄紀	こども未来課こども政策係	

保育園及び放課後児童クラブにおける入園等状況について

1 保育園の入園状況

(4月1日時点 単位：人)

	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1
新規申込者数	5 1 1	5 1 8	5 1 7	5 2 1	5 1 5	5 2 1
待機児童数	8	3 4	2 4	1 5	1 4	—
未満児拡充定員数	— 1	+ 3 2	+ 3 9	+ 2 8	+ 1 5	± 0

<今年度の状況まとめ>

- ・新規申込者数は、概ね横ばいで推移。
- ・待機児童数は、H 2 7年度をピークに減少傾向。
- ・未満児定員の拡充はなし。

2 児童クラブ（公立）の入所状況

(4月1日時点 単位：人)

	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1
新規申込者数	4 4 8	5 2 6	5 9 3	6 4 1	7 2 9	7 5 8
待機児童数	1 0	3 8	3 5	1 4	3 7	5 3
拡充定員数	—	—	—	+ 9 5	+ 3 5	—

<今年度の状況まとめ>

- ・申込者数は、前年度から29名増加。
- ・申込者数の増加に伴い、待機児童数が16名増加。（待機児童数の校区別内訳は下表のとおり）
- ・本地ヶ原児童クラブにおいて、昨年度に引き続き夏休み枠（約40名）を継続。

<児童クラブ（公立）における待機児童数の内訳>

(4月1日時点 単位：人)

校区	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
本地原	2	0	0	6	4	0	12
渋川	0	1	0	12	2	1	16
白鳳	0	0	0	6	0	0	6
三郷	1	0	0	13	5	0	19

幼稚園入園状況調

1 尾張旭市内幼稚園

(平成31年4月1日時点 単位：人)

幼稚園名	認可定員数	園児数	
		うち尾張旭市民	
愛英本地幼稚園	4 0 5	1 4 9	7 1
旭富士幼稚園	4 2 0	1 1 1	1 1 0
しらぎく幼稚園	4 0 0	2 6 4	1 7 7
東春暁幼稚園	2 0 9	1 9 3	1 9 3
合 計	1, 4 3 4	7 1 7	5 5 1

2 市外で尾張旭市民の利用が多い幼稚園

(平成31年4月1日時点 単位：人)

幼稚園名	所在地	認可定員数	園児数	
			うち尾張旭市民	
ひまわり幼稚園	名古屋市守山区	6 2 7	5 9 9	1 1 4
みつる幼稚園	名古屋市守山区	3 1 0	2 9 5	6 2
第2若竹幼稚園	名古屋市守山区	2 9 4	2 1 5	7 4
金城学院幼稚園	名古屋市守山区	1 7 5	1 3 7	1 8
志だみ幼稚園	名古屋市守山区	3 1 0	1 9 4	3 4
マリア幼稚園	瀬戸市	2 4 0	2 2 6	6 5
瀬戸幼稚園	瀬戸市	4 4 0	3 5 6	9 6
はちまん幼稚園	瀬戸市	3 1 0	2 2 3	4 6
真貴幼稚園	瀬戸市	4 2 0	3 5 2	2 6
菱野幼稚園	瀬戸市	3 1 5	3 8 4	3 9
合 計		3, 4 4 1	2, 9 8 1	5 7 4

※主な市外幼稚園を抽出しているため、利用者総数とは異なります。

第 2 期尾張旭市子ども・子育て支援事業計画の策定等について

1 子ども・子育て支援事業計画とは

- 急速な少子化の進行ならびに家庭や地域の子育てをめぐる環境の変化に対応するため、子育てしやすい環境の整備を行い、地域の子育て支援の充実を図るとともに、未来の社会を創り、将来を担う子どもたちが健やかに成長できるような社会をめざすため、平成 24 年 8 月から子ども・子育て支援新制度が開始されました。
- 新制度の開始に伴い、「子ども・子育て支援のための施策を総合的に推進するための基本的指針」（以下、「基本方針」という。）を内閣府が作成し、その中で市町村が実施する子ども・子育て支援の基本的事項が以下のとおり明記されました。

- 市町村は、子ども・子育て支援新制度の実施主体であり、質の高い幼児期の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業を提供する。
- 上記の提供に当たっては、庁内、都道府県、子ども・子育て支援関係機関、市内事業者等との連携・協働の体制を整備する。



基本方針に基づき、全ての市町村は、幼児期の教育・保育・地域の子育て支援についての 5 か年の需給計画（子ども・子育て支援事業計画）を策定する。

2 本市における子ども・子育て支援事業計画の位置づけ

第 1 期の尾張旭市子ども・子育て支援事業計画は以下の 3 つの計画に位置づけて策定しました。（第 2 期計画も同様の位置づけの計画として策定することを予定。）

	計画の内容	根拠法令
市町村子ども・子育て支援事業計画	幼児期の教育・保育・地域の子育て支援についての需給計画	子ども・子育て支援法第 6 1 条第 1 項 (策定義務規定)
次世代育成支援対策地域行動計画	地域における子育ての支援、母性並びに乳児及び幼児の健康の確保及び増進、子どもの心身の健やかな成長に資する教育環境の整備、子どもを育成する家庭に適した良質な住宅及び良好な居住環境の確保、職業生活と家庭生活との両立の推進その他の次世代育成支援対策の実施に関する計画	次世代育成支援対策推進法第 8 条第 1 項 (策定任意規定)
尾張旭市第五次総合計画の部門別計画	尾張旭市の子ども・子育てに関する基本計画	—

3 第2期尾張旭市子ども・子育て支援事業計画の記載事項（予定）

大項目	小項目	基礎情報	大項目	小項目	基礎情報
1 計画策定の概要	1 計画策定の趣旨	①②	5 計画の主要課題	—	②④ ⑤⑥
	2 少子化対策への取組み		6 計画の基本的な考え方	1 基本的な考え方	①② ③④ ⑤⑥
	3 計画の位置づけ			2 基本理念	
	4 計画の期間			3 基本目標	
	5 計画の策定体制			4 施策の体系	
	6 計画の対象		7 施策の展開	1 子どもの教育・保育環境の充実	
2 尾張旭市の子ども・子育てを取り巻く現状	1 人口の状況	2 地域における子育て支援の充実			
	2 世帯の状況	3 配慮を要する子ども・家庭への支援			
	3 婚姻・離婚の状況	4 親と子の健康の確保及び増進			
	4 女性の就労の状況	5 子育てと仕事の両立支援			
	5 児童数の状況	6 子どもの権利擁護と安全の確保			
	6 幼稚園、保育所、小中学校の状況	8 子ども・子育て支援事業計画	1 教育・保育提供区域の設定		
	7 社会的特性		2 子ども・子育て支援の体系		
	8 市内の幼稚園及び保育所の設置状況		3 保育所等を利用する場合の利用条件		
	9 市内の認可外保育施設の設置状況		4 「量の見込み」と「確保方策」		
3 尾張旭市の子育て支援施策の実施状況	1 子どもの教育・保育環境の充実		5 教育・保育の一体的提供及び推進体制の確保		
	2 地域における子育て支援の充実		6 第五次総合計画の計画人口実現のためのチャレンジ		
	3 配慮を要する子ども・家庭への支援	9 計画の推進	1 計画の周知・理解	①等	
	4 親と子の健康の確保及び増進		2 計画の推進体制		
	5 子育てと仕事の両立支援		3 進捗状況の管理		
	6 子どもの権利擁護と安全の確保		4 子ども・子育て会議		
4 市民の子育て支援ニーズ	1 就学前児童の保護者調査の結果概要	⑤			
	2 小学生の保護者調査の結果概要				

【計画策定に関する基礎情報一覧】

①根拠法令等、②市関連計画の内容、③関係機関が保有する情報、④第1期計画の目標値達成状況等に対する評価・分析の結果、⑤市民アンケートの結果、⑥子ども・子育て支援関係機関からのヒアリング内容 など

4 計画策定のスケジュール

時期		内容		
		市	子ども・子育て会議	国・県
平成30年度	12月	市民アンケート実施及び報告書作成		
	1月			
	2月		第4回会議 <u>(ニーズ調査速報値報告)</u>	
	3月			
平成31年度 令和元年度	4月	・市民アンケート		
	5月	報告書の分析 ・市の現状把握 ・第1期計画の分	第1回会議 <u>(計画の概要及び スケジュール確認)</u>	
	6月	析及び評価 ・関係機関ヒアリング等 ・骨子案の策定		国基本方針の 改訂版発出
	7月	骨子案の策定完了	第2回会議 <u>(会議条例に基づく諮問※)</u>	県とのヒア リング
	8月	計画書素案の策定		
	9月			
	10月			
	11月		第3回会議 <u>(計画案内容に関する 意見交換)</u>	子ども・子育て 支援法に基づ く県との計画 策定の協議
	12月	パブリックコメン トの実施		
	1月	計画書案の策定		
	2月	第4回会議 <u>(会議条例に基づく答申※)</u>		
	3月	計画策定完了		

※ 諮問：法令上定められた事項について意見を尋ね求めること。

※ 答申：諮問に対して意見を申し述べること。

5 計画策定に当たっての子ども・子育て会議の関わり

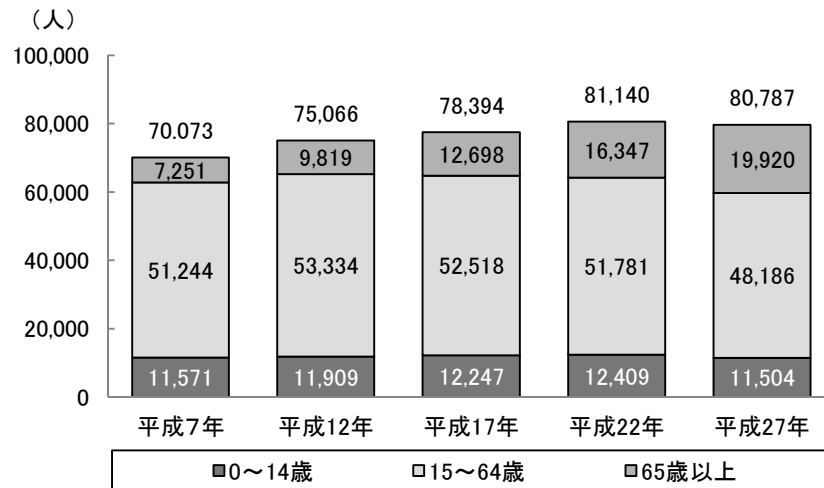
子ども・子育て支援事業計画を定めようとするときは、子ども・子育て支援法第六十一条第七項に基づき、審議会等（本市においては子ども・子育て会議）から適宜意見を聴取することとなっています。

つきましては、骨子案の策定完了の後、当該案の内容に関する意見交換を随時議題とさせていただきますので、よろしくお願いします。

尾張旭市第2期子ども子育て支援事業計画 子ども子育てを取り巻く状況

総人口は、平成22年まで増加傾向で、その後は減少となっています。0～14歳の年少人口についても、平成22年から27年にかけては減少となっています。

■年齢3区分別人口の推移

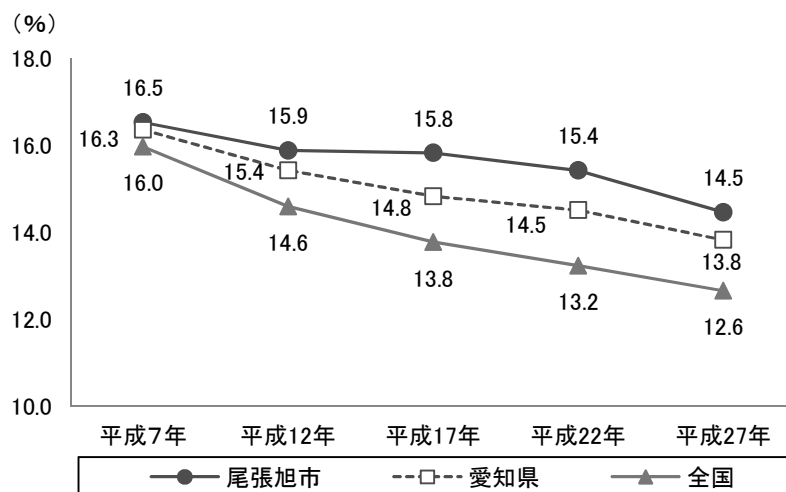


※総数には年齢不詳を含む

資料：国勢調査

年少人口率は、平成27年は14.5%と全国や愛知県よりも高い割合となっています。経年比較では平成7年以降減少傾向となっています。

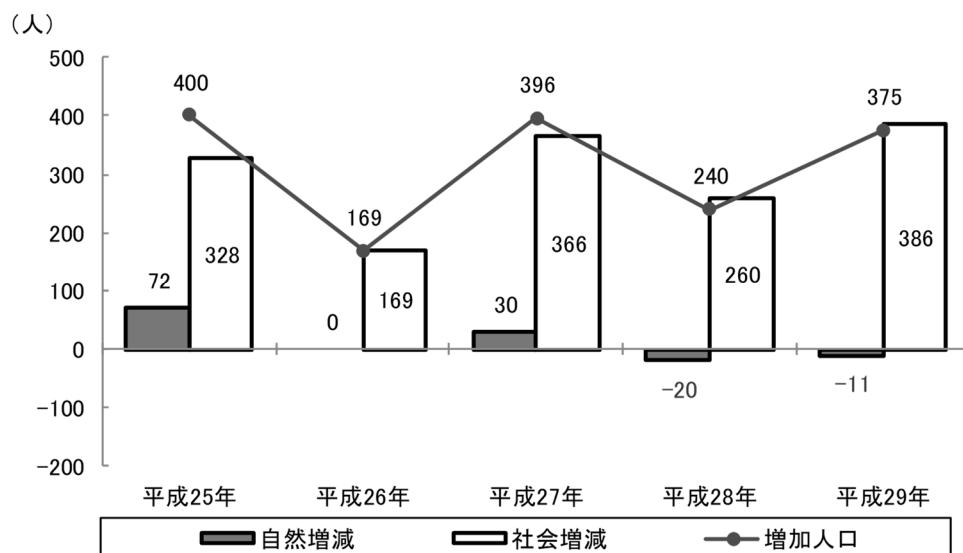
■年少人口率の推移



資料：国勢調査

自然増減（出生数と死亡数の差）・社会増減（転入数と転出数の差）については、近年では、自然減（出生数より死亡数が多い）、社会増（転出数より転入者が多い）の傾向となっています。

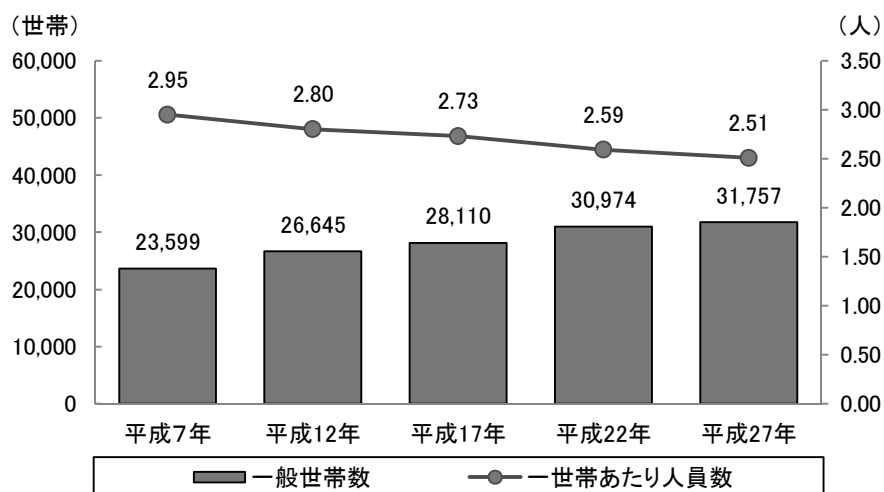
■自然増減・社会増減の推移



資料：尾張旭市統計書

一般世帯数については増加傾向にあり、1世帯あたりの人員については減少傾向にあります。

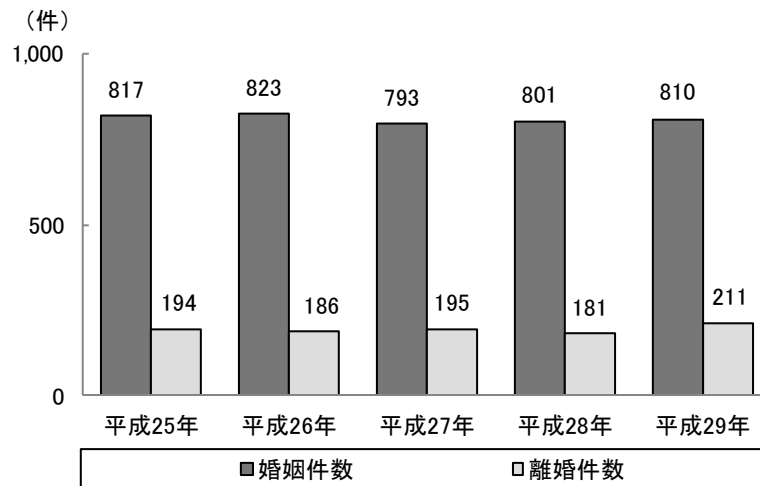
■一般世帯数と一世帯あたり人員数の推移



資料：国勢調査

婚姻件数と離婚件数の経年変化については、婚姻件数が 800 件前後、離婚件数は 200 件前後で推移している傾向にあります。

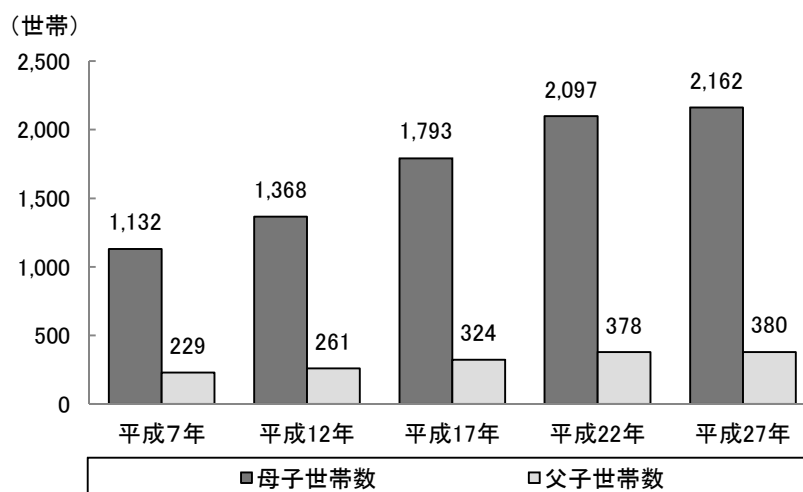
■婚姻・離婚件数の推移



資料：尾張旭市統計書

母子世帯、父子世帯については、ともに増加傾向にあります。

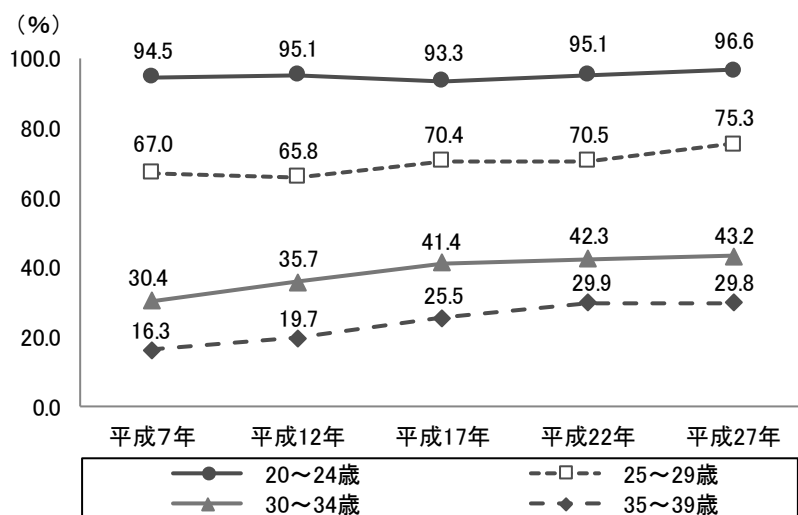
■母子・父子世帯数の推移



資料：国勢調査

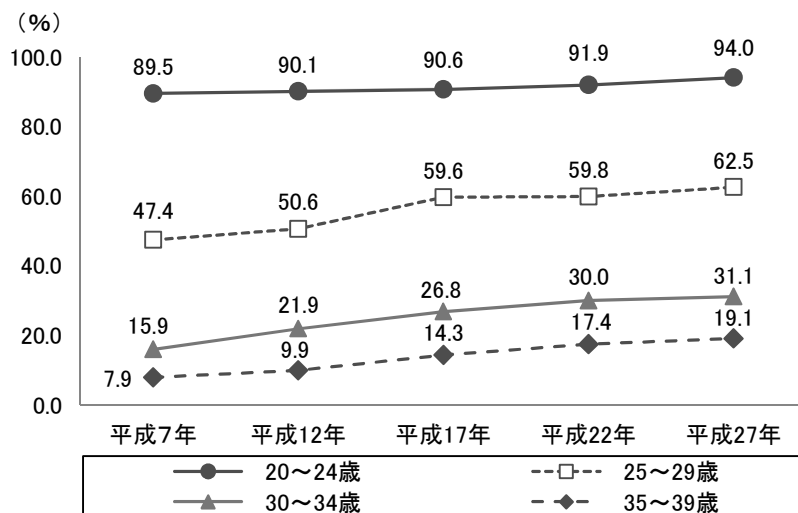
未婚率については、男性は25～29歳と35～39歳を中心に増加傾向にあります。女性は20代から30代の各年代で増加傾向にあります。

■未婚率の推移（男性）



資料：国勢調査

■未婚率の推移（女性）

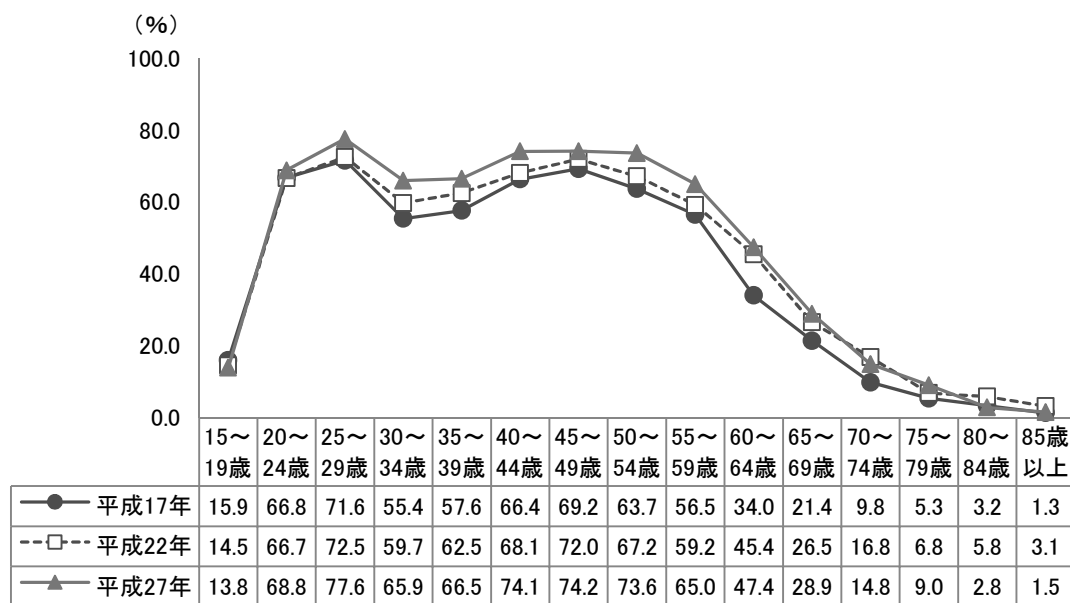


資料：国勢調査

女性の就労率については、経年比較でみると全体的に上昇傾向にあり、特に 20 代後半～50 代後半の就労率の上昇が目立ちます。

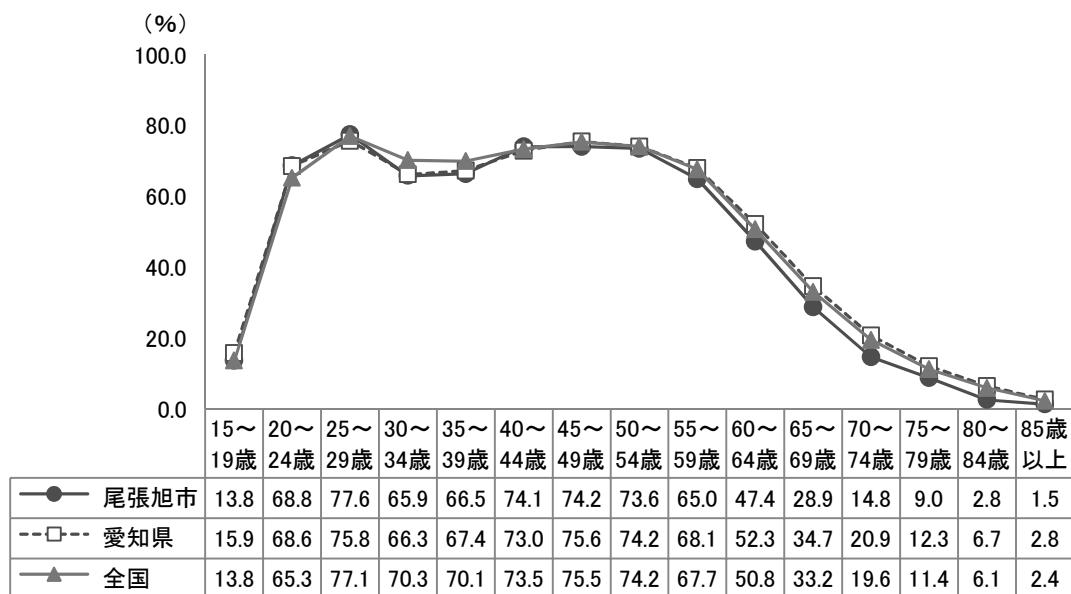
また、平成 27 年における女性の就労率を国・県と比較すると、20 代で国・県よりも高く、30 代で国・県よりも低い状況がうかがえます。

■女性の就労率の推移



資料：国勢調査

■平成 27 年における女性の就労率の比較

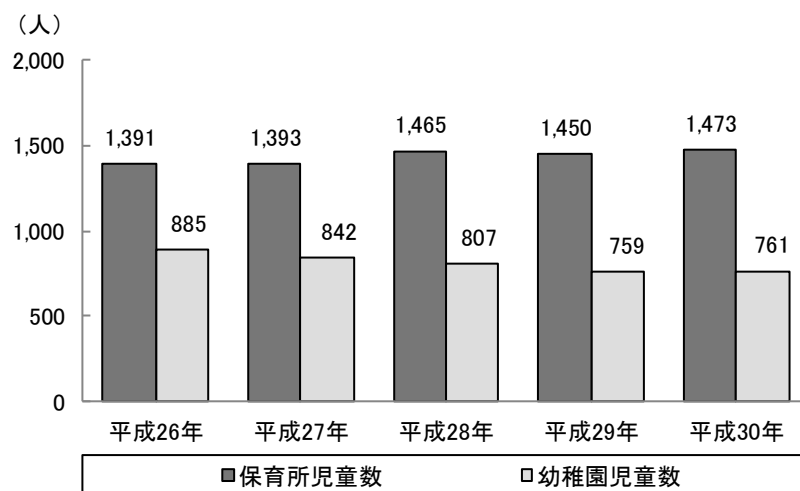


資料：国勢調査

近年の就学前児童数の推移をみると、保育所児童数は増加傾向、幼稚園児童は減少傾向にあります。

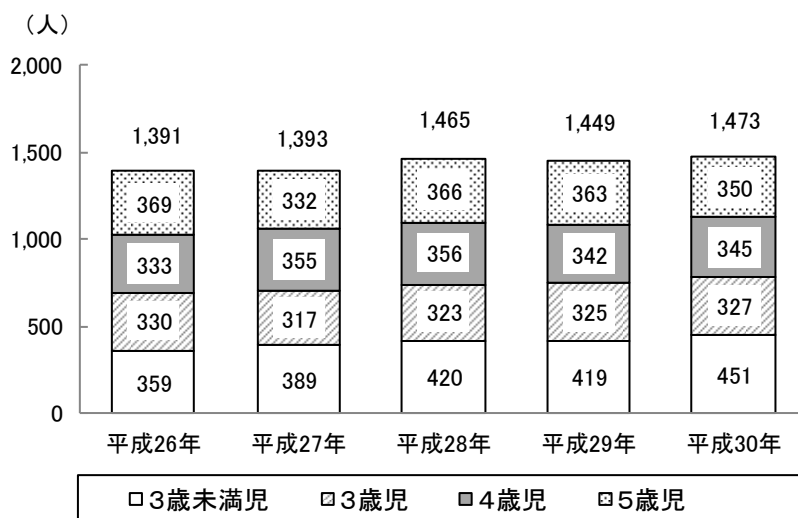
保育所児童数を年齢別にみると、3歳未満児、3歳児までの児童が増加傾向にあり、特に3歳未満児の増加数は年によって20人以上増えていることがうかがえます。

■保育所・幼稚園児童数の推移



資料：尾張旭市統計書

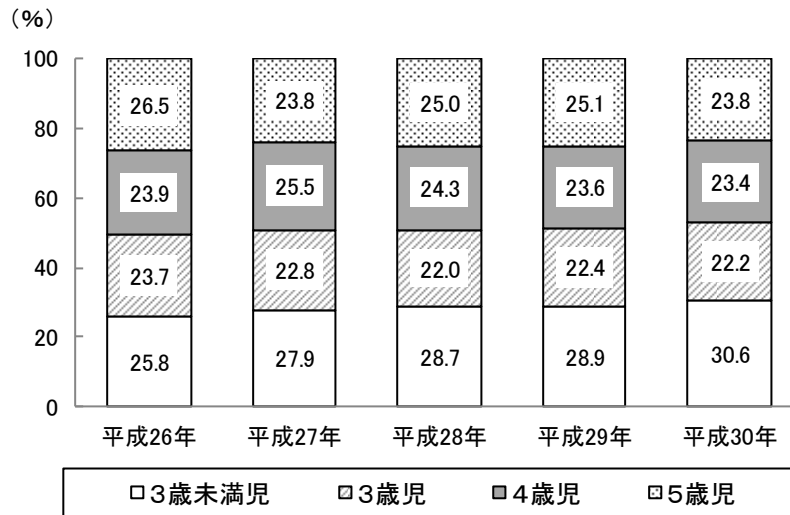
■年齢別の保育所児童数の推移



資料：尾張旭市統計書

保育所児童の年齢別の割合は、3歳未満児の割合が増加していることがうかがえます。

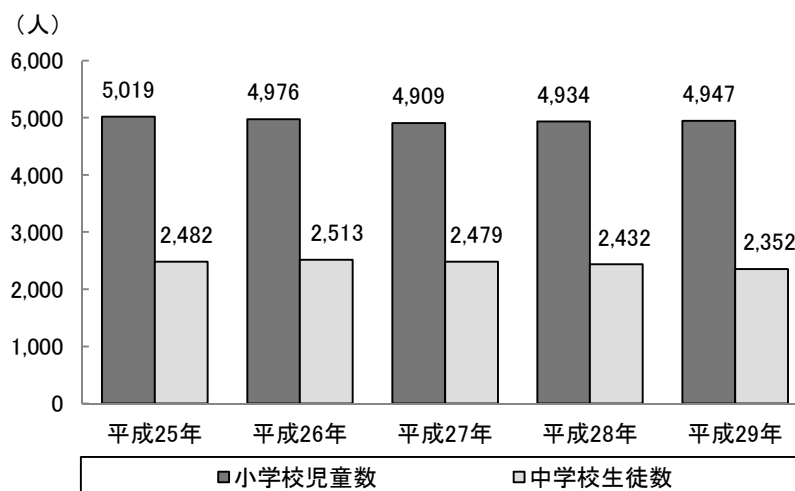
■保育所児童の年齢別割合の推移



資料：尾張旭市統計書

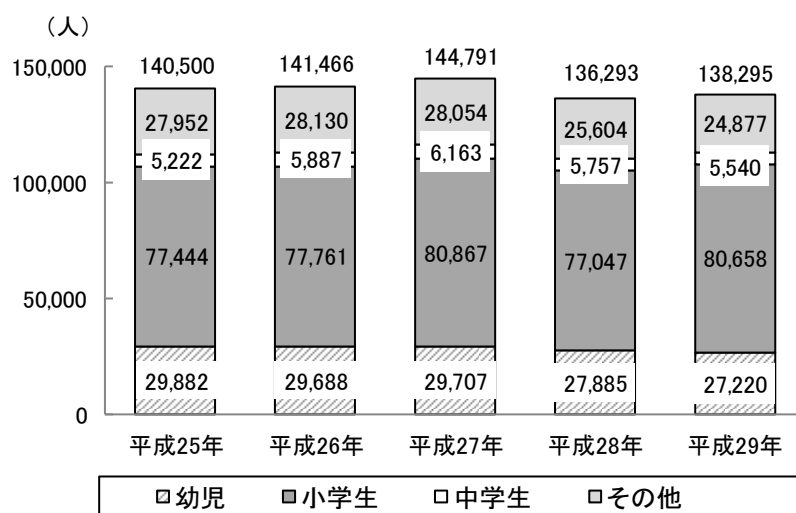
小学校児童数は、近年では約 5,000 人で推移しており、平成 27 年以降は増加傾向にあります。中学校生徒数は平成 26 年以降減少傾向にあります。

■小学校児童・中学校生徒数の推移



資料：尾張旭市統計書

児童館の利用者数は、平成 27 年まで年間延べ 14 万人、平成 28 年からは年間延べ 13 万人台で推移しています。利用者区分別では、幼児と中学生の利用が平成 27 年以降減少傾向にあります。



尾張旭市の
子ども・子育てに関するアンケート調査
【結果報告書】

平成31年3月
尾張旭市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	2
2. 調査概要	2
3. 報告書の見方	2
4. 設問の内容について	3
II. 調査結果	5
1. あて名のお子さんご家族の状況について.....	6
2. 保護者の就労状況について	14
3. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	34
4. お子さんが病気になった時の対応や不定期な一時預かりについて.....	43
5. 平日に利用したい定期的な教育・保育事業について	46
6. 休日に定期的に利用したい教育・保育事業について	54
7. お子さんの地域子育て支援事業の利用について	59
8. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等について	67
9. 小学校入学後の放課後の過ごし方について.....	72
10. 育児休業や短時間勤務制度等、職場の両立支援制度について	95
11. 子育て全般について	100

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成 31 年度に行う「子ども・子育て支援事業計画」の策定資料として、保育ニーズや尾張旭市の子育て支援サービスの利用状況や利用意向、また、子育て世帯の生活実態、今後の要望・意見などを把握することを目的に実施しました。

2. 調査概要

- 調査地域：尾張旭市全域
- 調査対象：尾張旭市内在住の就学前児童の保護者
尾張旭市内在住の小学生児童の保護者
- 抽出方法：住民基本台帳から、就学前児童 1,500 人、小学生児童 1,000 人の
合計 2,500 人を抽出（調査対象の全世帯悉皆・世帯内無作為抽出）
- 調査期間：平成 30 年 12 月 6 日～12 月 28 日
- 調査方法：郵送による配布・回収

調 査 票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
就 学 前 児 童	1,500	888	59.2%
小 学 生 児 童	1,000	508	50.8%
合 計	2,500	1,396	55.8%

3. 報告書の見方

- 本報告書の本文中では、就学前児童の保護者の回答結果を「就学前」、小学生児童の保護者の回答結果を「小学生」と表記しています。
- 就学前児童と就学児童（小学生）で共通の設問は、並べて比較できるように構成しています。設問文の末尾に就学前は「前：問 No.」、小学生は「小：問 No.」のように、調査票の設問番号を表示しています。
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 回答件数の合計が 10 件未満の場合には、回答件数と回答結果の割合を表で併記しています。また、並べて比較できるように構成している設問については、いずれかで回答件数が 10 件未満であった場合、残りでは回答件数が 10 件以上であっても、回答件数と回答結果の割合を表で併記しています。

- クロス集計表の表側（分類層）は、無回答を除いているため、各層の実数と集計対象総数が一致しないことがあります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 年齢等を数値で回答する設問（数量回答）では、区分分けをして集計しています。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

4. 設問の内容について

設問の分野	就学前	小学生
あて名のお子さんご家族の状況について	○	○
保護者の就労状況について	○	○
平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	○	
お子さんが病気になった時の対応や不定期な一時預かりについて	○	○
平日に利用したい定期的な教育・保育事業について	○	
休日に定期的に利用したい教育・保育事業について	○	
お子さんの地域子育て支援事業の利用について	○	
不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等について	○	
小学校入学後の放課後の過ごし方について	○ (5歳以上)	○
育児休業や短時間勤務制度等、職場の両立支援制度について	○	
その他子育て全般（小学校への進学について）	○	
その他子育て全般（子育て支援に関する事業の認知度・利用意向）	○	
子育てに関する情報入手について	○	○
自由回答	○	○

II. 調査結果

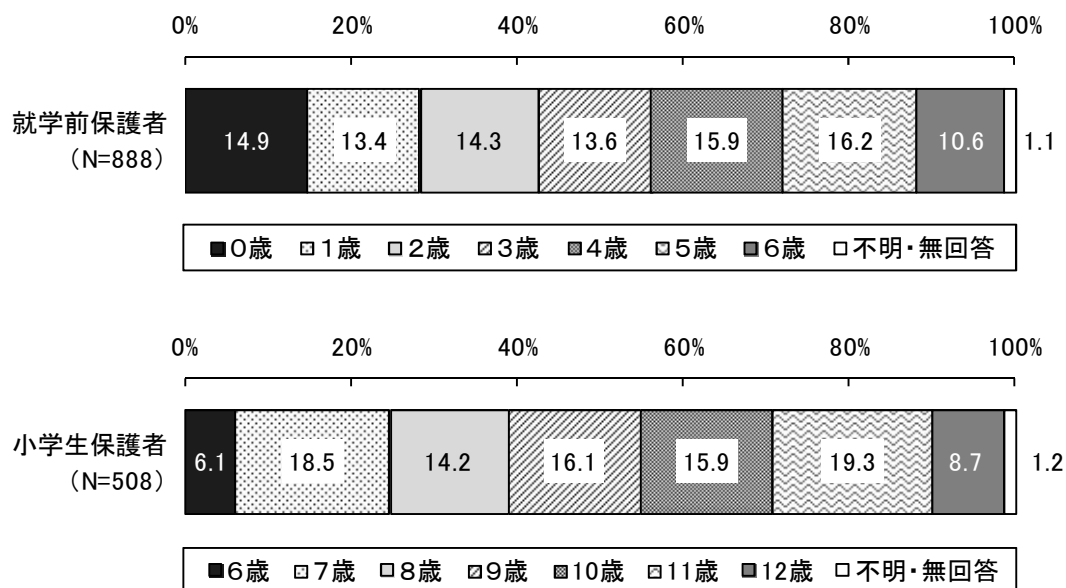
◆就学前児童保護者用・小学生児童保護者用

1. あて名のお子さんご家族の状況について

◆あて名のお子さんの「生年月」[前：問1①、小：問1①] 〈数量回答〉

生年月から年齢を算出すると、就学前保護者では「5歳」が16.2%と最も高く、次いで「4歳」が15.9%、「0歳」が14.9%となっています。

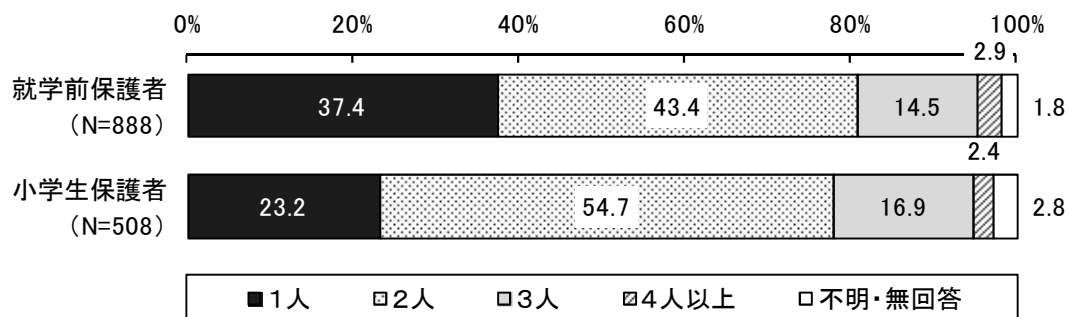
小学生保護者では、「11歳」が19.3%と最も高く、次いで「7歳」が18.5%、「10歳」が15.9%となっています。



◆あて名のお子さんの「きょうだい数」[前：問1②、小：問1②] 〈数量回答〉

就学前保護者では、「2人」が43.4%と最も高く、次いで「1人」が37.4%、「3人」が14.5%となっています。

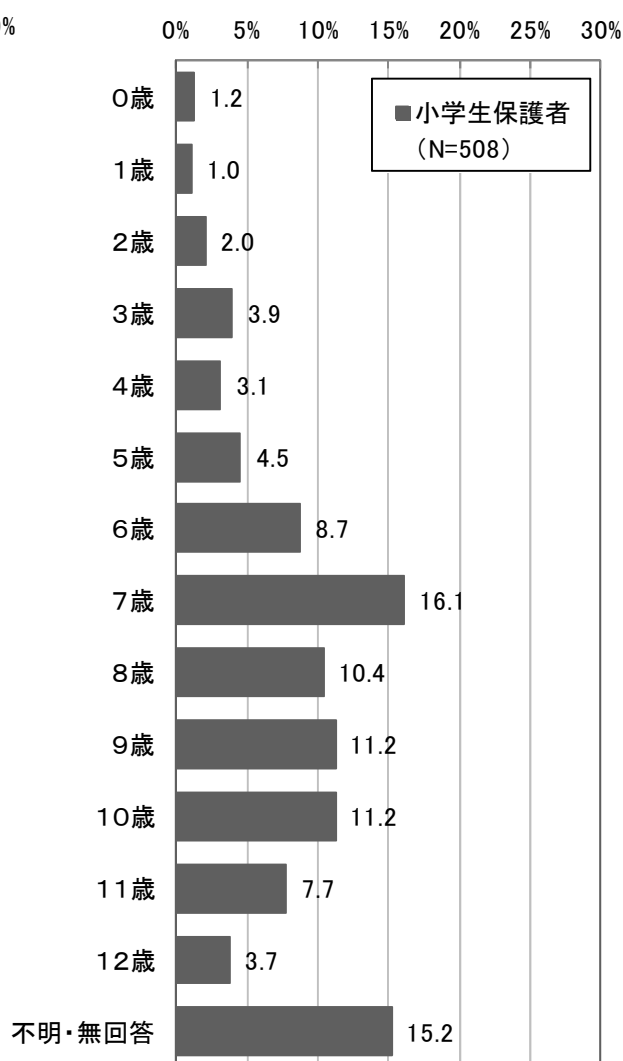
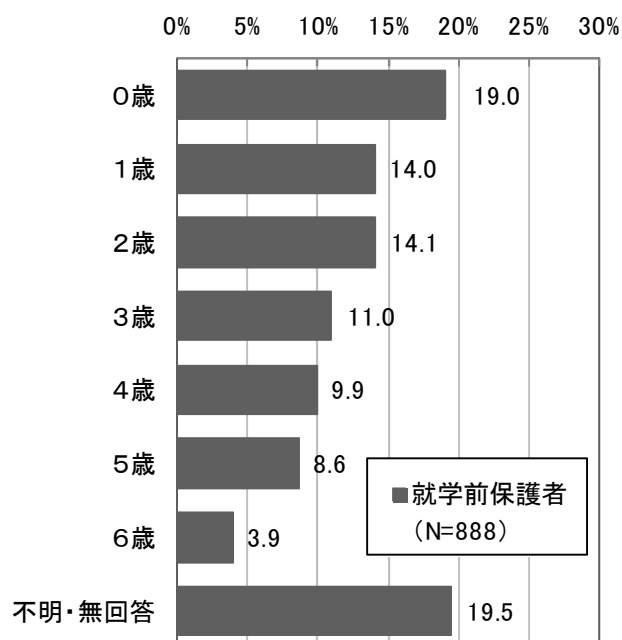
小学生保護者では、「2人」が54.7%と最も高く、次いで「1人」が23.2%、「3人」が16.9%となっています。



◆あて名のお子さんの「末子の満年齢」[前：問1③、小：問1③] <数量回答>

就学前保護者では、「0歳」が19.0%と最も高く、次いで「2歳」が14.1%、「1歳」が14.0%となっています。

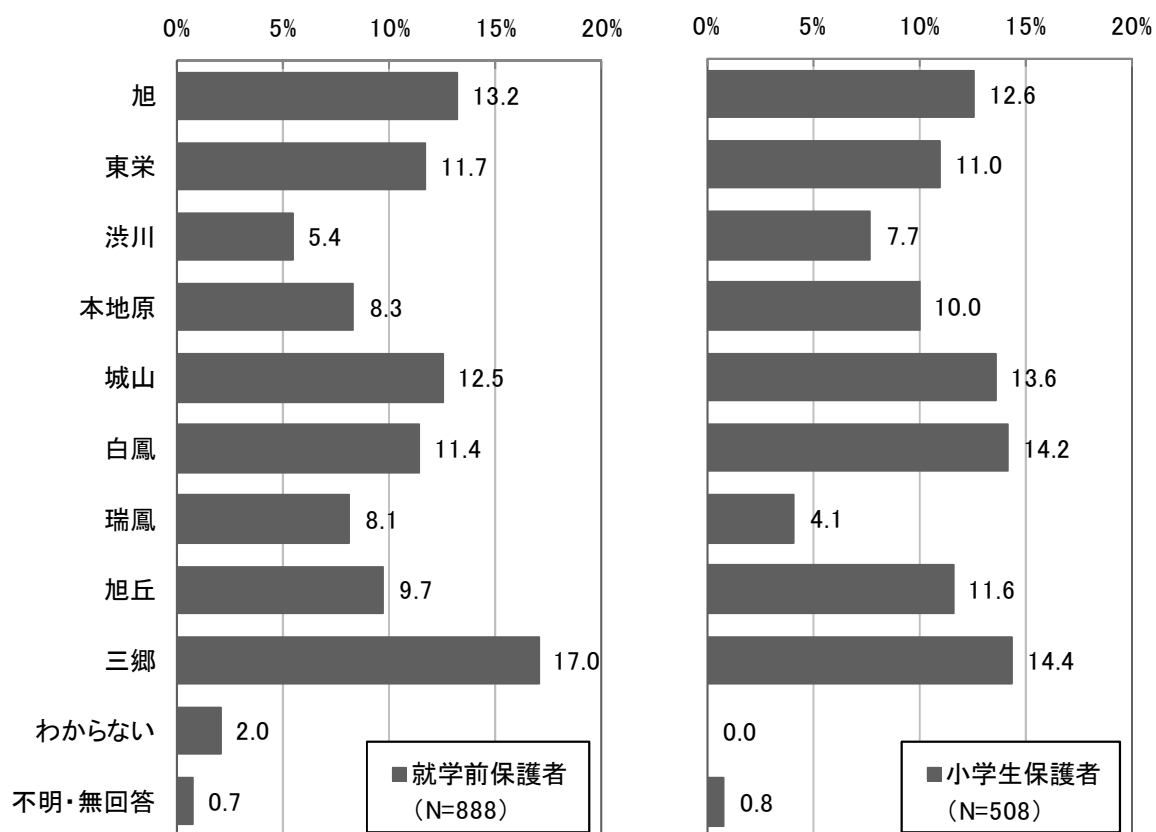
小学生保護者では、「7歳」が16.1%と最も高く、次いで「9歳」「10歳」がそれぞれ11.2%、「8歳」が10.4%となっています。



◆お住まいの小学校区〔前：問2、小：問2〕〈単数回答〉

就学前保護者では、「三郷」が17.0%と最も高く、次いで「旭」が13.2%、「城山」12.5%となっています。

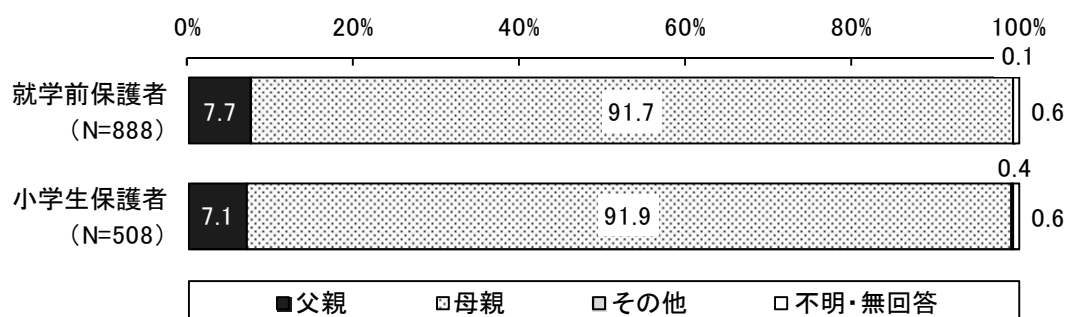
小学生保護者では、「三郷」が14.4%と最も高く、次いで「白鳳」が14.2%、「城山」が13.6%となっています。



◆ご回答いただく方は、あて名のお子さんからみてどなたですか。

[前：問3、小：問3] <単数回答>

就学前保護者では、「母親」が91.7%と最も高く、次いで「父親」が7.7%となっています。
小学生保護者では、「母親」が91.9%と最も高く、次いで「父親」が7.1%となっています。

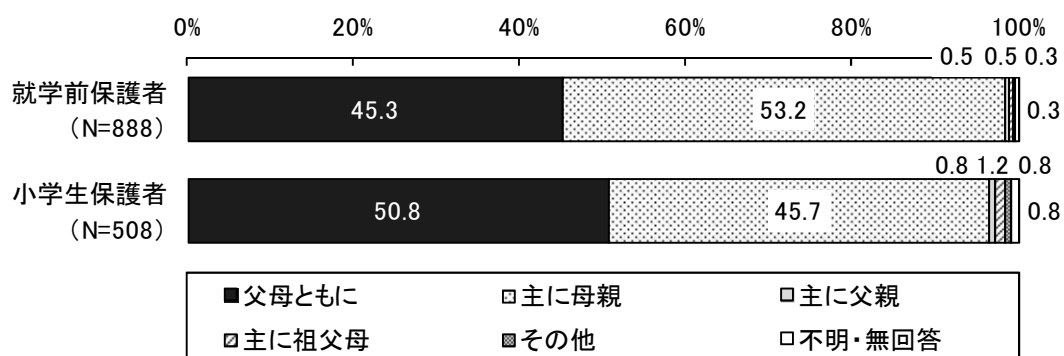


◆あて名のお子さんの子育てを主にしているのは、お子さんからみてどなたですか。

[前：問4、小：問4] <単数回答>

就学前保護者では、「主に母親」が53.2%と最も高く、次いで「父母ともに」が45.3%、「主に父親」「主に祖父母」がそれぞれ0.5%となっています。

小学生保護者では、「父母ともに」が50.8%と最も高く、次いで「主に母親」が45.7%、「主に祖父母」が1.2%となっています。



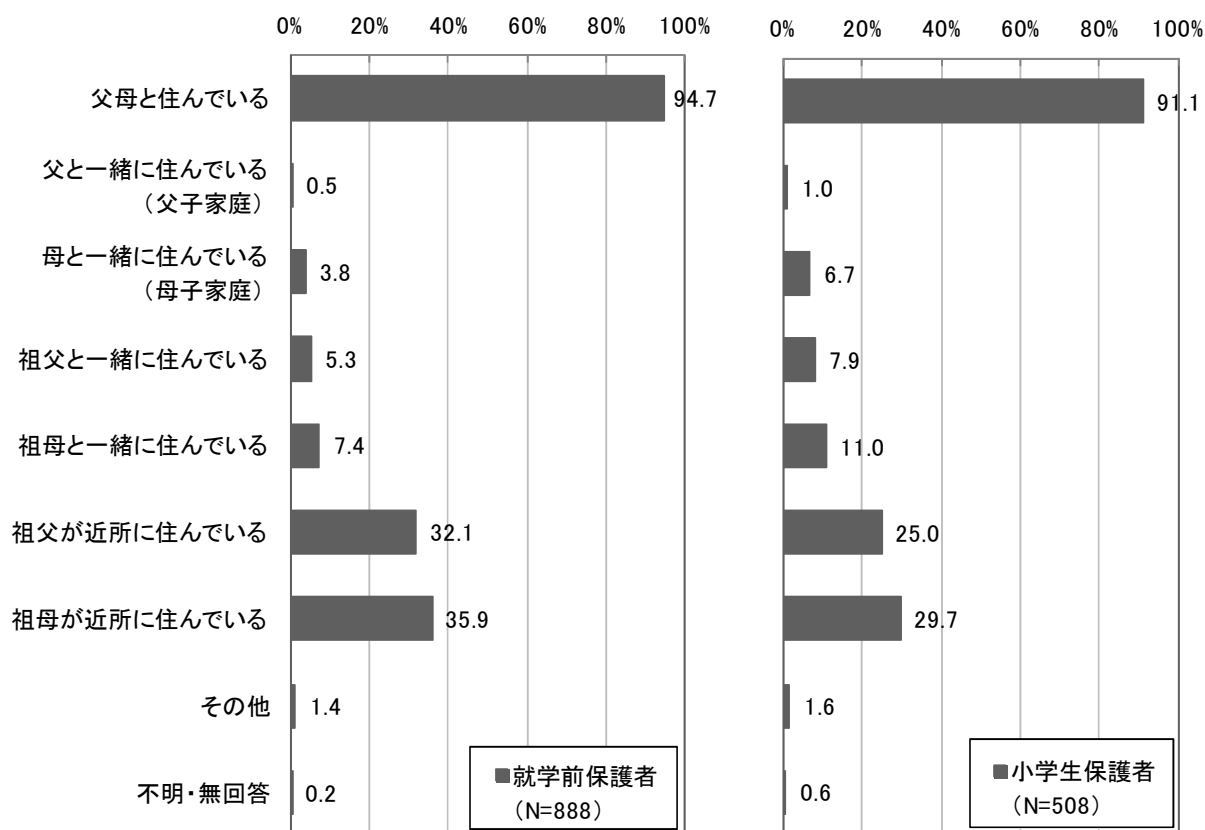
◆あて名のお子さんが一緒に住んでいる方はどなたですか。

また、近所(30分以内程度に行き来できる範囲)に祖父母が住んでいますか。

[前：問5、小：問5] <複数回答>

就学前保護者では、「父母と住んでいる」が94.7%と最も高く、次いで「祖母が近所に住んでいる」が35.9%、「祖父が近所に住んでいる」が32.1%となっています。

小学生保護者では、「父母と住んでいる」が91.1%と最も高く、次いで「祖母が近所に住んでいる」が29.7%、「祖父が近所に住んでいる」が25.0%となっています。

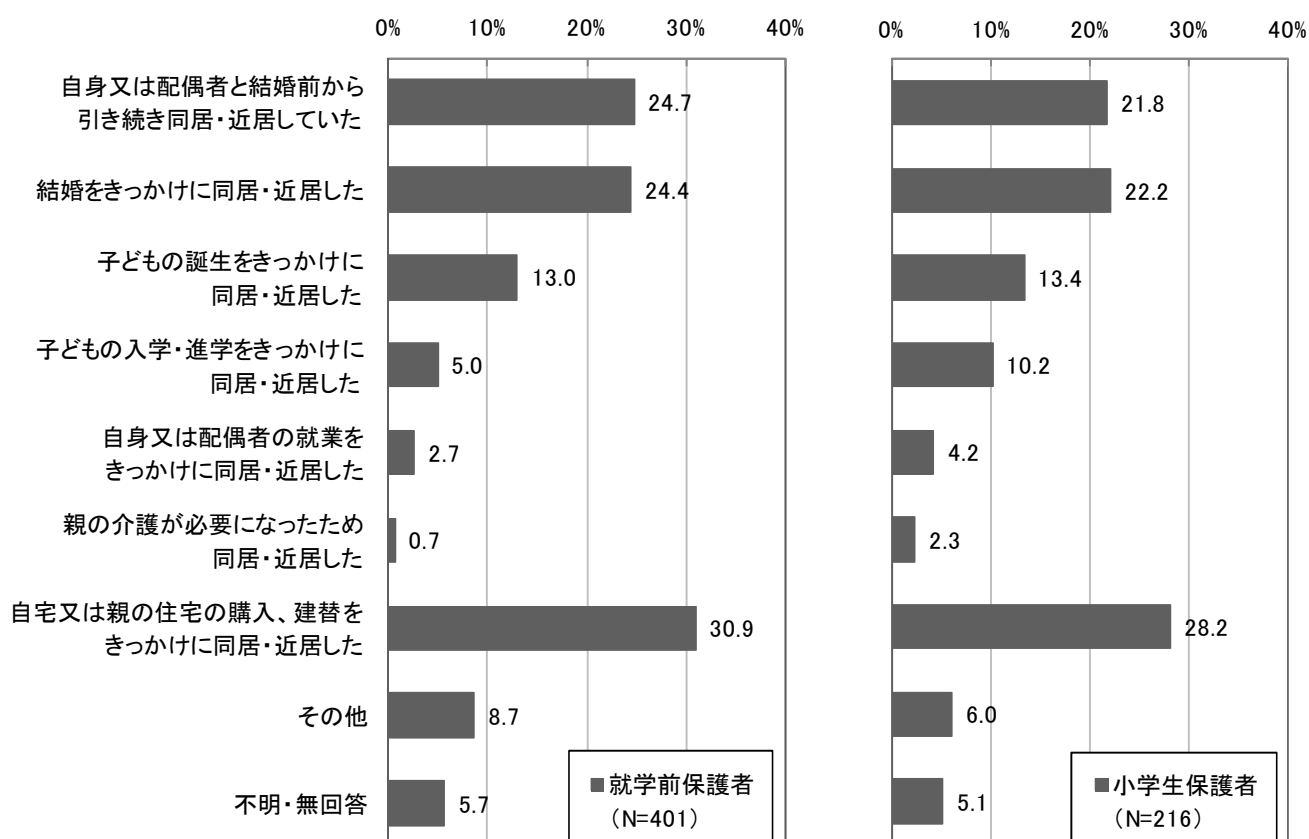


◆(お子さんの祖父母と同居・近居していると答えた方)

同居・近居をしたきっかけは何ですか。[前：問5-1、小：問5-1] <複数回答>

就学前保護者では、「自宅又は親の住宅の購入、建替をきっかけに同居・近居した」が30.9%と最も高く、次いで「自身又は配偶者と結婚前から引き続き同居・近居していた」が24.7%、「結婚をきっかけに同居・近居した」が24.4%となっています。

小学生保護者では、「自宅又は親の住宅の購入、建替をきっかけに同居・近居した」が28.2%と最も高く、次いで「結婚をきっかけに同居・近居した」が22.2%、「自身又は配偶者と結婚前から引き続き同居・近居していた」が21.8%となっています。



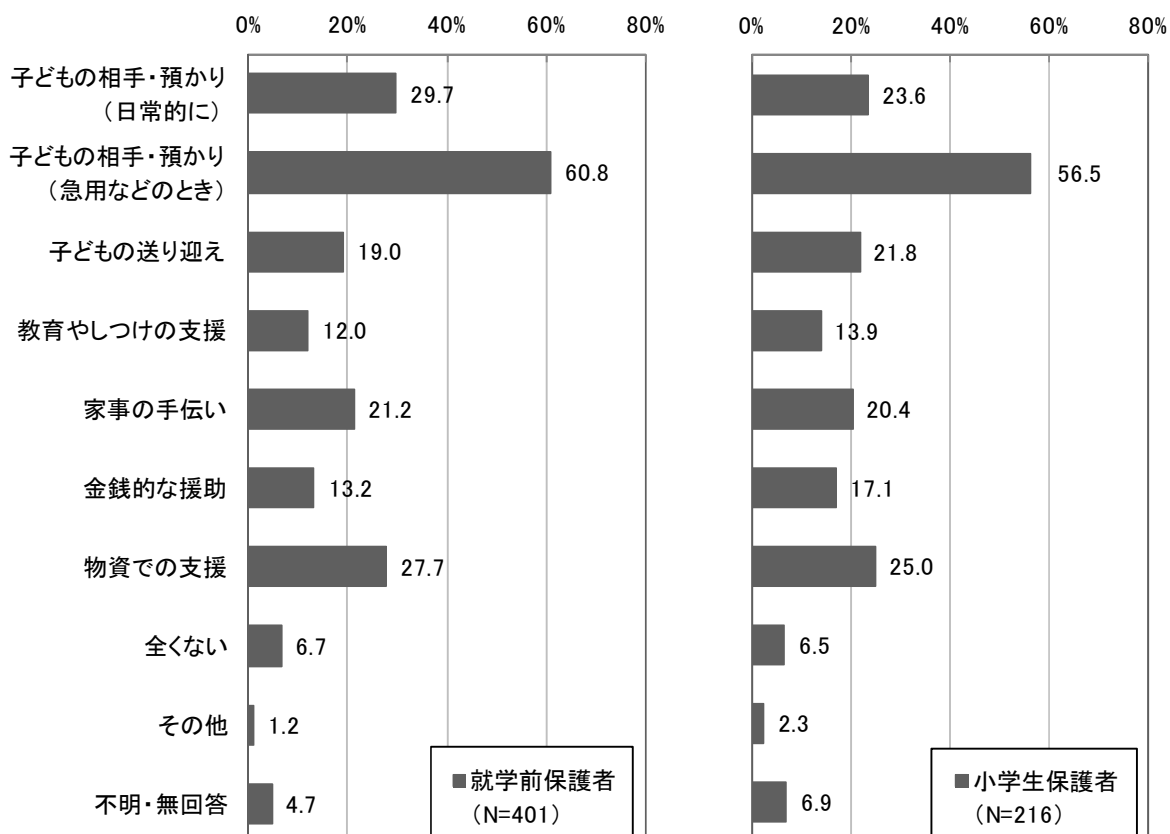
◆(お子さんの祖父母と同居・近居していると答えた方)

ご自身又は配偶者の親から受けている子育ての支援は何ですか。

[前：問5-2、小：問5-2] <複数回答>

就学前保護者では、「子どもの相手・預かり（急用などのとき）」が60.8%と最も高く、次いで「子どもの相手・預かり（日常的に）」が29.7%、「物資での支援」が27.7%となっています。

小学生保護者では、「子どもの相手・預かり（急用などのとき）」が56.5%と最も高く、次いで「物資での支援」が25.0%、「子どもの相手・預かり（日常的に）」が23.6%となっています。

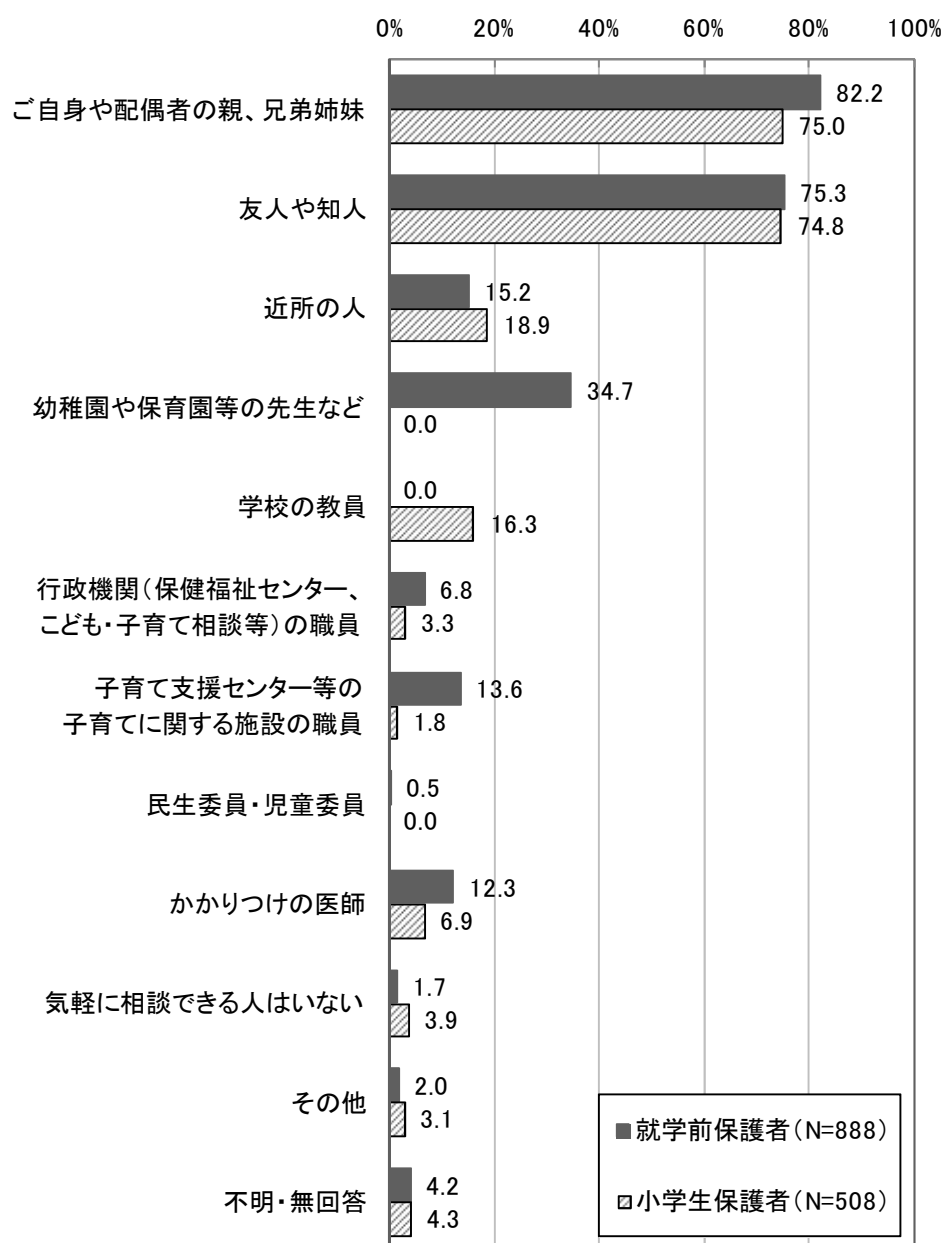


◆あて名のお子さんの子育てをする上で、気軽に相談できる方はいますか。

[前：問6、小：問6] <複数回答>

就学前保護者では、「ご自身や配偶者の親、兄弟姉妹」が 82.2%と最も高く、次いで「友人や知人」が 75.3%、「幼稚園や保育園等の先生など」が 34.7%となっています。

小学生保護者では、「ご自身や配偶者の親、兄弟姉妹」が 75.0%と最も高く、次いで「友人や知人」が 74.8%、「近所の人」が 18.9%となっています。



2. 保護者の就労状況について

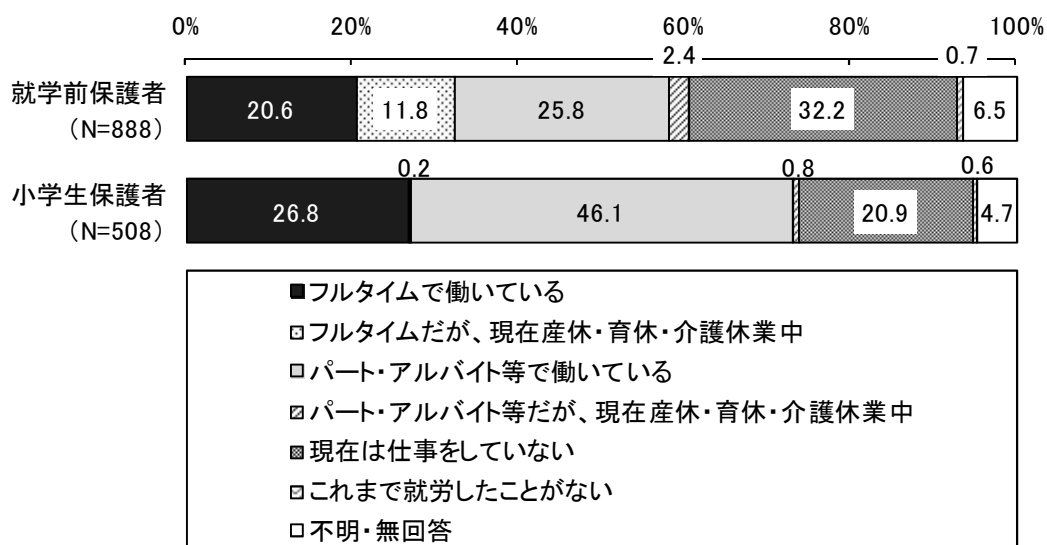
◆あて名のお子さんの保護者の就労状況(自営業、家族従事者含む)をお答えください。

[前：問7（1）、小：問7（1）] <単数回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「現在は仕事をしていない」が 32.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等で働いている」が 25.8%、「フルタイムで働いている」が 20.6%となっています。

小学生保護者では、「パート・アルバイト等で働いている」が 46.1%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が 26.8%、「現在は仕事をしていない」が 20.9%となっています。



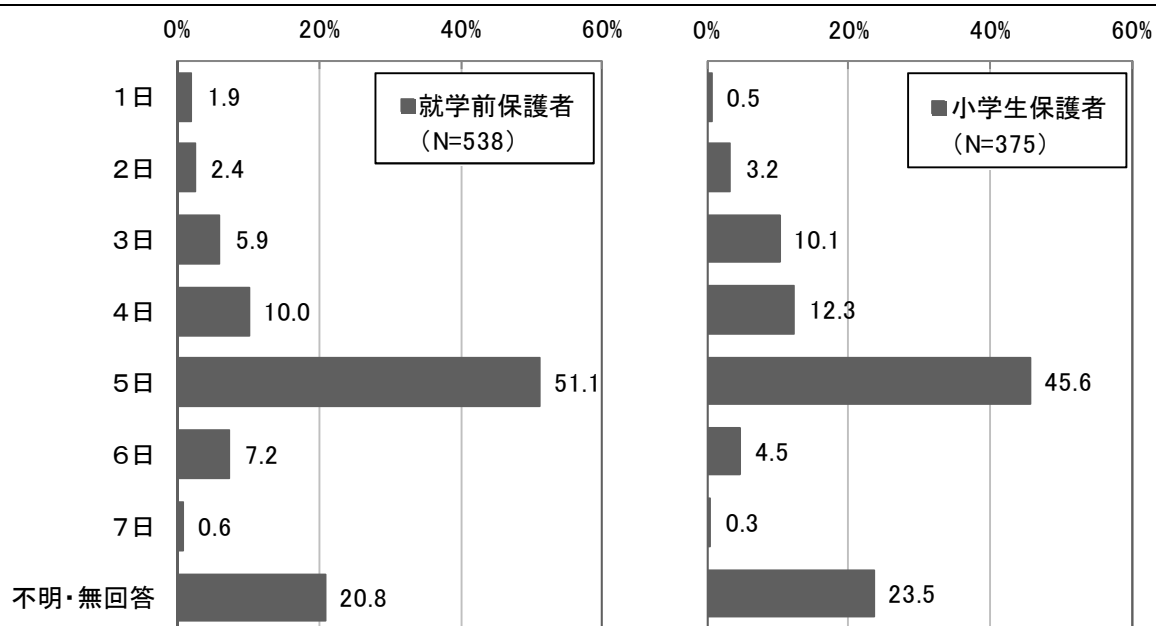
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

就労日数(週当たり)[前：問7(1)①、小：問7(1)①] <数量回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「5日」が51.1%と最も高く、次いで「4日」が10.0%、「6日」が7.2%となっています。

小学生保護者では、「5日」が45.6%と最も高く、次いで「4日」が12.3%、「3日」が10.1%となっています。



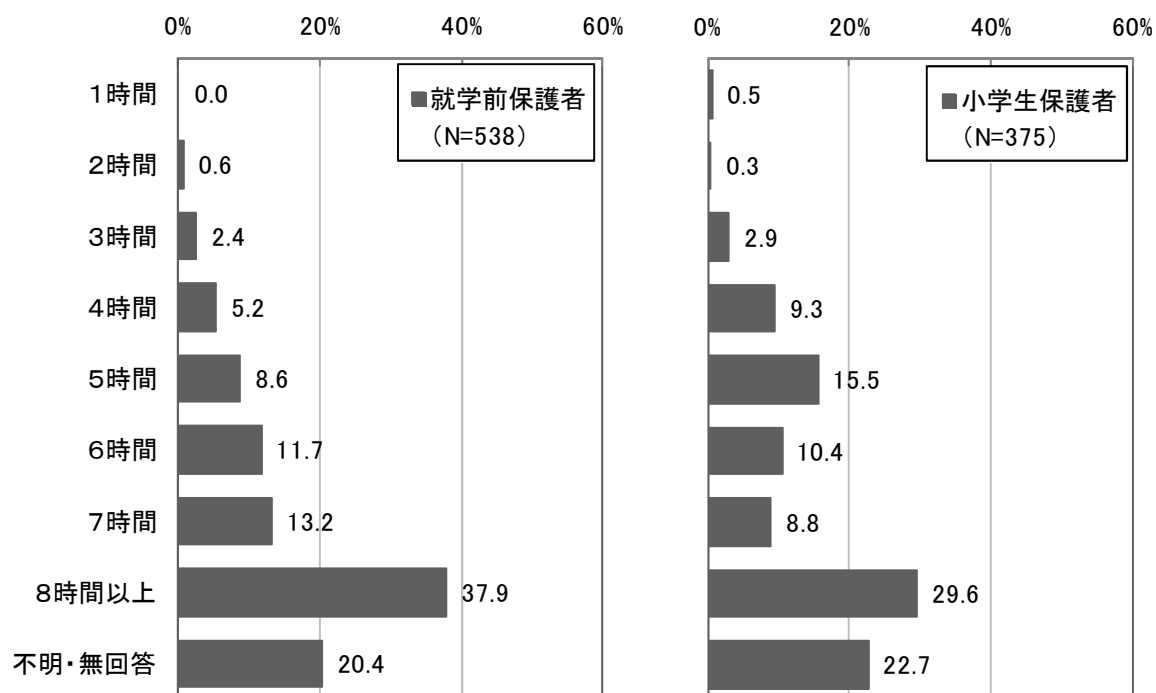
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

平均就労時間(1日当たり)[前：問7(1)②、小：問7(1)②] <数量回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「8時間以上」が37.9%と最も高く、次いで「7時間」が13.2%、「6時間」が11.7%となっています。

小学生保護者では、「8時間以上」が29.6%と最も高く、次いで「5時間」が15.5%、「6時間」が10.4%となっています。



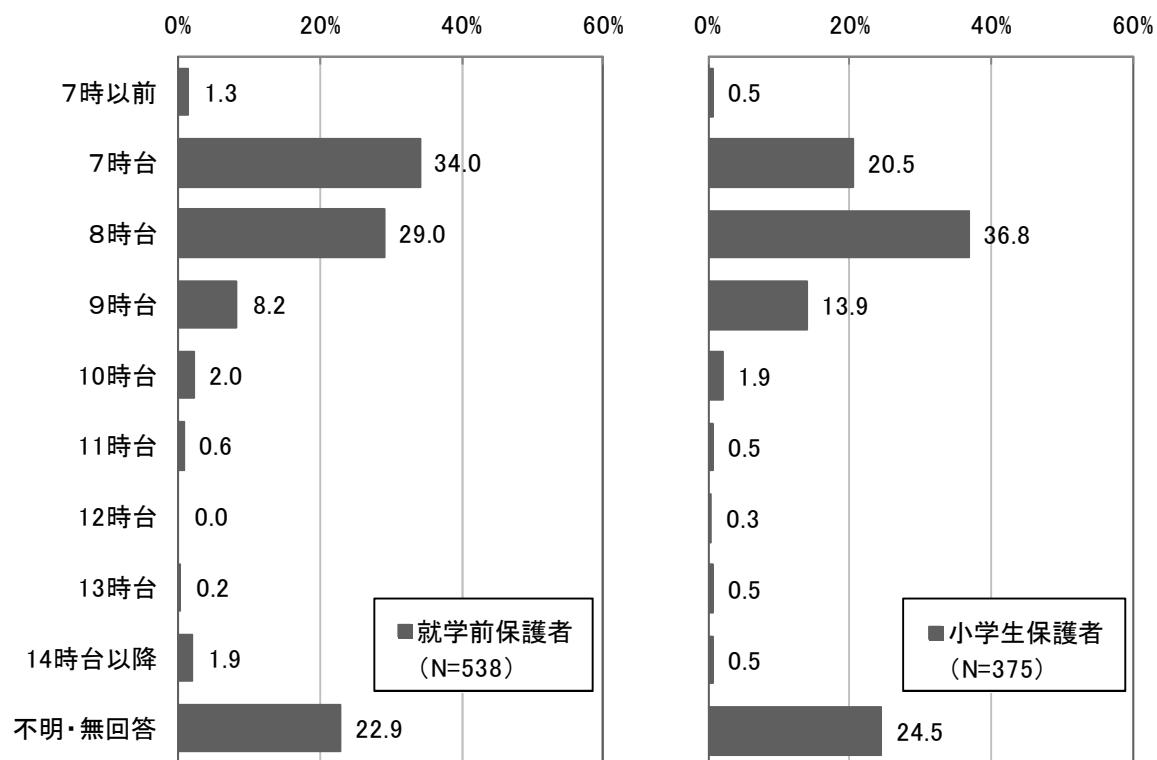
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

平均的な家を出る時刻《平日》[前：問7（1）③、小：問7（1）③] <数量回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「7時台」が34.0%と最も高く、次いで「8時台」が29.0%、「9時台」が8.2%となっています。

小学生保護者では、「8時台」が36.8%と最も高く、次いで「7時台」が20.5%、「9時台」が13.9%となっています。



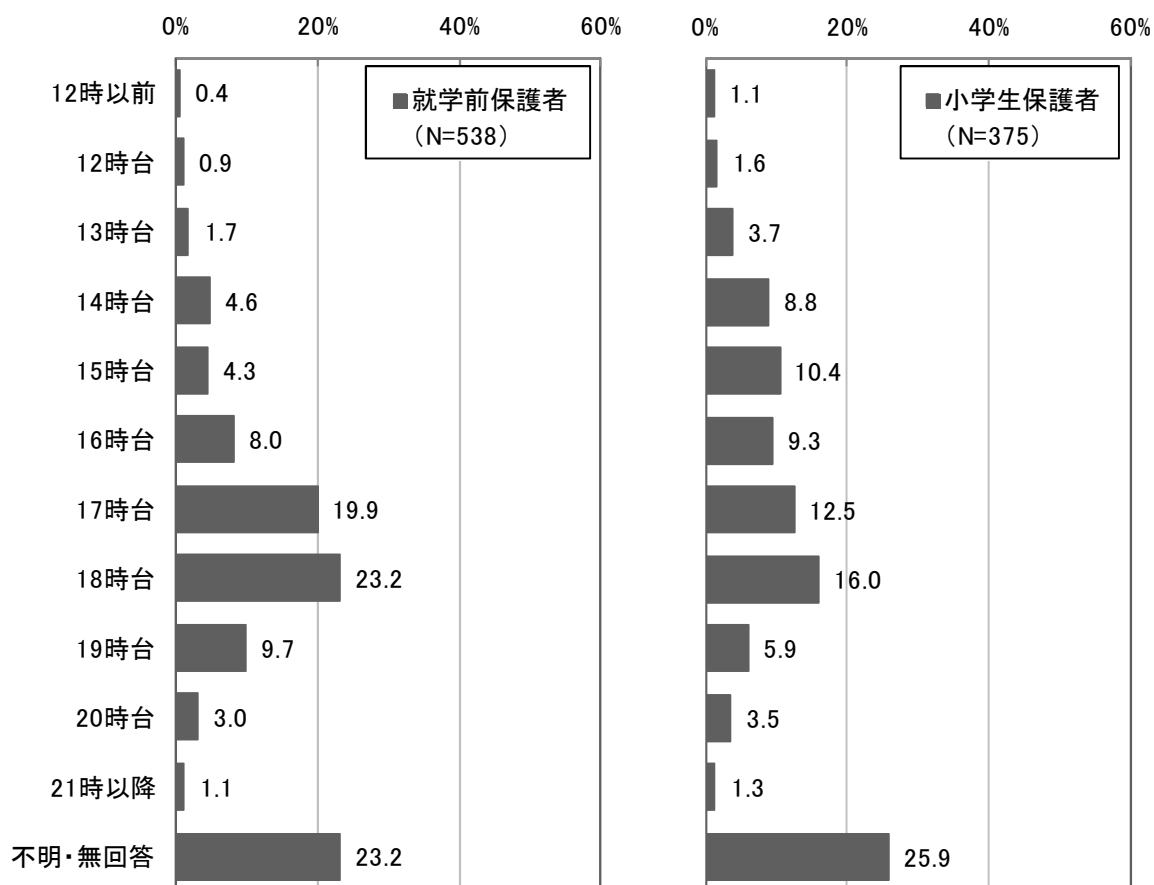
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

平均的な帰宅時刻《平日》[前：問7（1）④、小：問7（1）④] <数量回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「18 時台」が 23.2%と最も高く、次いで「17 時台」が 19.9%、「19 時台」が 9.7%となっています。

小学生保護者では、「18 時台」が 16.0%と最も高く、次いで「17 時台」が 12.5%、「15 時台」が 10.4%となっています。

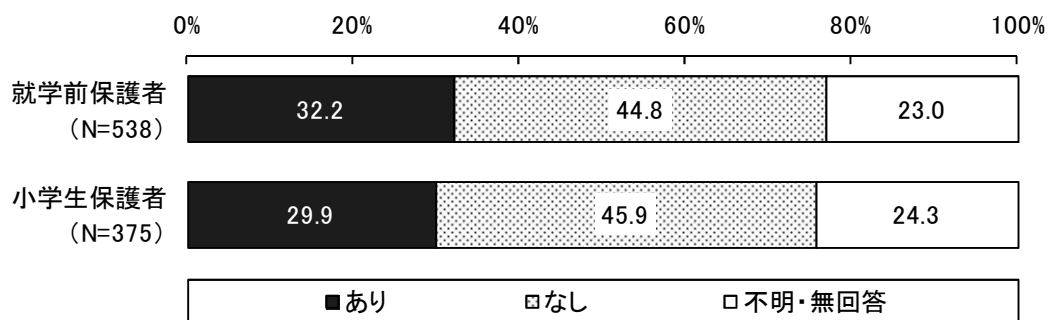


◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

土日祝日の出勤状況[前：問7（1）③④、小：問7（1）③④] <単数回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「なし」が44.8%と最も高く、次いで「あり」が32.2%となっています。
小学生保護者では、「なし」が45.9%と最も高く、次いで「あり」が29.9%となっています。



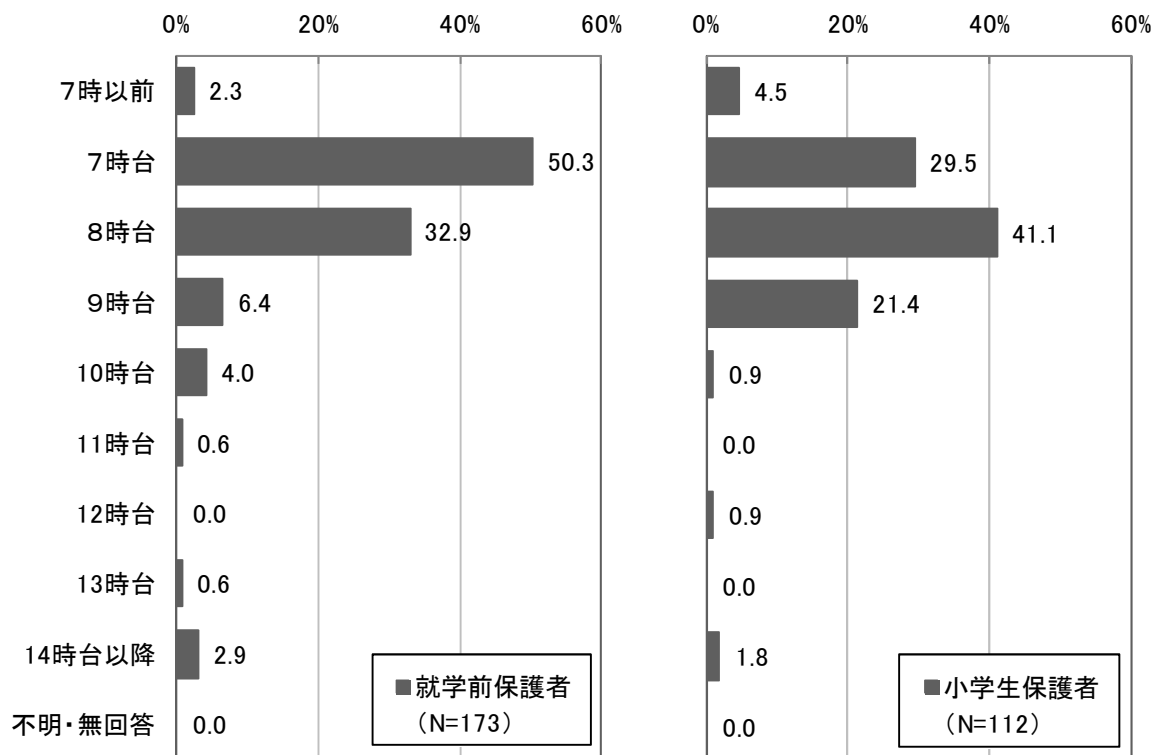
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

平均的な家を出る時刻《土日祝日》[前：問7（1）③、小：問7（1）③] <数量回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「7時台」が50.3%と最も高く、次いで「8時台」が32.9%、「9時台」が6.4%となっています。

小学生保護者では、「8時台」が41.1%と最も高く、次いで「7時台」が29.5%、「9時台」が21.4%となっています。



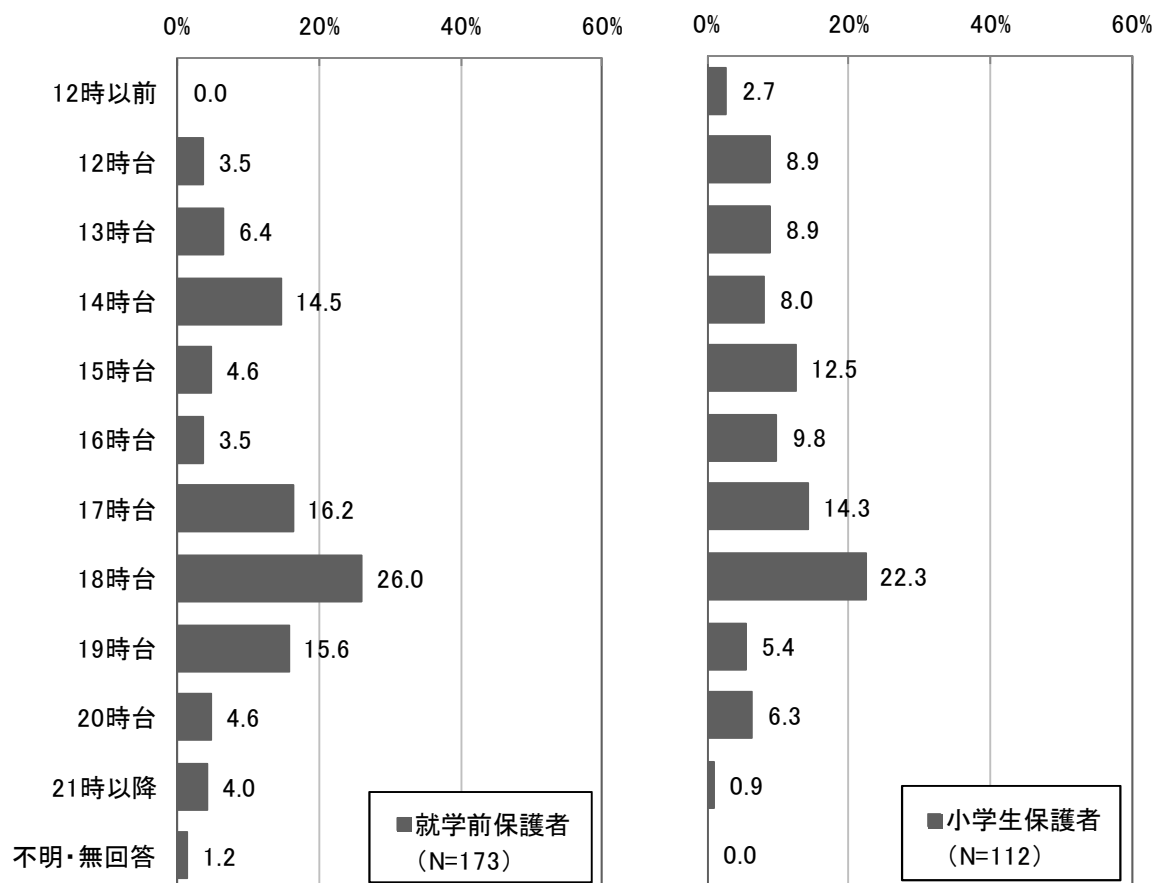
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

平均的な帰宅時刻《土日祝日》[前：問7（1）④、小：問7（1）④] <数量回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「18 時台」が 26.0%と最も高く、次いで「17 時台」が 16.2%、「19 時台」が 15.6%となっています。

小学生保護者では、「18 時台」が 22.3%と最も高く、次いで「17 時台」が 14.3%、「15 時台」が 12.5%となっています。



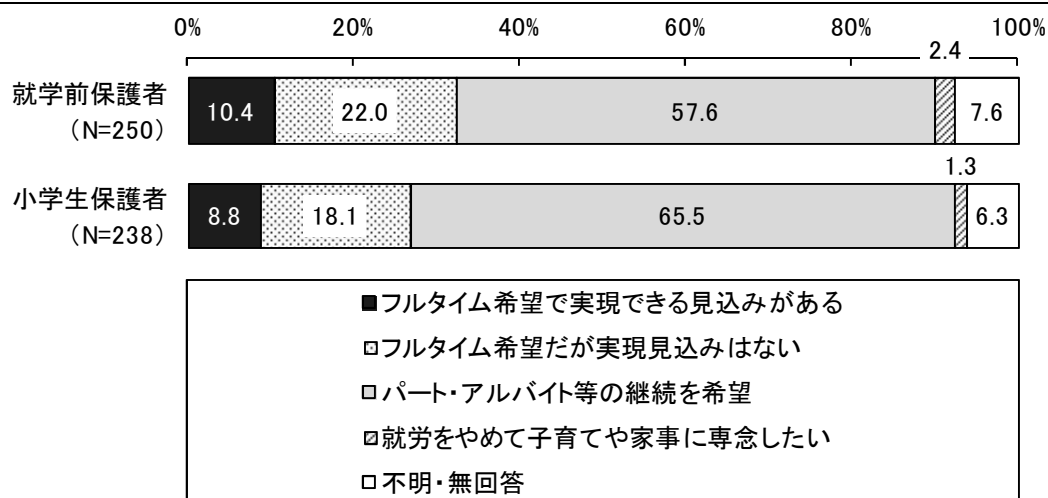
◆(パート・アルバイト等で働いている方)

フルタイムへの転換希望[前：問7(1)⑤、小：問7(1)⑤] <単数回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「パート・アルバイト等の継続を希望」が57.6%と最も高く、次いで「フルタイム希望だが実現見込みはない」が22.0%、「フルタイム希望で実現できる見込みがある」が10.4%となっています。

小学生保護者では、「パート・アルバイト等の継続を希望」が65.5%と最も高く、次いで「フルタイム希望だが実現見込みはない」が18.1%、「フルタイム希望で実現できる見込みがある」が8.8%となっています。



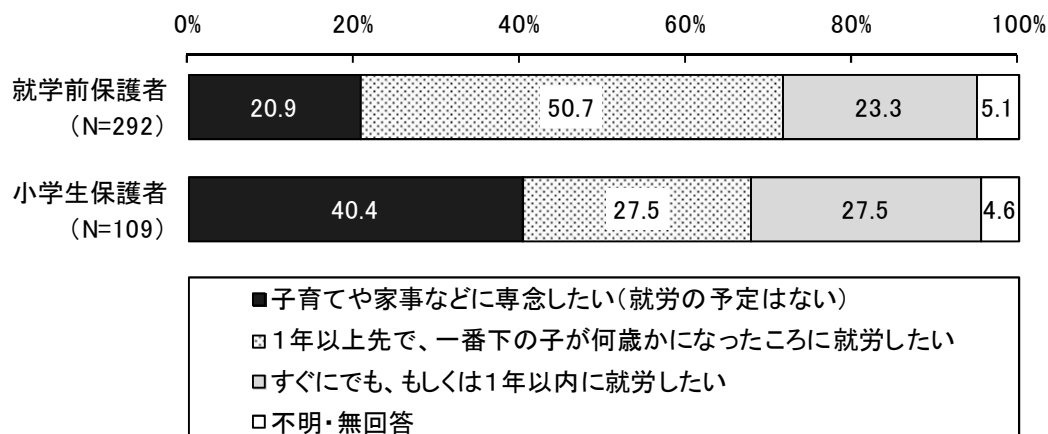
◆(現在は仕事をしていない、これまで就労したことがない方)

今後の就労意向[前：問7(1)⑥、小：問7(1)⑥] <単数回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「1年以上先で、一番下の子が何歳かになったところに就労したい」が50.7%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が23.3%、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が20.9%となっています。

小学生保護者では、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が40.4%と最も高く、次いで「1年以上先で、一番下の子が何歳かになったところに就労したい」「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」がともに27.5%となっています。



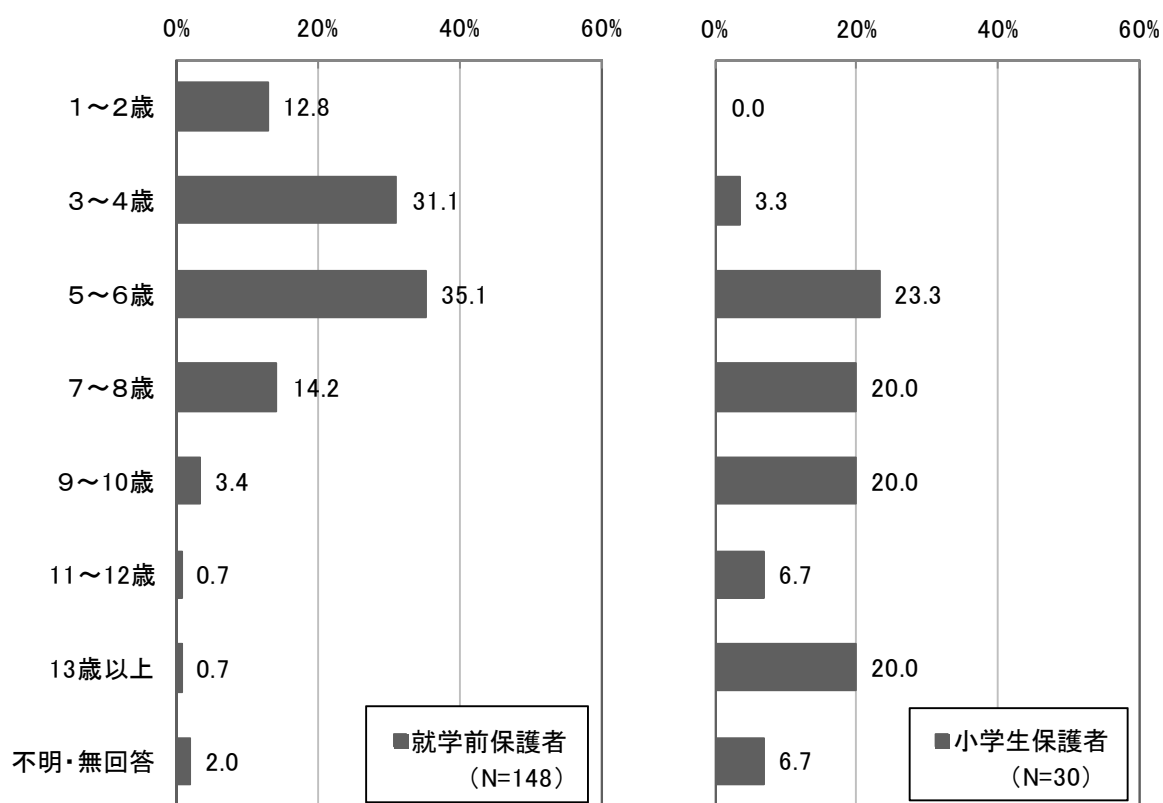
◆(今後、「1年以上先で、一番下の子が(歳)になったところに就労したい」と答えた方)
一番下の子が何歳になったところに就労したいか。

[前：問7（1）⑥、小：問7（1）⑥] <数量回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「5～6歳」が35.1%と最も高く、次いで「3～4歳」が31.1%、「7～8歳」が14.2%となっています。

小学生保護者では、「5～6歳」が23.3%と最も高く、次いで「7～8歳」「9～10歳」「13歳以上」がそれぞれ20.0%となっています。



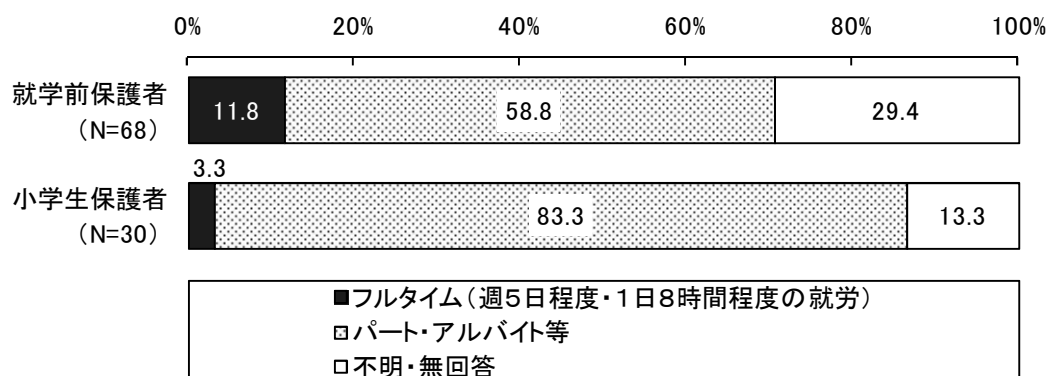
◆(現在は仕事をしていない、これまで就労したことがない方)

希望する就労形態 [前：問7 (1) ⑦、小：問7 (1) ⑦] <単数回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「パート・アルバイト等」が 58.8%と最も高く、次いで「フルタイム (週5日程度・1日8時間程度の就労)」が 11.8%となっています。

小学生保護者では、「パート・アルバイト等」が 83.3%と最も高く、次いで「フルタイム (週5日程度・1日8時間程度の就労)」が 3.3%となっています。



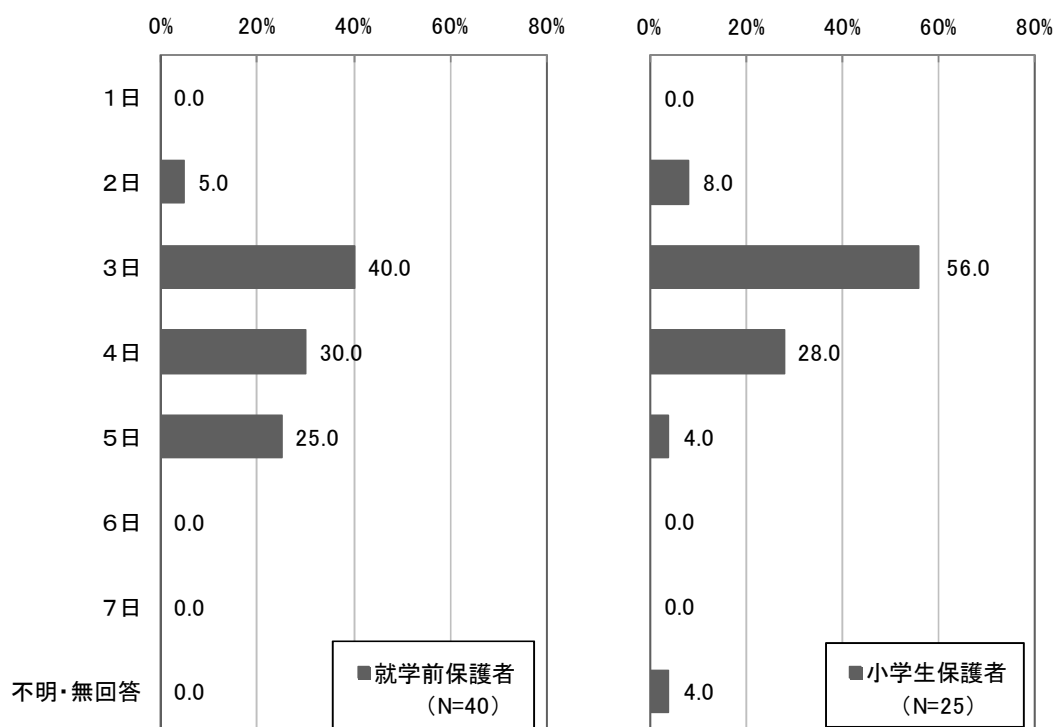
◆(現在は仕事をしていない、これまで就労したことがない方で、希望する就労形態として「パート・アルバイト等」と答えた方)

希望する就労日数(週当たり) [前：問7 (1) ⑦-イ、小：問7 (1) ⑦-イ] <数量回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「3日」が 40.0%と最も高く、次いで「4日」が 30.0%、「5日」が 25.0%となっています。

小学生保護者では、「3日」が 56.0%と最も高く、次いで「4日」が 28.0%、「2日」が 8.0%となっています。



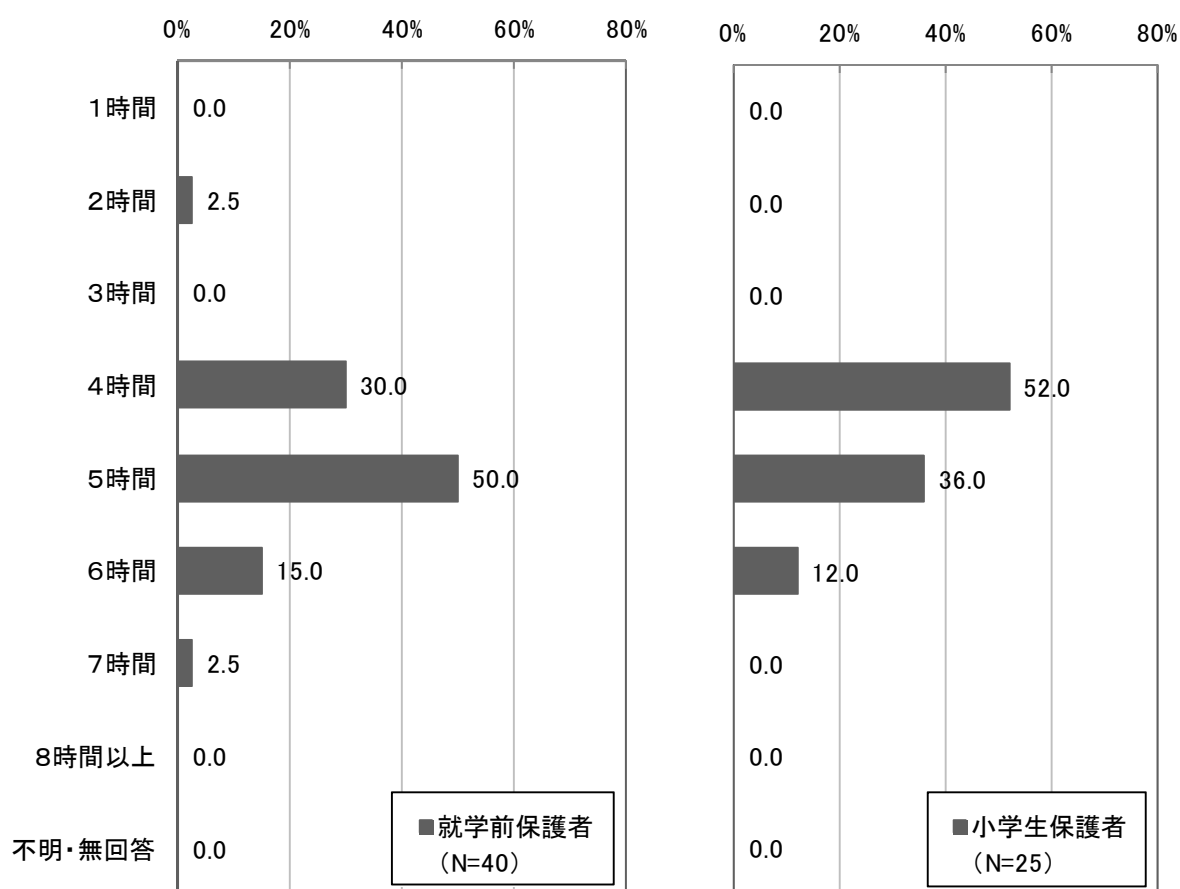
◆(現在は仕事をしていない、これまで就労したことがない方で、希望する就労形態として「パート・アルバイト等」と答えた方)

希望する就労時間(1日当たり)[前：問7(1)⑦-イ、小：問7(1)⑦-イ] <数量回答>

(1)母親の現状

就学前保護者では、「5時間」が50.0%と最も高く、次いで「4時間」が30.0%、「6時間」が15.0%となっています。

小学生保護者では、「4時間」が52.0%と最も高く、次いで「5時間」が36.0%、「6時間」が12.0%となっています。



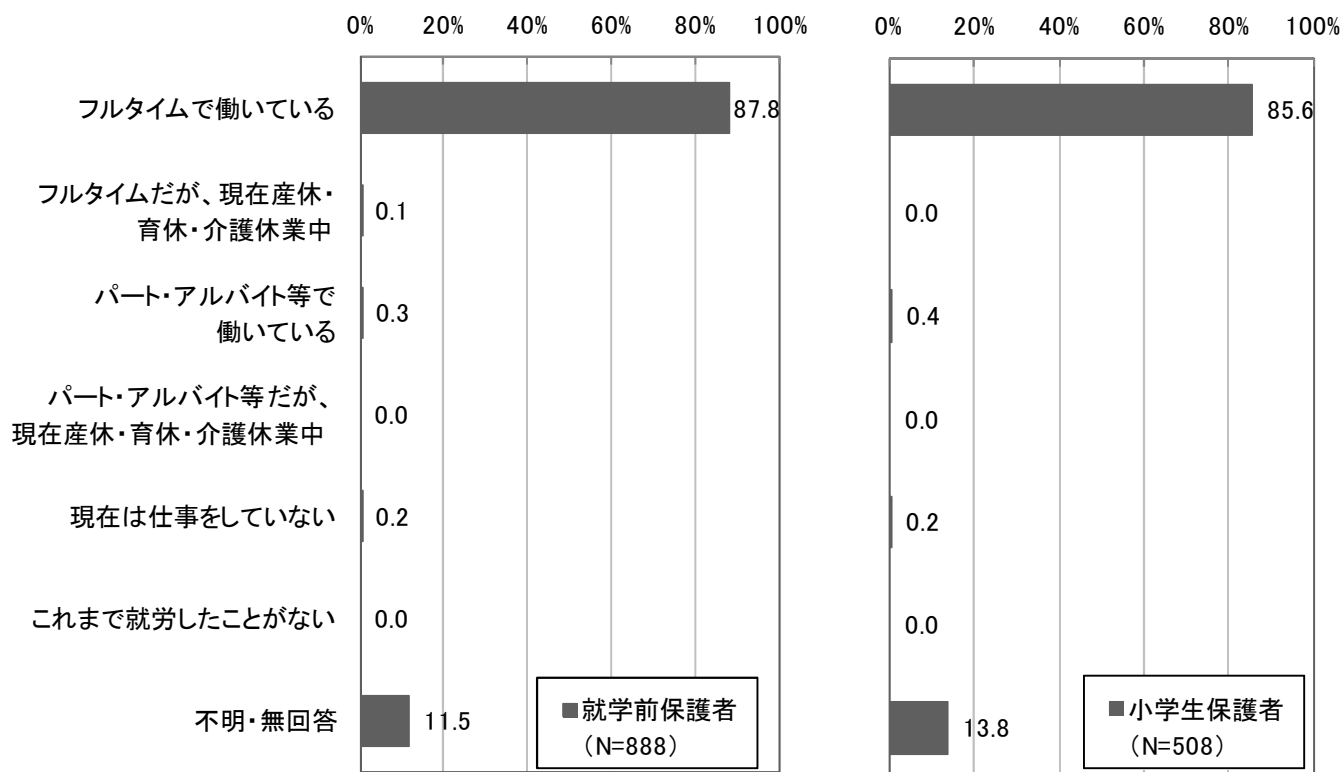
◆あて名のお子さんの保護者の就労状況(自営業、家族従事者含む)をお答えください。

[前：問7(2)、小：問7(2)] <単数回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、「フルタイムで働いている」が 87.8%と最も高く、それ以外は1%未満となっています。

小学生保護者では、「フルタイムで働いている」が 85.6%と最も高く、それ以外は1%未満となっています。



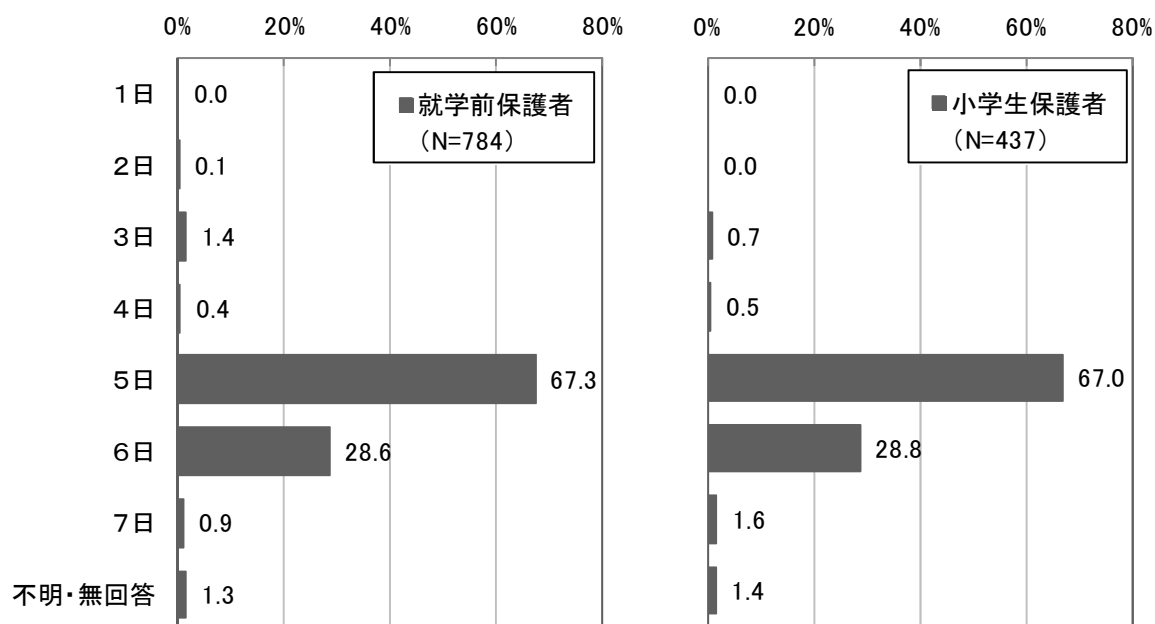
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

就労日数(週当たり)[前：問7(2)①、小：問7(2)①] <数量回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、「5日」が67.3%と最も高く、次いで「6日」が28.6%、「3日」が1.4%となっています。

小学生保護者では、「5日」が67.0%と最も高く、次いで「6日」が28.8%、「7日」が1.6%となっています。



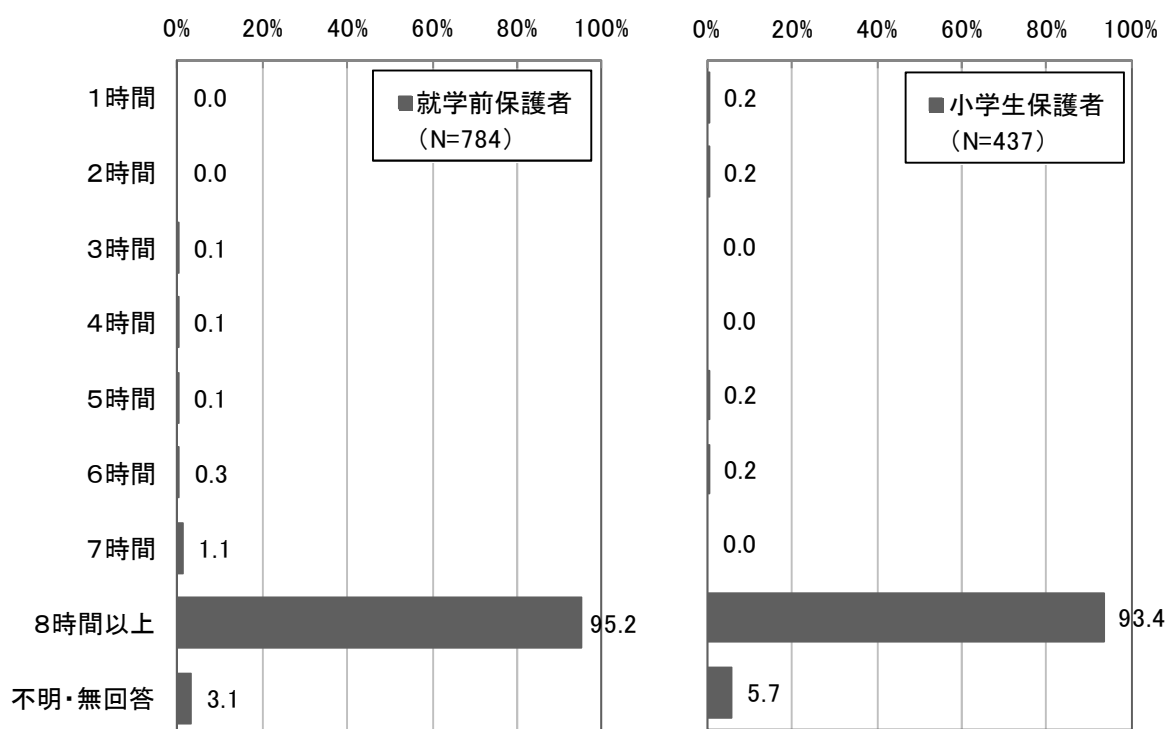
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

平均就労時間(1日当たり)[前：問7(2)②、小：問7(2)②] <数量回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、「8時間」が95.2%と最も高く、次いで「7時間」が1.1%、それ以外は1%未満となっています。

小学生保護者では、「8時間」が93.4%と最も高く、それ以外は1%未満となっています。



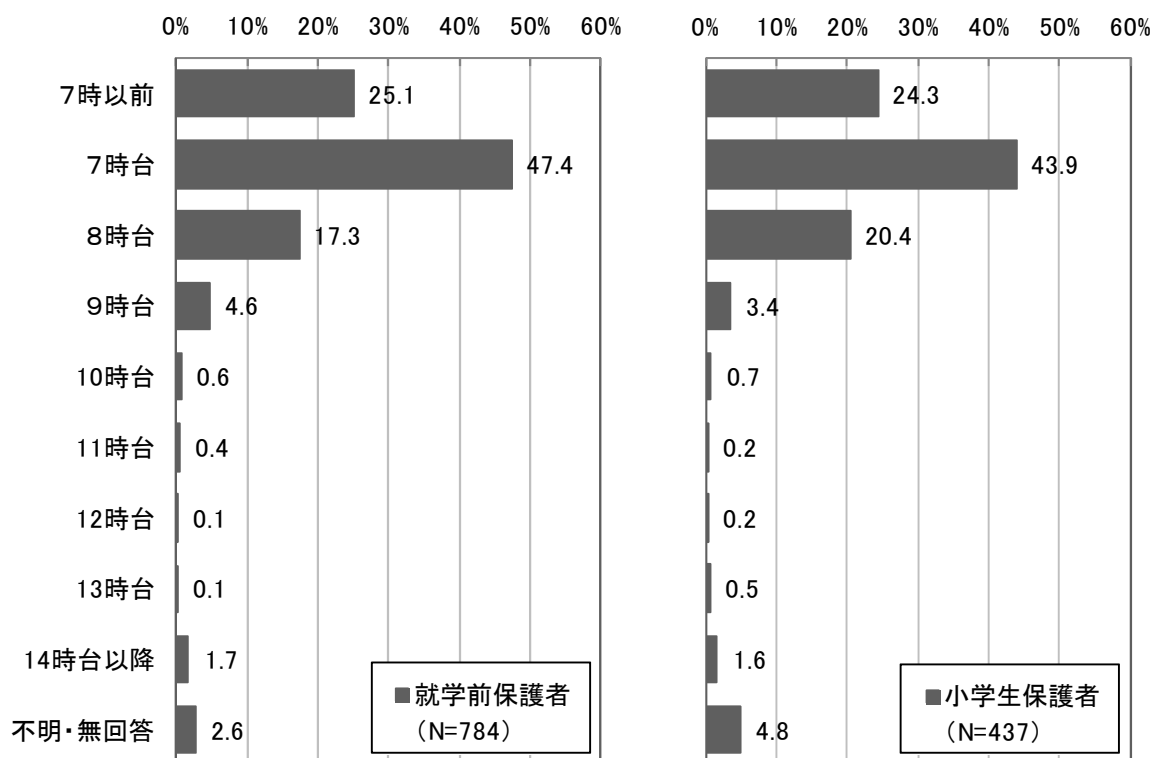
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

平均的な家を出る時刻《平日》[前：問7（2）③、小：問7（2）③] <数量回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、「7時台」が47.4%と最も高く、次いで「7時以前」が25.1%、「8時台」が17.3%となっています。

小学生保護者では、「7時台」が43.9%と最も高く、次いで「7時以前」が24.3%、「8時台」が20.4%となっています。



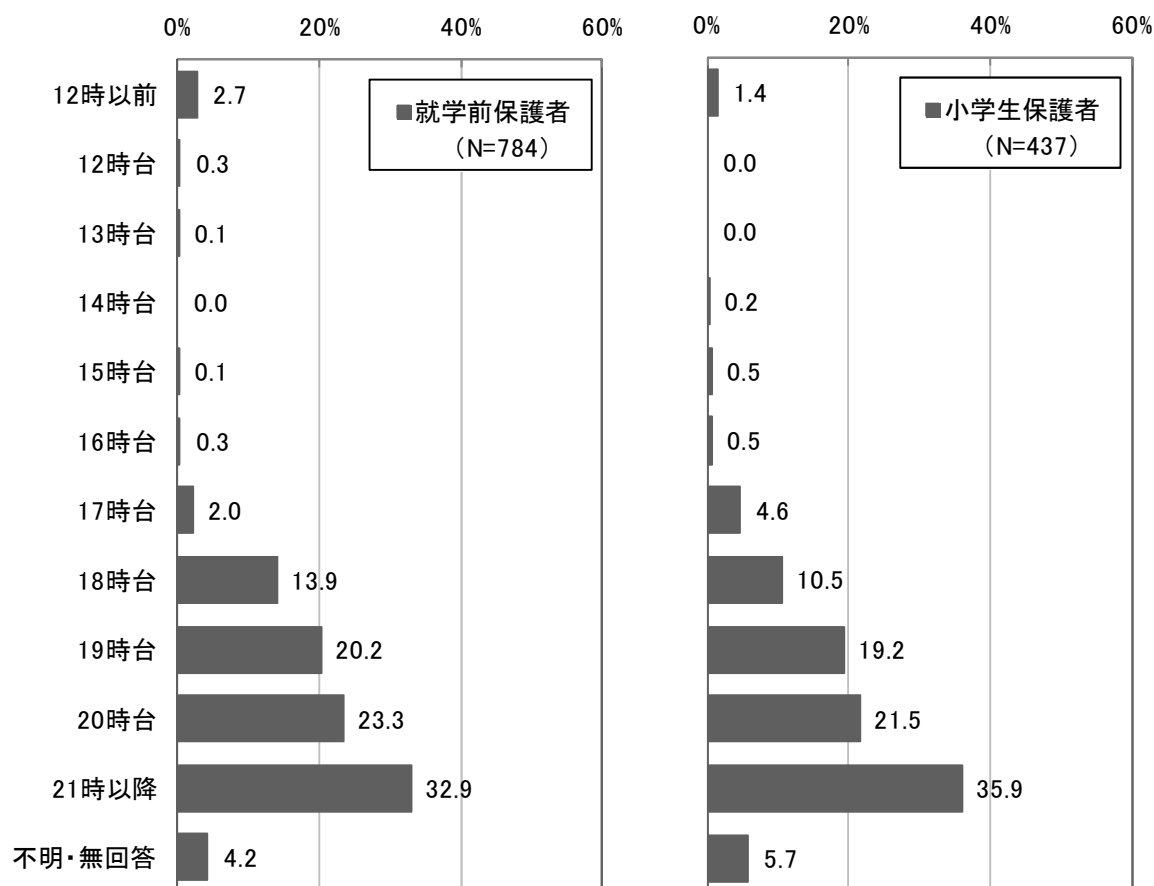
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

平均的な帰宅時刻《平日》[前：問7(2)④、小：問7(2)④] <数量回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、「21時以降」が32.9%と最も高く、次いで「20時台」が23.3%、「19時台」が20.2%となっています。

小学生保護者では、「21時以降」が35.9%と最も高く、次いで「20時台」が21.5%、「19時台」が19.2%となっています。

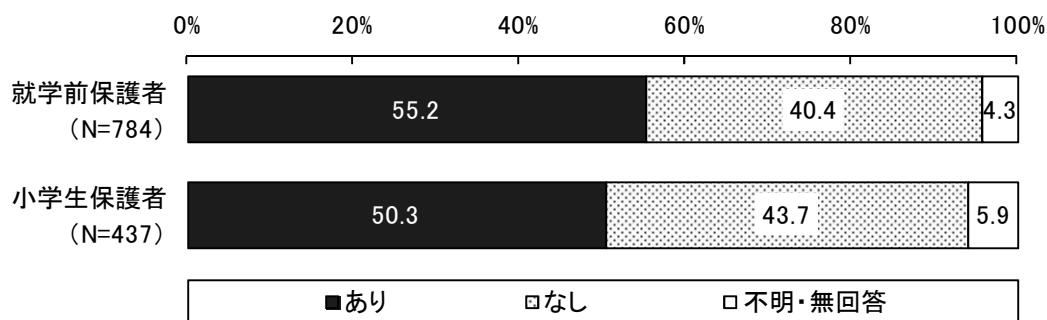


◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

土日祝日の出勤状況[前：問7(2)③④、小：問7(2)③④] <単数回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、「あり」が55.2%と最も高く、次いで「なし」が40.4%となっています。
小学生保護者では、「あり」が50.3%と最も高く、次いで「なし」が43.7%となっています。



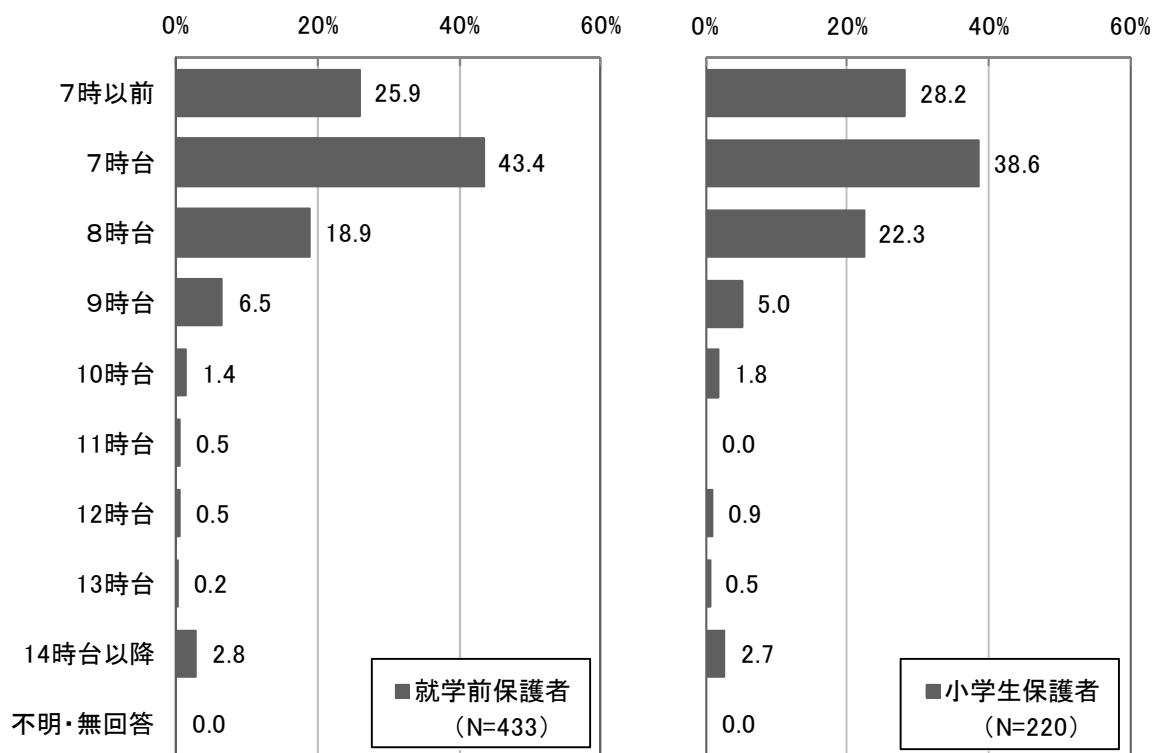
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

平均的な家を出る時刻《土日祝日》[前：問7(2)③、小：問7(2)③] <数量回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、「7時台」が43.4%と最も高く、次いで「7時以前」が25.9%、「8時台」が18.9%となっています。

小学生保護者では、「7時台」が38.6%と最も高く、次いで「7時以前」が28.2%、「8時台」が22.3%となっています。



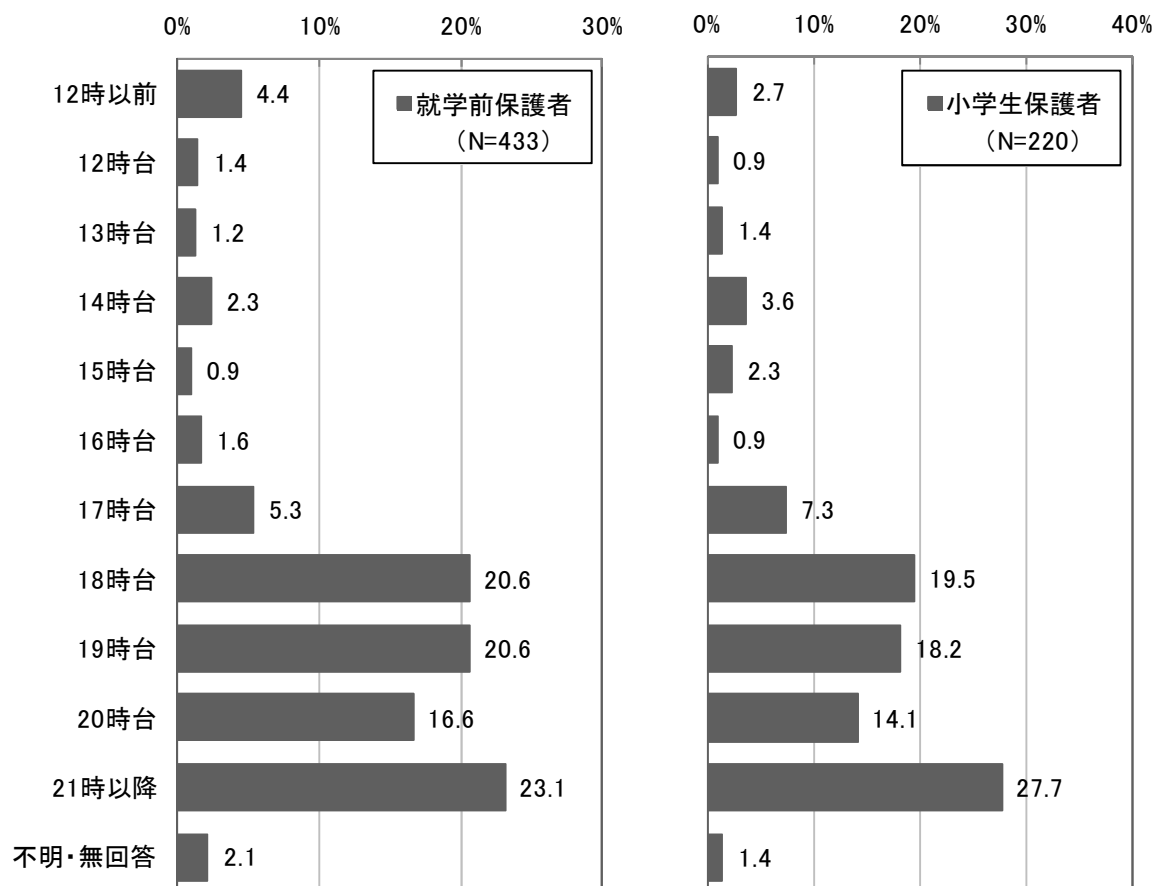
◆(フルタイムもしくはパート・アルバイト等で働いている方)

平均的な帰宅時刻《土日祝日》[前：問7（2）④、小：問7（2）④] <数量回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、「21 時以降」が 23.1%と最も高く、次いで「18 時台」「19 時台」がそれぞれ 20.6%、「20 時台」が 16.6%となっています。

小学生保護者では、「21 時以降」が 27.7%と最も高く、次いで「18 時台」が 19.5%、「19 時台」が 18.2%となっています。



◆(パート・アルバイト等で働いている方)

フルタイムへの転換希望[前：問7(2)⑤、小：問7(2)⑤] <単数回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、「フルタイム希望だが実現見込みはない」が2件、「パート・アルバイト等の継続を希望」が1件となっています。

小学生保護者では、「フルタイム希望だが実現見込みはない」「パート・アルバイト等の継続を希望」がそれぞれ1件となっています。

上段:件数 下段:%	合計	フルタイム希望 で実現できる 見込みがある	フルタイム希望 だが実現見 込みはない	パート・アル バイト等の継 続を希望	就労をやめて 子育てや家事 に専念したい	不明・無回答
就学前保護者 (N=3)	3 100.0	- -	2 66.7	1 33.3	- -	- -
小学生保護者 (N=2)	2 100.0	- -	1 50.0	1 50.0	- -	- -

◆(現在は仕事をしていない、これまで就労したことがない方)

今後の就労意向[前：問7(2)⑥、小：問7(2)⑥] <単数回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、「1年以上先で、一番下の子が何歳かになったころに就労したい」が1件となっています。

小学生保護者では、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が1件となっています。

上段:件数 下段:%	合計	子育てや家事 などに専念し たい(就労の 予定はない)	1年以上先 で、一番下 の子が何歳か になったころに 就労したい	すぐにでも、も しくは1年以 内に就労した い	不明・無回答
就学前保護者 (N=2)	2 100.0	- -	1 50.0	- -	1 50.0
小学生保護者 (N=1)	1 100.0	- -	- -	1 100.0	- -

◆(今後、「1年以上先で、一番下の子が(歳)になったところに就労したい」と答えた方)
一番下の子が何歳になったところに就労したいか。

[前：問7(2)⑥、小：問7(2)⑥] <数量回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、「3～4歳」が1件となっています。

小学生保護者では、回答件数がありませんでした。

上段:件数 下段:%	合計	1～2歳	3～4歳	5～6歳	7～8歳	9～10歳	11～12歳	13歳以上	不明・無回答
就学前保護者 (N=1)	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-

◆(現在は仕事をしていない、これまで就労したことがない方)

希望する就労形態[前：問7(2)⑦、小：問7(2)⑦] <単数回答>

(2)父親の現状

就学前保護者では、回答件数がありませんでした。

小学生保護者では、「フルタイム(週5日程度・1日8時間程度の就労)」が1件となっています。

上段:件数 下段:%	合計	フルタイム(週 5日程度・1日 8時間程度の 就労)	パート・アル バイト等	不明・無回答
小学生保護者 (N=1)	1 100.0	1 100.0	-	-

◆(現在は仕事をしていない、これまで就労したことがない方で、希望する就労形態として「パート・アルバイト等」と答えた方)

希望する就労日数[前：問7(2)⑦、小：問7(2)⑦] <数量回答>

(2)父親の現状

回答件数はありませんでした。

◆(現在は仕事をしていない、これまで就労したことがない方で、希望する就労形態として「パート・アルバイト等」と答えた方)

希望する就労時間[前：問7(2)⑦、小：問7(2)⑦] <数量回答>

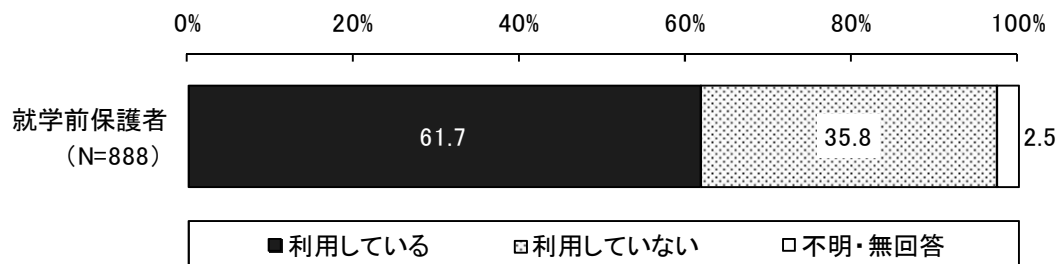
(2)父親の現状

回答件数はありませんでした。

3. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

◆あて名のお子さんは現在、幼稚園や保育園等の「定期的な教育・保育事業」を利用していますか。[前：問8] 〈単数回答〉

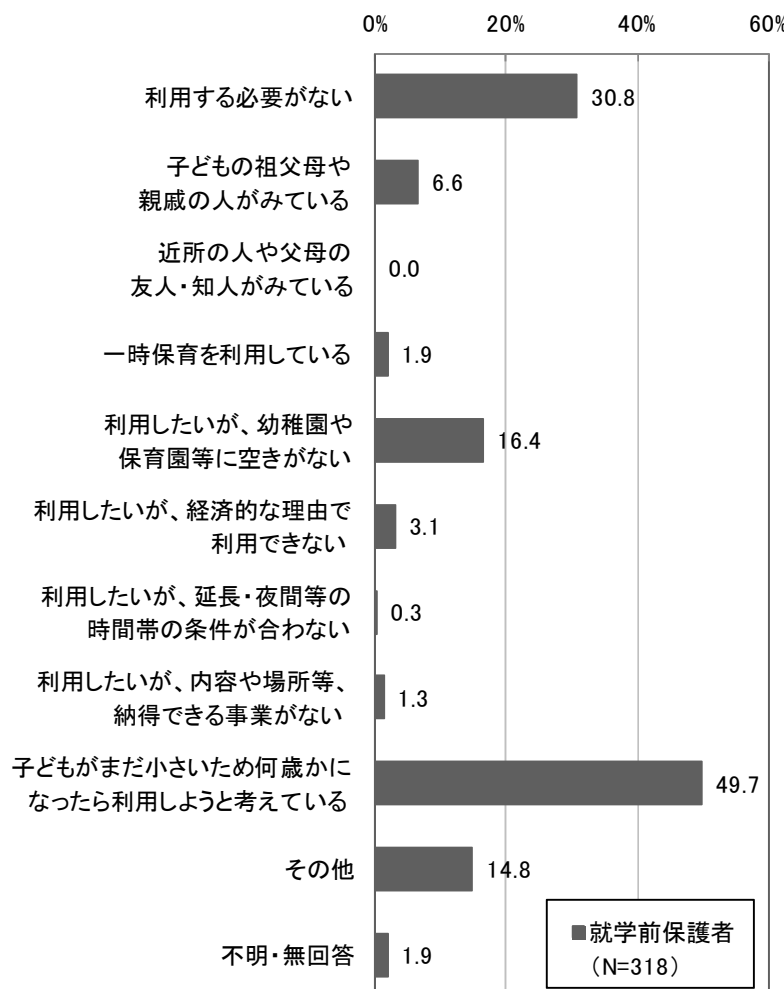
「利用している」が61.7%と最も高く、次いで「利用していない」が35.8%となっています。



◆(定期的な教育・保育事業を「利用していない」と答えた方)

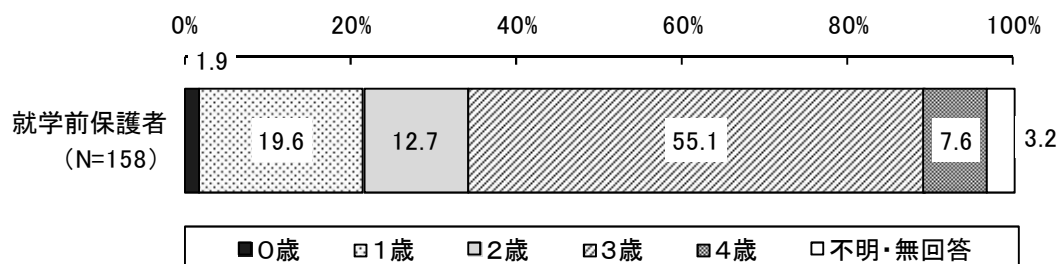
利用していない理由をお答えください。[前：問8-1] 〈複数回答〉

「子どもがまだ小さいため何歳かになったら利用しようと考えている」が49.7%と最も高く、次いで「利用する必要がない」が30.8%、「利用したいが、幼稚園や保育園等に空きがない」が16.4%となっています。



◆(子どもがまだ小さいため何歳かになったら利用しようと考えている)と答えた方
利用を開始したい子どもの年齢。[前：問8-1] <数量回答>

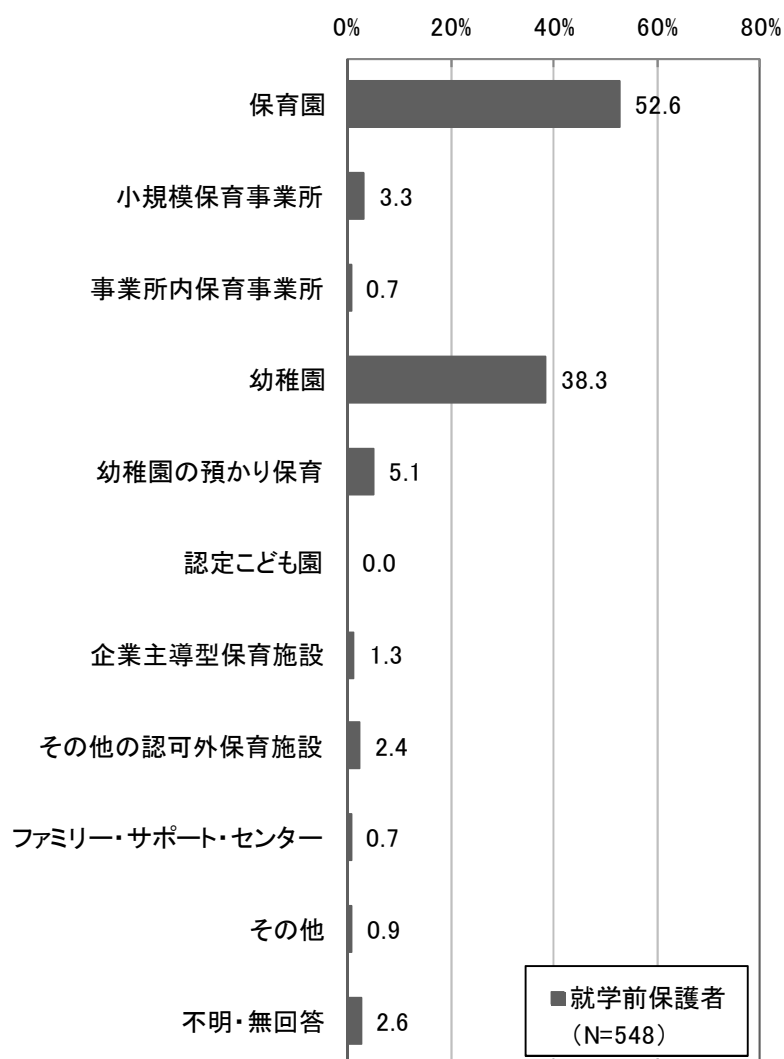
「3歳」が55.1%と最も高く、次いで「1歳」が19.6%、「2歳」が12.7%となっています。



◆(定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた方)

平日にどのような教育・保育事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業について、お答えください。[前：問8-2] <複数回答>

「保育園」が52.6%と最も高く、次いで「幼稚園」が38.3%、「幼稚園の預かり保育」が5.1%となっています。



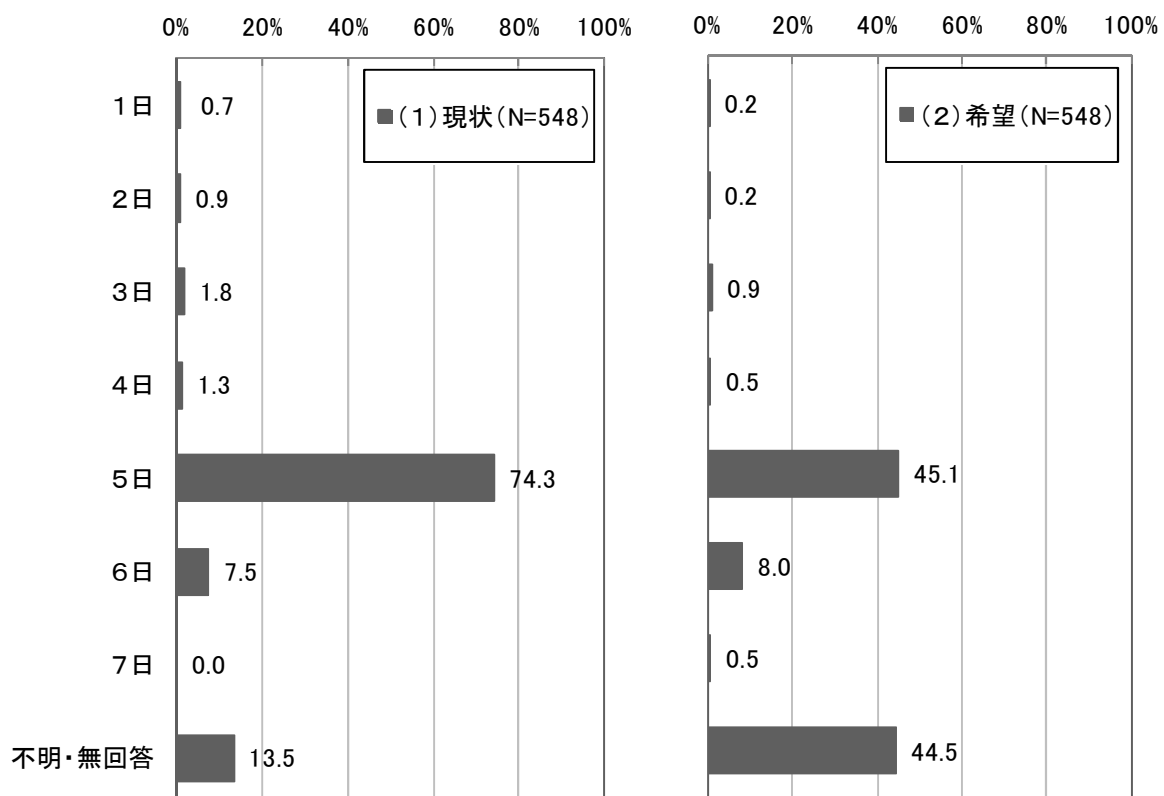
◆(定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた方)

利用が一番多い事業の利用日数(週あたり)

(1)現在の利用状況と(2)希望[前:問8-2(1)、(2)] <数量回答>

(1) 現状では、「5日」が74.3%と最も高く、次いで「6日」が7.5%、「3日」が1.8%となっています。

(2) 希望では、「5日」が45.1%と最も高く、次いで「6日」が8.0%、「3日」が0.9%となっています。



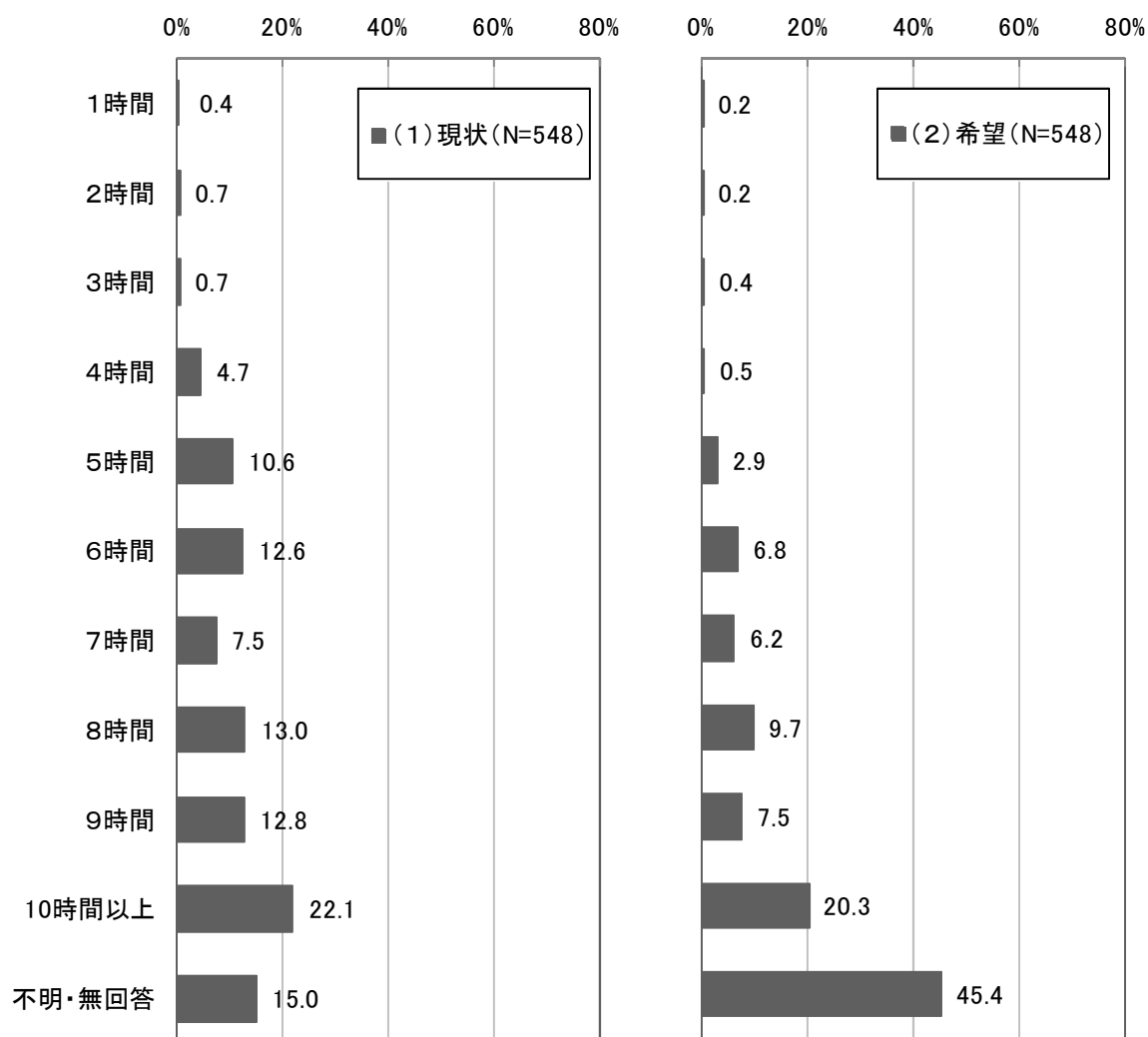
◆(定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた方)

利用が一番多い事業の利用時間(1日あたり)

(1)現在の利用状況と(2)希望[前：問8-2 (1)、(2)] <数量回答>

(1) 現状では、「10 時間以上」が 22.1%と最も高く、次いで「8 時間」が 13.0%、「9 時間」が 12.8%となっています。

(2) 希望では、「10 時間以上」が 20.3%と最も高く、次いで「8 時間」が 9.7%、「9 時間」が 7.5%となっています。



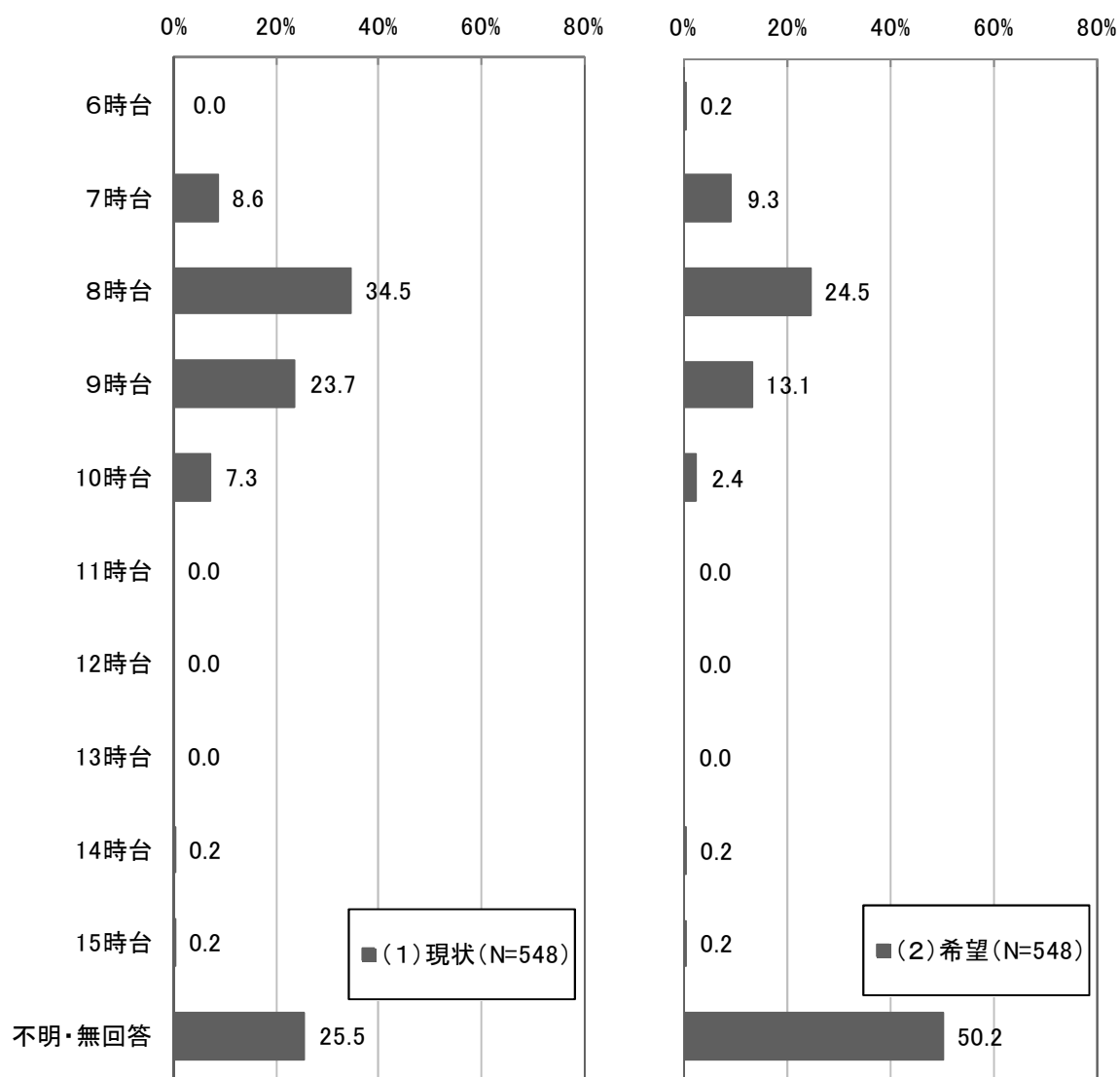
◆(定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた方)

利用が一番多い事業の開始時刻(24 時間制)

(1)現在の利用状況と(2)希望[前：問8-2 (1)、(2)] <数量回答>

(1) 現状では、「8 時台」が 34.5%と最も高く、次いで「9 時台」が 23.7%、「7 時台」が 8.6%となっています。

(2) 希望では、「8 時台」が 24.5%と最も高く、次いで「9 時台」が 13.1%、「7 時台」が 9.3%となっています。



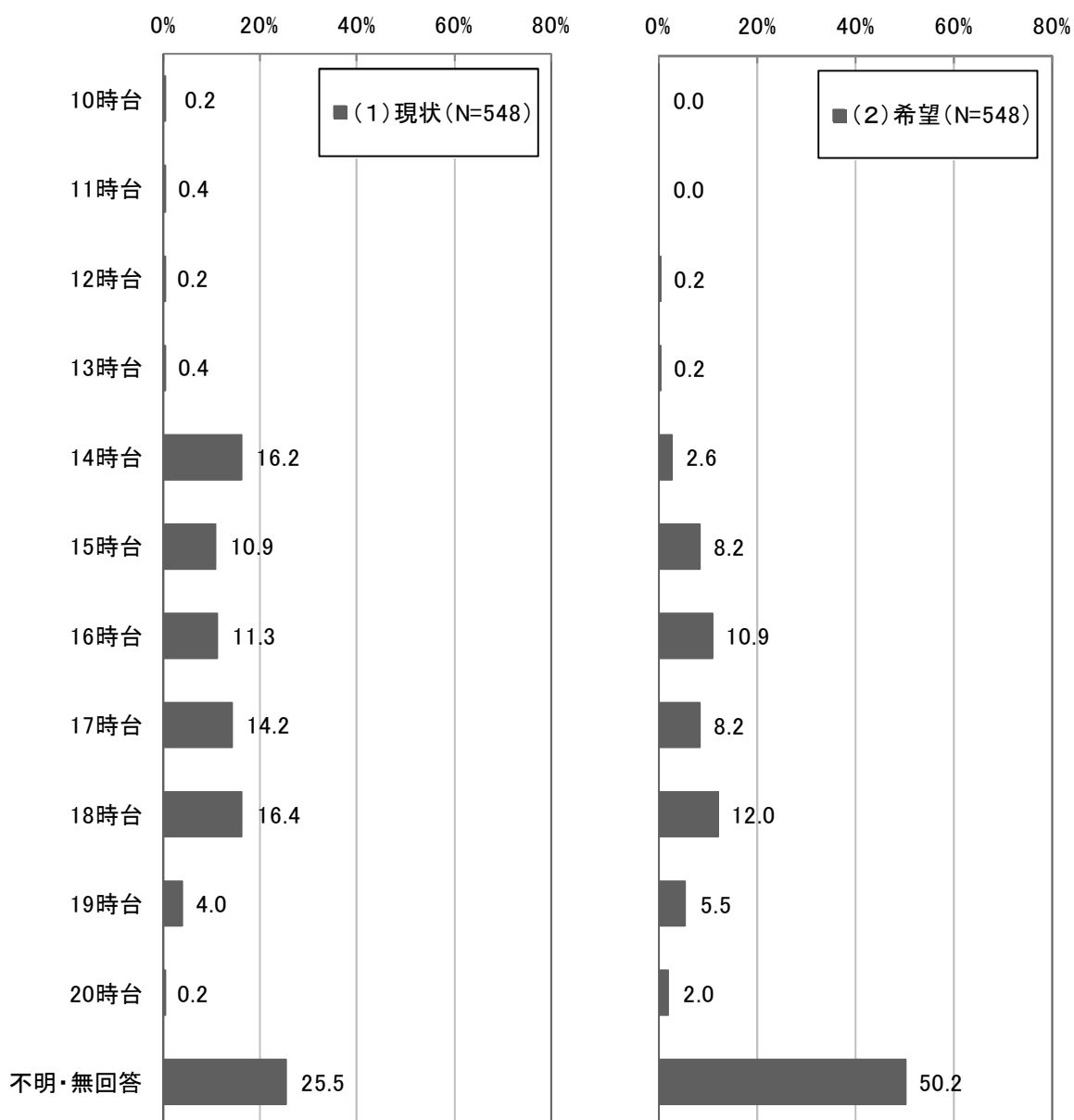
◆(定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた方)

利用が一番多い事業の終了時刻(24 時間制)

(1)現在の利用状況と(2)希望[前：問8-2 (1)、(2)] <数量回答>

(1) 現状では、「18 時台」が 16.4%と最も高く、次いで「14 時台」が 16.2%、「17 時台」が 14.2%となっています。

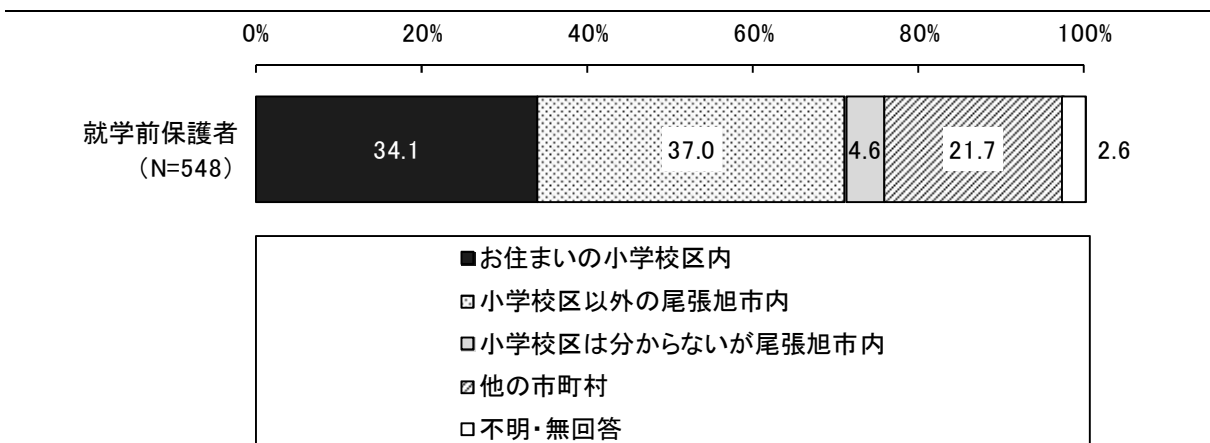
(2) 希望では、「18 時台」が 12.0%と最も高く、次いで「16 時台」が 10.9%、「15 時台」「17 時台」がそれぞれ 8.2%となっています。



◆(定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた方)

現在、利用されている幼稚園や保育園等はどこにありますか。[前：問8-3] <単数回答>

「小学校区以外の尾張旭市内」が 37.0%と最も高く、次いで「お住まいの小学校区内」が 34.1%、「他の市町村」が 21.7%となっています。

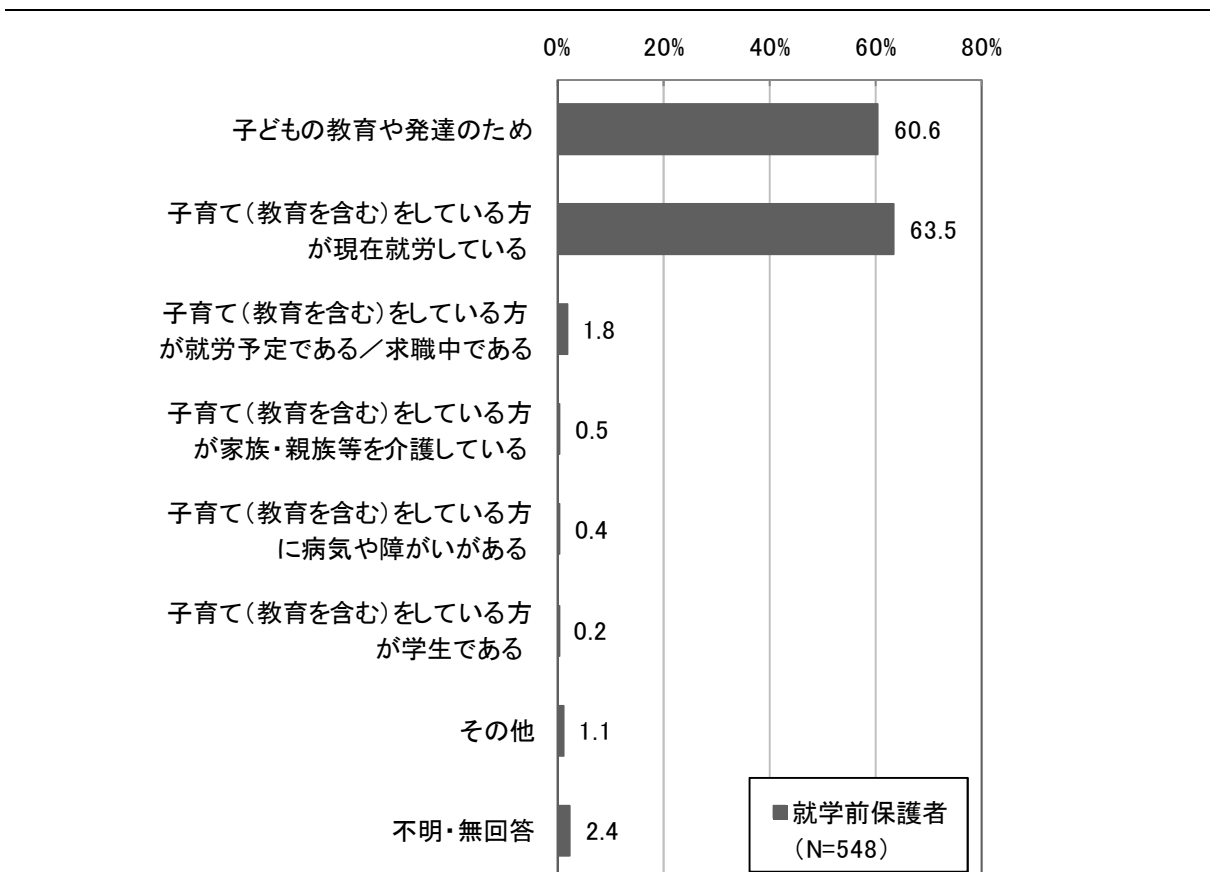


◆(定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた方)

平日に定期的に教育・保育事業を利用されている理由をお答えください。

[前：問8-4] <複数回答>

「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」が 63.5%と最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」が 60.6%、「子育て（教育を含む）をしている方が就労予定である／求職中である」が 1.8%となっています。

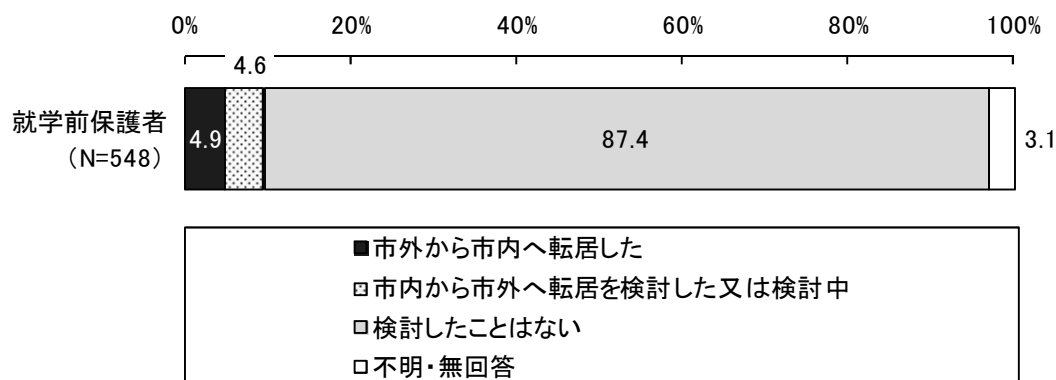


◆（定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた方）

あなたのお住まいについて、お子さんの教育・保育事業の利用の可否を理由として市外から市内へ転居した、または市内から市外への転居を検討したことがありますか。

〔前：問 8-5〕 〈単数回答〉

「検討したことはない」が 87.4%と最も高く、次いで「市外から市内へ転居した」が 4.9%、「市内から市外へ転居を検討した又は検討中」が 4.6%となっています。

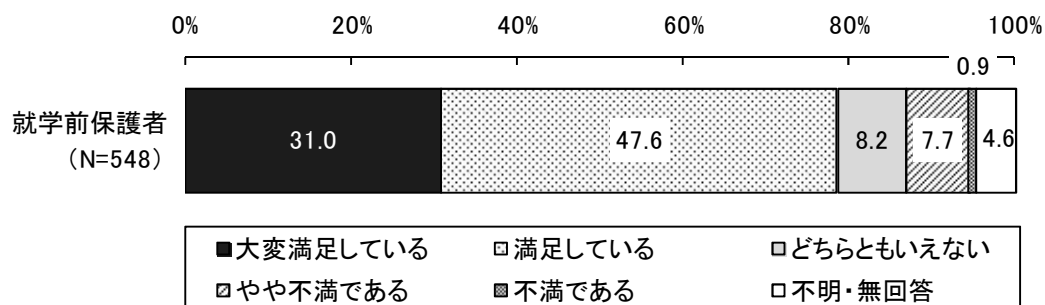


◆（定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた方）

現在、主に利用している教育・保育事業にどのくらい満足していますか。

〔前：問 8-6〕 〈単数回答〉

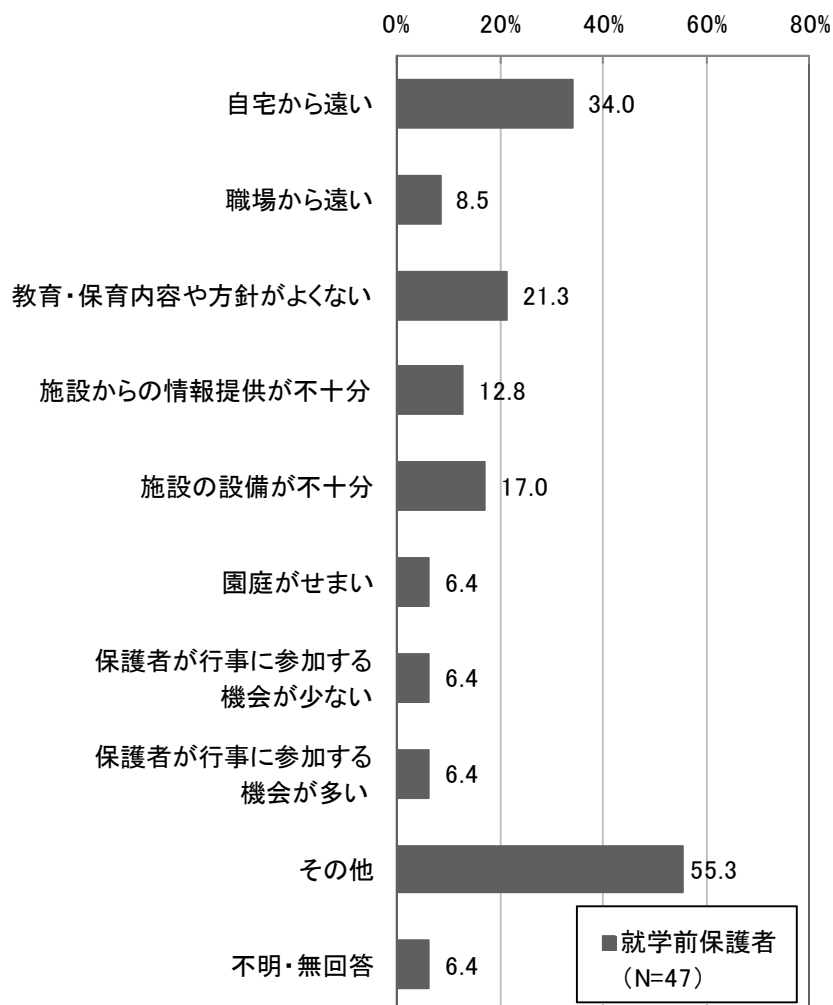
「満足している」が 47.6%と最も高く、次いで「大変満足している」が 31.0%、「どちらともいえない」が 8.2%となっています。



◆(利用している教育・保育事業に「やや不満である」「不満である」と答えた方)
主に利用している教育・保育事業に不満を感じている理由をお答えください。

[前：問 8-7] <複数回答>

「その他」が 55.3%と最も高く、次いで「自宅から遠い」が 34.0%、「教育・保育内容や方針がよくない」が 21.3%となっています。



4. お子さんが病気になった時の対応や不定期な一時預かりについて

◆(就学前保護者:定期的な教育・保育事業を「利用している」と答えた方)

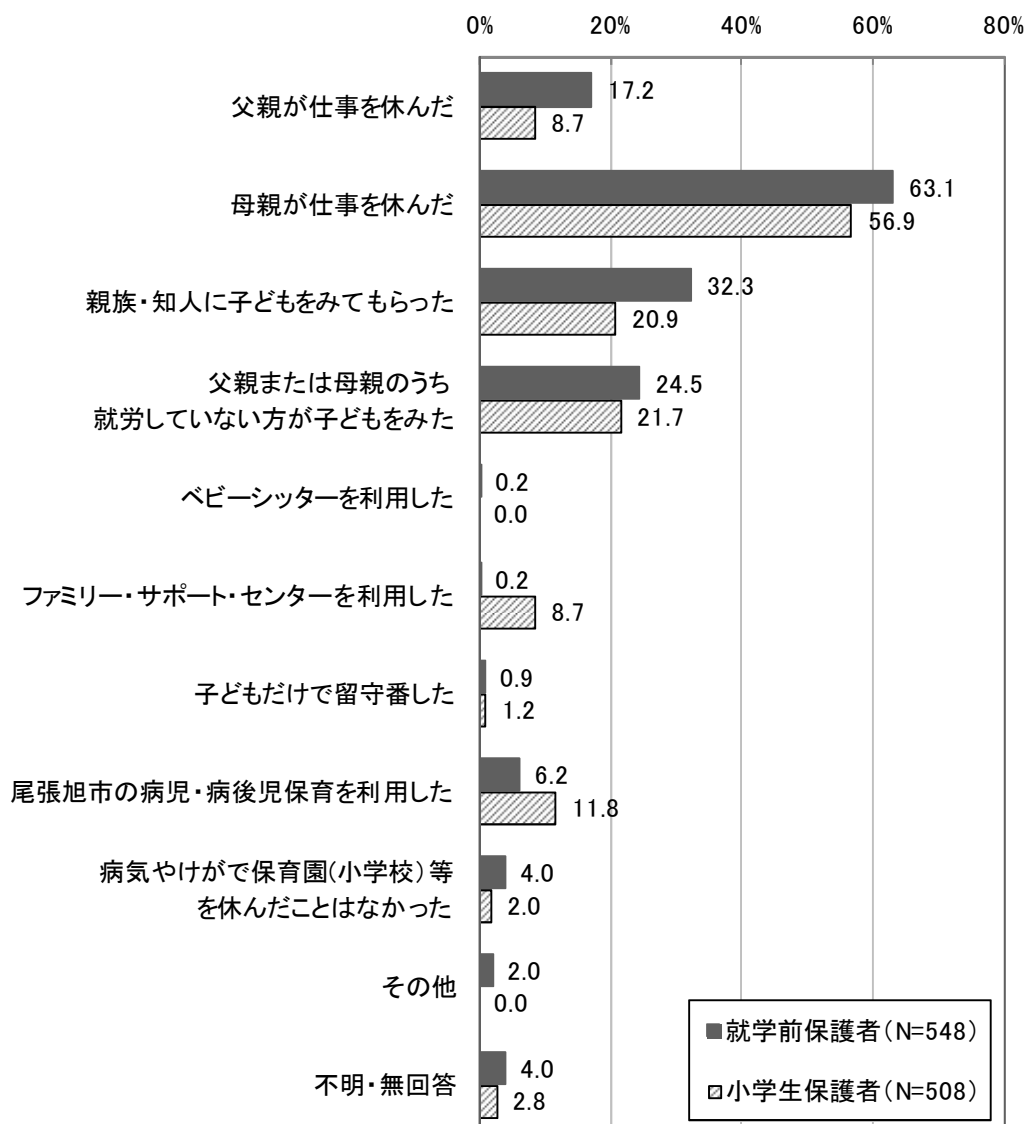
(小学生保護者:全ての方)

この1年間に、あて名のお子さんが病気やけがで、幼稚園や保育園、小学校等を休んだことがありましたか。そのときの対処法などをお答えください。

[前: 問9、小: 問10] <複数回答>

就学前保護者では、「母親が仕事を休んだ」が63.1%と最も高く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった」が32.3%、「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」が24.5%となっています。

小学生保護者では、「母親が仕事を休んだ」が56.9%と最も高く、次いで「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」が21.7%、「親族・知人に子どもをみてもらった」が20.9%となっています。

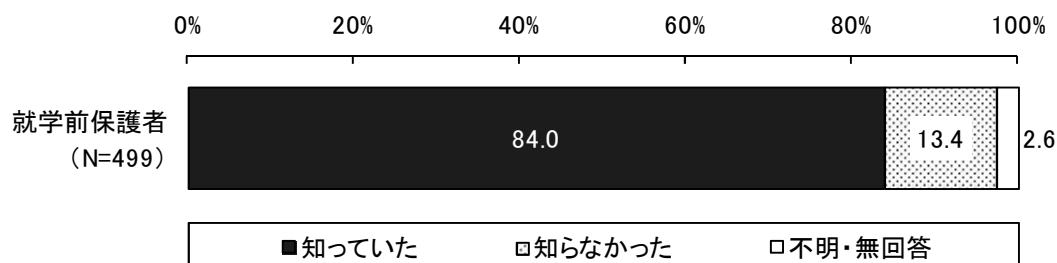


◆（お子さんが病気やけがで、幼稚園や保育園等を休んだことがあり、そのときの対処法として「尾張旭市の病児・病後児保育を利用した」を選択されなかった方）

あなたは、尾張旭市で「病児・病後児保育」を実施していることはご存知でしたか。

〔前：問9-1〕 〈単数回答〉

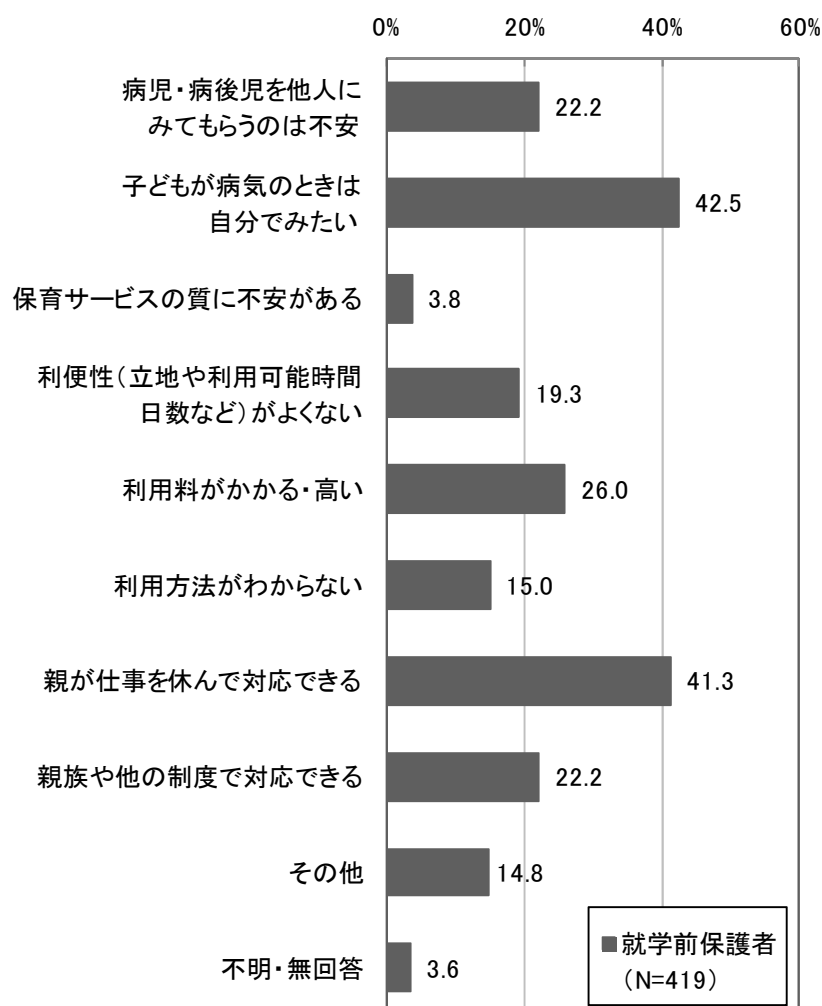
「知っていた」が84.0%と最も高く、次いで「知らなかった」が13.4%となっています。



◆（尾張旭市で「病児・病後児保育」を実施していることを「知っていた」と答えた方）

尾張旭市の病児・病後児保育を利用しない理由をお答えください。〔前：問9-2〕〈複数回答〉

「子どもが病気のときは自分でみたい」が42.5%と最も高く、次いで「親が仕事を休んで対応できる」が41.3%、「利用料がかかる・高い」が26.0%となっています。

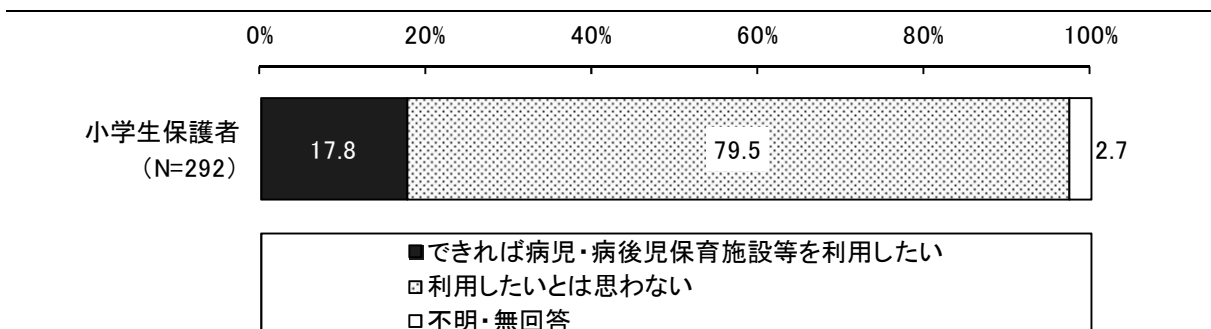


◆(お子さんが病気やけがで、小学校を休んだことがあり、そのときの対処法として「父親が仕事を休んだ」「母親が仕事を休んだ」と答えた方)

そのときに「できれば病気の子どものための施設などを利用したい」と思われましたか。

[小：問 10-1] <単数回答>

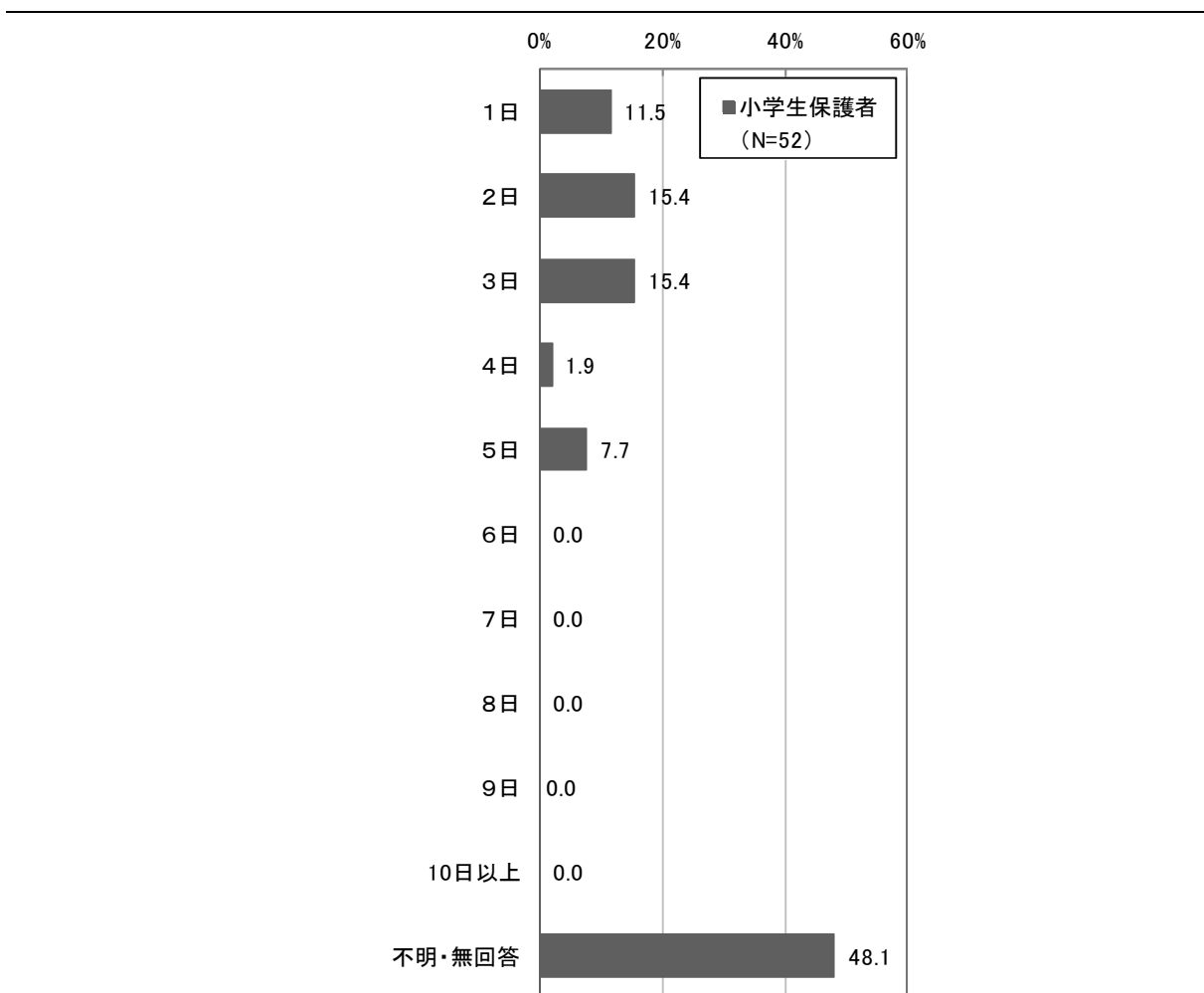
「利用したいとは思わない」が 79.5%と最も高く、次いで「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が 17.8%となっています。



◆(お子さんが病気やけがで、小学校を休んだことがあり、そのときの対処法として「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と答えた方)

利用したい日数。[小：問 10-1] <数量回答>

「2日」「3日」がそれぞれ 15.4%と最も高く、次いで「1日」が 11.5%、「5日」が 7.7%となっています。



5. 平日に利用したい定期的な教育・保育事業について

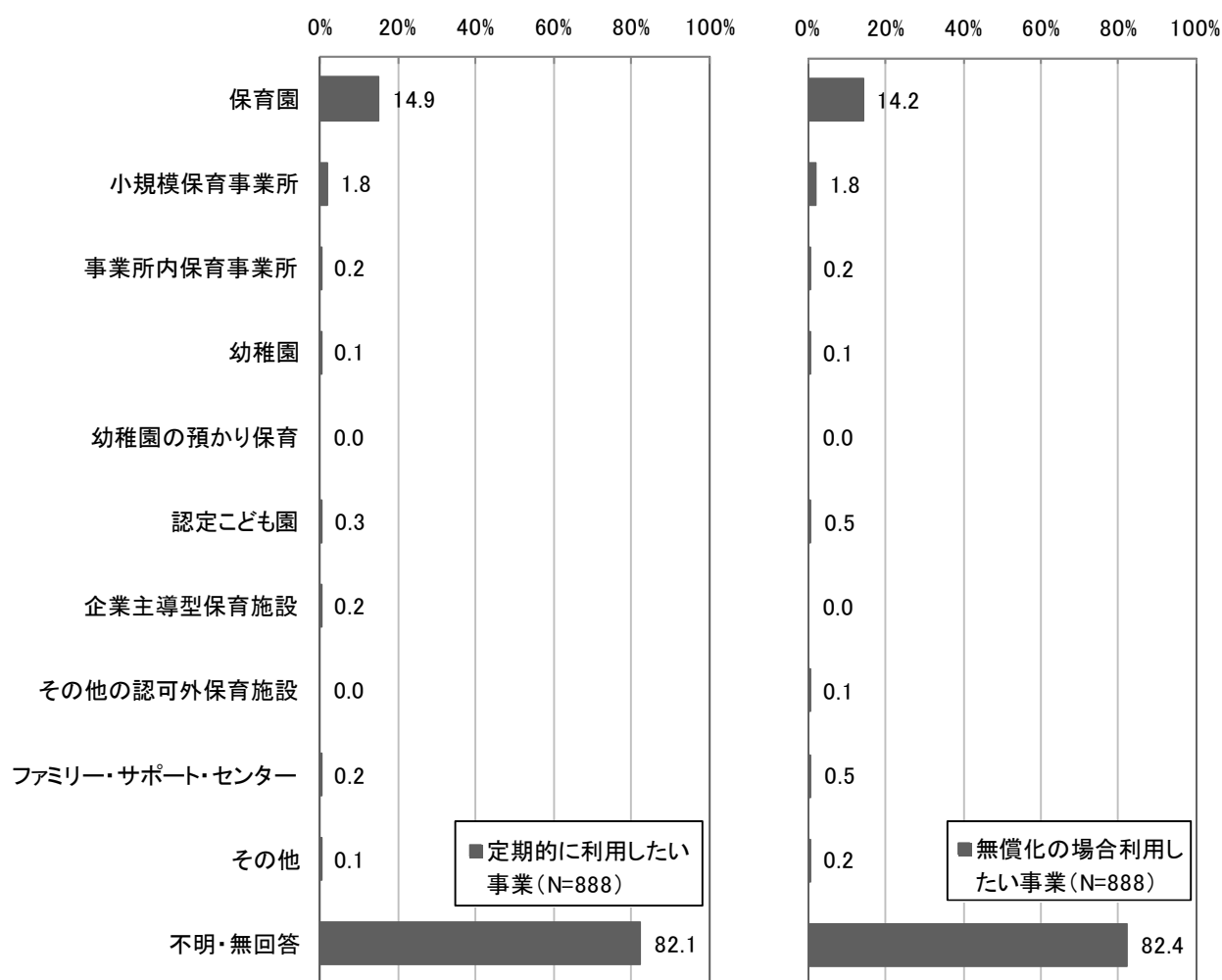
◆今後、平日に「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。

また、2019年10月から、幼児教育、保育の利用料の無償化が検討されていますが、
無償になった場合に利用したい事業もお答えください。[前：問10] 〈単数回答〉

【0歳の時】

定期的に利用したい事業では、「保育園」が14.9%と最も高く、次いで「小規模保育事業所」が1.8%、「認定こども園」が0.3%となっています。

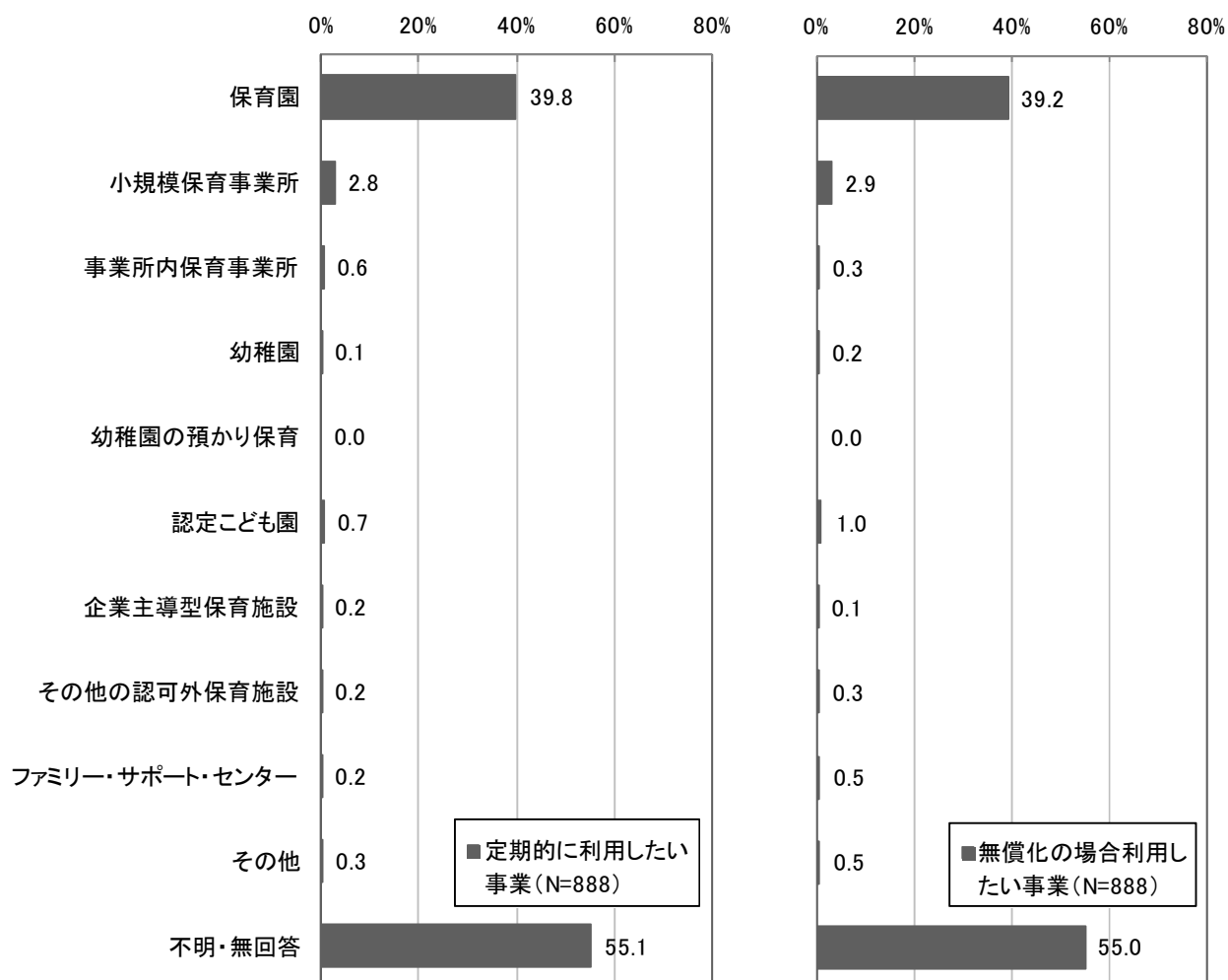
無償化の場合利用したい事業では、「保育園」が14.2%と最も高く、次いで「小規模保育事業所」が1.8%、「認定こども園」「ファミリー・サポート・センター」がそれぞれ0.5%となっています。



【1歳の時】

定期的に利用したい事業では、「保育園」が 39.8%と最も高く、次いで「小規模保育事業所」が 2.8%、「認定こども園」が 0.7%となっています。

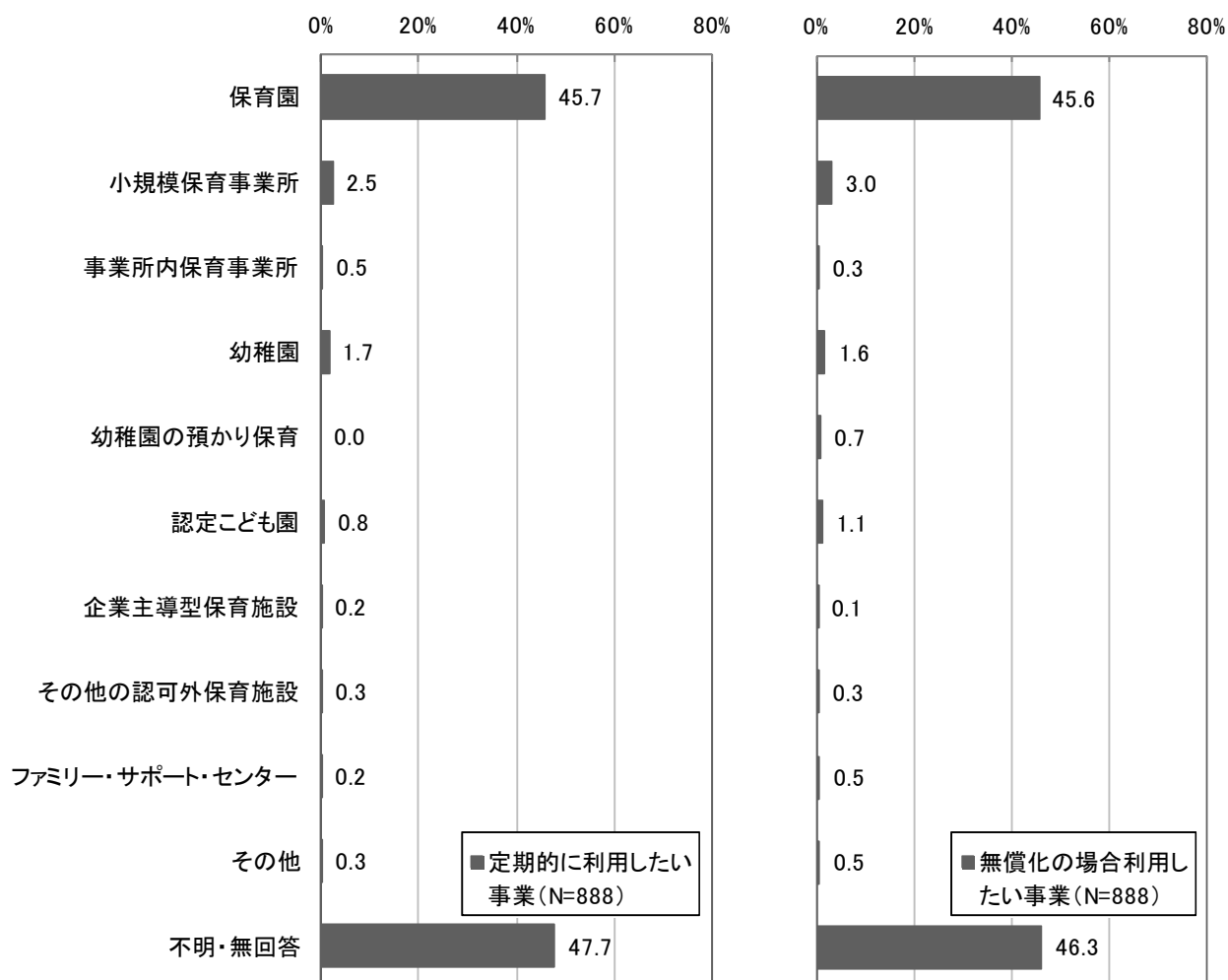
無償化の場合利用したい事業では、「保育園」が 39.2%と最も高く、次いで「小規模保育事業所」が 2.9%、「認定こども園」が 1.0%となっています。



【2歳の時】

定期的に利用したい事業では、「保育園」が 45.7%と最も高く、次いで「小規模保育事業所」が 2.5%、「幼稚園」が 1.7%となっています。

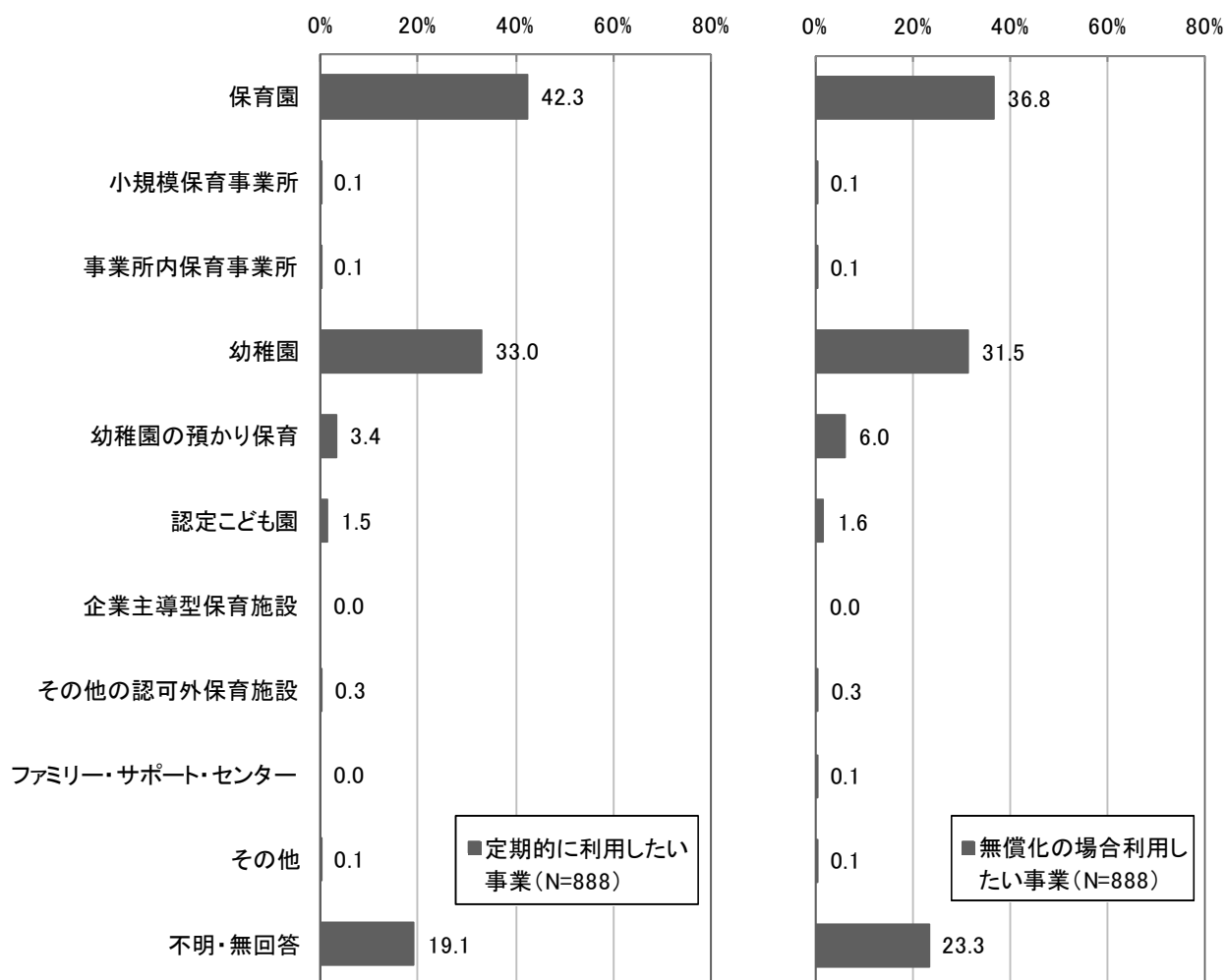
無償化の場合利用したい事業では、「保育園」が 45.6%と最も高く、次いで「小規模保育事業所」が 3.0%、「幼稚園」が 1.6%となっています。



【3歳の時】

定期的に利用したい事業では、「保育園」が 42.3%と最も高く、次いで「幼稚園」が 33.0%、「幼稚園の預かり保育」が 3.4%となっています。

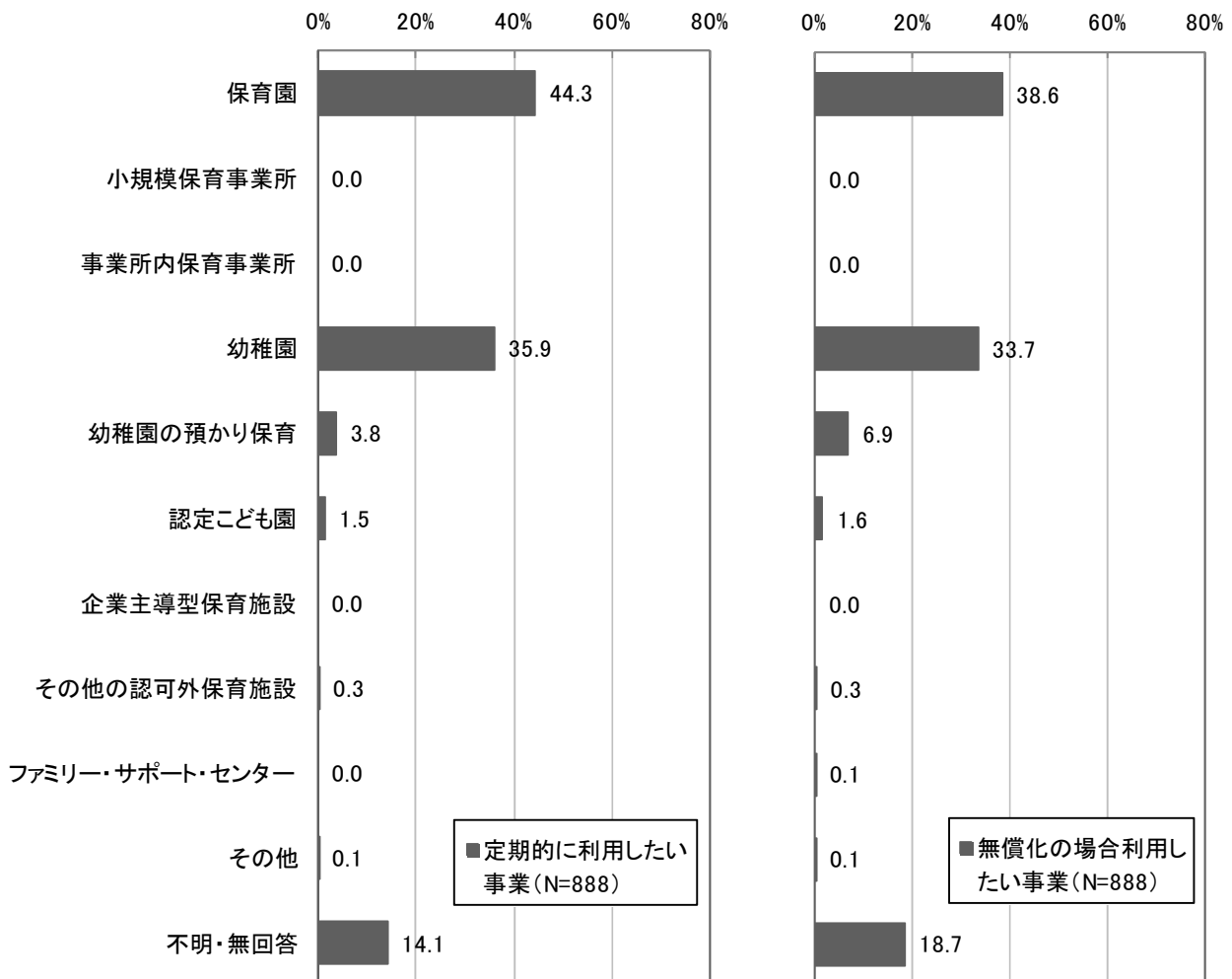
無償化の場合利用したい事業では、「保育園」が 36.8%と最も高く、次いで「幼稚園」が 31.5%、「幼稚園の預かり保育」が 6.0%となっています。



【4歳の時】

定期的に利用したい事業では、「保育園」が 44.3%と最も高く、次いで「幼稚園」が 35.9%、「幼稚園の預かり保育」が 3.8%となっています。

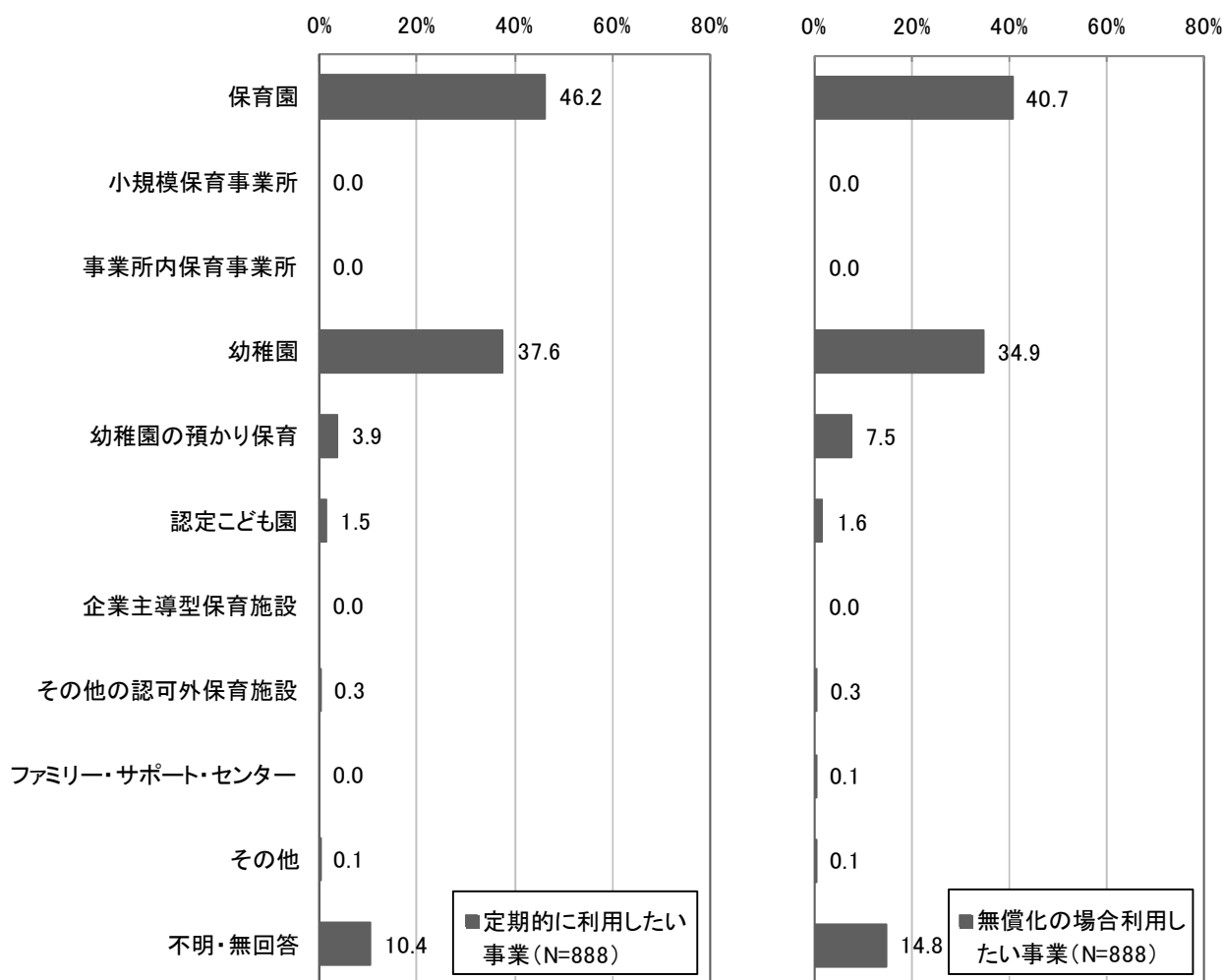
無償化の場合利用したい事業では、「保育園」が 38.6%と最も高く、次いで「幼稚園」が 33.7%、「幼稚園の預かり保育」が 6.9%となっています。



【5歳の時】

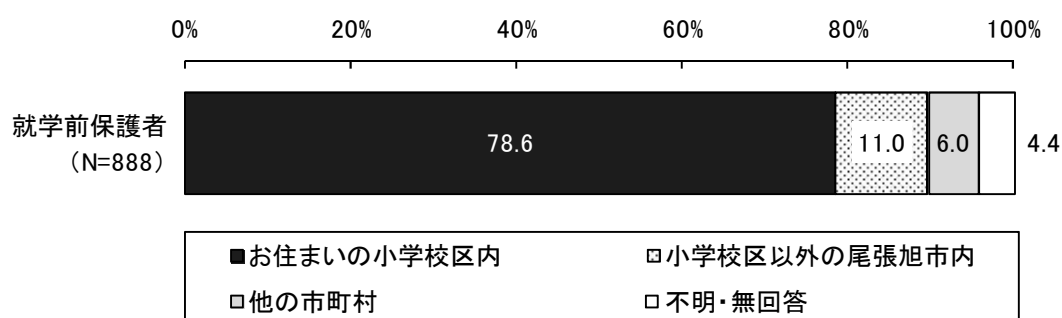
定期的に利用したい事業では、「保育園」が 46.2%と最も高く、次いで「幼稚園」が 37.6%、「幼稚園の預かり保育」が 3.9%となっています。

無償化の場合利用したい事業では、「保育園」が 40.7%と最も高く、次いで「幼稚園」が 34.9%、「幼稚園の預かり保育」が 7.5%となっています。



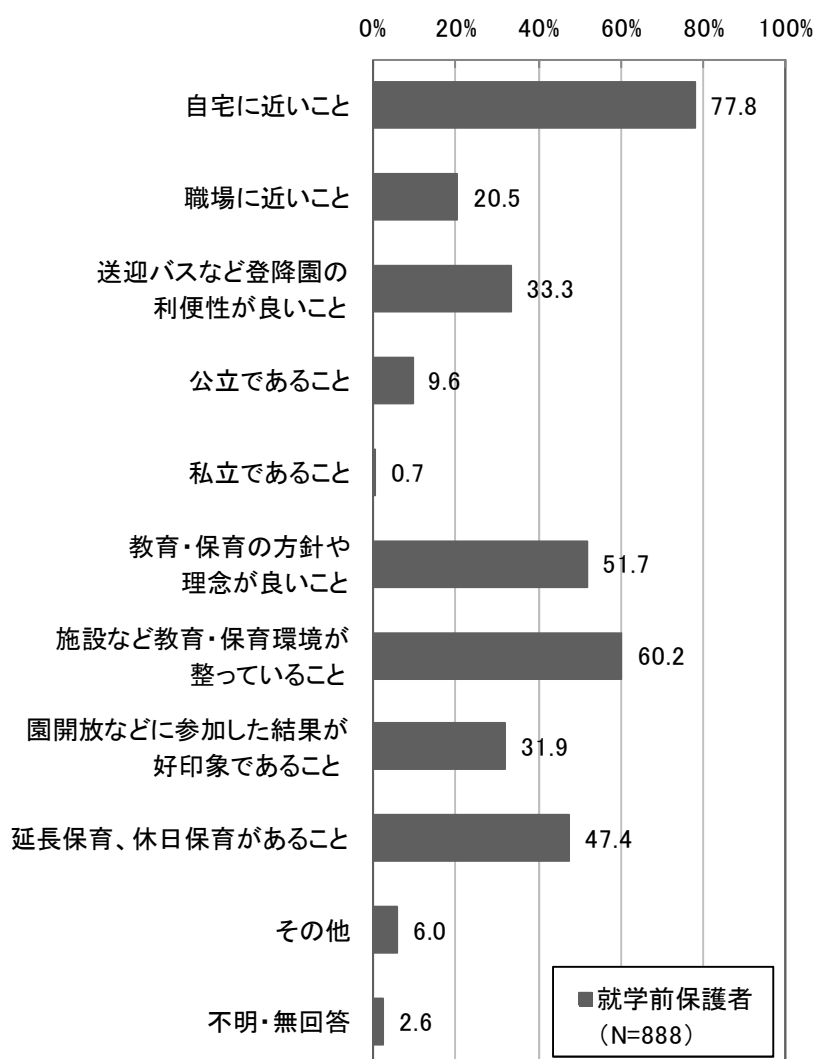
◆あなたは、教育・保育事業をどこで利用したいですか。[前：問 11] <単数回答>

「お住まいの小学校区内」が 78.6%と最も高く、次いで「小学校区以外の尾張旭市内」が 11.0%、「他の市町村」が 6.0%となっています。



◆あて名のお子さんの入園にあたって、どのような視点で幼稚園・保育園・認定こども園等を選びますか。[前：問 12] <複数回答>

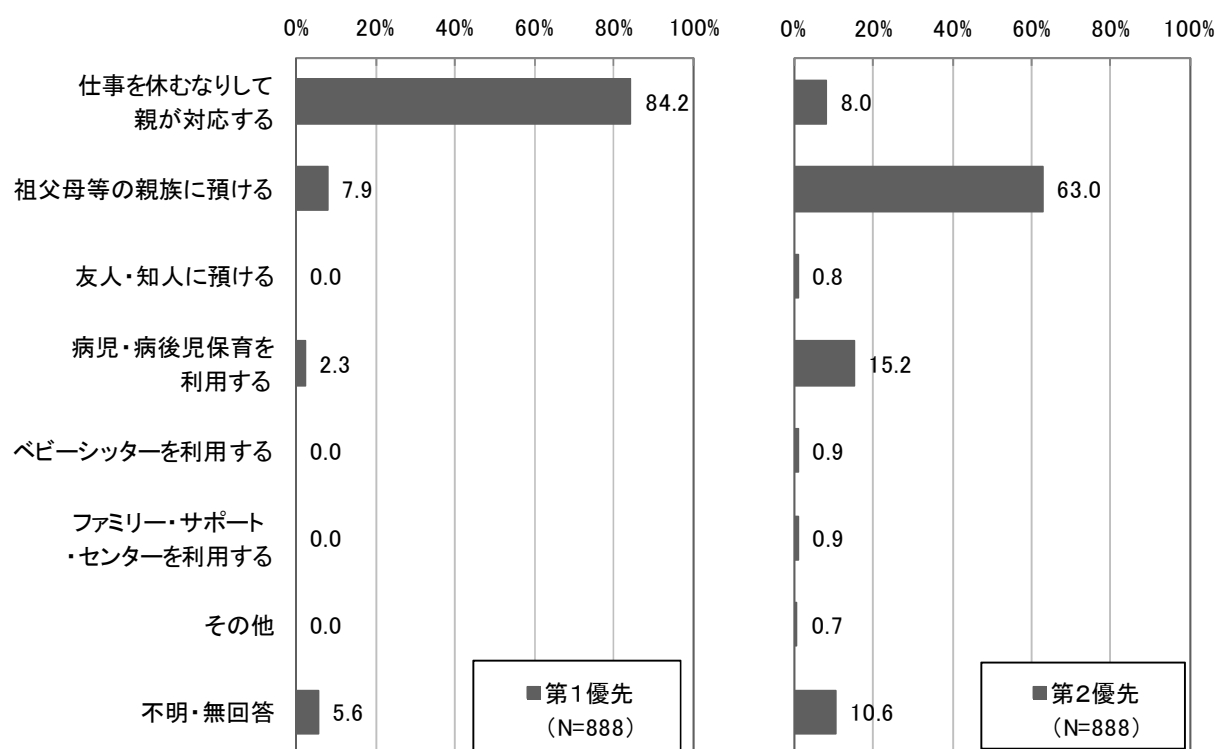
「自宅に近いこと」が 77.8%と最も高く、次いで「施設など教育・保育環境が整っていること」が 60.2%、「教育・保育の方針や理念が良いこと」が 51.7%となっています。



◆あて名のお子さんが病気やけがの際の対応として、あなたが考える対応の優先順位
(第2位まで)の番号を回答欄にご記入ください。[前：問 13] <単数回答>

第1優先では、「仕事を休むなりして親が対応する」が84.2%と最も高く、次いで「祖父母等の親族に預ける」が7.9%、「病児・病後児保育を利用する」が2.3%となっています。

第2優先では、「祖父母等の親族に預ける」が63.0%と最も高く、次いで「病児・病後児保育を利用する」が15.2%、「仕事を休むなりして親が対応する」が8.0%となっています。



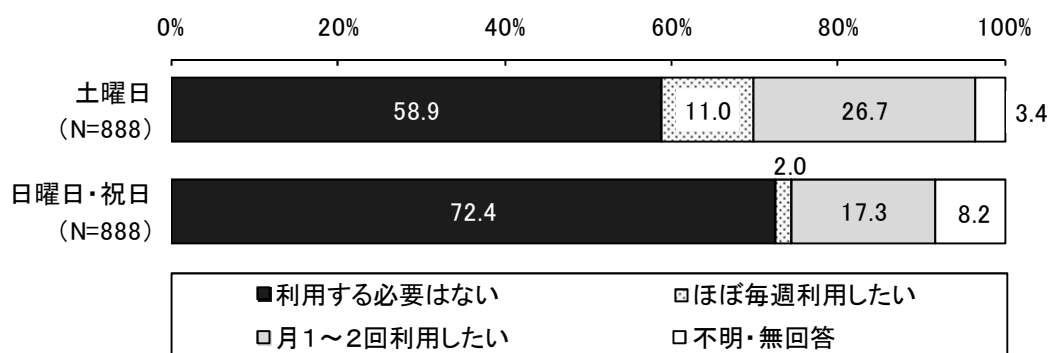
6. 休日に定期的に利用したい教育・保育事業について

◆“土・日曜日、祝日”の定期的な教育・保育事業の利用希望について、利用したい時間帯をお答えください(一時的な利用は除きます)。なお、現在の利用の有無、または実際に利用可能な時間帯に関係なくお答えください。

【利用希望】[前：問14(1)-ア(2)-ア] <単数回答>

土曜日では、「利用する必要はない」が58.9%と最も高く、次いで「月1～2回利用したい」が26.7%、「ほぼ毎週利用したい」が11.0%となっています。

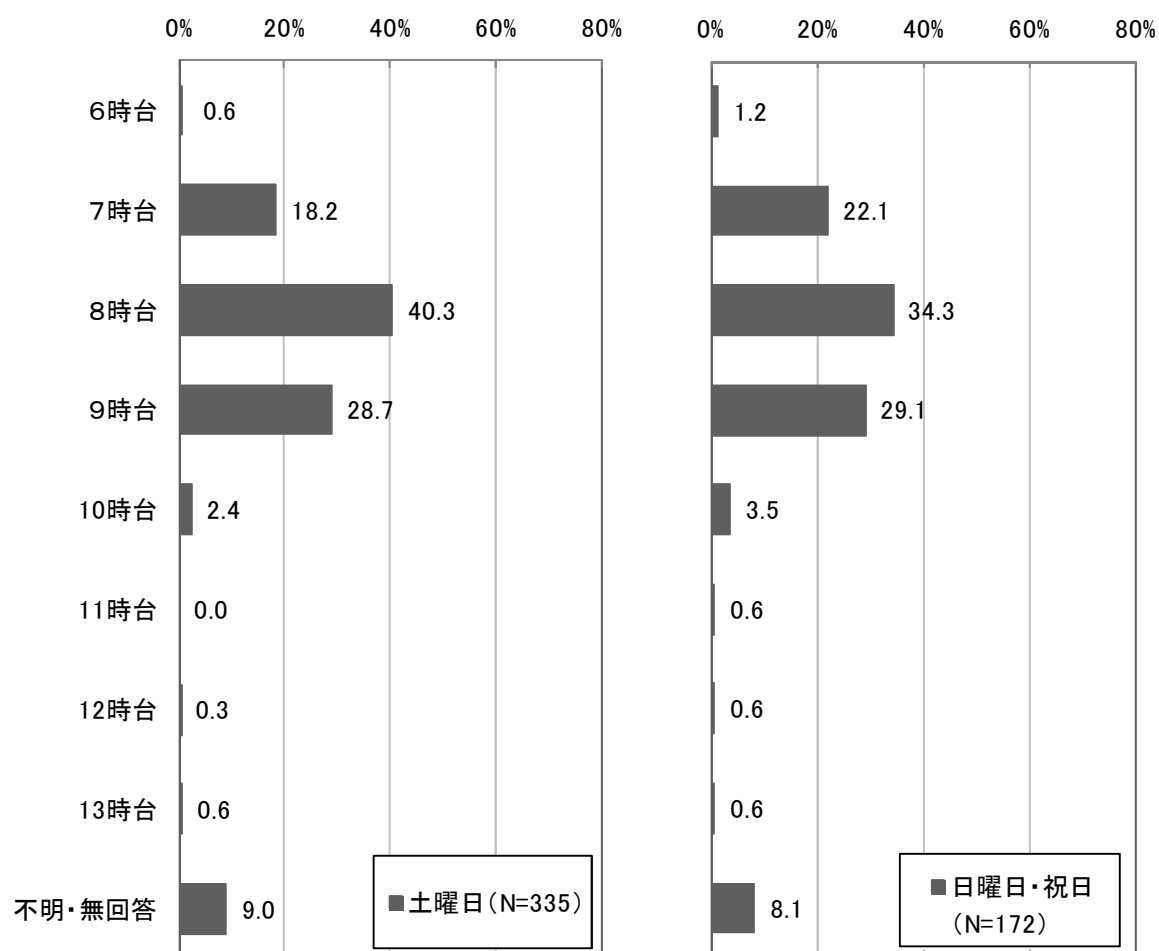
日曜日・祝日では、「利用する必要はない」が72.4%と最も高く、次いで「月1～2回利用したい」が17.3%、「ほぼ毎週利用したい」が2.0%となっています。



【利用したい開始時間】[前：問 14（１）－イ（２）－イ] <数量回答>

土曜日では、「８時台」が 40.3%と最も高く、次いで「９時台」が 28.7%、「７時台」が 18.2%となっています。

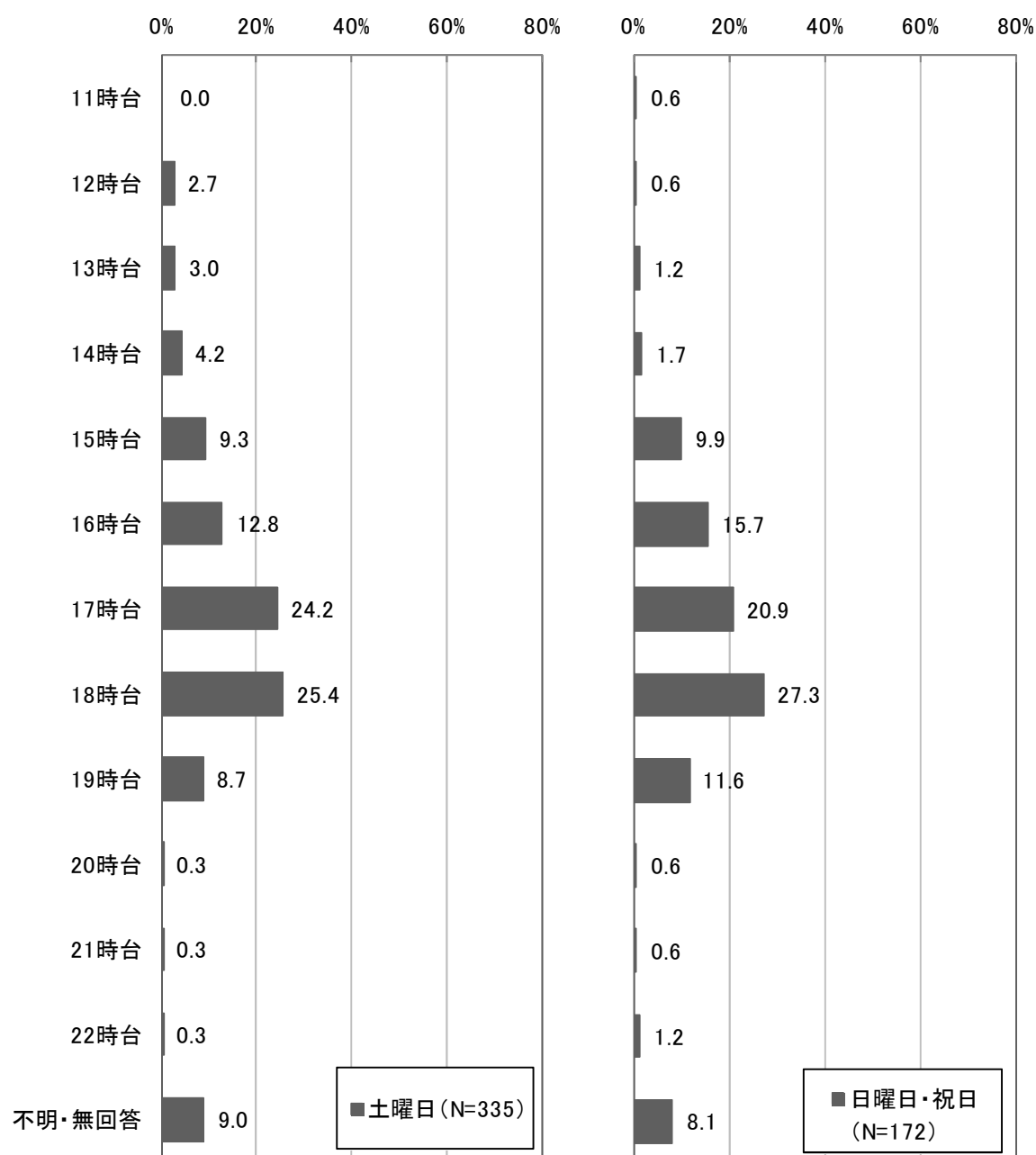
日曜日・祝日では、「８時台」が 34.3%と最も高く、次いで「９時台」が 29.1%、「７時台」が 22.1%となっています。



【利用したい終了時間】[前：問 14（１）-イ（２）-イ] <数量回答>

土曜日では、「18 時台」が 25.4%と最も高く、次いで「17 時台」が 24.2%、「16 時台」が 12.8%となっています。

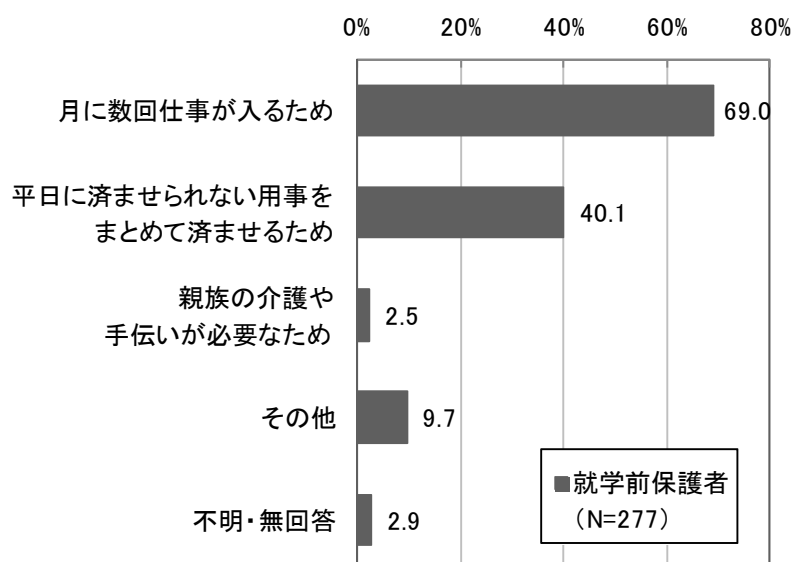
日曜日・祝日では、「18 時台」が 27.3%と最も高く、次いで「17 時台」が 20.9%、「16 時台」が 15.7%となっています。



◆(土曜日、日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望で「月に1～2回利用したい」と答えた方)

毎週ではなく、たまに利用したい理由をお答えください。[前：問 14-1] <複数回答>

「月に数回仕事が入るため」が 69.0%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が 40.1%、「その他」が 9.7%となっています。

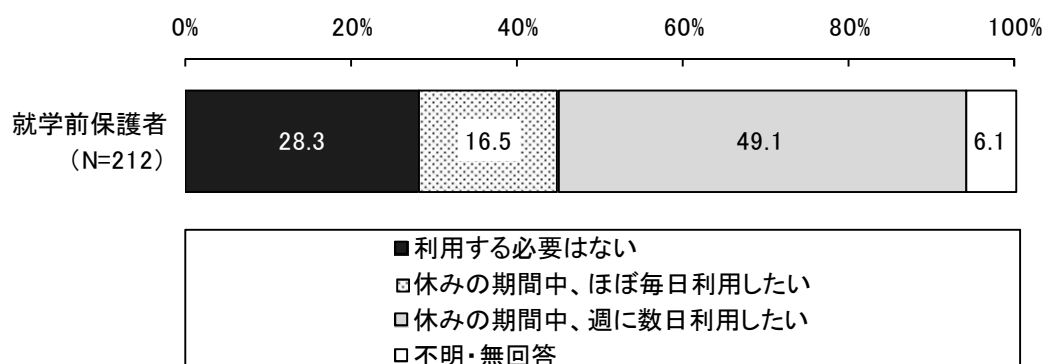


◆(あて名のお子さんが「幼稚園」に通園している方)

あて名のお子さんの夏休み・冬休み等、長期休暇期間中の幼稚園利用を希望しますか
希望する場合は、利用したい理由と時間帯をお答えください。

(1)利用希望[前：問 15 (1)] <単数回答>

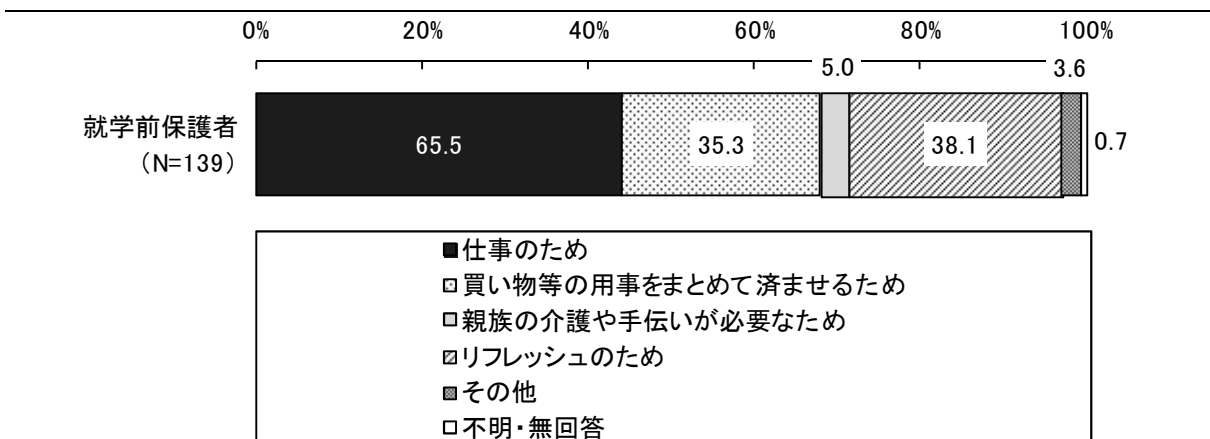
「休みの期間中、週に数日利用したい」が 49.1%と最も高く、次いで「利用する必要はない」が 28.3%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 16.5%となっています。



◆(夏休み・冬休み等、長期休暇期間中の幼稚園を「利用したい」と答えた方)

(2)利用したい理由[前：問15(2)] <複数回答>

「仕事のため」が65.5%と最も高く、次いで「リフレッシュのため」が38.1%、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が35.3%となっています。

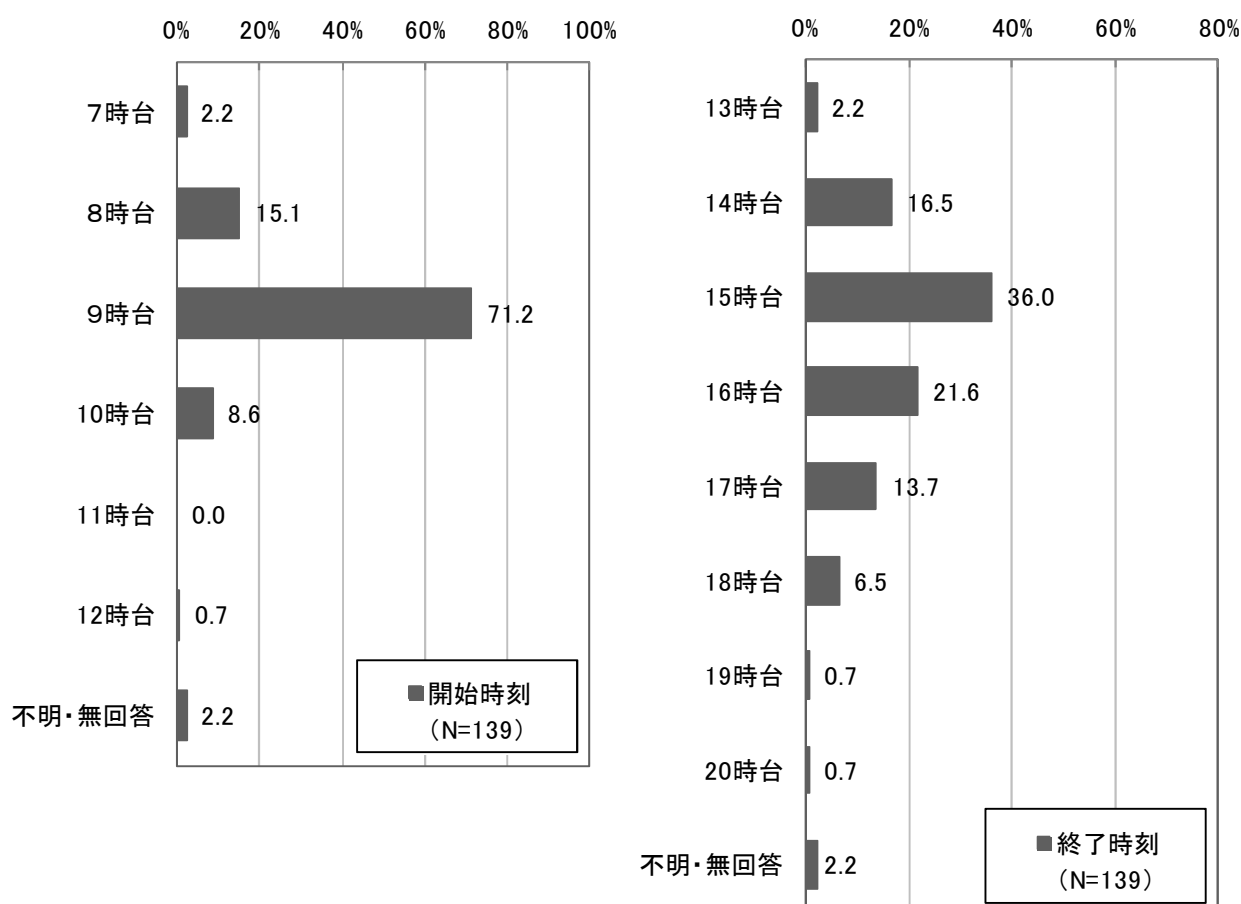


◆(夏休み・冬休み等、長期休暇期間中の幼稚園を「利用したい」と答えた方)

(3)利用したい時間帯開始と終了の時刻(24 時間制)[前：問15(3)] <数量回答>

開始時刻では、「9 時台」が71.2%と最も高く、次いで「8 時台」が15.1%、「10 時台」が8.6%となっています。

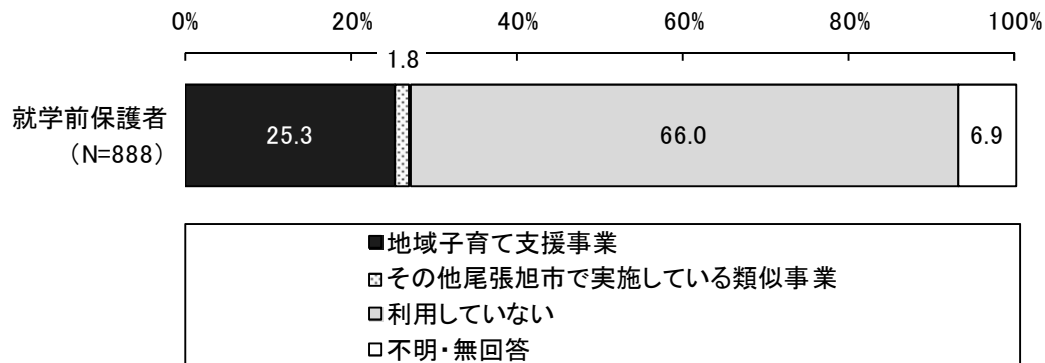
終了時刻では、「15 時台」が36.0%と最も高く、次いで「16 時台」が21.6%、「14 時台」が16.5%となっています。



7. お子さんの地域子育て支援事業の利用について

◆あて名のお子さんは、現在、地域子育て支援事業(親子が集まって過ごしたり、相談する場)を利用していますか。[前：問 16] <単数回答>

「利用していない」が 66.0%と最も高く、次いで「地域子育て支援事業」が 25.3%、「その他尾張旭市で実施している類似事業」が 1.8%となっています。

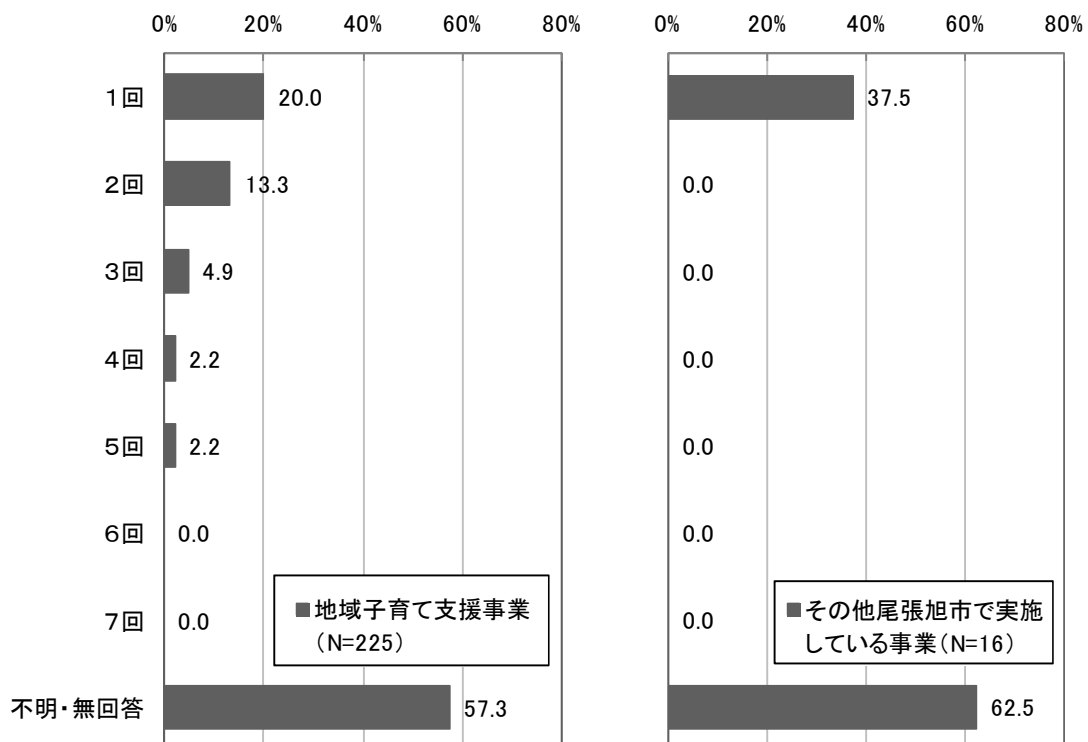


◆(「地域子育て支援事業」「その他尾張旭市で実施している類似事業」を利用していると答えた方)

1週当たりの利用回数 [前：問 16] <数量回答>

地域子育て支援事業では、「1回」が 20.0%と最も高く、次いで「2回」が 13.3%、「3回」が 4.9%となっています。

その他尾張旭市で実施している事業では、「1回」が 37.5%と最も高く、それ以外は回答件数がありません。

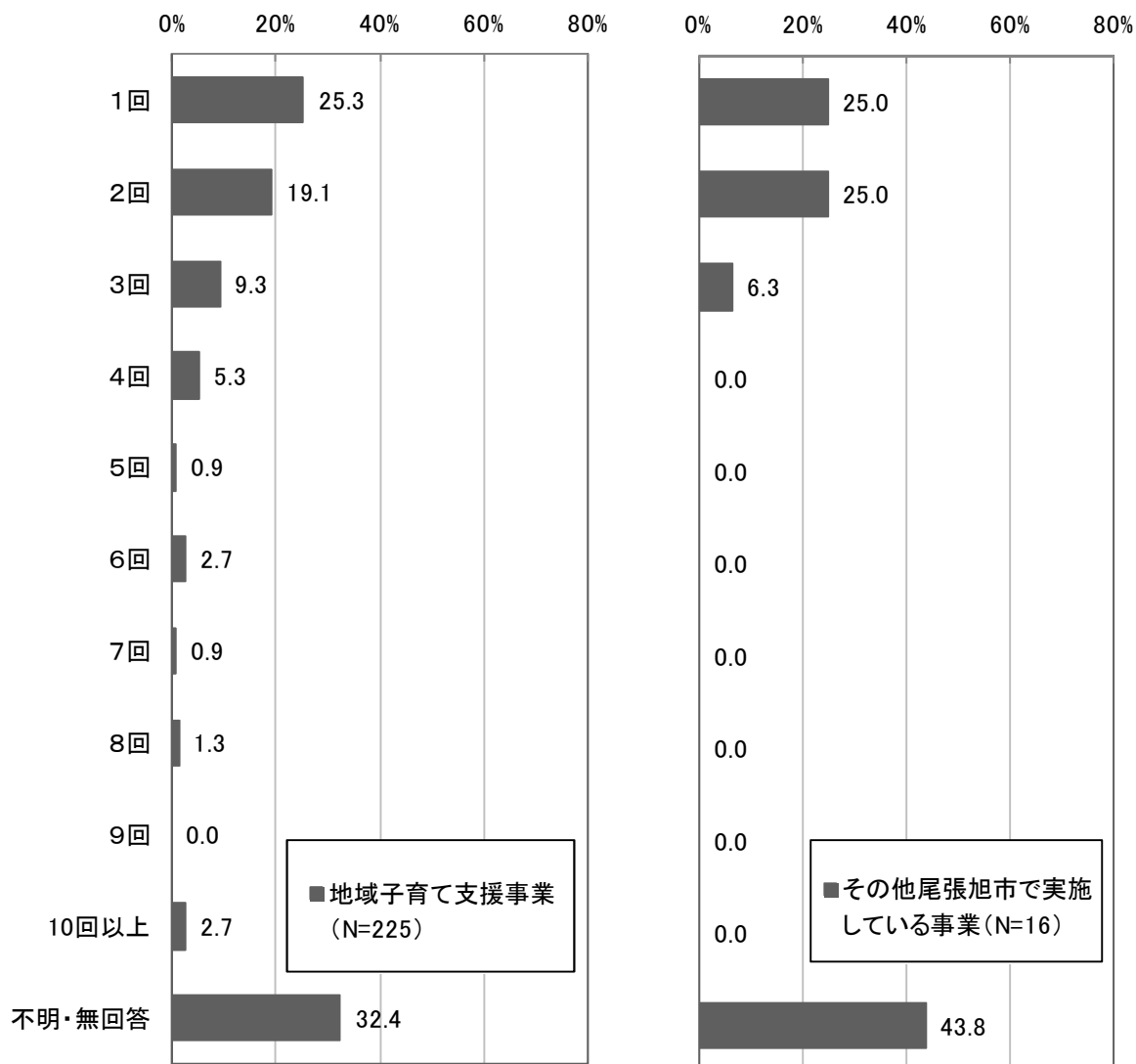


◆(「地域子育て支援事業」「その他尾張旭市で実施している類似事業」を利用していると答えた方)

1か月当たりの利用回数 [前：問 16] <数量回答>

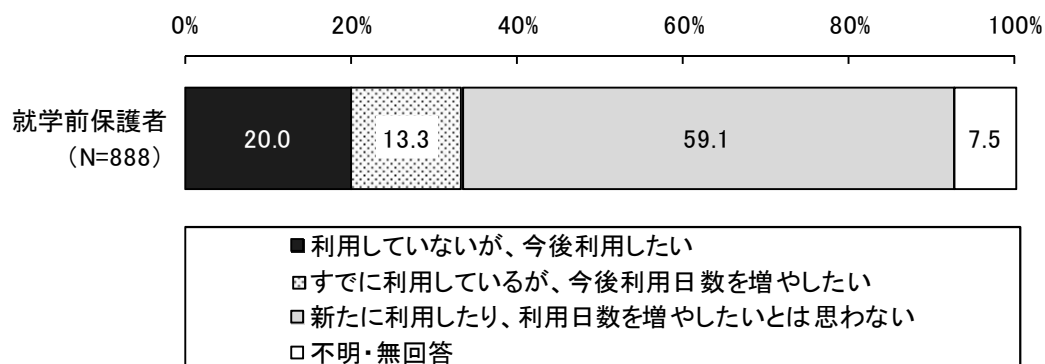
地域子育て支援事業では、「1回」が25.3%と最も高く、次いで「2回」が19.1%、「3回」が9.3%となっています。

その他尾張旭市で実施している事業では、「1回」「2回」がそれぞれ25.0%と最も高く、次いで「3回」が6.3%となっています。



◆地域子育て支援事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。[前：問17] <単数回答>

「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が59.1%と最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」が20.0%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が13.3%となっています。



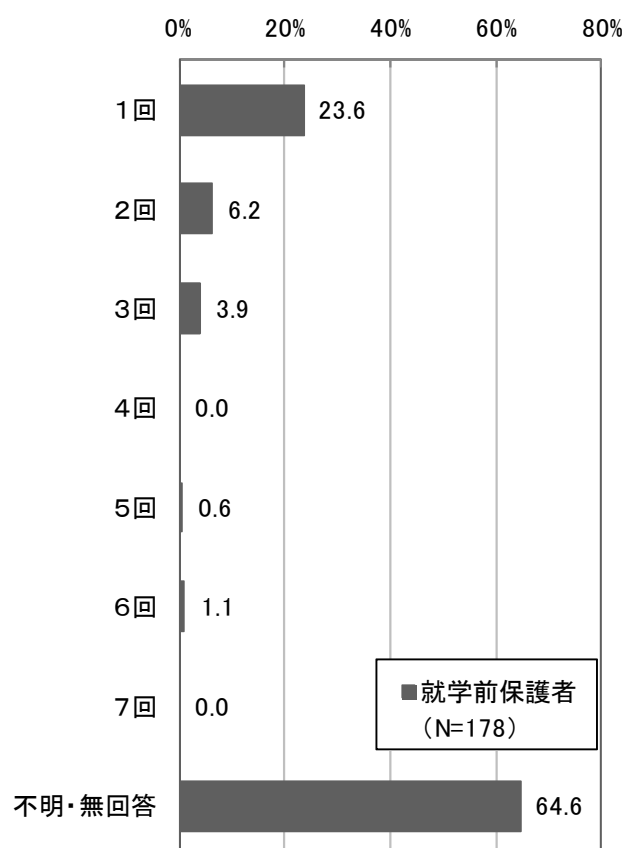
◆(地域子育て支援事業について、「利用していないが、今後利用したい」と答えた方)

1週当たりもしくは、1か月当たりの利用希望回数 [前：問 17] <数量回答>

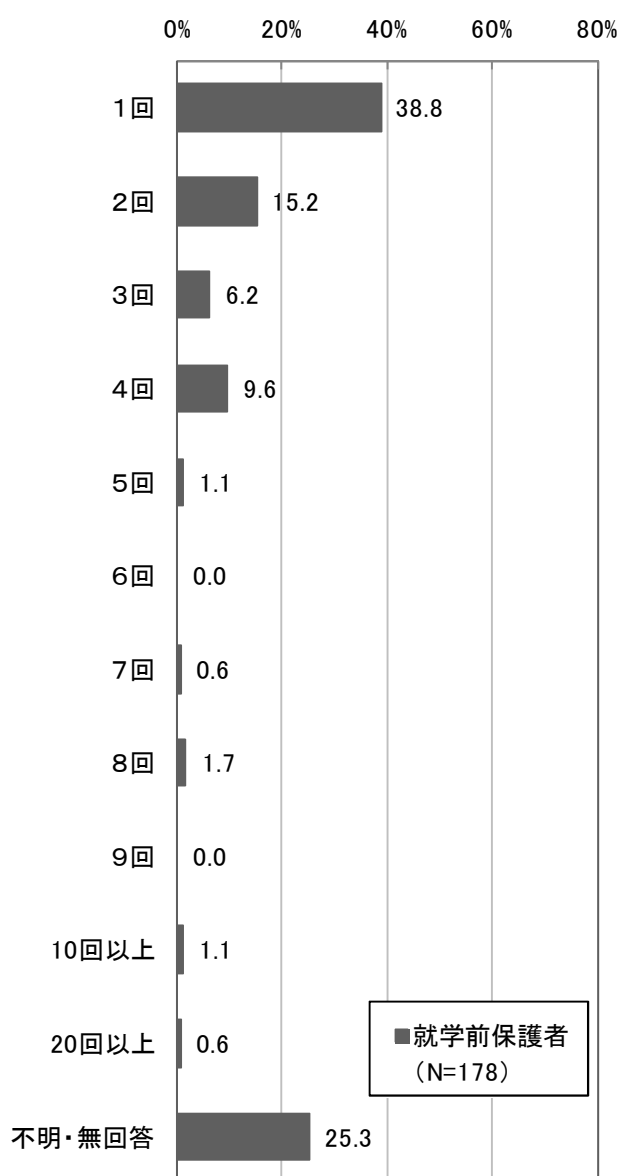
1 週当たりの利用希望回数では、「1 回」が 23.6%と最も高く、次いで「2 回」が 6.2%、「3 回」が 3.9%となっています。

1 か月当たりの利用希望回数では、「1 回」が 38.8%と最も高く、次いで「2 回」が 15.2%、「4 回」が 9.6%となっています。

【1 週当たりの利用希望回数】



【1 か月当たりの利用希望回数】



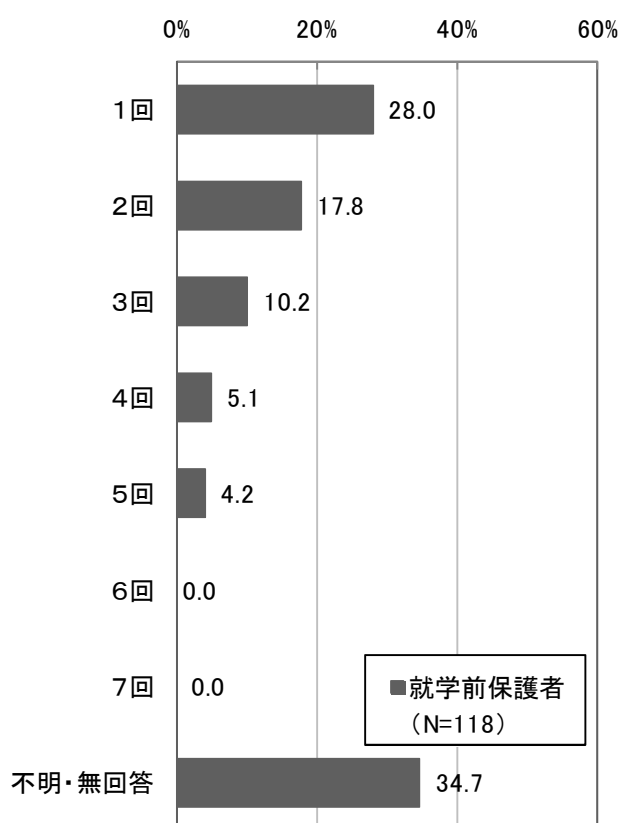
◆(地域子育て支援事業について、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と答えた方)

1週当たりもしくは、1か月当たりの利用回数 [前：問17] <数量回答>

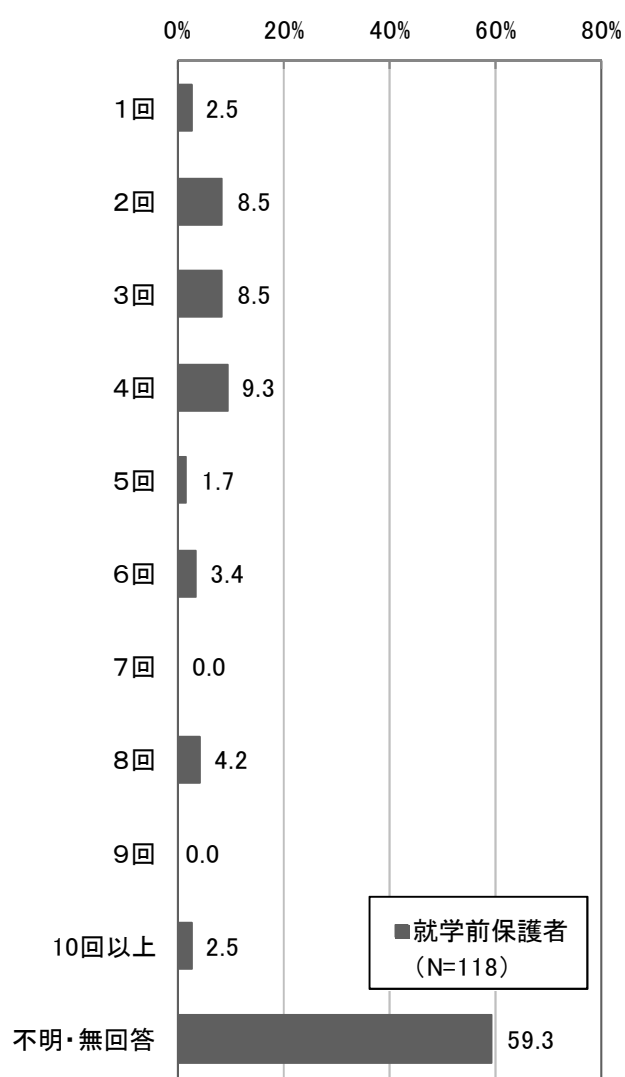
1週当たりの利用回数では、「1回」が28.0%と最も高く、次いで「2回」が17.8%、「3回」が10.2%となっています。

1か月当たりの利用回数では、「4回」が9.3%と最も高く、次いで「2回」「3回」がそれぞれ8.5%、「8回」が4.2%となっています。

【1週当たりの利用回数】



【1か月当たりの利用回数】

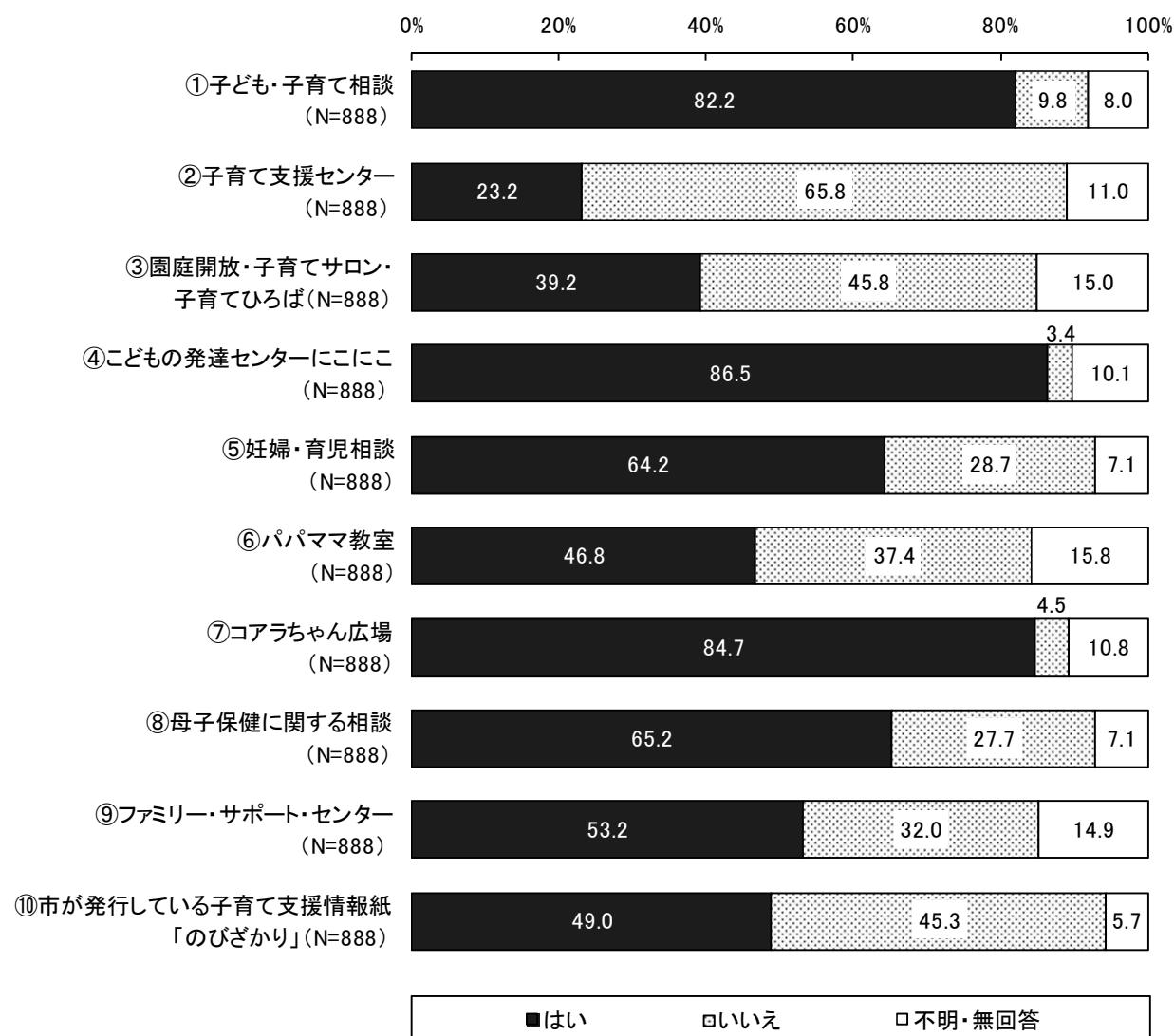


◆地域子育て支援事業で知っているものをお答えください。〔前：問18A①～⑩〕＜単数回答＞

「はい」の割合についてみると、「④こどもの発達センターにここ」が86.5%と最も高く、次いで「⑦コアラちゃん広場」が84.7%、「①子ども・子育て相談」が82.2%となっています。

「いいえ」の割合についてみると、「②子育て支援センター」が65.8%と最も高く、次いで「③園庭開放・子育てサロン・子育てひろば」が45.8%、「⑩市が発行している子育て支援情報紙『のびざかり』」が45.3%となっています。

【認知度】



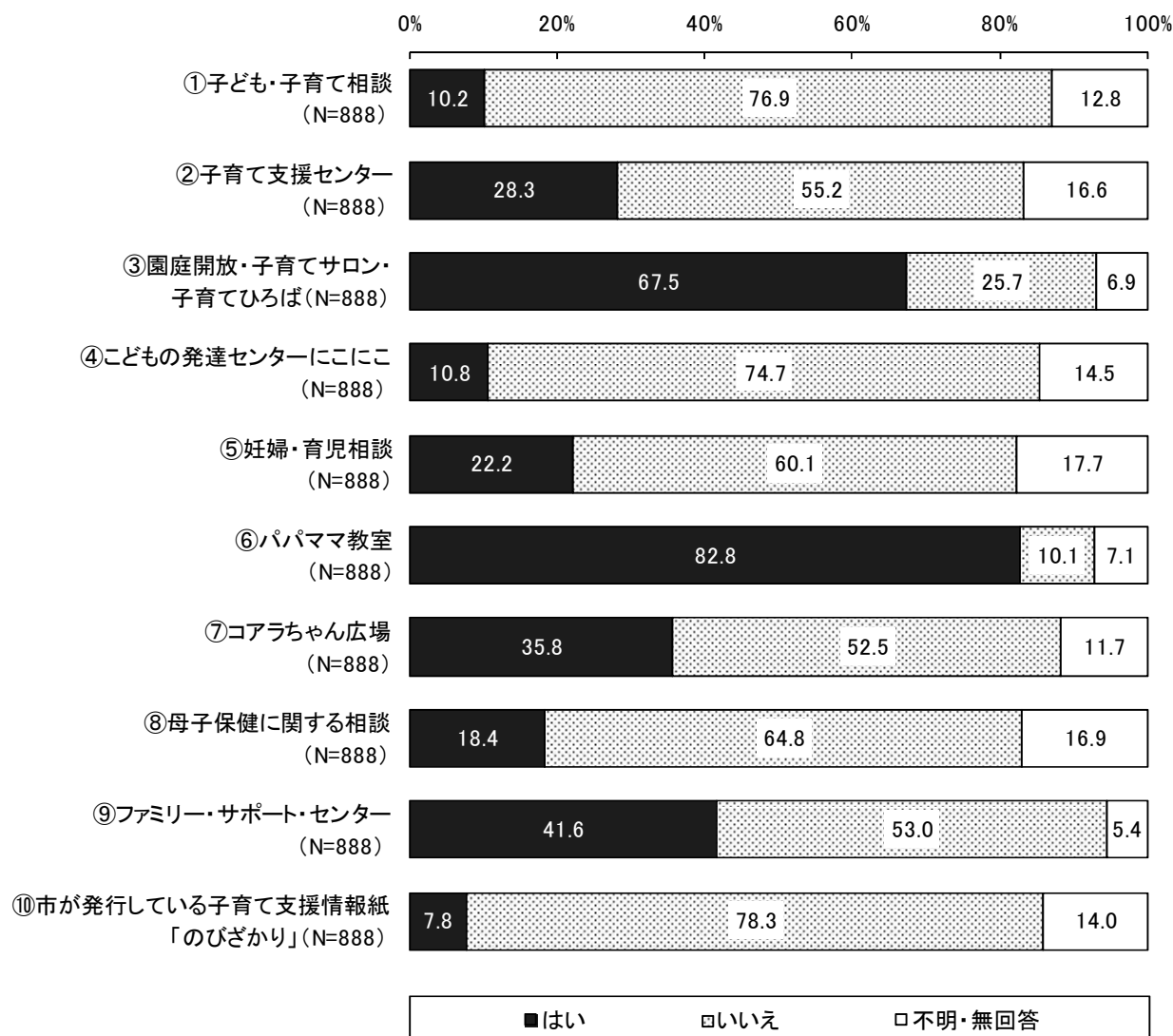
◆地域子育て支援事業でこれまでに利用したことがあるものをお答えください。

[前：問 18B①～⑩]＜単数回答＞

「はい」の割合についてみると、「⑥パパママ教室」が 82.8%と最も高く、次いで「③園庭開放・子育てサロン」が 67.5%、「⑨ファミリー・サポート・センター」が 41.6%となっています。

「いいえ」の割合についてみると、「⑩市が発行している子育て支援情報紙『のびざかり』」が 78.3%と最も高く、次いで「①子ども・子育て相談」が 76.9%、「④こどもの発達センターにここ」が 74.7%となっています。

【利用経験】



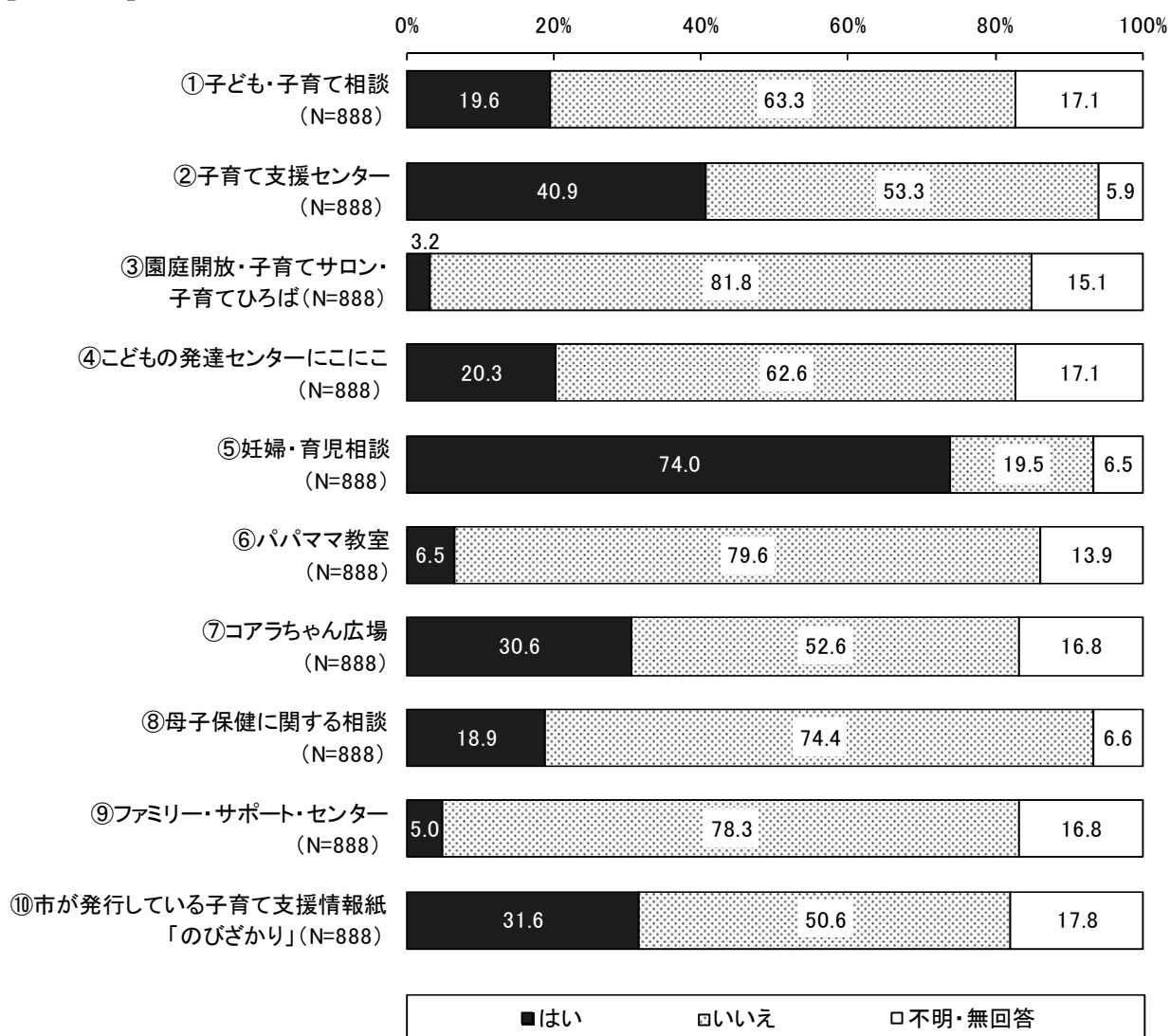
◆地域子育て支援事業で今後、利用したいと思うものをお答えください。

[前：問 18C①～⑩]＜単数回答＞

「はい」の割合についてみると、「⑤妊婦・育児相談」が 74.0%と最も高く、次いで「②子育て支援センター」が 40.9%、「⑩市が発行している子育て支援情報紙『のびざかり』」が 31.6%となっています。

「いいえ」の割合についてみると、「③園庭開放・子育てサロン」が 81.8%と最も高く、次いで「⑥パパママ教室」が 79.6%、「⑨ファミリー・サポート・センター」が 78.3%となっています。

【利用意向】

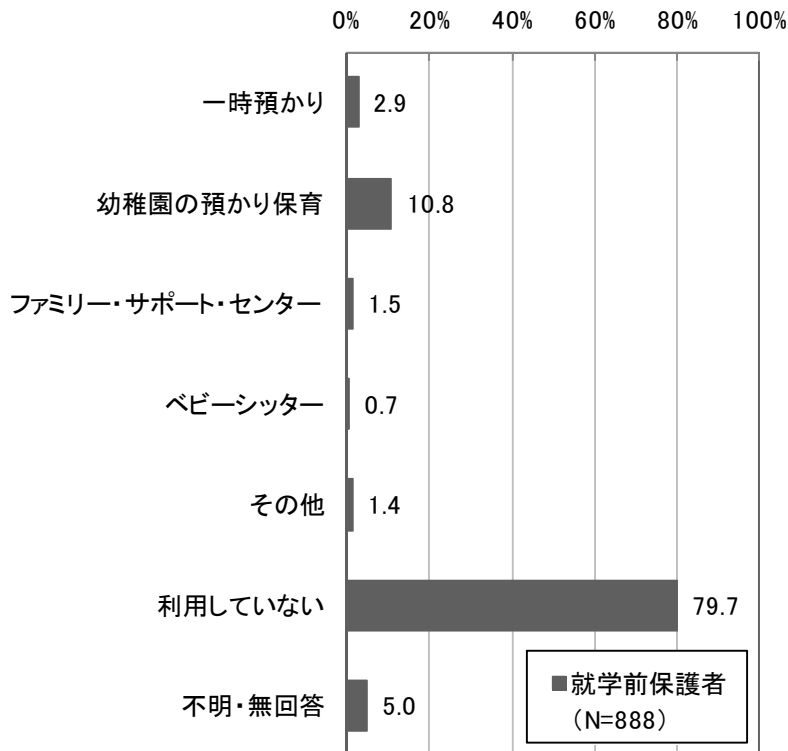


8. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等について

◆あて名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、保護者の私用、通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業をお答えください。

〔前：問 19〕 〈複数回答〉

「利用していない」が 79.7%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」が 10.8%、「一時預かり」が 2.9%となっています。



◆(不定期に利用している事業があると答えた方)

1年間のおおよその利用日数[前：問 19] <数量回答>

一時預かりでは、「10 日以上」が 76.9%と最も高く、次いで「3 日」が 11.5%となっています。
幼稚園の預かり保育では、「10 日以上」が 60.4%と最も高く、次いで「5 日」が 13.5%となっています。

ファミリー・サポート・センターでは、「2 日」「5 日」がそれぞれ 3 件、「1 日」「3 日」「10 日以上」がそれぞれ 2 件となっています。

ベビーシッターでは、「10 日以上」が 3 件となっています。

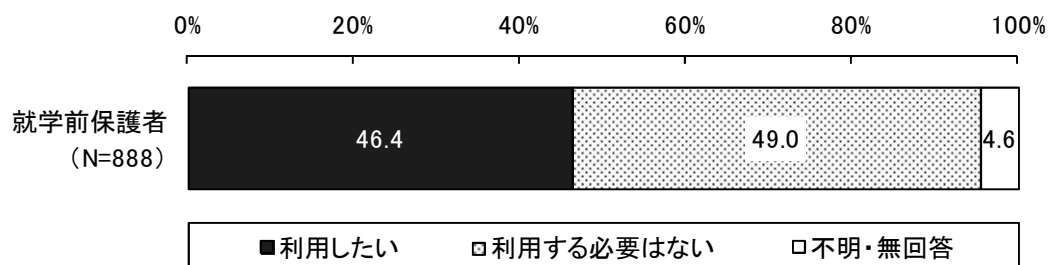
その他では、「10 日以上」が 7 件となっています。

上段:件数 下段:%	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日 以上	不明・ 無回答
一時預かり (N=26)	26 100.0	1 3.8	- -	3 11.5	- -	1 3.8	- -	- -	- -	- -	20 76.9	1 3.8
幼稚園の預かり 保育(N=96)	96 100.0	1 1.0	12 12.5	5 5.2	1 1.0	13 13.5	2 2.1	2 2.1	1 1.0	- -	58 60.4	1 1.0
ファミリー・サポート ・センター(N=13)	13 100.0	2 15.4	3 23.1	2 15.4	- -	3 23.1	1 7.7	- -	- -	- -	2 15.4	- -
ベビーシッター (N=6)	6 100.0	1 16.7	1 16.7	- -	- -	1 16.7	- -	- -	- -	- -	3 50.0	- -
その他 (N=12)	12 100.0	- -	- -	1 8.3	1 8.3	- -	- -	- -	- -	- -	7 58.3	3 25.0

◆あて名のお子さんについて、保護者の私用、通院、不定期の就労などの目的で、不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等を利用できるとよいですか。

[前：問 20] <単数回答>

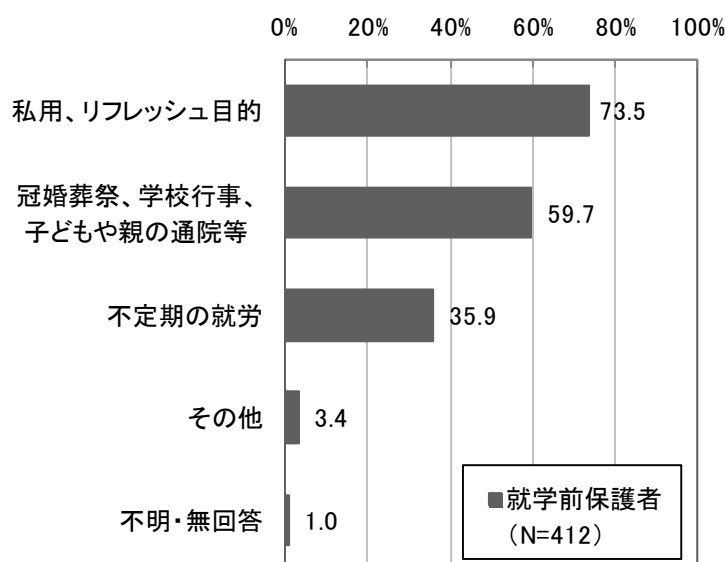
「利用する必要はない」が 49.0%と最も高く、次いで「利用したい」が 46.4%となっています。



◆(不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等を「利用したい」と答えた方)

利用の目的〔前：問 20〕 〈複数回答〉

「私用、リフレッシュ目的」が 73.5%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が 59.7%、「不定期の就労」が 35.9%となっています。



◆(不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等を「利用したい」と答えた方)

年間の利用希望日数〔前：問 20〕 〈数量回答〉

私用、リフレッシュ目的では、「10 日以上」が 65.7%と最も高く、次いで「5 日」が 13.2%となっています。

冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等では、「10 日以上」が 40.2%と最も高く、次いで「5 日」が 19.9%となっています。

不定期の就労では、「10 日以上」が 72.3%と最も高く、次いで「5 日」が 10.1%となっています。

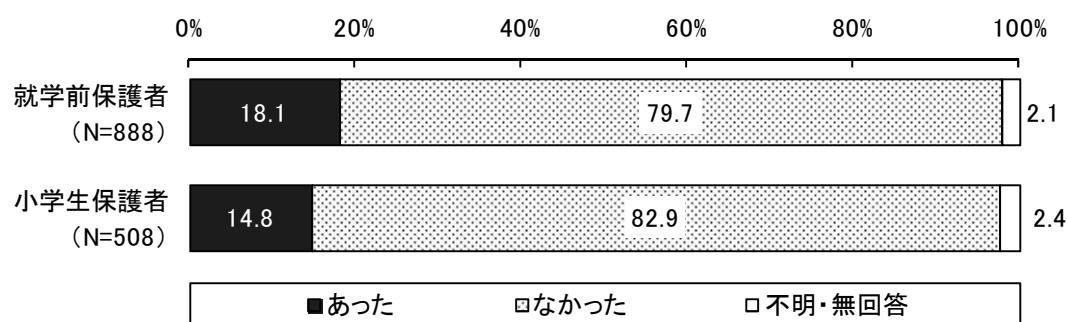
その他では、「10 日以上」が 6 件となっています。

上段:件数 下段:%	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日 以上	不明・ 無回答
私用、リフレッシュ 目的(N=303)	303 100.0	2 0.7	10 3.3	10 3.3	7 2.3	40 13.2	17 5.6	6 2.0	-	-	199 65.7	12 4.0
冠婚葬祭、学校行 事、子どもや親の 通院等(N=246)	246 100.0	7 2.8	11 4.5	31 12.6	5 2.0	49 19.9	14 5.7	11 4.5	-	-	99 40.2	19 7.7
不定期の就労 (N=148)	148 100.0	-	5 3.4	3 2.0	2 1.4	15 10.1	5 3.4	2 1.4	-	-	107 72.3	9 6.1
その他 (N=14)	14 100.0	-	4 28.6	1 7.1	-	2 14.3	-	-	-	-	6 42.9	1 7.1

◆この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気等)により、あて名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらう必要が生じたことはありましたか(預け先が見つからなかった場合も含む)。〔前：問 21、小：問 11〕 <複数回答>

就学前保護者では、「なかった」が 79.7%と最も高く、次いで「あった」が 18.1%となっています。

小学生保護者では、「なかった」が 82.9%と最も高く、次いで「あった」が 14.8%となっています。

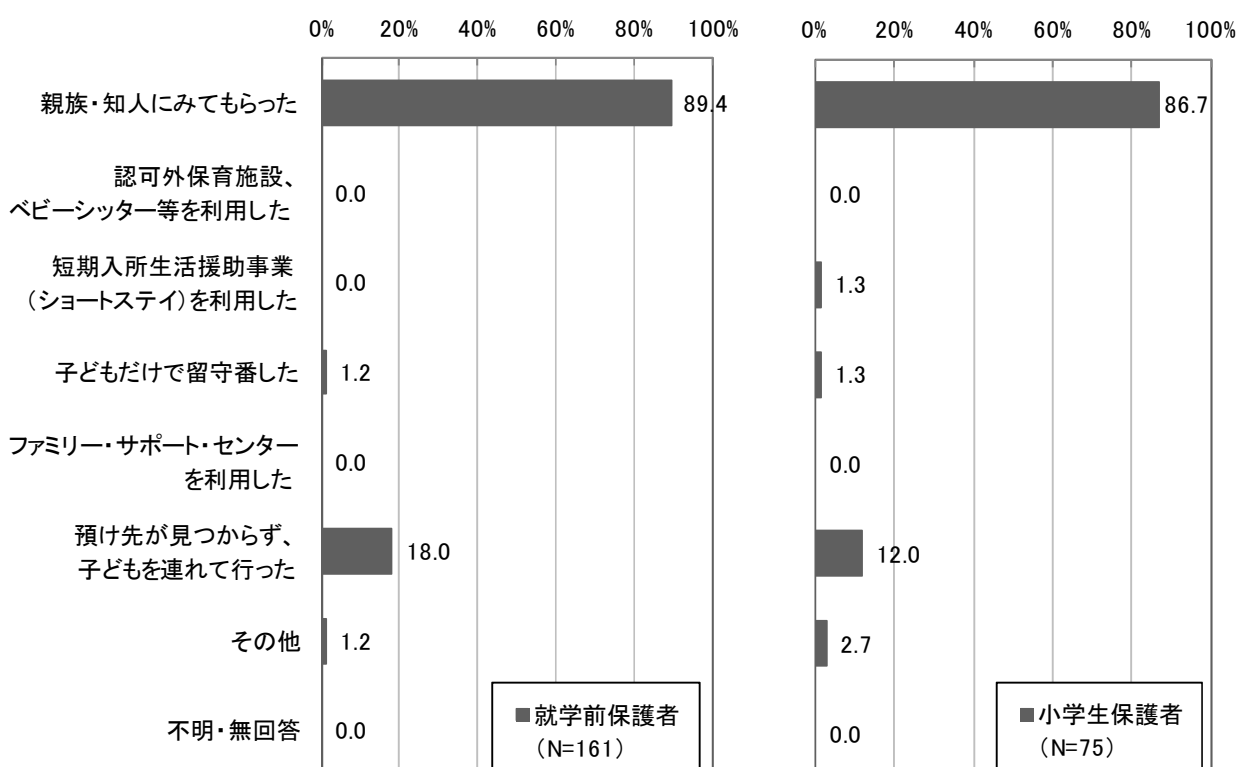


(お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらう必要が生じたことが「あった」と答えた方)

1年間の対処方法〔前：問 21、小：問 11〕 <数量回答>

就学前保護者では、「親族・知人にみてもらった」が 89.4%と最も高く、次いで「預け先が見つからず、子どもを連れて行った」が 18.0%、「子どもだけで留守番した」「その他」がそれぞれ 1.2%となっています。

小学生保護者では、「親族・知人にみてもらった」が 86.7%と最も高く、次いで「預け先が見つからず、子どもを連れて行った」が 12.0%、「その他」が 2.7%となっています。



◆(お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらう必要が生じたことが「あった」と答えた方)

対処の日数(年間)[前：問21、小：問11] <数量回答>

対処別に就学前保護者をみると、親族・知人にみてもらったでは、「1泊」が35.4%と最も高く、次いで「10泊以上」が16.7%となっています。

子どもだけで留守番したでは、「3泊」「10泊以上」がそれぞれ1件でした。

預け先が見つからず、子どもを連れて行ったでは、「2泊」が31.0%で最も高く、次いで「1泊」が27.6%となっています。

その他では、「4泊」が1件となっています。

認可外保育施設、ベビーシッター等を利用した、短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した、ファミリー・サポート・センターを利用したでは回答件数がありませんでした。

対処別に小学生保護者をみると、親族・知人にみてもらったでは、「1泊」が44.6%と最も高く、次いで「2泊」が16.9%となっています。

短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用したでは、「不明・無回答」が1件でした。

子どもだけで留守番したでは、「1泊」が1件でした。

預け先が見つからず、子どもを連れて行ったでは、「1泊」が6件でした。

その他では、「1泊」「2泊」がそれぞれ1件となっています。

上段:件数 下段:%		合計	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊	7泊	8泊	9泊	10泊 以上	不明・ 無回答
親族・知人に みてもらった	就学前保護者 (N=144)	144 100.0	51 35.4	21 14.6	15 10.4	10 6.9	10 6.9	- -	8 5.6	1 0.7	- -	24 16.7	4 2.8
	小学生保護者 (N=65)	65 100.0	29 44.6	11 16.9	4 6.2	4 6.2	5 7.7	2 3.1	1 1.5	- -	- -	6 9.2	3 4.6
認可外保育施設、 ベビーシッター等を利用した	就学前保護者 (N=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	小学生保護者 (N=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
短期入所生活援助事業(ショート ステイ)を利用した	就学前保護者 (N=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	小学生保護者 (N=1)	1.0 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1.0 100.0
子どもだけで留守 番した	就学前保護者 (N=2)	2 100.0	- -	- -	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 50.0	- -
	小学生保護者 (N=1)	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
ファミリー・サ ポート・センター を利用した	就学前保護者 (N=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	小学生保護者 (N=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
預け先が見つからず、子どもを連 れて行った	就学前保護者 (N=29)	29 100.0	8 27.6	9 31.0	1 3.4	1 3.4	2 6.9	- -	1 3.4	- -	- -	3 10.3	4 13.8
	小学生保護者 (N=9)	9 100.0	6 66.7	1 11.1	- -	- -	1 11.1	- -	- -	- -	- -	- -	1 11.1
その他	就学前保護者 (N=2)	2 100.0	- -	- -	- -	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 50.0
	小学生保護者 (N=2)	2 100.0	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

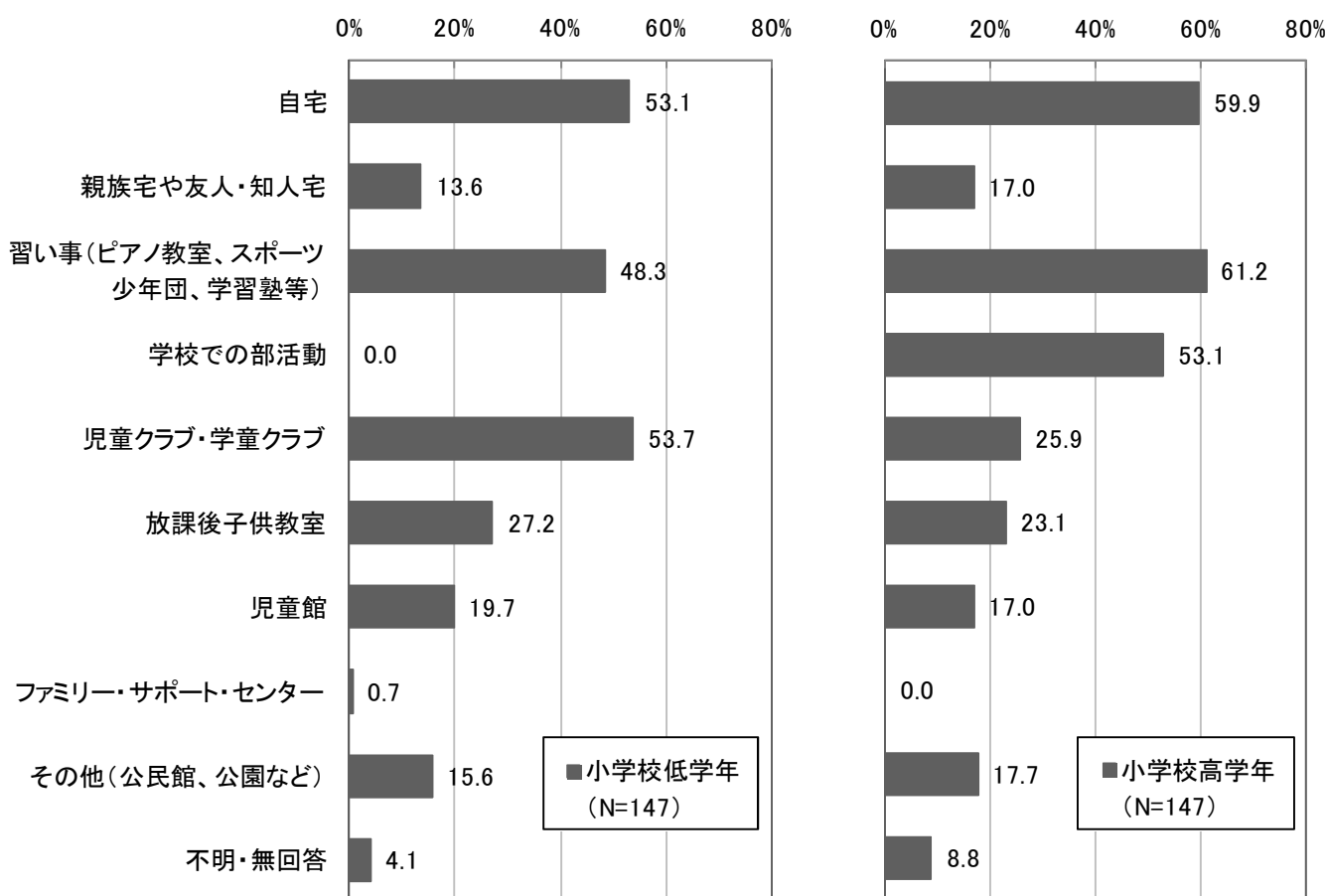
9. 小学校入学後の放課後の過ごし方について

◆(あて名のお子さんが5歳以上である方)

あて名のお子さんについて、小学校低学年(1～3年生)及び小学校高学年(4～6年生)の、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。[前: 問 22 (1)] <複数回答>

小学校低学年までの過ごし方では、「児童クラブ・学童クラブ」が 53.7%と最も高く、次いで「自宅」が 53.1%、「習い事(ピアノ教室、スポーツ少年団、学習塾等)」が 48.3%となっています。

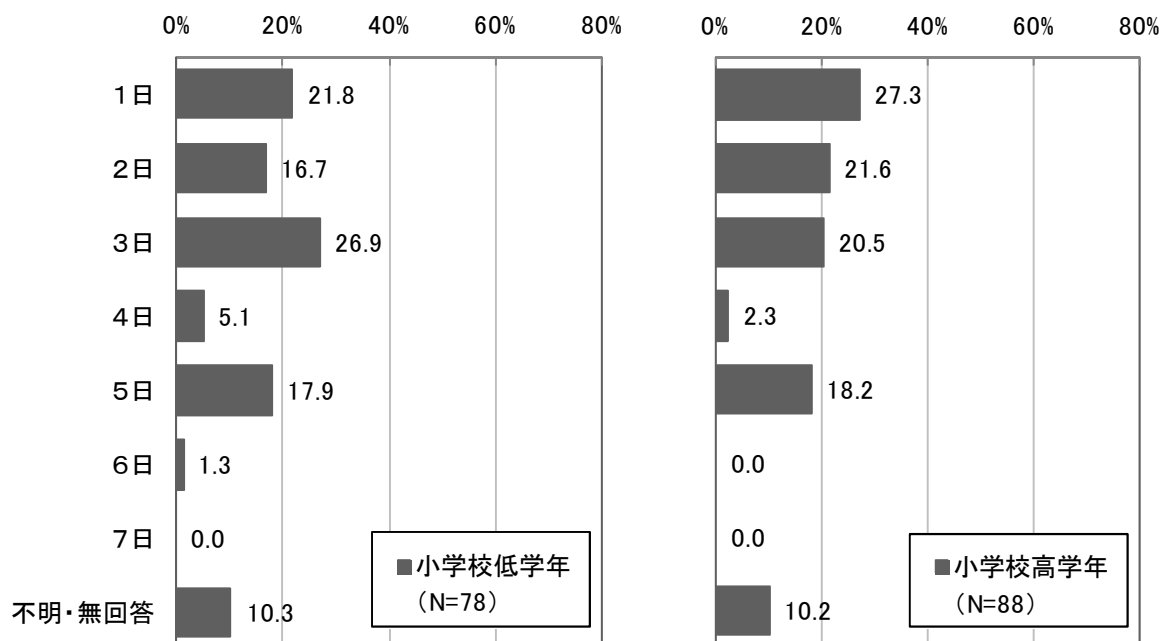
小学校高学年までの過ごし方では、「習い事(ピアノ教室、スポーツ少年団、学習塾等)」が 61.2%と最も高く、次いで「自宅」が 59.9%、「学校での部活動」が 53.1%となっています。



◆週当たりの利用希望日数(自宅)[前：問 22（2）] <数量回答>

小学校低学年では、「3 日」が 26.9%と最も高く、次いで「1 日」が 21.8%、「5 日」が 17.9%となっています。

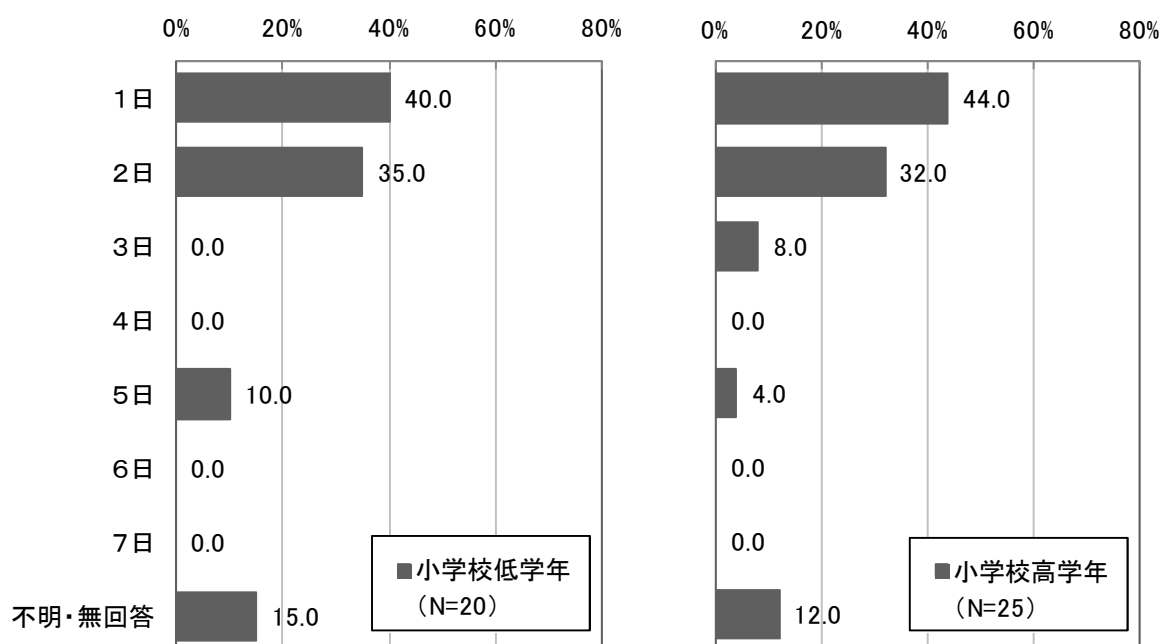
小学校高学年では、「1 日」が 27.3%と最も高く、次いで「2 日」が 21.6%、「3 日」が 20.5%となっています。



◆週当たりの利用希望日数(親族宅や友人・知人宅)[前：問 22（2）] <数量回答>

小学校低学年では、「1 日」が 40.0%と最も高く、次いで「2 日」が 35.0%、「5 日」が 10.0%となっています。

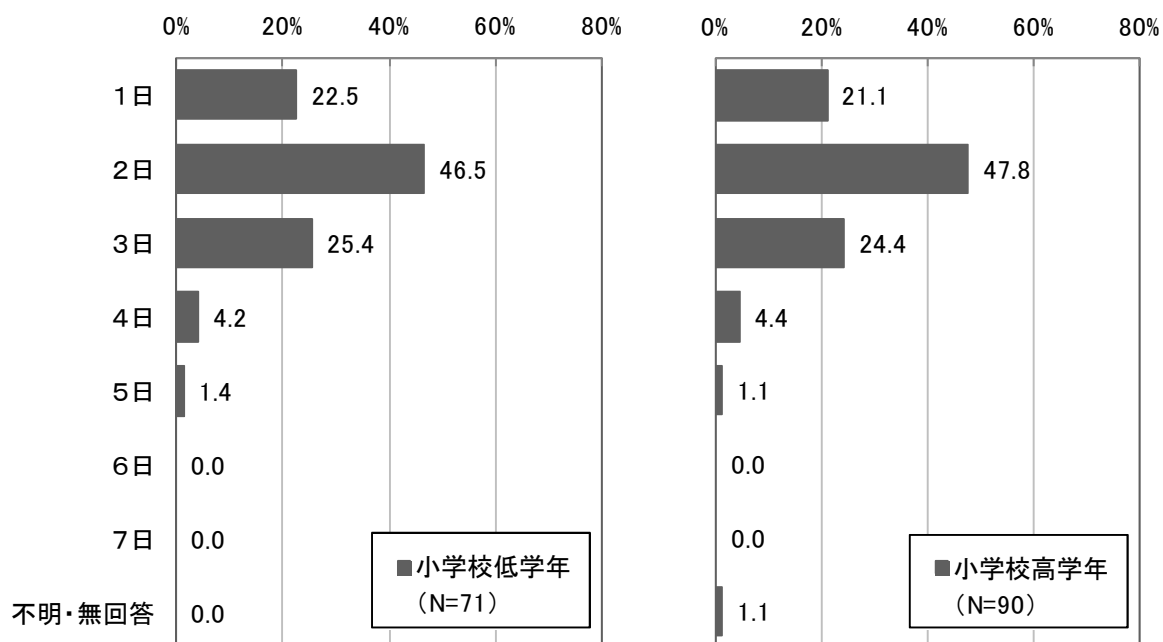
小学校高学年では、「1 日」が 44.0%と最も高く、次いで「2 日」が 32.0%、「3 日」が 8.0%となっています。



◆週当たりの利用希望日数(習い事)[前：問 22（2）] <数量回答>

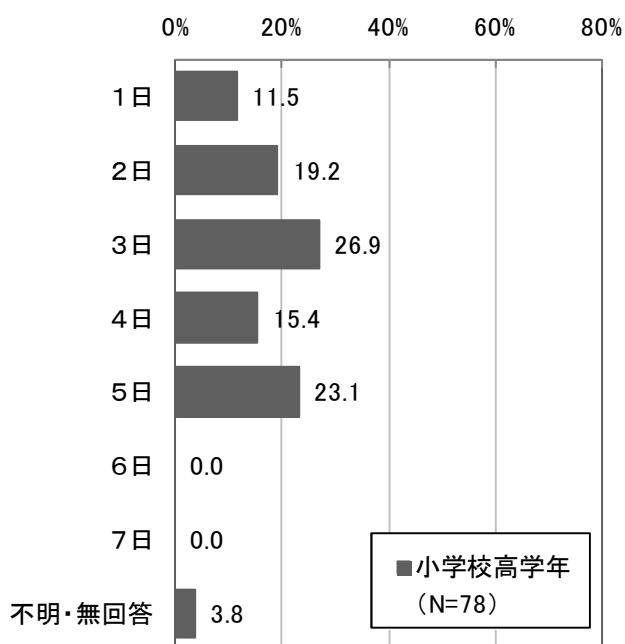
小学校低学年では、「2日」が46.5%と最も高く、次いで「3日」が25.4%、「1日」が22.5%となっています。

小学校高学年では、「2日」が47.8%と最も高く、次いで「3日」が24.4%、「1日」が21.1%となっています。



◆週当たりの利用希望日数(学校での部活動)[前：問 22（2）] <数量回答>

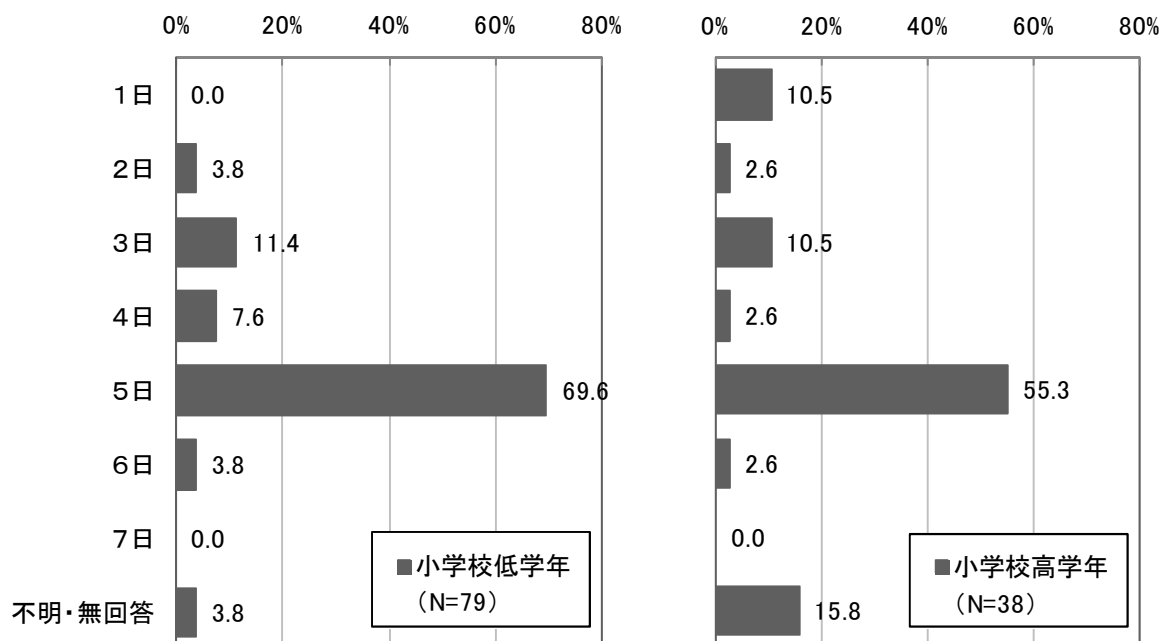
小学校高学年では、「3日」が26.9%と最も高く、次いで「5日」が23.1%、「2日」が19.2%となっています。



◆週当たりの利用希望日数(児童クラブ・学童クラブ)[前：問 22 (2)] <数量回答>

小学校低学年では、「5 日」が 69.6%と最も高く、次いで「3 日」が 11.4%、「4 日」が 7.6%となっています。

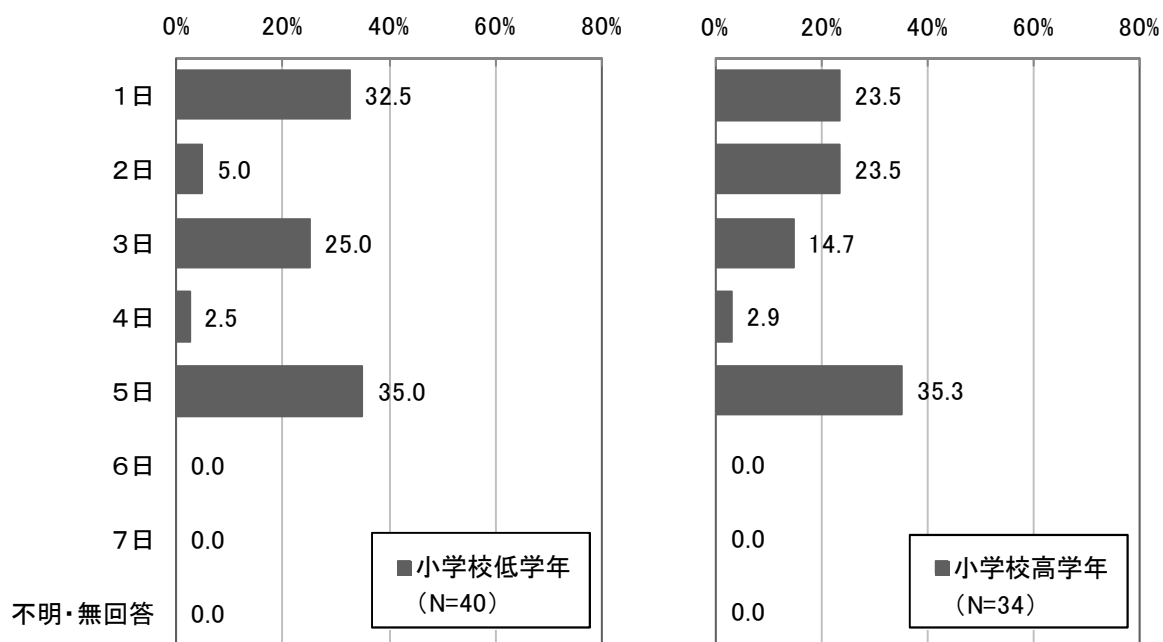
小学校高学年では、「5 日」が 55.3%と最も高く、次いで「1 日」「3 日」がそれぞれ 10.5%、「2 日」「4 日」「6 日」がそれぞれ 2.6%となっています。



◆週当たりの利用希望日数(放課後子供教室)[前：問 22 (2)] <数量回答>

小学校低学年では、「5 日」が 35.0%と最も高く、次いで「1 日」が 32.5%、「3 日」が 25.0%となっています。

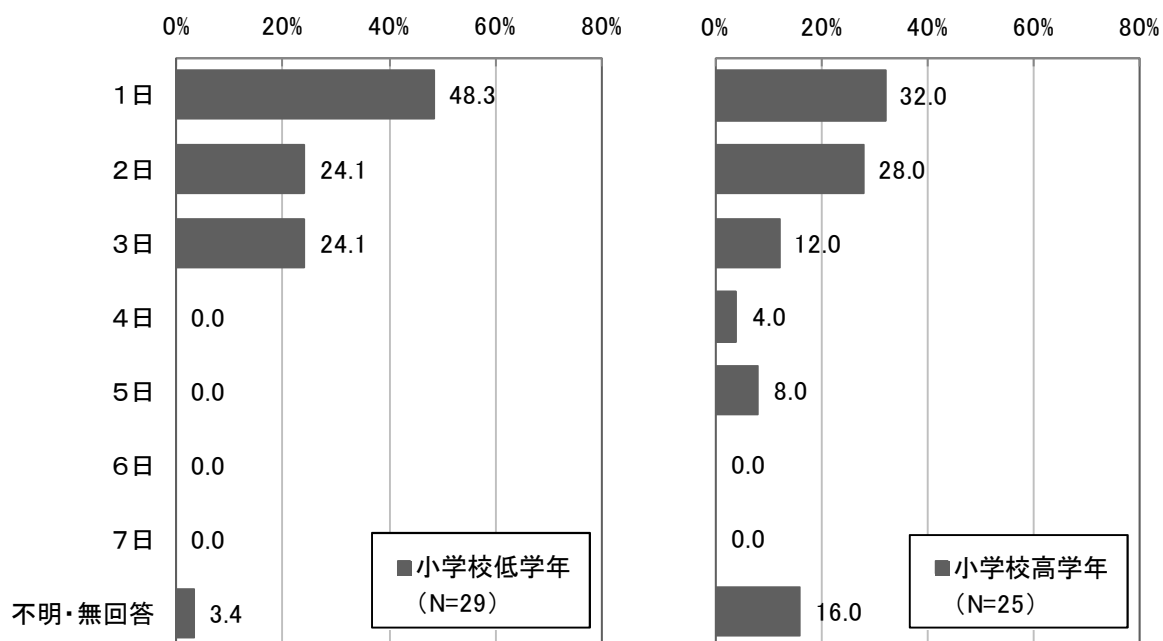
小学校高学年では、「5 日」が 35.3%と最も高く、次いで「1 日」「2 日」がそれぞれ 23.5%、「3 日」が 14.7%となっています。



◆週当たりの利用希望日数(児童館)[前：問 22（２）] 〈数量回答〉

小学校低学年では、「１日」が 48.3%と最も高く、次いで「２日」「３日」がそれぞれ 24.1%となっています。

小学校高学年では、「１日」が 32.0%と最も高く、次いで「２日」が 28.0%、「３日」が 12.0%となっています。



◆週当たりの利用希望日数(ファミリー・サポート・センター)[前：問 22（２）] 〈数量回答〉

小学校低学年では、「２日」が 1 件となっています。

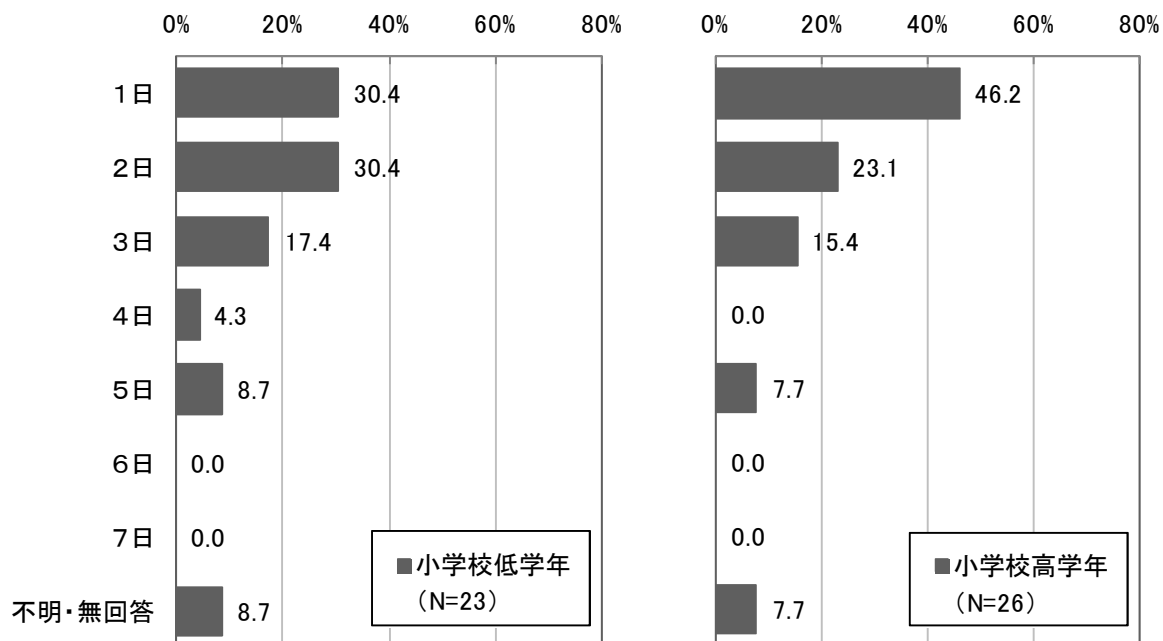
小学校高学年では、回答件数がありませんでした。

上段:件数 下段:%	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	不明・無回答
小学校低学年 (N=1)	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-

◆週当たりの利用希望日数(その他(公民館、公園など))[前：問 22 (2)] <数量回答>

小学校低学年では、「1 日」「2 日」がそれぞれ 30.4%と最も高く、次いで「3 日」が 17.4%、「5 日」が 8.7%となっています。

小学校高学年では、「1 日」が 46.2%と最も高く、次いで「2 日」が 23.1%、「3 日」が 15.4%となっています。

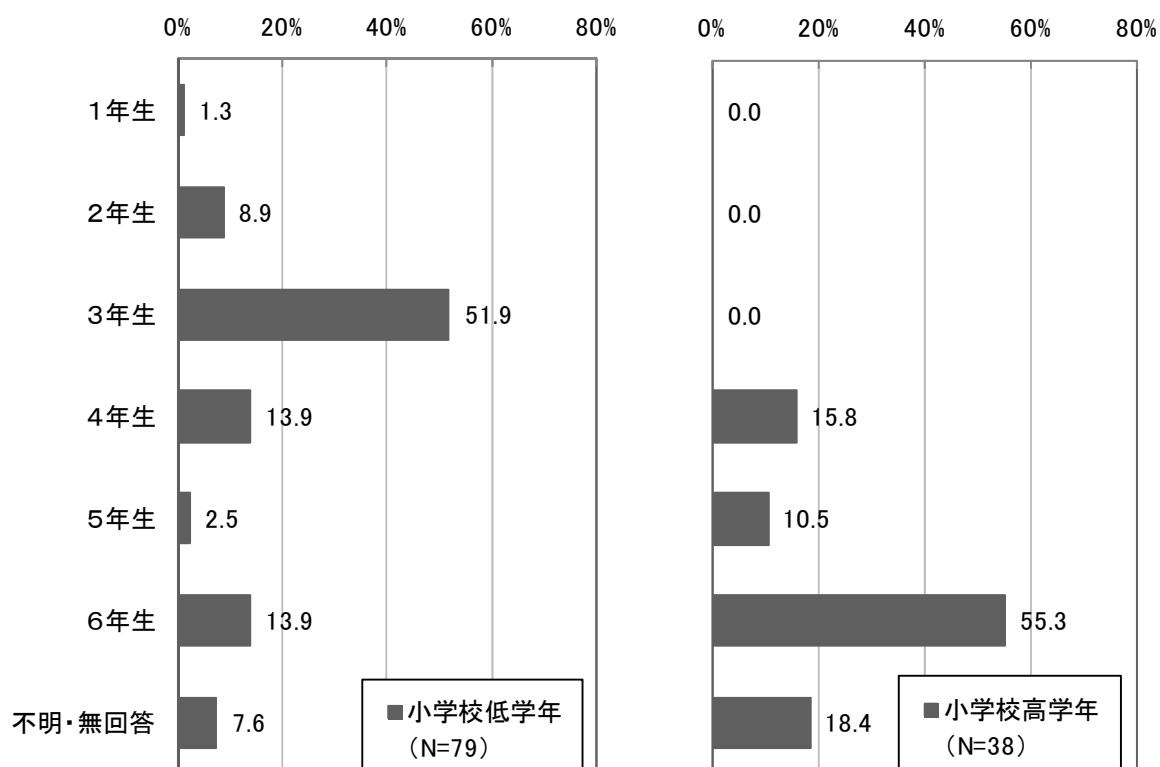


◆(放課後の居場所として小学校低学年もしくは高学年で「児童クラブ・学童クラブ」と答えた方)

利用を希望する子どもの学年(何年生まで利用したいか)[前: 問 22 (2)] <数量回答>

小学校低学年では、「3年生」が 51.9%と最も高く、次いで「4年生」「6年生」がそれぞれ 13.9%、「2年生」が 8.9%となっています。

小学校高学年では、「6年生」が 55.3%と最も高く、次いで「4年生」が 15.8%、「5年生」が 10.5%となっています。

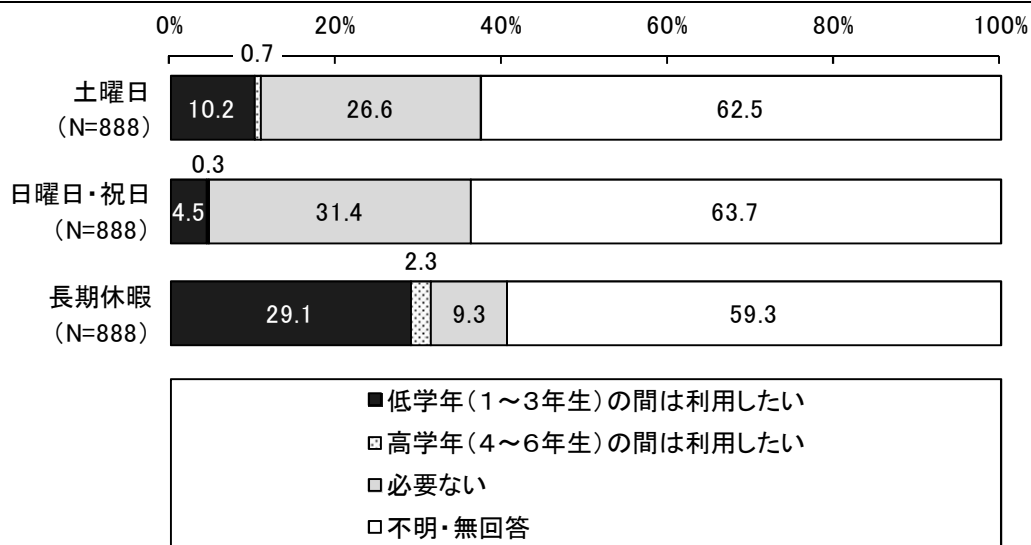


◆土曜日、日曜日・祝日、長期休暇(夏休み、冬休み等)において、あて名のお子さんについて、児童クラブ・学童クラブの利用希望をお答えください。[前：問 23] <単数回答>

土曜日では、「必要ない」が 26.6%と最も高く、次いで「低学年の間は利用したい」が 10.2%、「高学年の間は利用したい」が 0.7%となっています。

日曜日・祝日では、「必要ない」が 31.4%と最も高く、次いで「低学年の間は利用したい」が 4.5%、「高学年の間は利用したい」が 0.3%となっています。

長期休暇では、「低学年の間は利用したい」が 29.1%と最も高く、次いで「必要ない」が 9.3%、「高学年の間は利用したい」が 2.3%となっています。



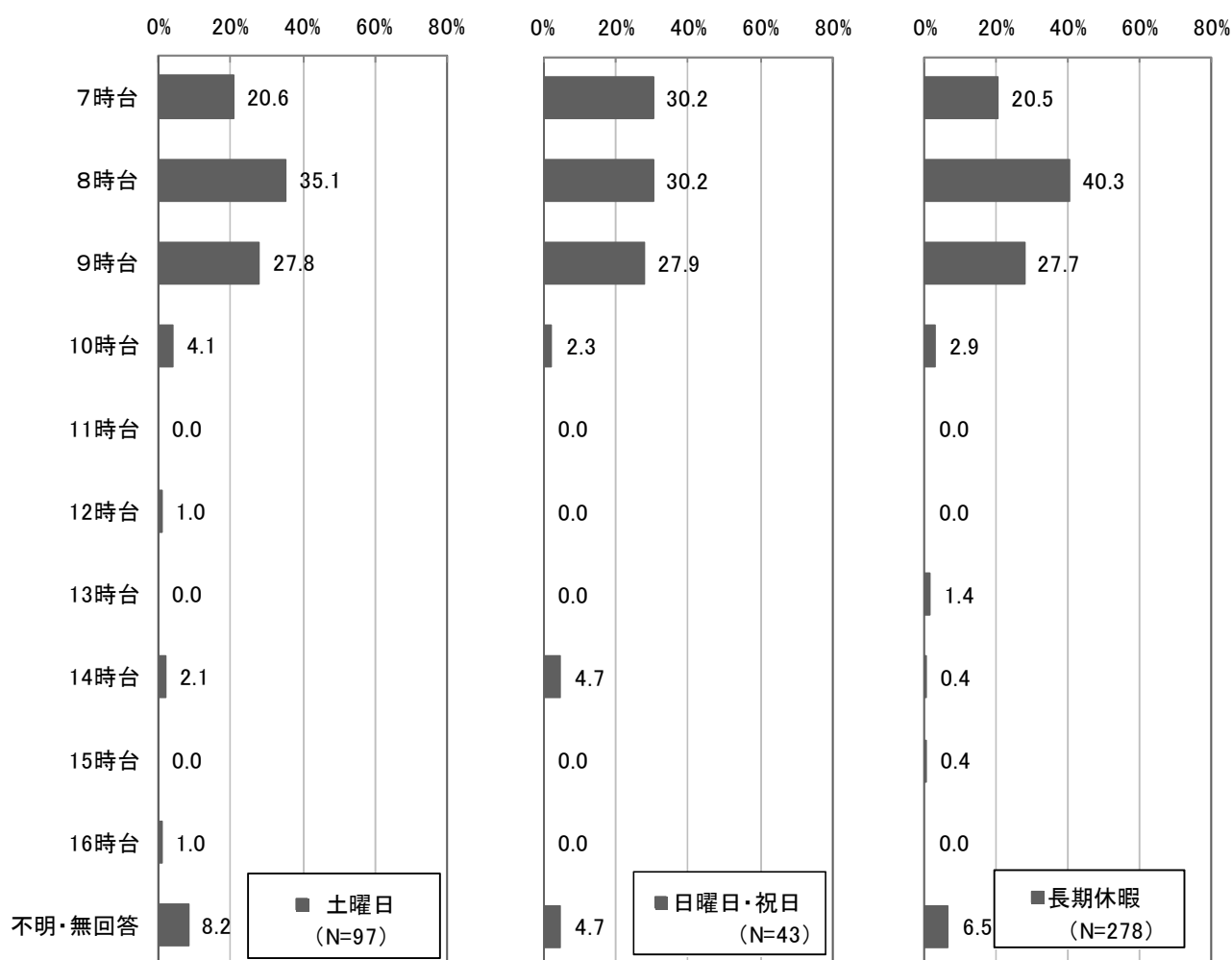
◆(休日に児童クラブ・学童クラブを「利用したい」と答えた方)

利用を希望する時間帯(開始時間)[前：問 23] <数量回答>

土曜日では、「8時台」が35.1%と最も高く、次いで「9時台」が27.8%、「7時台」が20.6%となっています。

日曜日・祝日では、「7時台」「8時台」がそれぞれ30.2%と最も高く、次いで「9時台」が27.9%、「10時台」が2.3%となっています。

長期休暇では、「8時台」が40.3%と最も高く、次いで「9時台」が27.7%、「7時台」が20.5%となっています。



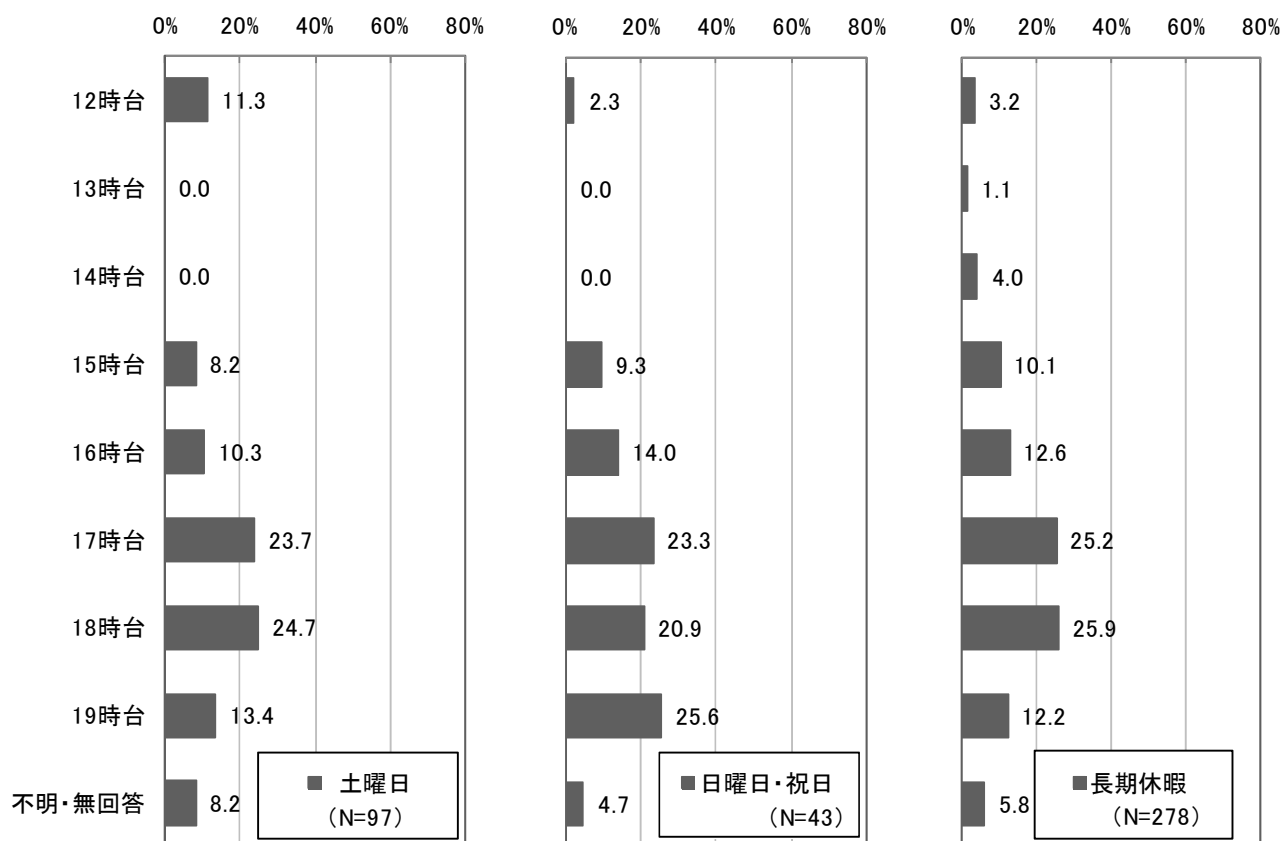
◆(休日に児童クラブ・学童クラブを「利用したい」と答えた方)

利用を希望する時間帯(終了時間)[前：問 23] <数量回答>

土曜日では、「18 時台」が 24.7%と最も高く、次いで「17 時台」が 23.7%、「19 時台」が 13.4%となっています。

日曜日・祝日では、「19 時台」が 25.6%と最も高く、次いで「17 時台」が 23.3%、「18 時台」が 20.9%となっています。

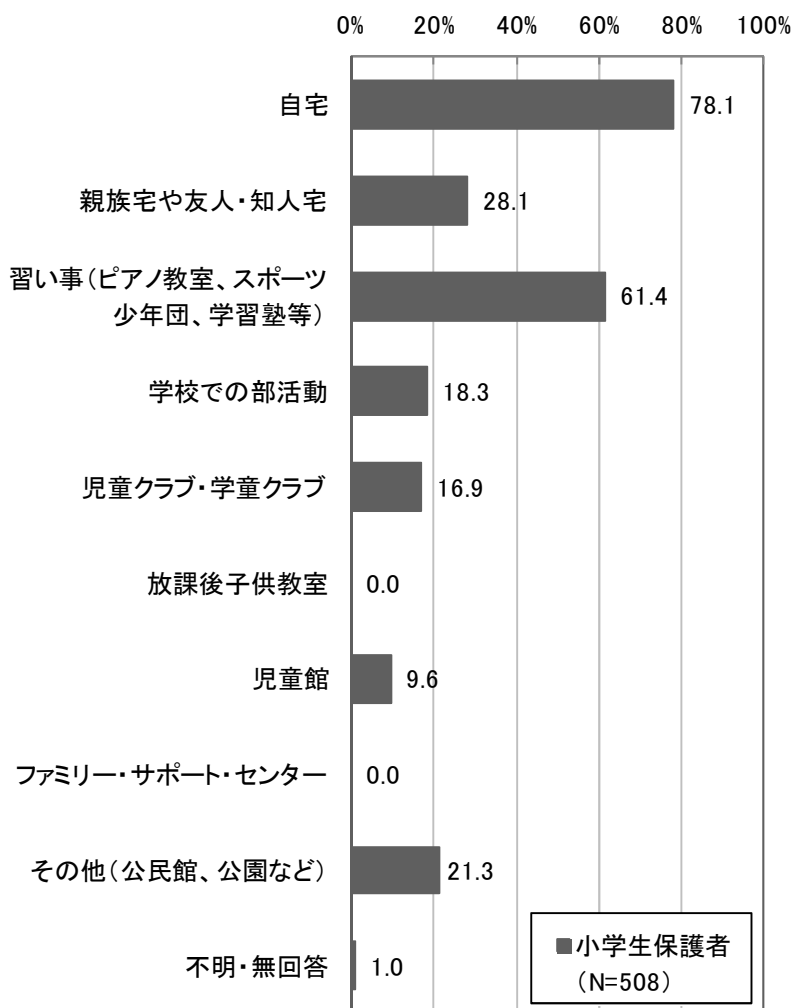
長期休暇では、「18 時台」が 25.9%と最も高く、次いで「17 時台」が 25.2%、「16 時台」が 12.6%となっています。



◆(あて名のお子さんが小学生の方)

あて名のお子さんについて、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。[小：問8(1)] <複数回答>

「自宅」が78.1%と最も高く、次いで「習い事(ピアノ教室、スポーツ少年団、学習塾等)」が61.4%、「親族宅や友人・知人宅」が28.1%となっています。



◆(放課後の居場所として「自宅」～「その他(公民館、公園など)」のいずれかを選択された方)

週当たりの利用希望日数[小:問8(2)] <数量回答>

自宅では、「5日」が34.0%と最も高く、次いで「2日」が18.9%となっています。

親族宅や友人・知人宅では、「1日」が58.0%と最も高く、次いで「2日」が21.0%となっています。

習い事(ピアノ教室、スポーツ少年団、学習塾等)では、「2日」が34.3%と最も高く、次いで「1日」が30.1%となっています。

学校での部活動では、「4日」が43.0%と最も高く、次いで「3日」が34.4%となっています。

児童クラブ・学童クラブでは、「5日」が65.1%と最も高く、次いで「4日」が20.9%となっています。

児童館では、「1日」が61.2%と最も高く、次いで「2日」「3日」がそれぞれ14.3%となっています。

その他(公民館、公園など)では、「1日」が48.1%と最も高く、次いで「2日」が25.0%となっています。

上段:件数 下段:%	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	不明・ 無回答
自宅 (N=397)	397 100.0	73 18.4	75 18.9	39 9.8	36 9.1	135 34.0	5 1.3	25 6.3	9 2.3
親族宅や友人・知人宅 (N=143)	143 100.0	83 58.0	30 21.0	6 4.2	7 4.9	11 7.7	- -	1 0.7	5 3.5
習い事(ピアノ教室、ス ポーツ少年団、学習塾 等)(N=312)	312 100.0	94 30.1	107 34.3	59 18.9	31 9.9	14 4.5	4 1.3	1 0.3	2 0.6
学校での部活動 (N=93)	93 100.0	3 3.2	11 11.8	32 34.4	40 43.0	4 4.3	- -	- -	3 3.2
児童クラブ・学童クラブ (N=86)	86 100.0	- -	3 3.5	6 7.0	18 20.9	56 65.1	3 3.5	- -	- -
放課後子供教室 (N=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
児童館 (N=49)	49 100.0	30 61.2	7 14.3	7 14.3	- -	4 8.2	- -	- -	1 2.0
ファミリー・サポート・ センター (N=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
その他(公民館、公園な ど) (N=108)	108 100.0	52 48.1	27 25.0	15 13.9	5 4.6	6 5.6	- -	- -	3 2.8

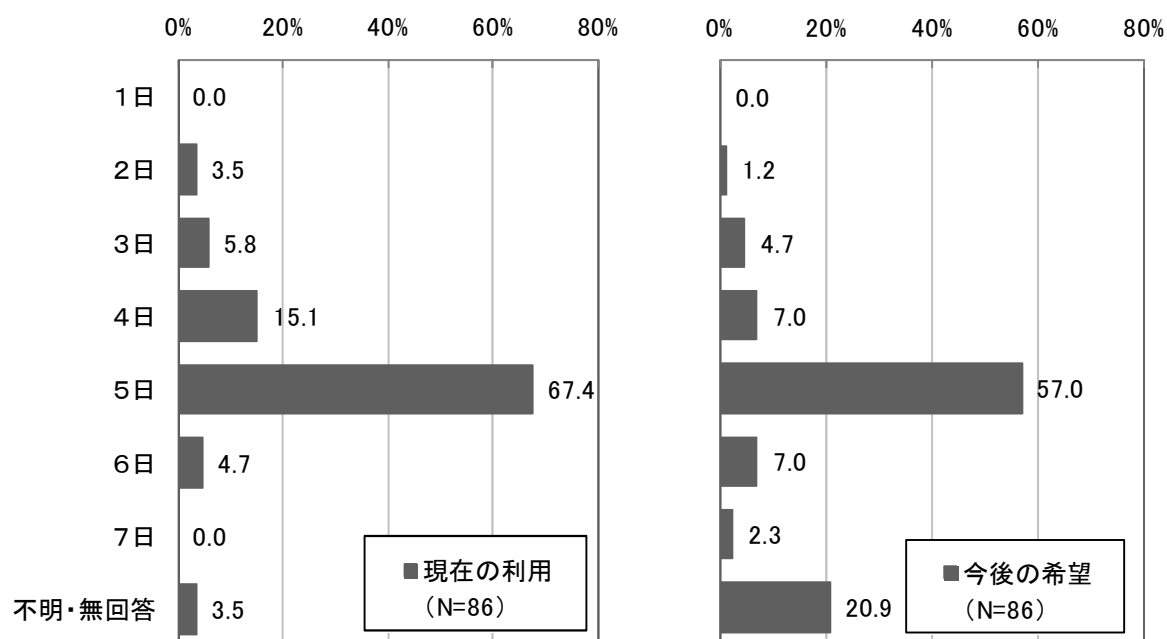
◆(放課後の居場所として「児童クラブ・学童クラブ」と答えた方)

週当たりの利用日数の(1)現在の利用状況と(2)今後の希望

[小：問8-1 (1)(2)] <数量回答>

現在の利用では、「5日」が67.4%と最も高く、次いで「4日」が15.1%、「3日」が5.8%となっています。

今後の希望では、「5日」が57.0%と最も高く、次いで「4日」「6日」がそれぞれ7.0%、「3日」が4.7%となっています。



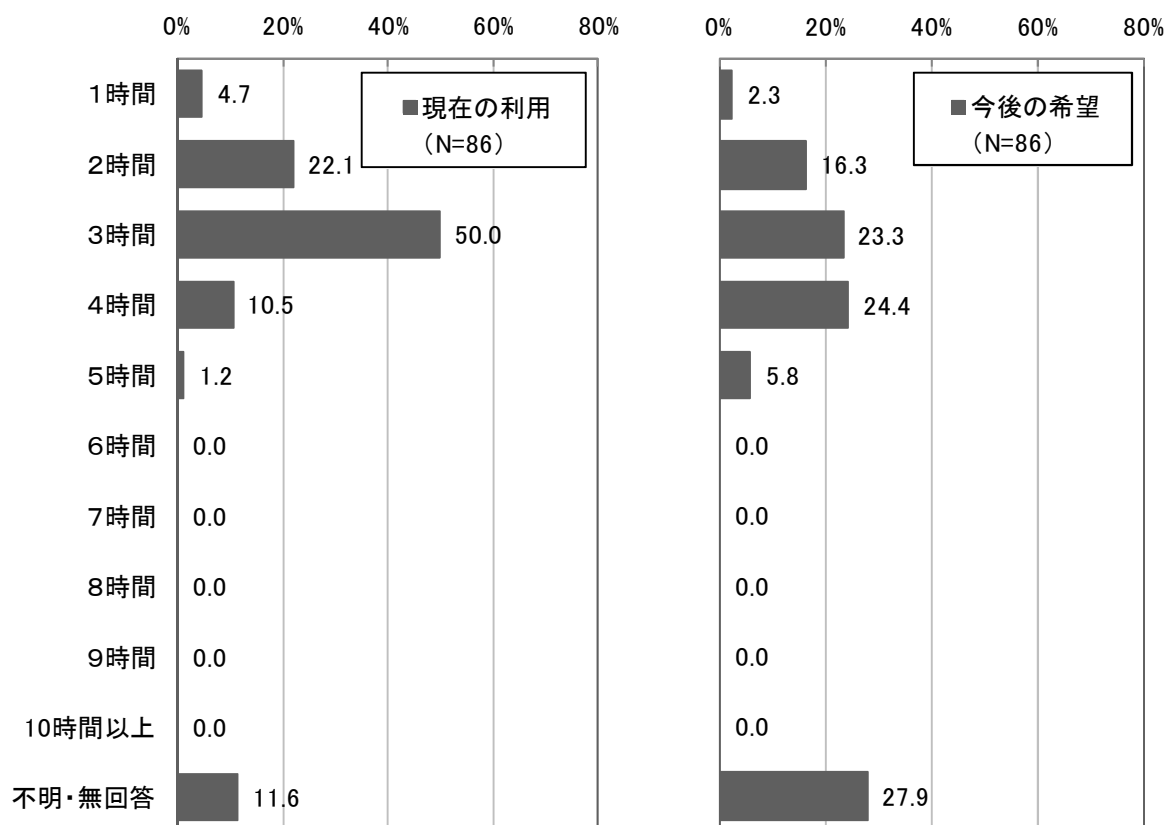
◆(放課後の居場所として「児童クラブ・学童クラブ」と答えた方)

1日当たりの利用時間の(1)現在の利用状況と(2)今後の希望

[小：問8-1 (1)(2)] <数量回答>

現在の利用では、「3時間」が 50.0%と最も高く、次いで「2時間」が 22.1%、「4時間」が 10.5%となっています。

今後の希望では、「4時間」が 24.4%と最も高く、次いで「3時間」が 23.3%、「2時間」が 16.3%となっています。



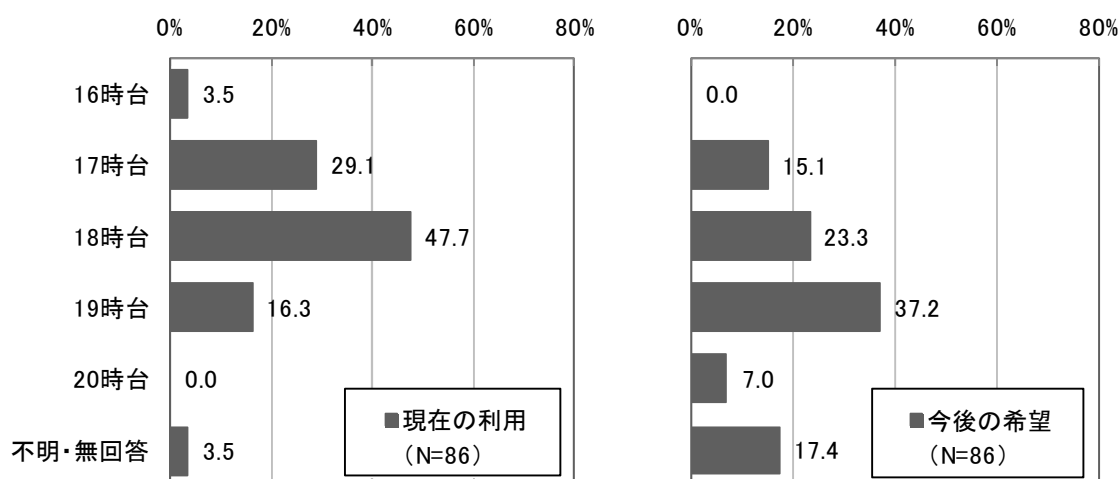
◆(放課後の居場所として「児童クラブ・学童クラブ」と答えた方)

下校時からの利用希望時間の(1)現在の利用状況と(2)今後の希望

[小：問8-1 (1)(2)] <数量回答>

現在の利用では、「18時台」が47.7%と最も高く、次いで「17時台」が29.1%、「19時台」が16.3%となっています。

今後の希望では、「19時台」が37.2%と最も高く、次いで「18時台」が23.3%、「17時台」が15.1%となっています。



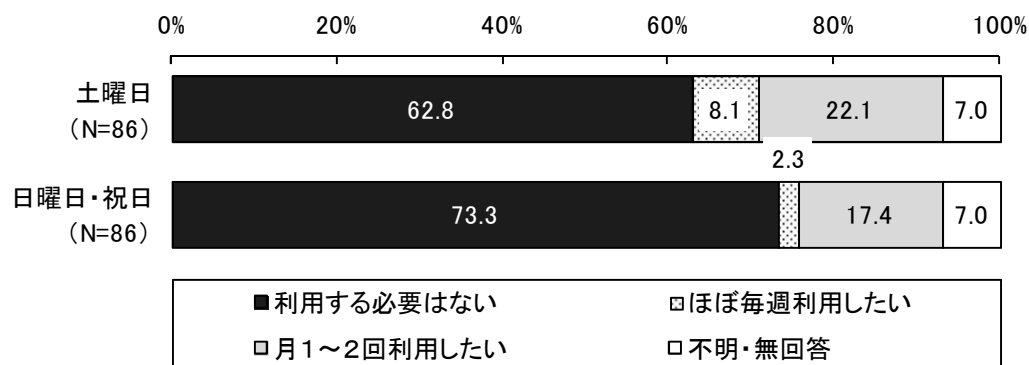
◆(放課後の居場所として「児童クラブ・学童クラブ」と答えた方)

土曜日、日曜日・祝日について、児童クラブ・学童クラブの利用希望をお答えください。

[小：問8-2] <単数回答>

土曜日では、「利用する必要はない」が62.8%と最も高く、次いで「月1～2回利用したい」が22.1%、「ほぼ毎週利用したい」が8.1%となっています。

日曜日・祝日では、「利用する必要はない」が73.3%と最も高く、次いで「月1～2回利用したい」が17.4%、「ほぼ毎週利用したい」が2.3%となっています。

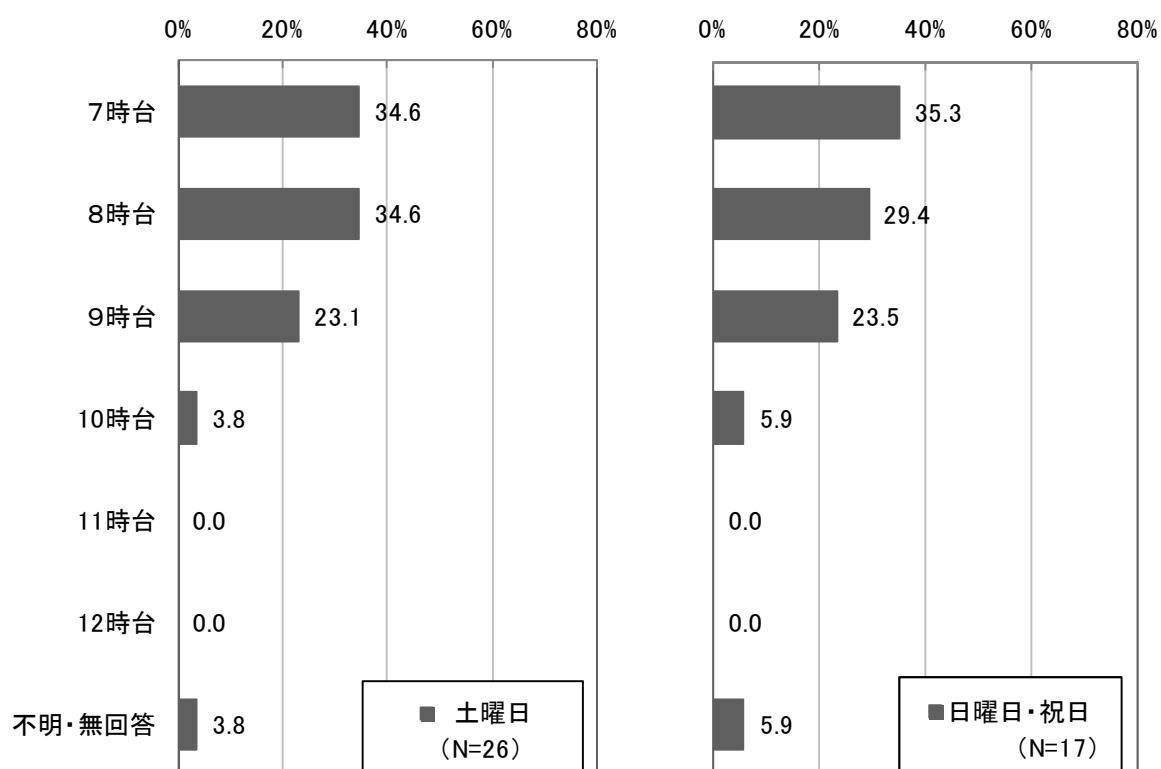


◆(土曜日、日曜日・祝日について、児童クラブ・学童クラブを「利用したい」と答えた方)

利用を希望する時間帯(開始時間)[小：問8-2(1)・(2)] <数量回答>

土曜日では、「7時台」「8時台」がそれぞれ34.6%と最も高く、次いで「9時台」が23.1%、「10時台」が3.8%となっています。

日曜日・祝日では、「7時台」が35.3%と最も高く、次いで「8時台」が29.4%、「9時台」が23.5%となっています。

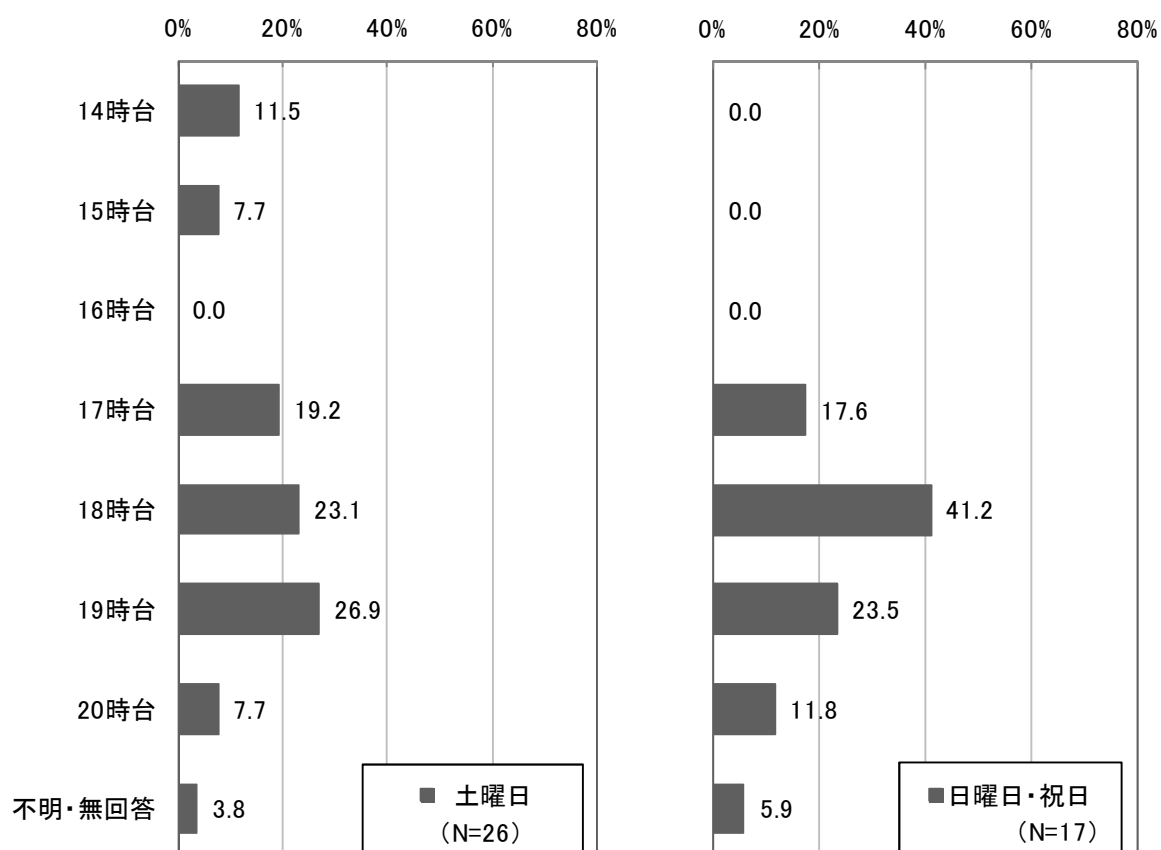


◆(土曜日、日曜日・祝日について、児童クラブ・学童クラブを「利用したい」と答えた方)

利用を希望する時間帯(終了時間)[小：問8-2 (1)・(2)] <数量回答>

土曜日では、「19 時台」が 26.9%と最も高く、次いで「18 時台」が 23.1%、「17 時台」が 19.2%となっています。

日曜日・祝日では、「18 時台」が 41.2%と最も高く、次いで「19 時台」が 23.5%、「17 時台」が 17.6%となっています。

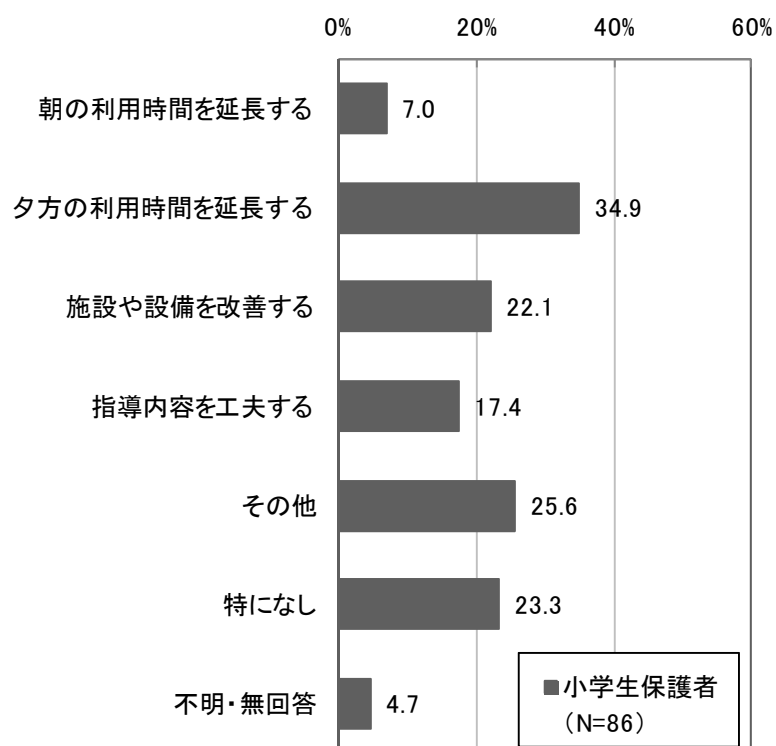


◆(放課後の居場所として「児童クラブ・学童クラブ」と答えた方)

現在通っている児童クラブ・学童クラブにどのようなことを希望しますか。

[小：問8-3] <複数回答>

現在の利用では、「夕方の利用時間を延長する」が34.9%と最も高く、次いで「その他」が25.6%、「特になし」が23.3%となっています。

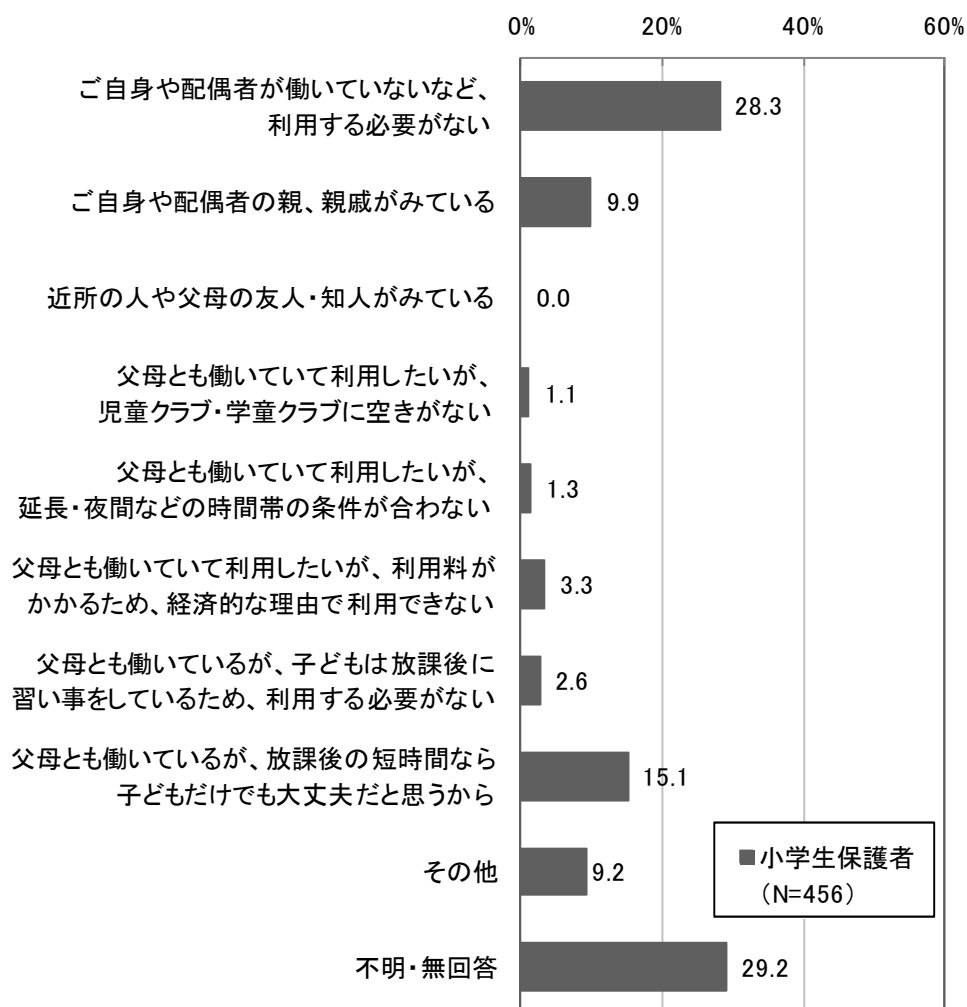


◆(放課後の居場所として「児童クラブ・学童クラブ」と答えなかった方)

児童クラブ・学童クラブを利用していない主な理由をお答え下さい。

[小：問8-4] <単数回答>

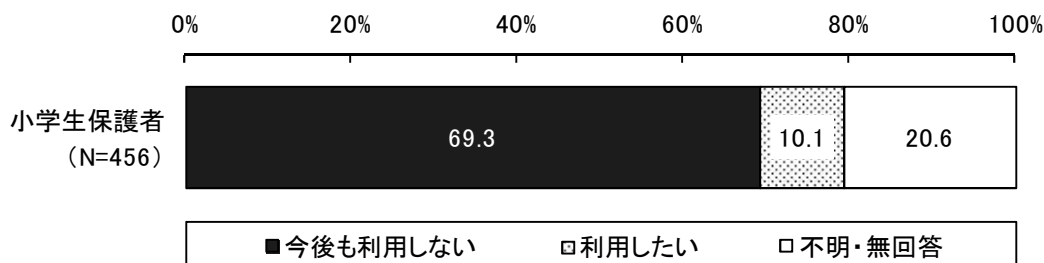
現在の利用では、「ご自身や配偶者が働いていないなど、利用する必要がない」が 28.3%と最も高く、次いで「父母とも働いているが、放課後の短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから」が 15.1%、「ご自身や配偶者の親、親戚がみている」が 9.9%となっています。



◆(放課後の居場所として「児童クラブ・学童クラブ」と答えなかった方)

あて名のお子さんについて、今後、父母とも働く予定があるなどの理由で、児童クラブ・学童クラブを利用したいとお考えですか[小：問8-5(1)] <単数回答>

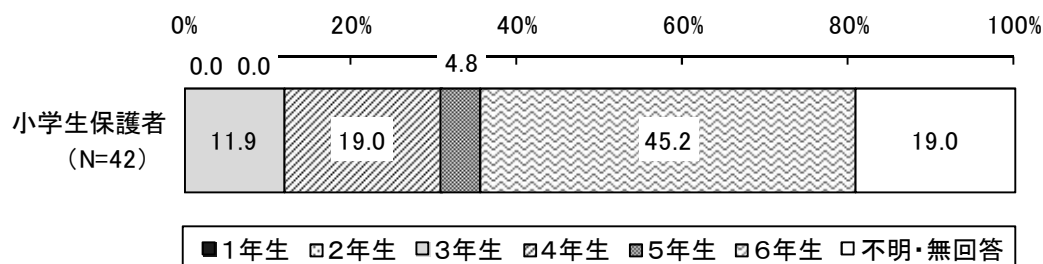
「今後も利用しない」が69.3%と最も高く、次いで「利用したい」が10.1%となっています。



◆(今後、児童クラブ・学童クラブを「利用したい」と答えた方)

利用を希望する子どもの学年(何年生まで利用したいか)[小：問8-5(1)] <単数回答>

「6年生」が45.2%と最も高く、次いで「4年生」が19.0%、「3年生」が11.9%となっています。



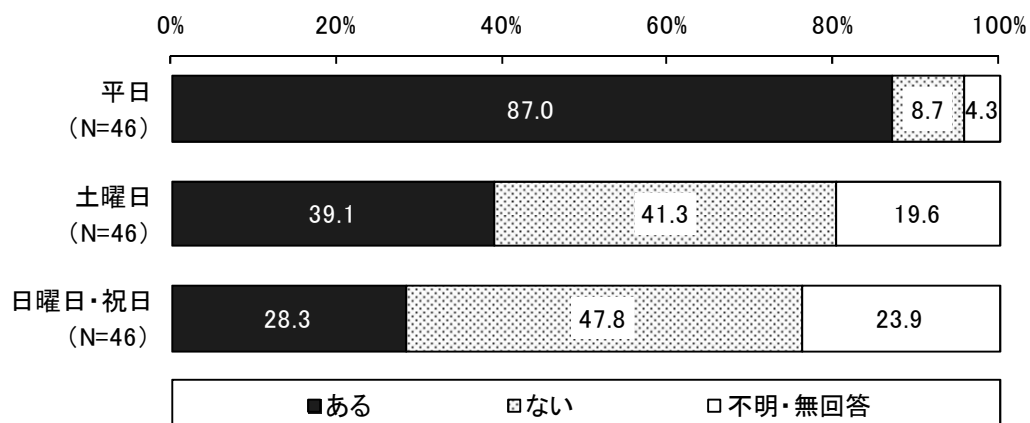
◆(今後、児童クラブ・学童クラブを「利用したい」と答えた方)

平日、土曜日、日曜日・祝日の利用希望[小：問8-5(2)] <単数回答>

平日では、「ある」が87.0%と最も高く、次いで「ない」が8.7%となっています。

土曜日では、「ない」が41.3%と最も高く、次いで「ある」が39.1%となっています。

日曜日・祝日では、「ない」が47.8%と高く、次いで「ある」が28.3%となっています。

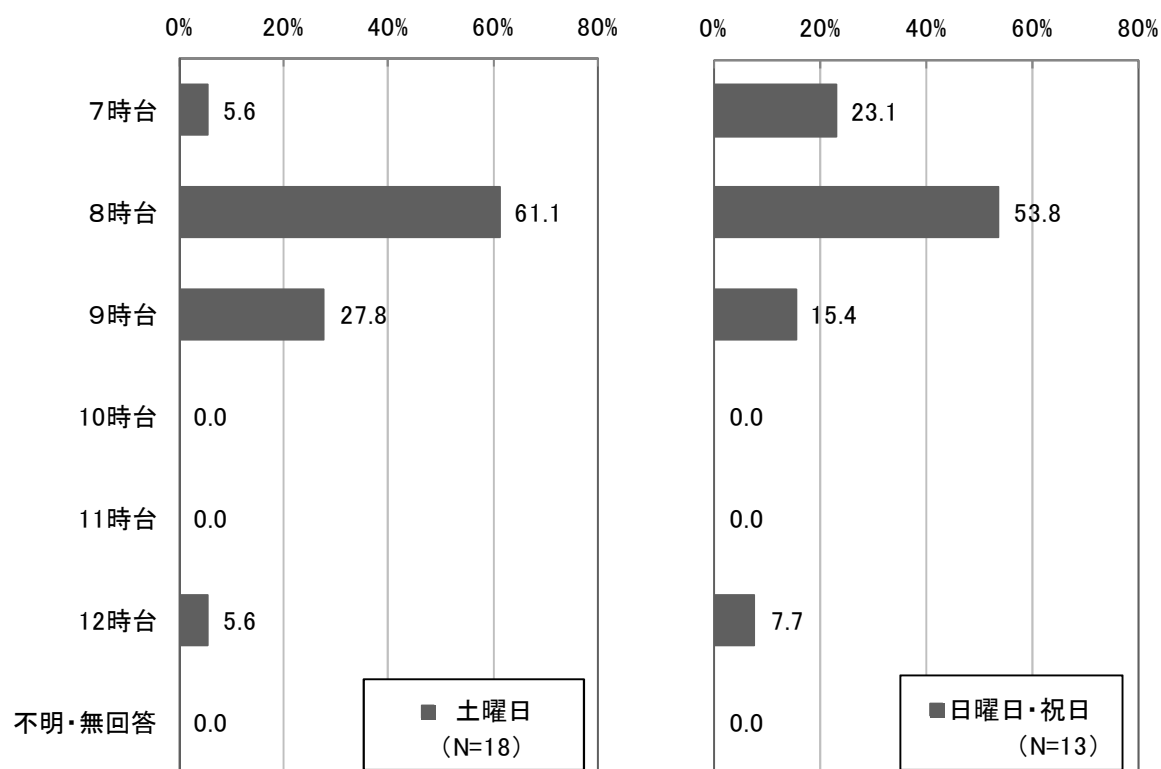


◆(土曜日、日曜日・祝日に児童クラブ・学童クラブを「利用したい」と答えた方)

利用を希望する時間帯(開始時間) [小：問8-5 (3)] <数量回答>

土曜日では、「8時台」が61.1%と最も高く、次いで「9時台」が27.8%、「7時台」「12時台」がそれぞれ5.6%となっています。

日曜日・祝日では、「8時台」が53.8%と最も高く、次いで「7時台」が23.1%、「9時台」が15.4%となっています。



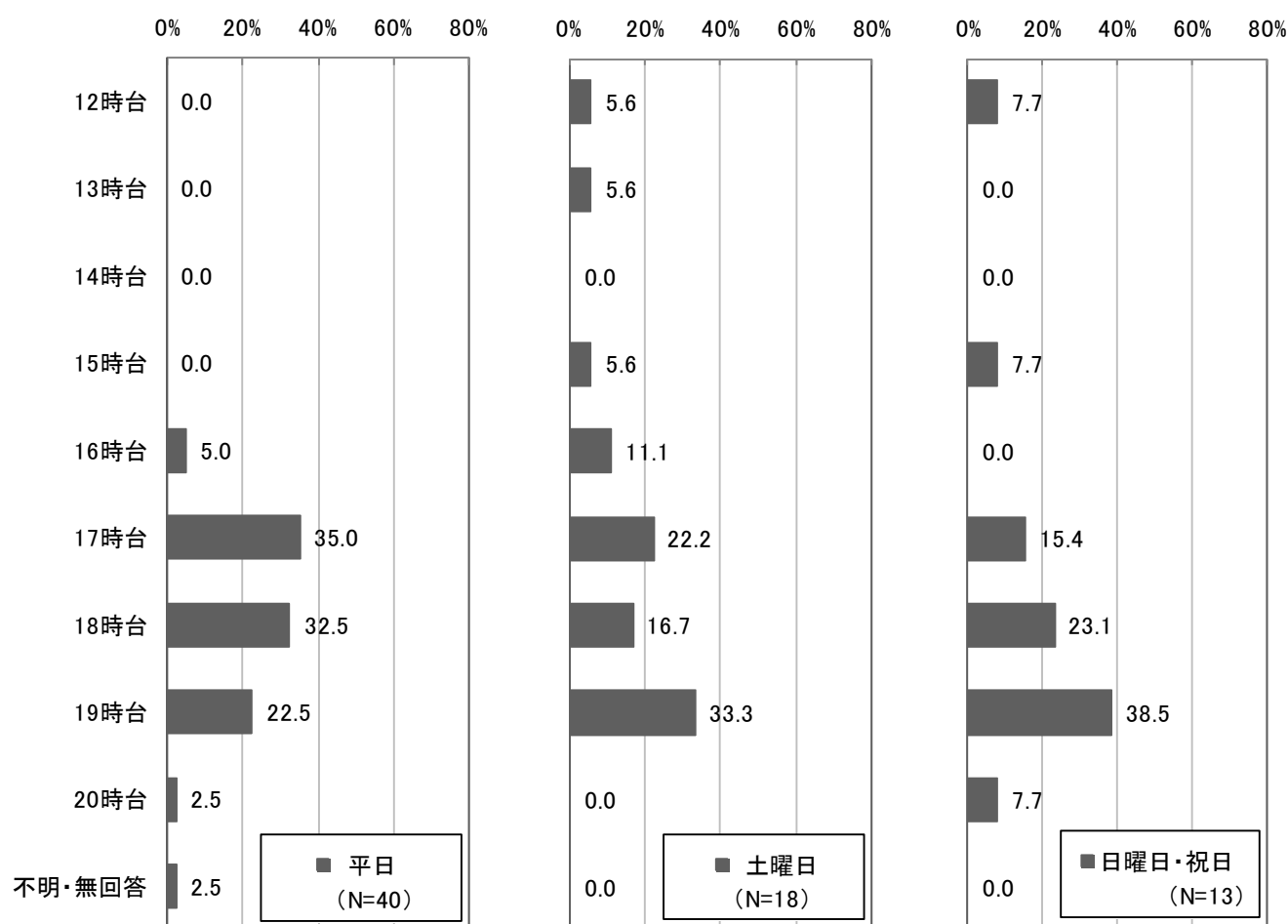
◆(児童クラブ・学童クラブを「利用したい」と答えた方)

利用を希望する時間帯(終了時間) [小：問8-5 (3)] <数量回答>

平日では、「17 時台」が 35.0%と最も高く、次いで「18 時台」が 32.5%、「19 時台」が 22.5%となっています。

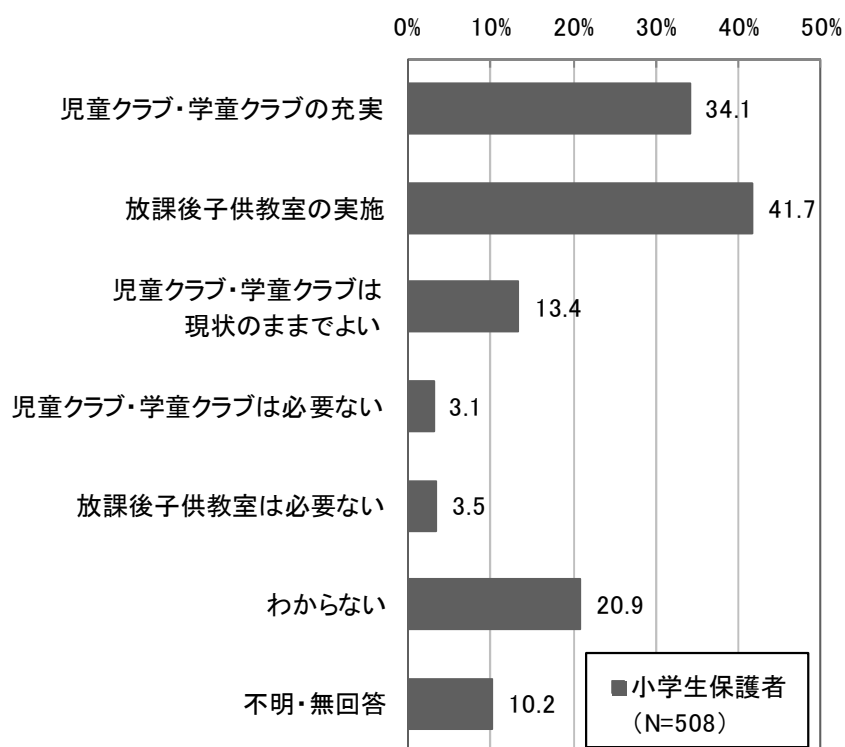
土曜日では、「19 時台」が 33.3%と最も高く、次いで「17 時台」が 22.2%、「18 時台」が 16.7%となっています。

日曜日・祝日では、「19 時台」が 38.5%と最も高く、次いで「18 時台」が 23.1%、「17 時台」が 15.4%となっています。



◆あて名のお子さんの放課後の安全な居場所の整備について今後どのように希望しますか。[小：問9] <複数回答>

「放課後子供教室の実施」が41.7%と最も高く、次いで「児童クラブ・学童クラブの充実」が34.1%、「わからない」が20.9%となっています。



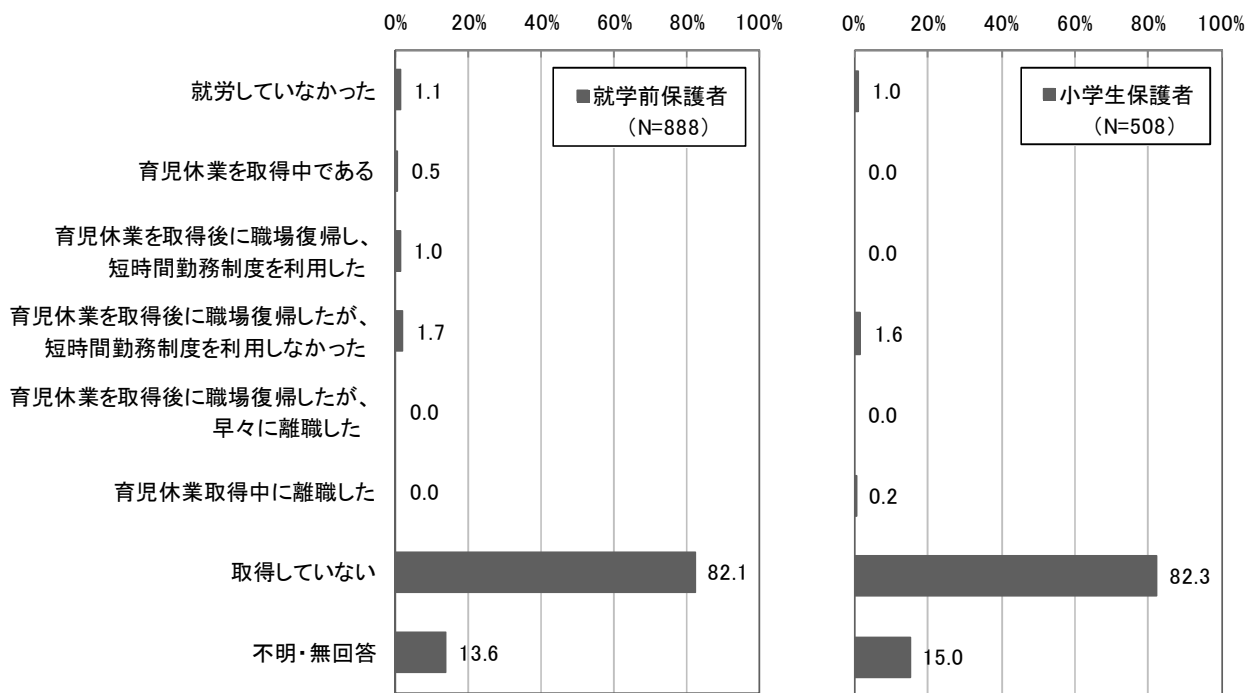
10. 育児休業や短時間勤務制度等、職場の両立支援制度について

◆あて名のお子さんが生まれたときの育児休業の取得について、父母それぞれに対してお答えください。[前：問 24、小：問 12] <単数回答>

【父親】

就学前保護者では、「取得していない」が 82.1%と最も高く、次いで「育児休業を取得後に職場復帰したが、短時間勤務制度を利用しなかった」が 1.7%、「就労していなかった」が 1.1%となっています。

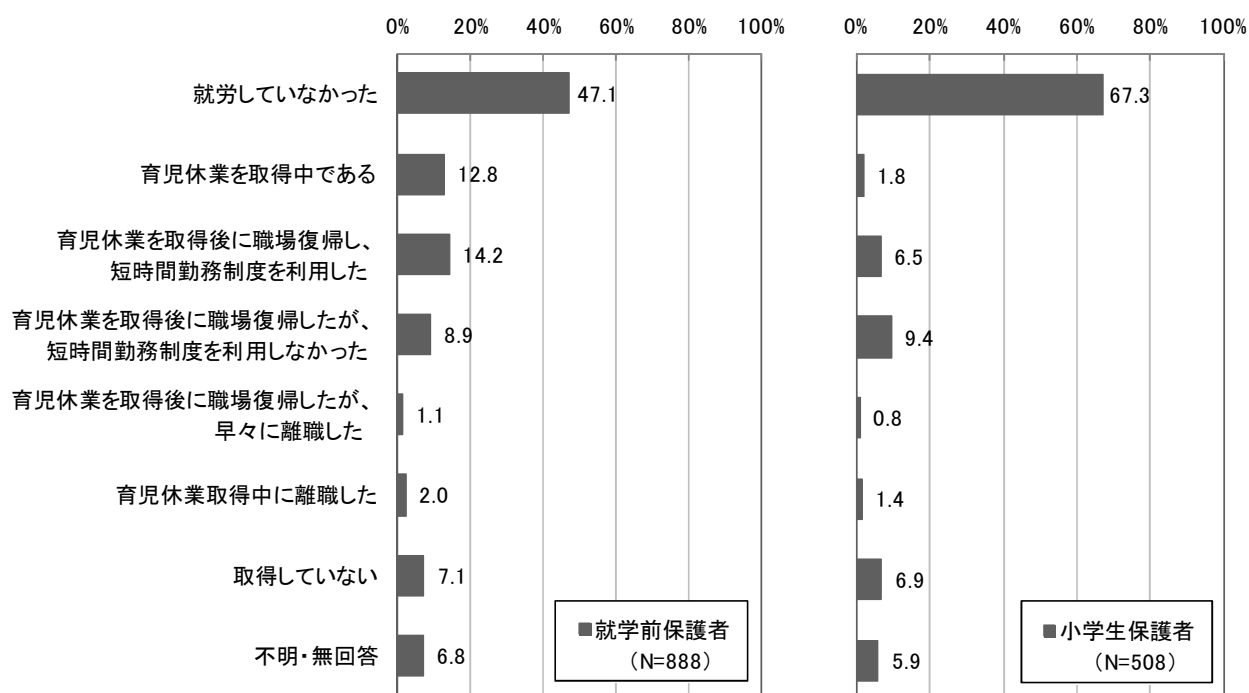
小学生保護者では、「取得していない」が 82.3%と最も高く、次いで「育児休業を取得後に職場復帰したが、短時間勤務制度を利用しなかった」が 1.6%、「就労していなかった」が 1.0%となっています。



【母親】

就学前保護者では、「就労していなかった」が 47.1%と最も高く、次いで「育児休業を取得後に職場復帰し、短時間勤務制度を利用した」が 14.2%、「育児休業を取得中である」が 12.8%となっています。

小学生保護者では、「就労していなかった」が 67.3%と最も高く、次いで「育児休業を取得後に職場復帰したが、短時間勤務制度を利用しなかった」が 9.4%、「取得していない」が 6.9%となっています。



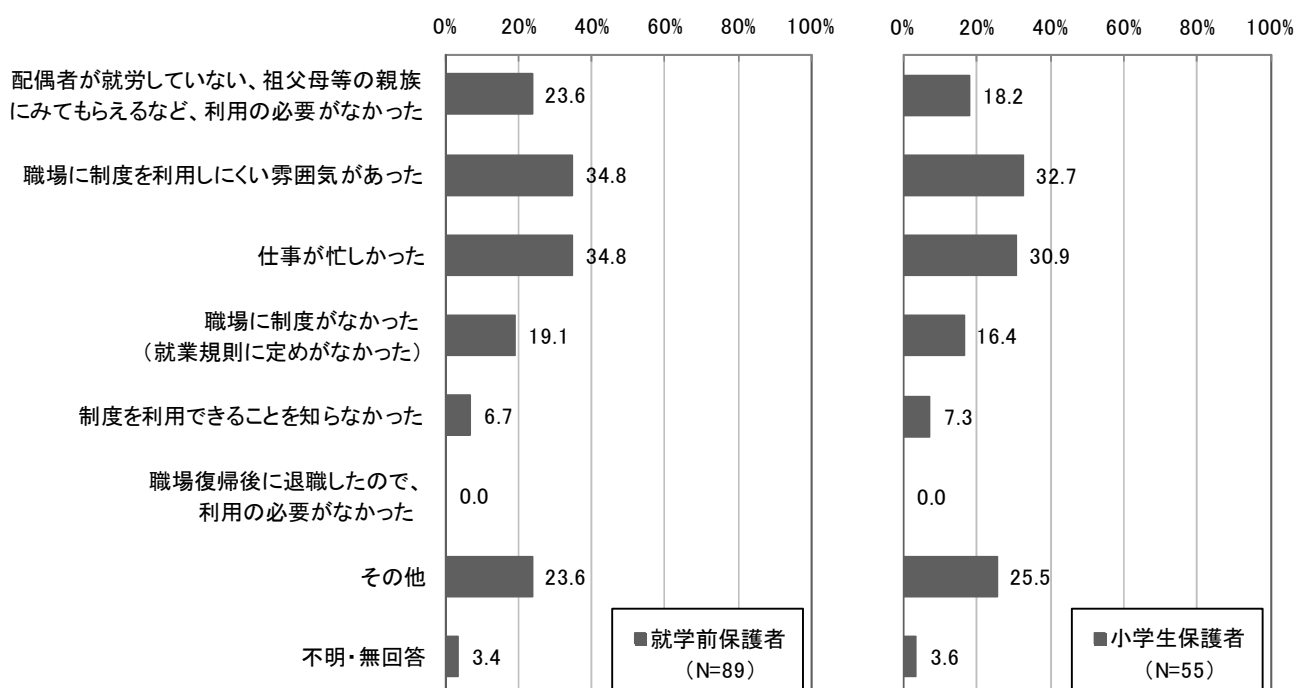
◆(父母のどちらかまたは両方が「育児休業を取得後に職場復帰したが、短時間勤務制度を利用しなかった」と答えた方)

その方が短時間勤務制度を利用しなかった理由をお答えください。

[前：問 24-1、小：問 12-1] <複数回答>

就学前保護者では、「職場に制度を利用しにくい雰囲気があった」「仕事が忙しかった」がともに 34.8%と最も高く、次いで「配偶者が就労していない、祖父母等の親族にみてもらえるなど、利用の必要がなかった」「その他」が 23.6%となっています。

小学生保護者では、「職場に制度を利用しにくい雰囲気があった」が 32.7%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」が 30.9%、「その他」が 25.5%となっています。



◆(父母のどちらかまたは両方が「育児休業を取得後に職場復帰したが、早々に離職した」と答えた方)

その方が離職した理由をお答えください。[前：問 24-2、小：問 12-2] <複数回答>

就学前保護者では、「その他」が 6 件、「職場に育児休業制度等、仕事と家庭の両立支援制度が整っていなかった」が 3 件、「就労の必要がなくなった」が 1 件となっています。

小学生保護者では、「職場に育児休業制度等、仕事と家庭の両立支援制度が整っていなかった」が 2 件、「就労の必要がなくなった」「その他」がそれぞれ 1 件となっています。

上段:件数 下段:%	合計	職場に育児休業制度等、仕事と家庭の両立支援制度が整っていなかった	就労の必要がなくなった	その他	不明・無回答
就学前保護者 (N=10)	10 100.0	3 30.0	1 10.0	6 60.0	- -
小学生保護者 (N=4)	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	- -

◆父母のどちらかまたは両方が「育児休業取得中に離職した」と答えた方

その方が離職した理由をお答えください。[前：問 24-3、小：問 12-3] <複数回答>

就学前保護者では、「制度の有無などに関係なく、出産後は仕事を辞めるつもりだった」が 8 件と最も多く、「その他」が 4 件、「職場に育児休業制度等、仕事と家庭の両立支援制度が整っていなかった」が 3 件となっています。

小学生保護者では、「保育施設等を確実に利用できる見込みがなかった」が 4 件、「職場に育児休業制度等、仕事と家庭の両立支援制度が整っていなかった」「制度の有無などに関係なく、出産後は仕事を辞めるつもりだった」「その他」がそれぞれ 2 件となっています。

上段:件数 下段:%	合計	保育施設等を確実に利用できる見込みがなかった	職場に育児休業制度等、仕事と家庭の両立支援制度が整っていなかった	制度の有無などに関係なく、出産後は仕事を辞めるつもりだった	その他	不明・無回答
就学前保護者 (N=18)	18 100.0	2 11.1	3 16.7	8 44.4	4 22.2	2 11.1
小学生保護者 (N=7)	7 100.0	4 57.1	2 28.6	2 28.6	2 28.6	- -

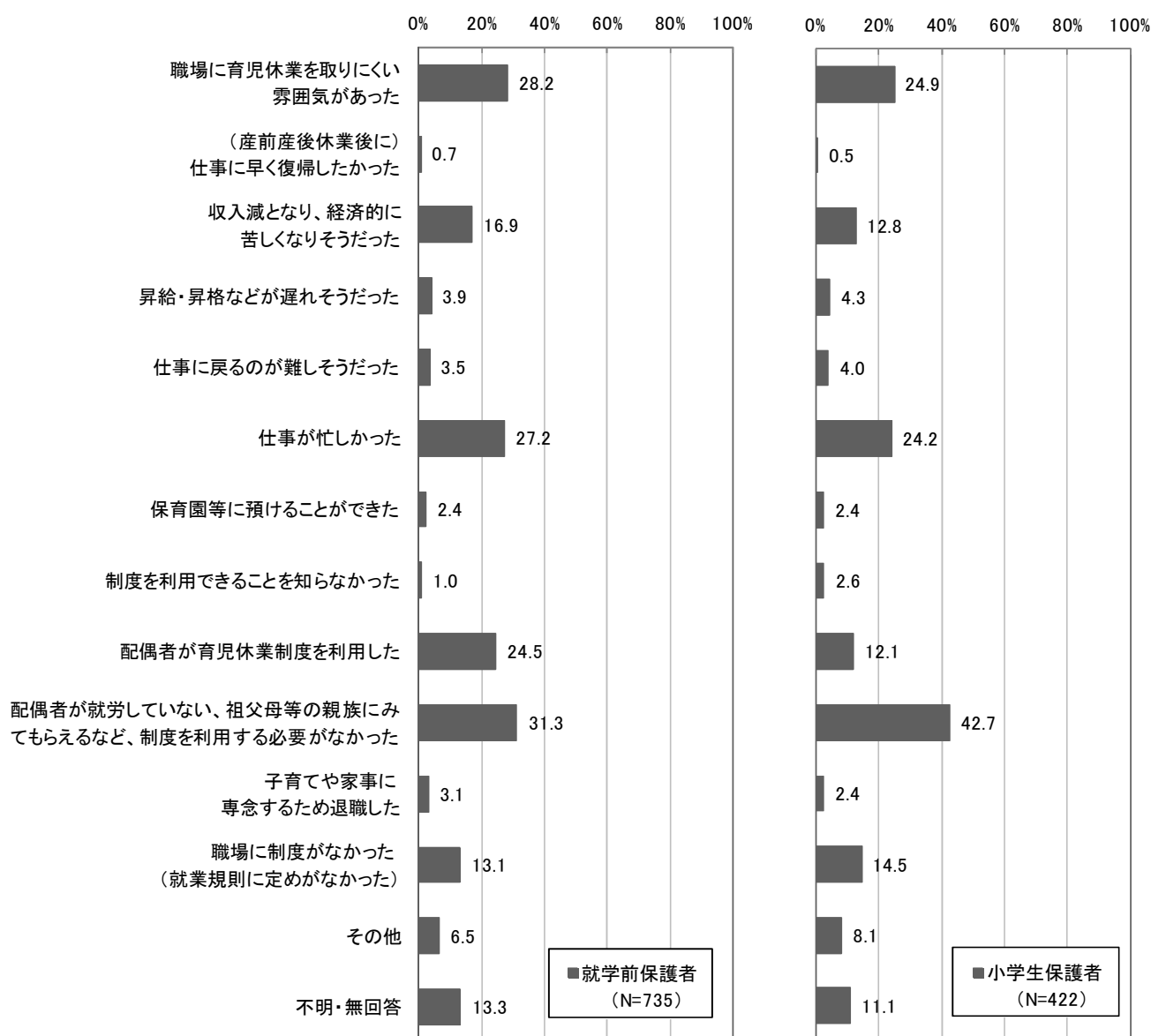
◆父母のどちらかまたは両方が「取得していない」と答えた方

その方が育児休業制度を利用しなかった理由をお答えください。

〔前：問 24-4、小：問 12-4〕 〈複数回答〉

就学前保護者では、「配偶者が就労していない、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が 31.3%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 28.2%、「仕事が忙しかった」が 27.2%となっています。

小学生保護者では、「配偶者が就労していない、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が 42.7%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 24.9%、「仕事が忙しかった」が 24.2%となっています。



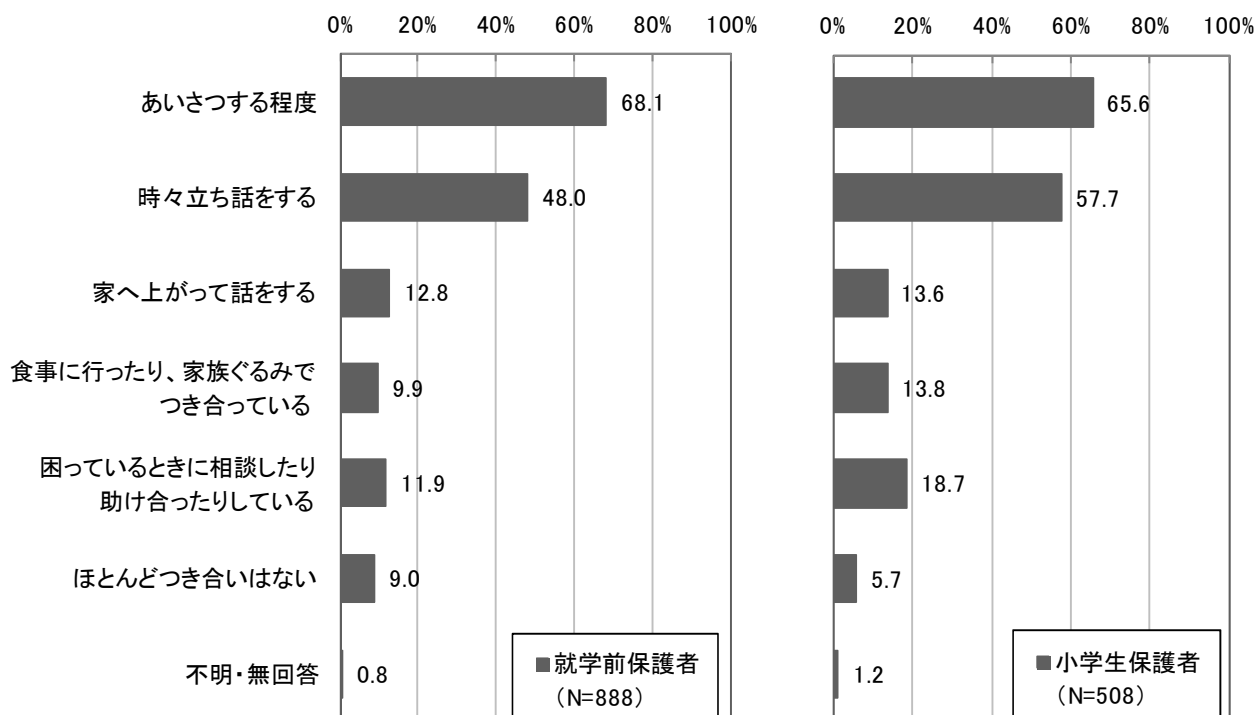
11. 子育て全般について

◆あなたの近所や地域の方とのつき合いはどの程度ですか。

[前：問 25、小：問 13] <複数回答>

就学前保護者では、「あいさつする程度」が 68.1%と最も高く、次いで「時々立ち話をする」が 48.0%、「家へ上がって話をする」が 12.8%となっています。

小学生保護者では、「あいさつする程度」が 65.6%と最も高く、次いで「時々立ち話をする」が 57.7%、「困っているときに相談したり助け合ったりしている」が 18.7%となっています。

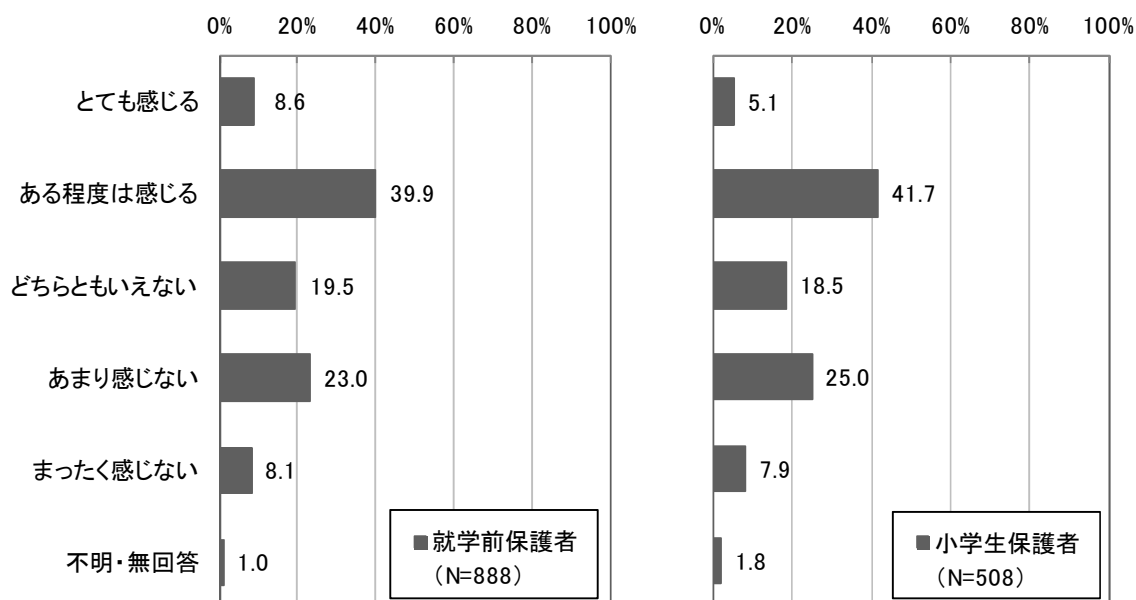


◆あなたは、尾張旭市で子育てをしていて、地域で支えられていると感じますか。

[前：問 26、小：問 14] <単数回答>

就学前保護者では、「ある程度は感じる」が 39.9%と最も高く、次いで「あまり感じない」が 23.0%、「どちらともいえない」が 19.5%となっています。

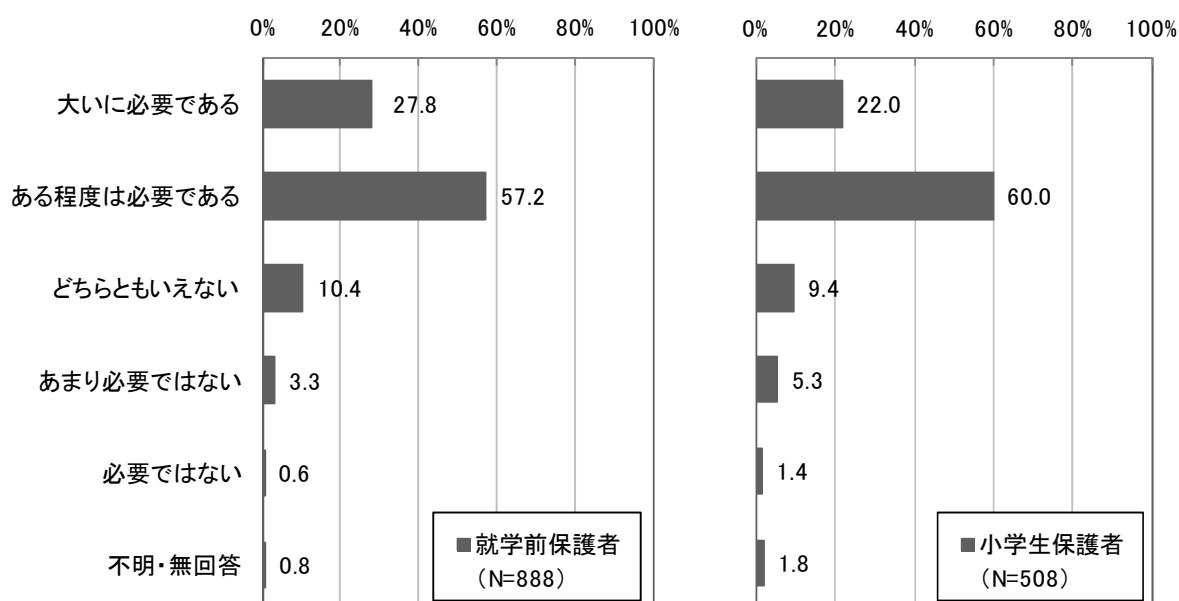
小学生保護者では、「ある程度は感じる」が 41.7%と最も高く、次いで「あまり感じない」が 25.0%、「どちらともいえない」が 18.5%となっています。



◆あなたは、子育てがしやすいまちの要素として、地域のつながり(ネットワークや団体)は必要だと思いますか。[前：問 27、小：問 15] <単数回答>

就学前保護者では、「ある程度は必要である」が 57.2%と最も高く、次いで「大いに必要である」が 27.8%、「どちらともいえない」が 10.4%となっています。

小学生保護者では、「ある程度は必要である」が 60.0%と最も高く、次いで「大いに必要である」が 22.0%、「どちらともいえない」が 9.4%となっています。

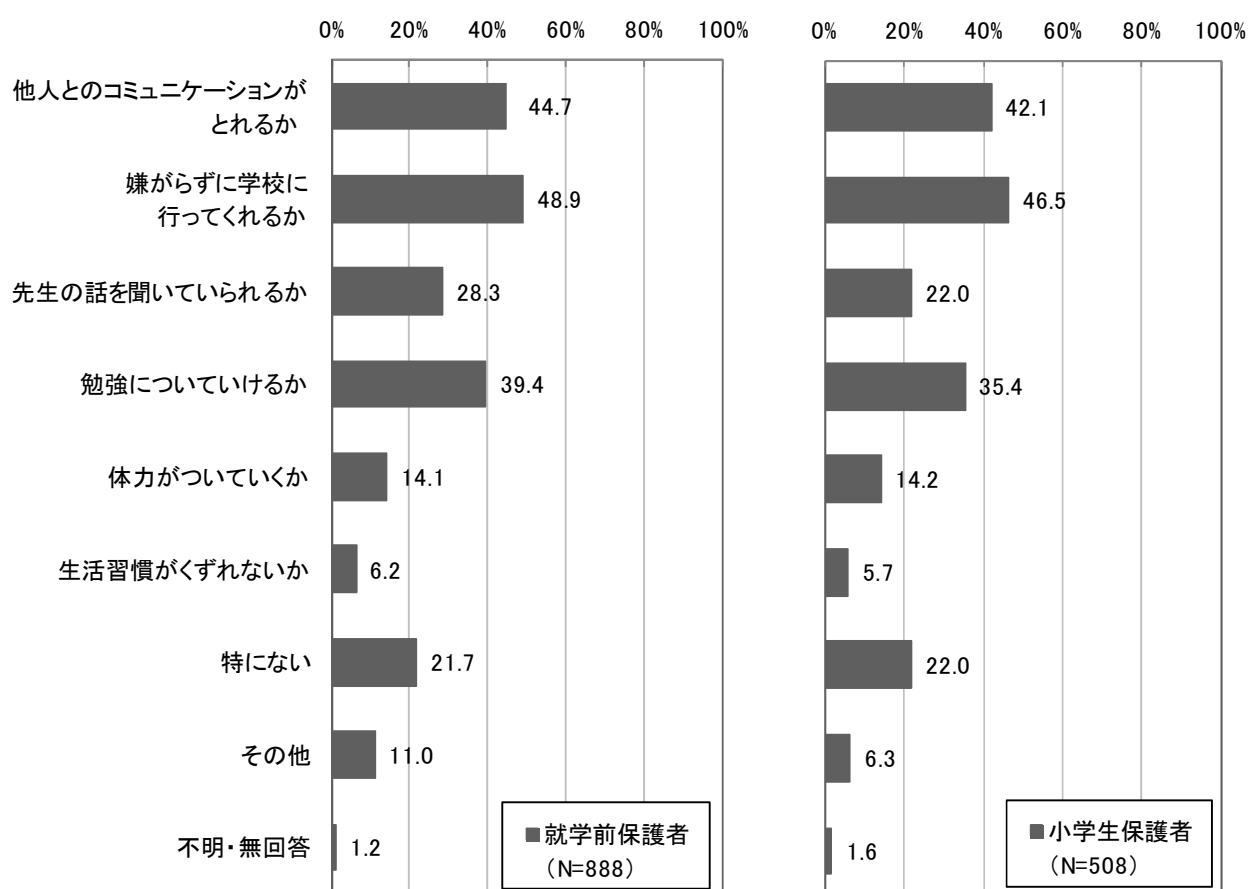


◆あなたは、あて名のお子さんが小学校に進学する際に感じる不安はありますか。

[前：問 28、小：問 16] <複数回答>

就学前保護者では、「嫌がらずに学校に行ってくれるか」が 48.9%と最も高く、次いで「他人とのコミュニケーションがとれるか」が 44.7%、「勉強についていけるか」が 39.4%となっています。

小学生保護者では、「嫌がらずに学校に行ってくれるか」が 46.5%と最も高く、次いで「他人とのコミュニケーションがとれるか」が 42.1%、「勉強についていけるか」が 35.4%となっています。



◆尾張旭市の子育て施策について、あなたの感じる「満足度」をお答えください。

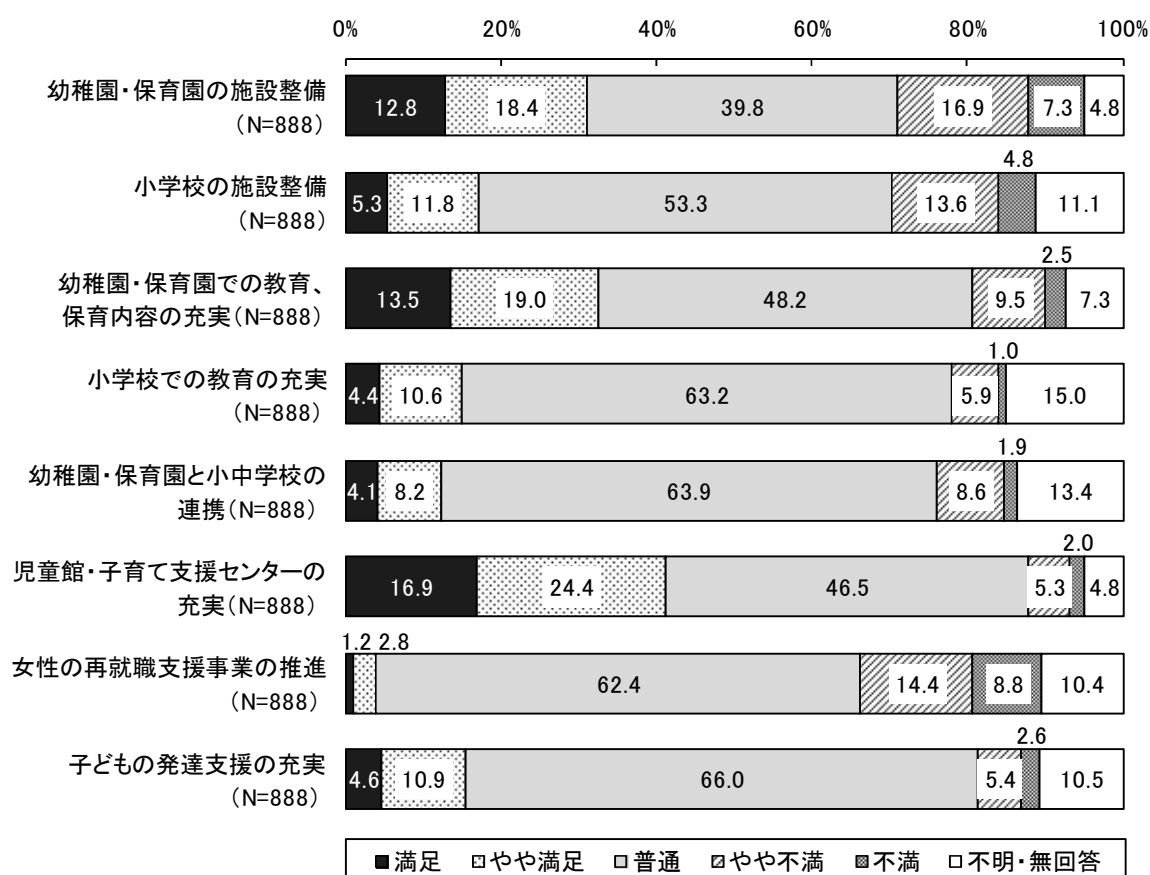
[前：問 29、小：問 17] <単数回答>

【就学前保護者】

『満足計』（「満足」と「やや満足」の割合の合計）の割合についてみると、「児童館・子育て支援センターの充実」が 41.3%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園での教育、保育内容の充実」が 32.5%、「幼稚園・保育園の施設整備」が 31.2%となっています。

『不満計』（「不満」と「やや不満」の割合の合計）の割合についてみると、「幼稚園・保育園の施設整備」が 24.2%と最も高く、次いで「女性の再就職支援事業の推進」が 23.2%、「小学校の施設整備」が 18.4%となっています。

【就学前保護者】

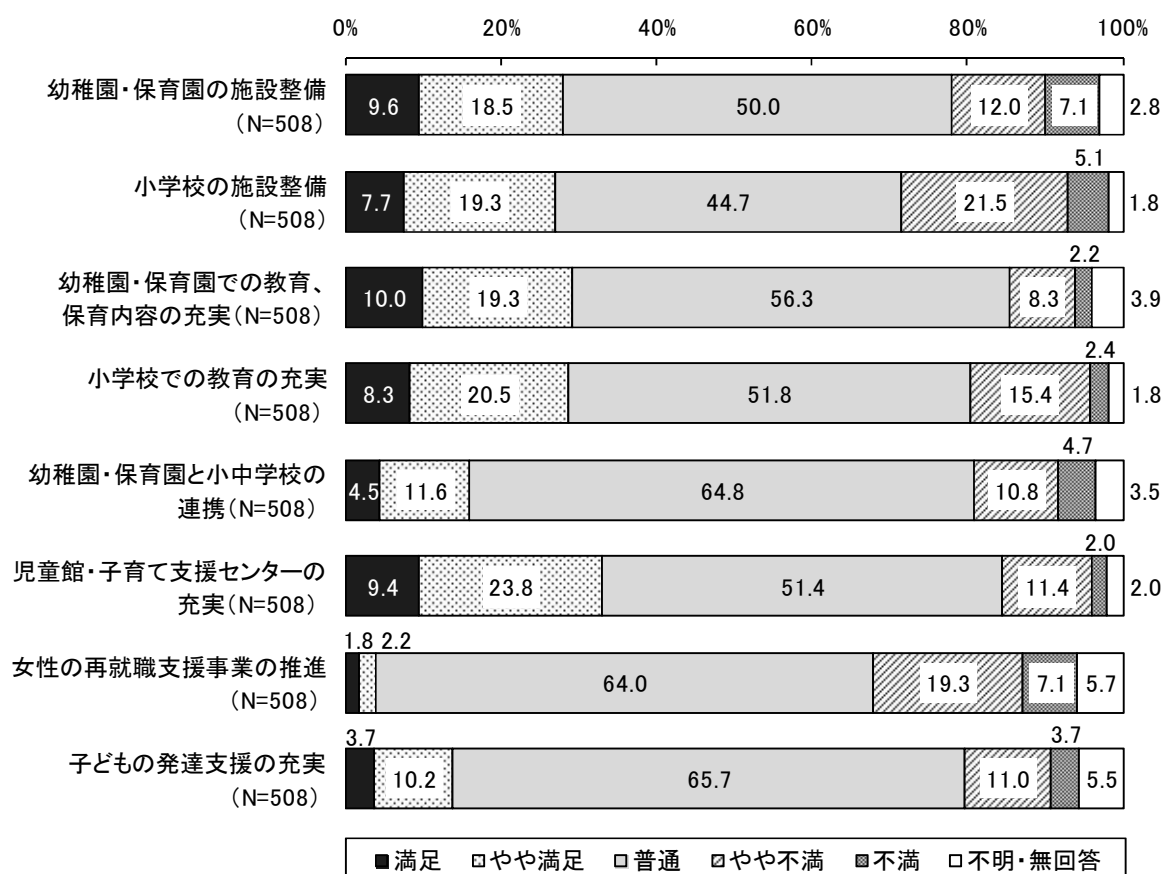


【小学生保護者】

『満足計』（「満足」と「やや満足」の割合の合計）の割合についてみると、「児童館・子育て支援センターの充実」が33.2%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園での教育、保育内容の充実」が29.3%、「小学校での教育の充実」が28.8%となっています。

『不満計』（「不満」と「やや不満」の割合の合計）の割合についてみると、「小学校の施設整備」が26.6%と最も高く、次いで「女性の再就職支援事業の推進」が26.4%、「幼稚園・保育園の施設整備」が19.1%となっています。

【小学生保護者】



◆尾張旭市の子育て施策について、あなたの感じる「重要度」をお答えください。

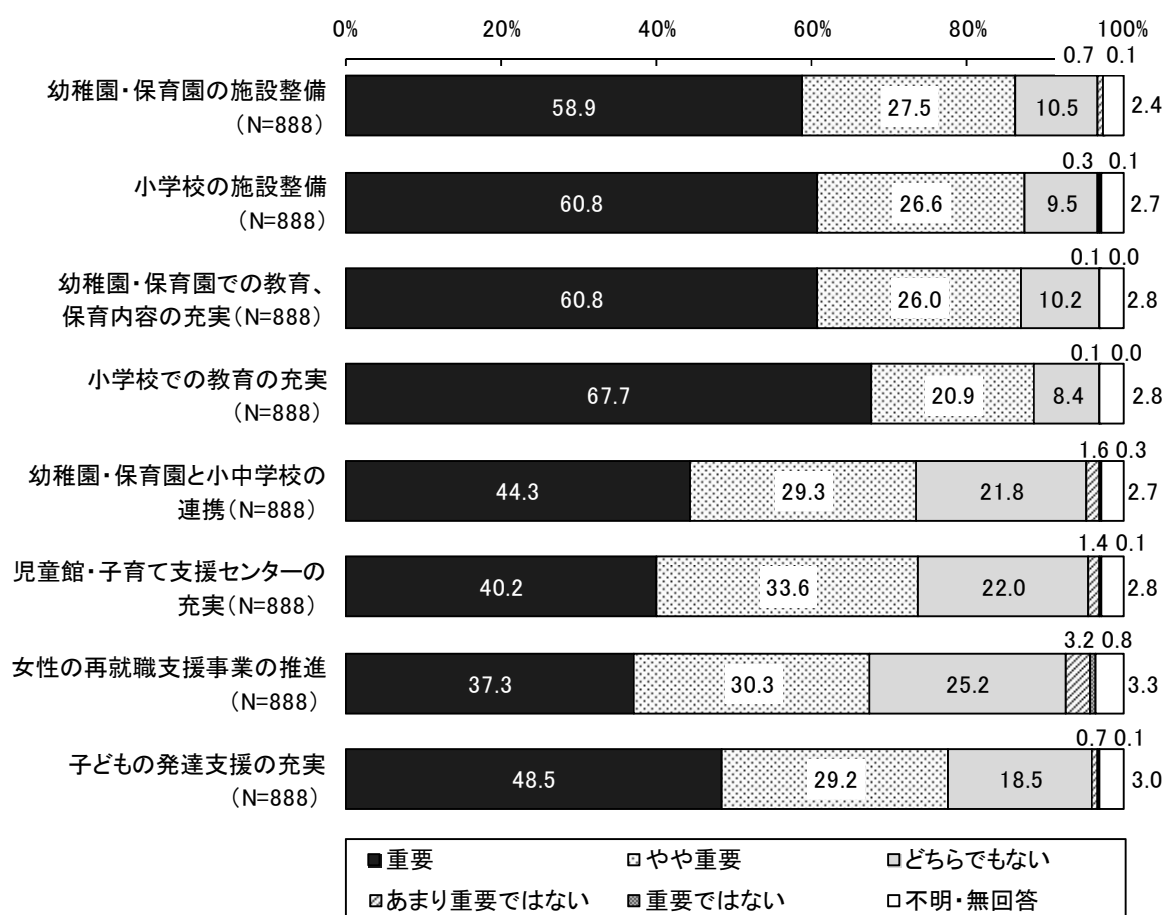
[前：問 29、小：問 17] <単数回答>

【就学前保護者】

『重要計』（「重要」と「やや重要」の割合の合計）の割合についてみると、「小学校での教育の充実」が 88.6%と最も高く、次いで「小学校の施設整備」が 87.4%、「幼稚園・保育園での教育、保育内容の充実」が 86.8%となっています。

『重要ではない計』（「重要ではない」と「あまり重要ではない」の割合の合計）の割合についてみると、「女性の再就職支援事業の推進」が 4.0%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園と小中学校の連携」が 1.9%、「児童館・子育て支援センターの充実」が 1.5%となっています。

【就学前保護者】

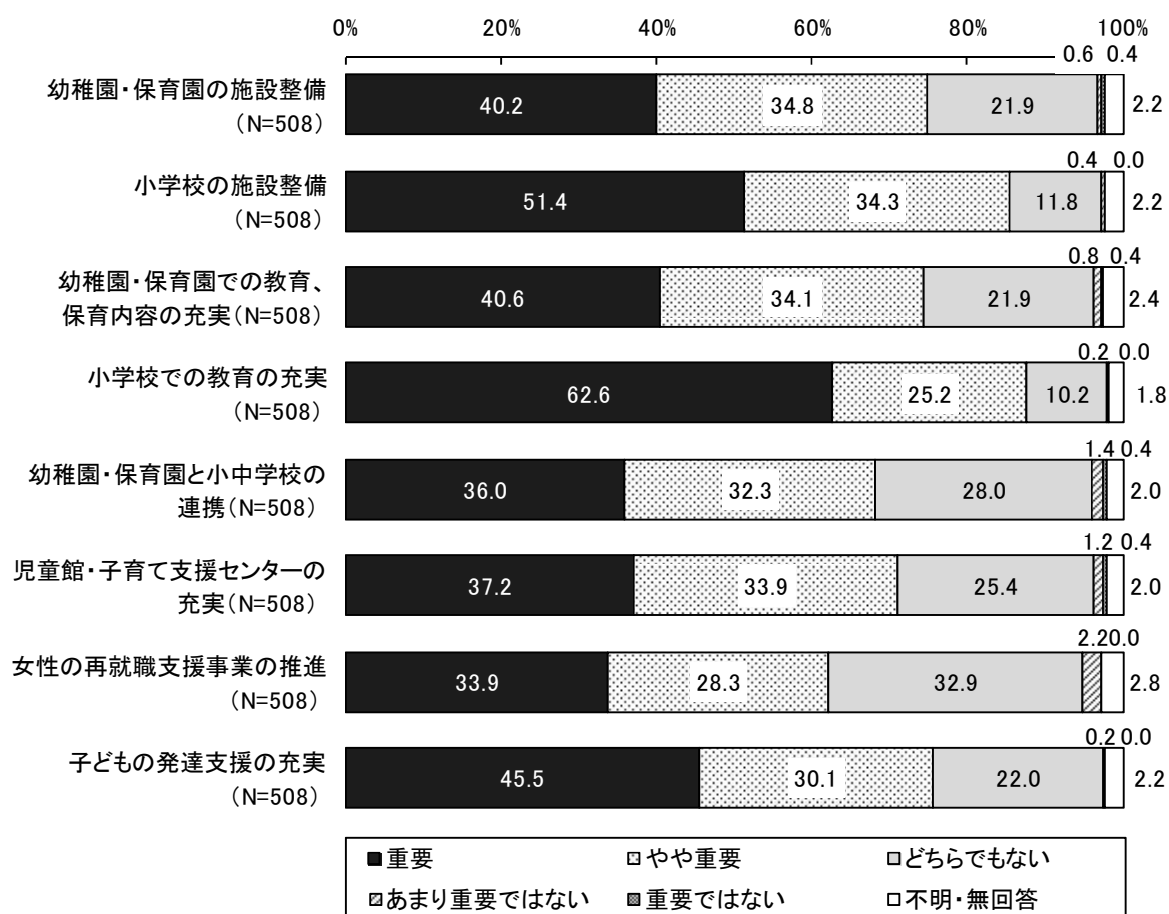


【小学生保護者】

『重要計』（「重要」と「やや重要」の割合の合計）の割合についてみると、「小学校での教育の充実」が87.8%と最も高く、次いで「小学校の施設整備」が85.7%、「子どもの発達支援の充実」が75.6%となっています。

『重要ではない計』（「重要ではない」と「あまり重要ではない」の割合の合計）の割合についてみると、「女性の再就職支援事業の推進」が2.2%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園と小中学校の連携」が1.8%、「児童館・子育て支援センターの充実」が1.6%となっています。

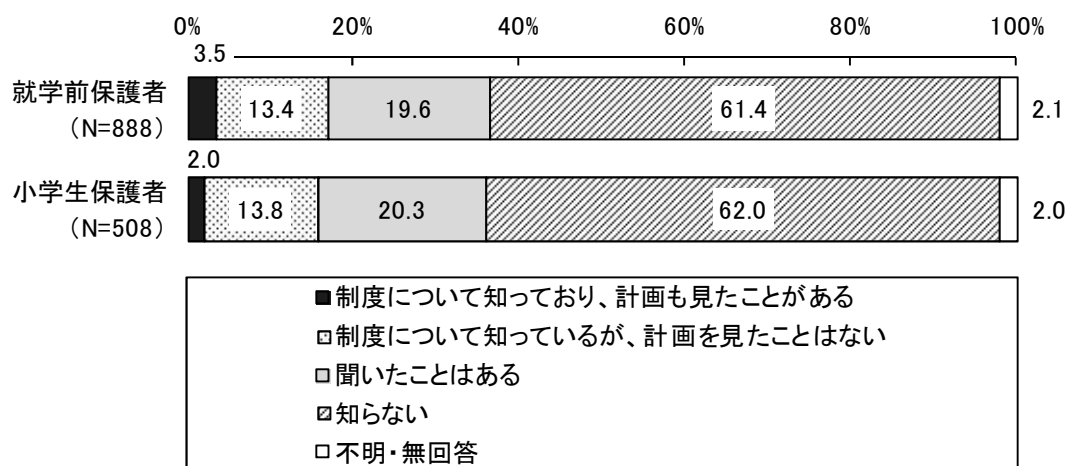
【小学生保護者】



◆平成27年度から子ども・子育て支援新制度がスタートし、尾張旭市が子ども・子育て支援事業計画を策定・推進していることを知っていますか。[前：問30、小：問18] <単数回答>

就学前保護者では、「知らない」が61.4%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が19.6%、「制度について知っているが、計画を見たことはない」が13.4%となっています。

小学生保護者では、「知らない」が62.0%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が20.3%、「制度について知っているが、計画を見たことはない」が13.8%となっています。

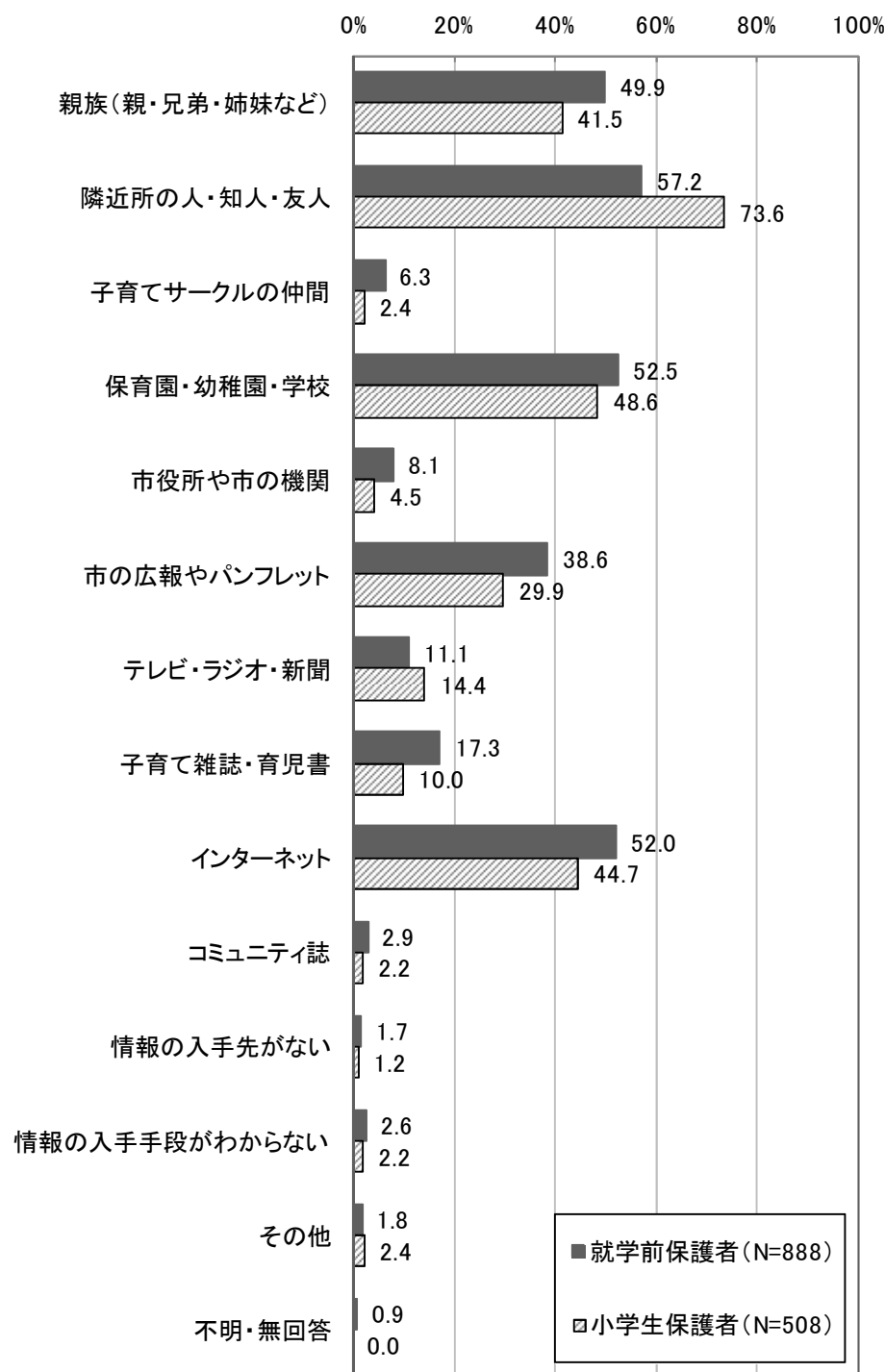


◆あて名のお子さんの子育て(教育を含む)に関する情報をどのように入手していますか。

[前：問 31、小：問 19] <複数回答>

就学前保護者では、「隣近所の人・知人・友人」が 57.2%と最も高く、次いで「保育園・幼稚園・学校」が 52.5%、「インターネット」が 52.0%となっています。

小学生保護者では、「隣近所の人・知人・友人」が 73.6%と最も高く、次いで「保育園・幼稚園・学校」が 48.6%、「インターネット」が 44.7%となっています。



尾張旭市の子ども・子育てに関するアンケート調査
【結果報告書】

発行年月：平成 31 年 3 月

発行：尾張旭市

編集：尾張旭市 こども子育て部 こども未来課
